

福音小学校構内遺跡

— 弥生時代編 —

1995

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

福音小学校構内遺跡

— 弥生時代編 —



1995

松山市教育委員会

財團法人松山市生涯學習振興財團

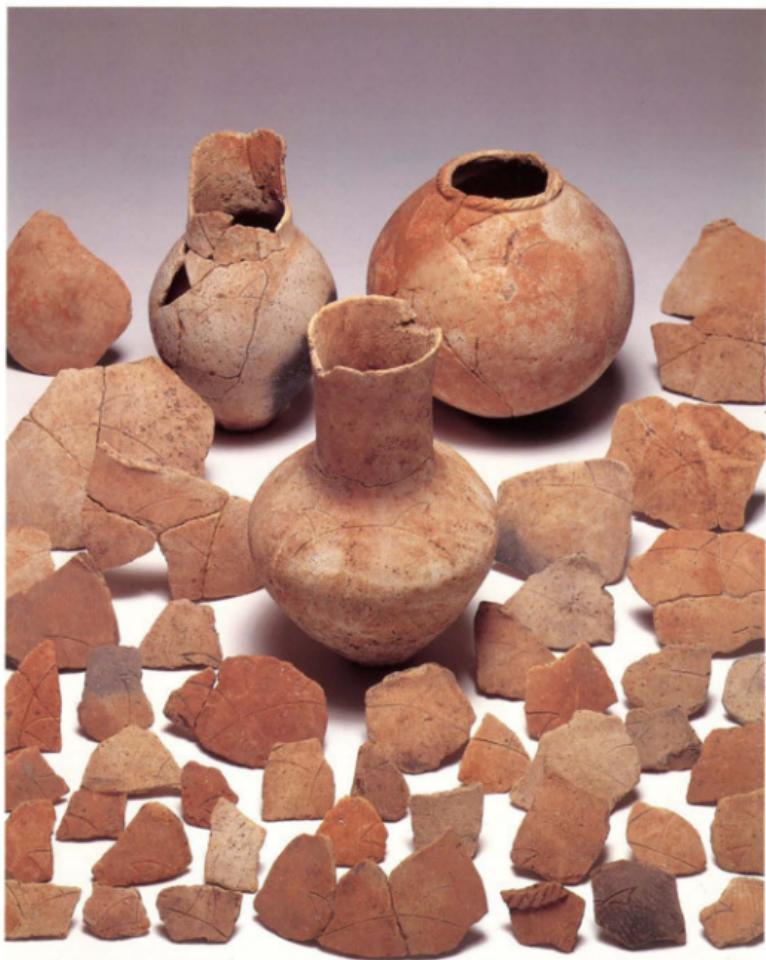
埋蔵文化財センター



卷頭図版Ⅰ 調査地遠景



卷頭図版 2 5区土器溝り出土の器台形土器



卷頭図版 3 5 区土器溝り出土の絵画土器

序

本書は、福音小学校建設に伴い平成元年度に松山市教育委員会が発掘調査を実施し、その結果を(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターがまとめたものであります。

当遺跡の周辺におきましては、昭和40年代の国道11号バイパスの建設に伴う調査をはじめ、筋違A～J遺跡、北久米淨蓮寺遺跡3次調査、同4次調査など、弥生時代から飛鳥時代にかけての重要な遺跡の調査が進められてきました。

その中において当遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての大規模集落を持ち、当地域では特異な遺跡であります。福音小学校構内遺跡調査報告書は、膨大な考古学資料となるため三分冊にて刊行する予定ですが、本書はその第一弾となるものです。

本報告書を刊行できることは、埋蔵文化財に対し深いご理解とご協力をたまわった市民の方々のたまものと心から感謝申し上げます。また、本書が文化財保護、教育文化の向上、今後の調査研究の一助となれば幸いに存じます。

平成7年7月7日

財団法人 松山市生涯学習振興財團

理事長 田 中 誠 一

例　　言

1. 本書は、松山市教育委員会（松山市立埋蔵文化財センター）が平成元年7月～平成二年3月に実施した松山市福音寺町福音小学校新設に伴う埋蔵文化財調査の報告書である。
2. 遺構の実測は、宮崎泰好の責任のもと、相原浩二、山本健一を中心に行い、愛媛大学、松山大学の学生、一般の方々他の援助を受けた。遺構の撮影は宮崎泰好、大西朋子が行った。
3. 遺構は呼称を略号化して記述した。堅穴式住居：S B、溝：S D、土坑：S K、ピット：S P、掘立柱建物：掘立である。
4. 遺物の実測・製図、遺構の製図は、梅木謙一・武正良浩の責任のもと、宮内慎一、山之内志郎、加島次郎、水口あをい、玉出勝彦、吉浦正浩、小坂ゆかり、鈴尚美、丹生谷康恵、丹生谷道代、藤原利江子、白石聖子、藤井宏枝、山下満佐子、大西陽子、松山桂子、三木和代、渡部美美、兵頭千恵、好光明日香、高橋恒、山本圭、白石公信、酒井直哉、後藤公克、武正良浩ほかが行った。遺物の撮影は、大西朋子が担当した。
5. 遺構図の縮尺は、堅穴式住居は1/60で統一し、他は縮分値をスケールドに記した。遺物図は、弥生式土器1/4、鉄器1/2を原則とし、各々に縮分値をスケール下に記した。
6. 本書に使用した方位はすべて磁北である。
7. 本書にかかわる遺物・記録類は、松山市立埋蔵文化財センターで収蔵保管している。
8. 本書の執筆は、梅木謙一、武正良浩、宮内慎一、山之内志郎が行い、浄書は平岡直美、白石公信、酒井直哉、後藤公克の協力を得た。
9. 編集は梅木謙一、武正良浩が担当し、編集・校正においては水口あをいの協力を得た。
10. 発掘調査及び整理調査にあたっては、下篠信行・松原弘宣・山崎博之・村上恭通（愛媛大学）、石野博信（徳島文理大学）、上原真人・松井章（奈良国立文化財研究所）、前園実知雄（奈良県立橿原考古学研究所）、広瀬和雄・齋宜山佳男（大阪府教育委員会）、定森秀夫（京都府文化博物館）、柴田昌児・柴山圭子（（財）愛媛県埋蔵文化財センター）ほか、多くの先生方に、数々の貴重なご指導、ご教示を頂いた。記して感謝申し上げます。なお、整理調査と報告書作成にあたり宮崎泰好氏の助言をえた。

本文目次

| | | |
|-----------------------------|---------|-----|
| 第Ⅰ章 はじめ | 〔梅木・武正〕 | |
| 1. 調査に至る経過 | | 1 |
| 2. 調査組織 | | 3 |
| 3. 刊行組織 | | |
| 第Ⅱ章 遺跡の概要 | 〔武正〕 | |
| 1. 遺跡の立地 | | 4 |
| 2. 歴史的環境 | | |
| 第Ⅲ章 調査の概要 | | |
| 1. 調査の経緯 | 〔武正〕 | 7 |
| 2. 層位 | 〔武正〕 | 9 |
| 3. 遺構と遺物 | | 12 |
| 〔1〕 積穴式住居址 | 〔武正〕 | 17 |
| 〔2〕 溝 | 〔武正〕 | 24 |
| 〔3〕 性格不明遺構 | 〔武正〕 | 31 |
| 〔4〕 上坑 | 〔武正〕 | 34 |
| 〔5〕 壺棺墓 | 〔宮内〕 | 38 |
| 〔6〕 土器溜り | 〔梅木〕 | 48 |
| 4. 小結 | 〔武正〕 | 110 |
| 第Ⅳ章 考察 | | |
| 1. 5区土器溜り出土の弥生後期土器 | 〔梅木〕 | 113 |
| 2. 5区土器溜り出土の絵画・記号土器 | 〔梅木〕 | 118 |
| 3. 分銅形土製品 | 〔山之内〕 | 123 |
| 第Ⅴ章 福音小学校構内遺跡の成果と課題 一弥生時代編一 | 〔武正〕 | 125 |

挿図目次

| | | |
|------|---------------------------|----|
| 第1図 | 松山平野東部の主要遺跡(縮尺1/50,000) | 2 |
| 第2図 | 福音寺周辺の遺跡(縮尺1/25,000) | 5 |
| 第3図 | 現地説明会 | 7 |
| 第4図 | 調査地位置図(縮尺1/2,000) | 8 |
| 第5図 | 基本層序(縮尺1/20) | 9 |
| 第6図 | 一区西壁土層図(縮尺1/60) | 11 |
| 第7図 | 遺構配置図(縮尺1/800) | 13 |
| 第8図 | 弥生時代の遺構配置図(縮尺1/800) | 15 |
| 第9図 | S B15測量図(縮尺1/60) | 17 |
| 第10図 | S B20測量図(縮尺1/60) | 18 |
| 第11図 | S B31測量図(縮尺1/60) | 19 |
| 第12図 | S B45測量図(縮尺1/60) | 20 |
| 第13図 | S B58測量図(縮尺1/60) | 21 |
| 第14図 | S B166測量図(縮尺1/60) | 22 |
| 第15図 | S B167測量図(縮尺1/60) | 23 |
| 第16図 | S D 3測量図(1区西)(縮尺1/80) | 25 |
| 第17図 | S D 3出土遺物実測図(1)(縮尺1/4) | 26 |
| 第18図 | S D 3出土遺物実測図(2)(縮尺1/4) | 27 |
| 第19図 | S D 3出土遺物実測図(3)(縮尺1/4) | 28 |
| 第20図 | S D 3出土遺物実測図(4)(縮尺1/4) | 29 |
| 第21図 | S D 3出土遺物実測図(5)(縮尺1/4) | 30 |
| 第22図 | S X300測量図(縮尺1/80) | 31 |
| 第23図 | S X300出土遺物実測図(1)(縮尺1/4) | 32 |
| 第24図 | S X300出土遺物実測図(2)(縮尺1/4) | 33 |
| 第25図 | S K29遺物出土状況(縮尺1/10) | 34 |
| 第26図 | S K29掘掲状況(縮尺1/10) | 35 |
| 第27図 | S K29出土遺物実測図(1)(縮尺1/4) | 36 |
| 第28図 | S K29出土遺物実測図(2)(縮尺1/4) | 37 |
| 第29図 | 壺棺墓群配置図(縮尺1/80) | 38 |
| 第30図 | 1号壺棺墓測量図(縮尺1/10) | 39 |
| 第31図 | 1号壺棺・棺内出土鉄鎌実測図(縮尺1/6・1/2) | 40 |
| 第32図 | 2号壺棺墓測量図(縮尺1/10) | 41 |

| | | |
|------|------------------------------|----|
| 第33図 | 2号壺棺実測図(縮尺1/6) | 42 |
| 第34図 | 3号壺棺墓測量図(縮尺1/10) | 43 |
| 第35図 | 3号壺棺実測図(縮尺1/6) | 44 |
| 第36図 | 4号壺棺墓測量図(縮尺1/10) | 45 |
| 第37図 | 5号壺棺墓測量図(縮尺1/10) | 46 |
| 第38図 | 4号・5号壺棺実測図(縮尺1/6) | 47 |
| 第39図 | 土器溜り出土遺物実測図(1)(縮尺1/4) | 49 |
| 第40図 | 土器溜り出土遺物実測図(2)(縮尺1/4) | 50 |
| 第41図 | 土器溜り出土遺物実測図(3)(縮尺1/4) | 51 |
| 第42図 | 土器溜り出土遺物実測図(4)(縮尺1/4) | 52 |
| 第43図 | 土器溜り出土遺物実測図(5)(縮尺1/4) | 53 |
| 第44図 | 土器溜り出土遺物実測図(6)(縮尺1/4) | 54 |
| 第45図 | 土器溜り出土遺物実測図(7)(縮尺1/4) | 55 |
| 第46図 | 上器溜り出土遺物実測図(8)(縮尺1/4) | 56 |
| 第47図 | 土器溜り出土遺物実測図(9)(縮尺1/4) | 57 |
| 第48図 | 土器溜り出土遺物実測図(10)(縮尺1/4) | 58 |
| 第49図 | 土器溜り出土遺物実測図(11)(縮尺1/4) | 59 |
| 第50図 | 土器溜り出土遺物実測図(12)(縮尺1/4) | 60 |
| 第51図 | 上器溜り出土遺物実測図(13)(縮尺1/4) | 61 |
| 第52図 | 上器溜り出土遺物実測図(14)(縮尺1/4) | 62 |
| 第53図 | 土器溜り出土遺物実測図(15)(縮尺1/4) | 63 |
| 第54図 | 土器溜り出土遺物実測図(16)(縮尺1/4) | 64 |
| 第55図 | 土器溜り出土遺物実測図(17)(縮尺1/4) | 65 |
| 第56図 | 上器溜り出土遺物実測図(18)(縮尺1/4) | 66 |
| 第57図 | 上器溜り出土遺物実測図(19)(縮尺1/4) | 68 |
| 第58図 | 土器溜り出土遺物実測図(20)(縮尺1/4) | 69 |
| 第59図 | 土器溜り出土遺物実測図(21)(縮尺1/4) | 70 |
| 第60図 | 土器溜り出土遺物実測図(22)(縮尺1/4) | 71 |
| 第61図 | 土器溜り出土遺物実測図(23)(縮尺1/4) | 72 |
| 第62図 | 土器溜り出土遺物実測図(24)(縮尺1/4) | 73 |
| 第63図 | 土器溜り出土遺物実測図(25)(縮尺1/4) | 75 |
| 第64図 | 土器溜り出土遺物実測図(26)(縮尺1/4) | 76 |
| 第65図 | 上器溜り出土遺物実測図(27)(縮尺1/4) | 77 |
| 第66図 | 土器溜り出土遺物実測図(28)(縮尺1/4) | 78 |

| | | |
|------|-------------------------------------|-----|
| 第67図 | 土器溜り出土遺物実測図29 (縮尺1/4) | 80 |
| 第68図 | 土器溜り出土遺物実測図30 (縮尺1/4) | 81 |
| 第69図 | 土器溜り出土遺物実測図31 (縮尺1/4) | 82 |
| 第70図 | 土器溜り出土遺物実測図32 (縮尺1/4) | 83 |
| 第71図 | 土器溜り出土遺物実測図33 (縮尺1/4) | 84 |
| 第72図 | 土器溜り出土遺物実測図34 (縮尺1/4) | 85 |
| 第73図 | 土器溜り出土遺物実測図35 (縮尺1/4) | 86 |
| 第74図 | 土器溜り出土遺物実測図36 (縮尺1/4) | 87 |
| 第75図 | 土器溜り出土遺物実測図37 (縮尺1/4) | 88 |
| 第76図 | 土器溜り出土遺物実測図38 (縮尺1/4) | 89 |
| 第77図 | 土器溜り出土遺物実測図39 (縮尺1/4) | 91 |
| 第78図 | 土器溜り出土遺物実測図40 (縮尺1/4) | 92 |
| 第79図 | 土器溜り出土遺物実測図41 (縮尺1/4) | 93 |
| 第80図 | 土器溜り出土遺物実測図42 (縮尺1/4) | 94 |
| 第81図 | 土器溜り出土遺物実測図43 (縮尺1/4) | 95 |
| 第82図 | 土器溜り出土遺物実測図44 (縮尺1/4) | 96 |
| 第83図 | 土器溜り出土遺物実測図45 (縮尺1/4) | 98 |
| 第84図 | 土器溜り出土遺物実測図46 (縮尺1/4) | 99 |
| 第85図 | 土器溜り出土遺物実測図47 (縮尺1/4) | 100 |
| 第86図 | 土器溜り出土遺物実測図48 (縮尺1/4) | 101 |
| 第87図 | 土器溜り出土遺物実測図49 (縮尺1/4) | 102 |
| 第88図 | 土器溜り出土遺物実測図50 (縮尺1/4) | 104 |
| 第89図 | 土器溜り出土遺物実測図51 (縮尺1/4) | 105 |
| 第90図 | 土器溜り出土遺物実測図52 (縮尺1/4) | 106 |
| 第91図 | 土器溜り出土遺物実測図53 (縮尺1/4) | 107 |
| 第92図 | 土器溜り出土遺物実測図54 (縮尺1/4) | 108 |
| 第93図 | 土器溜り出土遺物実測図55 (縮尺1/4) | 109 |
| 第94図 | 土器溜り出土の絵画・記号土器 (縮尺1/4) | 119 |
| 第95図 | 土器溜り出土の絵画・記号土器出土分布図 (縮尺1/150) | 121 |
| 第96図 | 分銅形土製品実測図 (縮尺1/2) | 124 |

写真図版目次

- 卷頭図版 1 調査地遠景
卷頭図版 2 5区土器溜り出土の器台形土器
卷頭図版 3 5区土器溜り出土の絵画土器
図版 1. 1 S B20 (北より) 2 S B58 (西より)
図版 2. 1 S B15内分銅形土製品出土状況 (西より)
2 S P4522内分銅形土製品出土状況 (北より)
図版 3. 1 S K29遺物出土状況① (南より) 2 S K29遺物出土状況② (西より)
図版 4. 1 S D3 (1区・南西より) 2 S D3 (4区・南西より)
図版 5. 1 壺棺墓群検出状況 (東より) 2 2号壺棺墓 (北より)
図版 6. 1 3号壺棺墓 (西より) 2 4号壺棺墓 (東より)
図版 7. 1 作業風景① (5区上器溜り) 2 作業風景② (5区上器溜り)
図版 8. 1 S D3出土遺物①
図版 9. 1 S D3出土遺物②
図版10. 1 S D3出土遺物③
図版11. 1 S X300出土遺物
図版12. 1 S K29出土遺物
図版13. 1 1号壺棺内出土遺物② 2号壺棺 (上棺3・下棺4) 5号壺棺 (下棺9)
図版14. 1 3号壺棺 上棺(5)下棺(6) 2 4号壺棺 上棺(7)下棺(8)
図版15. 1 分銅形土製品 S P4522 (福音小A) S B15 (福音小B)
図版16. 1 土器溜り出土遺物①
図版17. 1 上器溜り出土遺物②
図版18. 1 上器溜り出土遺物③
図版19. 1 土器溜り出土遺物④
図版20. 1 土器溜り出土遺物⑤
図版21. 1 土器溜り出土遺物⑥
図版22. 1 土器溜り出土遺物⑦
図版23. 1 土器溜り出土遺物⑧
図版24. 1 土器溜り出土遺物⑨
図版25. 1 土器溜り出土遺物⑩
図版26. 1 土器溜り出土遺物⑪
図版27. 1 土器溜り出土遺物⑫
図版28. 1 土器溜り出土遺物⑬

- 図版29. 1 土器溜り出土遺物⑩
 図版30. 1 土器溜り出土遺物⑪
 図版31. 1 土器溜り出土遺物⑫
 図版32. 1 土器溜り出土遺物⑬
 図版33. 1 土器溜り出土遺物⑭
 図版34. 1 土器溜り出土遺物⑮
 図版35. 1 土器溜り出土遺物⑯
 図版36. 1 土器溜り出土遺物⑰
 図版37. 1 土器溜り出土遺物⑱
 図版38. 1 土器溜り出土遺物⑲
 図版39. 1 土器溜り出土遺物⑳
 図版40. 1 土器溜り出土遺物㉑
 図版41. 1 土器溜り出土遺物㉒
 図版42. 1 土器溜り出土遺物㉓

表 目 次

| | |
|------------------------------|-----|
| 表1 竪穴式住居址一覧 | 128 |
| 表2 溝一覧 | 128 |
| 表3 性格不明遺構一覧 | 129 |
| 表4 土坑一覧 | 129 |
| 表5 壺棺墓一覧 | 129 |
| 表6 土器溜り一覧 | 129 |
| 表7 S D 3出土遺物観察表（土製品） | 129 |
| 表8 S X 300出土遺物観察表（土製品） | 132 |
| 表9 S K 29出土遺物観察表（土製品） | 133 |
| 表10 壺棺遺物観察表（土製品） | 134 |
| 表11 土器溜り出土遺物観察表（土製品） | 135 |

第Ⅰ章 はじめに

1. 調査に至る経過

1988（昭和63）年、松山市教育委員会総務課（以下、総務課）より松山市福音寺町に市立素齋・北久米・石井東小学校の分離新設小学校を建設する旨の申し出が松山市教育委員会文化教育課（以下、文化教育課）にあった。

新設小学校建設予定地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「116 川付遺物包含地」内に当たり、周知の遺跡として知られている。同包含地内では、これまで弥生時代～古代までの遺構・遺物が確認されている。1974年には、国道11号線バイパス工事に伴う発掘調査が文化教育課により行われた。

これらのことより、当該地に於ける埋蔵文化財の有無と、さらには遺跡の範囲やその性格を確認するために、1988年に文化教育課は踏査を実施した。踏査の結果、多数の遺物を採取し、また対象地の立地条件などから遺跡が存在することを確認した。

この結果を受け、文化教育課・総務課二者は遺跡の取扱いについての協議を行い、小学校建設によって失われる遺跡について記録保存のため発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、弥生時代および古墳時代の福音寺地区の集落構造解明を主目的とし、文化教育課が主体となり、総務課の協力のもと1989年7月に開始した。

2. 調査組織

調査地 松山市福音寺町362-1他45筆

遺跡名 福音小学校構内遺跡

調査期間 野外調査 1989年7月12日～1990年3月31日

室内調査 1990年4月より

調査面積 23,237.91m²

調査主体 松山市教育委員会文化教育課

調査担当 調査員 宮崎 泰好（平成3年退職）

調査補助員 宮内 慎一、相原 浩二

高尾 和長、山本 健一

河野 史知、水本 実児

武正 良浩、加島 次郎

大森 一成、真木 潔（平成4年退職）

はじめに



第1図 松山平野東部の主要遺跡

調査組織

調査作業員・整理作業員・協力者

水口あをい、小坂ゆかり、玉出 勝彦、吉浦 正浩、高橋 恒、宮脇 和人、荒川 和哲、
三好 正規、笠松 誠悟、平川 美徳、村田 淳、井上 次郎、羽田野修三、塚原 竜一、
大廻 誠、盛山 守、大政 敬士、細井 雅也、波多野恭久、肌野 祐治、佐藤 薩宣、
首藤 成吾、久保 浩二、中條 聖郎、山邊 遼也、向井 正幸、菱川 敏夫、相良 浩志、
川野 稔、山丸 竜馬、松原 寛之、松岡 明、宮田 昭吾、細田 尚秀、西下 英雄、
後藤 猛志、藤田 利夫、小笠原敏夫、山田喜作雄、小川 輝芳、浜田 俊介、相原 忠重、
弘中 繁之、副田 昌宏、松本 剛、大鳥 義隆、越智 隆、久保田敦子、武田 悅子、
白井あさ子、河野 妙子、藤田伊久子、池田 和美、窪田 孝子、猪森しげ子、田頭 真喜、
仙波 京子、仙波美恵子、乃万ツル子、藤原利江子、丸山 緑、白石 勝子、丹生谷道代、
丹生谷康恵、藤井 宏枝、綾 尚美、古中美也子、兼久 一郎、山之内広明、三江 元則、
西田 竹雄、渡辺 常信、龜山 健一、龜山 泰局、鍛田 錠二、扶川 博、山本 圭、
渡部 竜一、越智真由美、山田由美子、松本篤三郎、菊池 陽、濱田 哲夫、中川 真行、
宮岡 久子、小林 和子、田中 民子、佐伯いづみ、宮本 理、手島 俊慶、丹下 良雄、
室地 要、渡部 仁視、古屋 明寿、安藤 房雄、柏 正志、早瀬 征敏、原田 英則、
保島 秀幸、志賀 夏行、工藤 賢稔、山本 昌宏、江戸テル子、梅本 政則、今井 芳美、
相原 麻美、関 正子、多知川富美子、萩野ちよみ、矢野 久子、吉井 信枝、白石 克志、
森本 光章、藤村 英樹、黒田 正機、藤永 国博、岡田 浩明、面平 健一、斎藤 正雄、
白石 公信、酒井 直哉、後藤 公克、森井美津子ほか(順不同)

3 刊行組織 [平成7年7月3日現在]

松山市教育委員会 教育長 池田 尚郷
生涯教育部 部長 渡辺 和彦
次長 三好 俊彦
文化教育課 課長 松平 泰定
(財)松山市生涯学習振興財團 理事長 田中 誠一
事務局長 一色 正士
埋蔵文化財センター 所長 河口 雄三
次長 田所 延行
調査係長 山城 武志
主任 栗田 正芳 (文化教育課職員)
担当 梅木 謙一・宮内 慎一
山之内志郎・武正 良浩

第II章 遺跡の概要

1. 遺跡の立地

松山平野は、伊予灘と燧灘とを二分するように北に突き出た高縄半島のつけね部分にあたる。高縄半島の中央部には半島の最高峰、東三方ヶ森をはじめとして、伊之子山、北三方ヶ森、高縄山からなる高縄山地が形成されている。この高縄山に源を発した河川が伊予灘に流れ出て形成した沖積平野が松山平野である。本遺跡が所在する松山市福音寺町周辺には、内川、小野川、前川、川付川などの大小河川が流れている。そのうち小野川は、平井谷に水源を発し、平井町付近で扇状地を形成し、途中星ノ岡、東山などの俗に「伊予三山」と呼ばれている独立丘陵群の南方を蛇行しながら流れ、やがて石手川に合流する。この二河川に挟まれた地域は、舌状に形成されていることから来往舌状台地とも呼ばれ、肥沃な農耕地となっている。また小野川が蛇行しながら、長い年月の中で台地を舌状に形成していった名残が、現在も小野川周辺に残存している。近年、この舌状台地の中央を南北に走る国道11号線のバイパスが建設され、周辺の環境も急速に変わりつつある。当遺跡は、伊予三山の北東、バイパスの北側には隣接する。

2. 歴史的環境

当遺跡周辺には、数多くの遺跡が立地している。以下、これらの遺跡について時代別に記述する。

旧石器時代

当地域に於ける旧石器時代の遺物は、東山薦が森古墳調査においてサヌカイトのナイフ形石器1点、天山天王が森遺跡において瑠璃質安山岩のナイフ形石器1点、釜ノ口遺跡において赤色チャート製のナイフ形石器1点、小型の尖頭器1点が出土している。いずれも遺構にともなったものではない〔長井數秋 1986〕。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、現在までのところ後・晩期に限られている。久米山田池周辺では、後・晩期の土器が採集され、久米塹田I遺跡においても、後期と推定される土器が出土している。また、久米塹田森元遺跡では、後期後葉の約40点の破片が十坑から出土しており、数少ないこの時期の一括資料として貴重なものである〔栗田茂敏 1989〕。

弥生時代

弥生時代の遺跡は、当遺跡が立地する微高地や東の米住台地上において、集落遺跡として弥生時代の痕跡を認めることができる。まず久米塹田III遺跡では、中期の整穴式住居址や上壙墓などが検出されている〔吉本他 1981〕。同IV・V遺跡は、弥生・古墳・中世の複合遺跡

歴史的環境



第2図 福音寺周辺の遺跡 (S = 1 : 25,000)

遺跡の概要

であったが、前・中期の堅穴式住居址や土坑状遺構、土壙墓などが確認されている〔阪本他 1981〕。また、来住遺跡は、白鳳時代の来住庵寺の寺域内で検出された弥生時代の遺構であるが、後期を中心とした堅穴式住居址や土坑、土壙墓などが確認されている〔小笠原他 1979〕。

古墳時代

当遺跡の南西方に位置する星岡、東山をはじめとする独立丘陵には、円墳を中心とする小規模な古墳が多数分布している。6世紀から7世紀中葉にいたる時期の群集墳地帯である。

古墳時代の集落は、当遺跡から北久米淨蓮寺遺跡4次調査地に至る福音寺地域全体に広く認められる。両遺跡の南に隣接する国道11号線の建設に先立って行われた調査においては、福音寺遺跡筋造地区・星岡遺跡北下地区をはじめとして、古墳時代の遺構・遺物が多く出土している。

古代・中世・近世

古代に至ると、当遺跡の南東方向に展開する来住台地上の「官衙遺跡群」の存在が目を引く。また、久米高畠遺跡においては、「評衡」推定遺跡の隣接地において、「久米評」線刻須恵器が出土している。

中世の遺跡・遺構には、来住庵寺21次調査地において確認された大規模な柱礎・掘立柱建物群があげられる。また、鷹子遺跡において、13~14世紀に属する地境の溝などが確認されている。

近世の遺跡・遺構は、来住庵寺15次調査において確認された土壙墓があげられる。17世紀前半の肥前系陶器の削り出し高台を伴う皿が副葬されていた。

【参考文献】

- 長井 敦秋 1986 「先土器時代 松山平野の遺跡」『愛媛県史 資料編 考古』 愛媛県史編纂委員会
栗田 茂敏 1989 「久米宍田森元遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』松山市教育委員会
吉本 弘・阪本 安光 1981 「来住Ⅸ遺跡、久米瀬田Ⅰ・II・III」『一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』愛媛県教育委員会・愛媛県埋蔵文化財センター
西尾 幸則・山本 健一 1993 「来住庵寺遺跡 第15次調査」(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
橋本 雄一 1994 「北久米淨蓮寺遺跡 3次調査」(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
武正 良浩 1991 「福音小学校構内遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ』松山市教育委員会

第III章 調査の概要

1. 調査の経緯

調査地は、農耕作地として使用されていたため、遺物包含層及び、地山の大半が削平されおり、遺跡の遺存状況は良好といえるものではなかった。調査の対象面積は23,237.91m²であるが、確認調査で予測された遺跡内容を遙かに上回る遺構や遺物の検出量、雨天日の多さなどの諸事情により、最終的な発掘調査面積は18,081m²余りとなった。以下、調査工程を略記する。

1989年7月12日に調査区内に基本杭を設定する。

13日より大型重機により表土剥ぎ作業を開始した。なお、調査対象面積が広大なことから、調査区内に重機を常駐させ調査の進度に合わせ表土剥ぎ作業を継続した。

17日より作業員を増員し本格的な調査を開始する。表土及び擾乱土は、ベルトコンベア、不整地走行車等を使用して調査区内に盛り上した。

1990年2月 下條信行、松原弘宣、田崎博之、定森秀夫の各先生方に調査指導を乞う。

8日 国際航業（株）に委託して航空測量を実施する。

3月31日 出土遺物・調査用具等を撤去する（野外調査終了）。

4月18日 地元の小学生及び市民を対象に現地説明会を実施する。

6月17日～7月末日 発掘調査速報展を松山市立考古館にて開催する。



第3図 現地説明会

調査の概要



2. 層 位 (第5・6図)

本調査の基本層序は、表土（第I層）、灰色土（第II層）、灰茶褐色土（第III層）、茶褐色粘質土（第IV層）、黒色土（第V層）、黄褐色粘質土（第VI層）、灰色粘質土（間層A）である。

第I層は近現代の造成工事による客土で、地表下厚さ10~47cmを測る。

第II層は旧耕作土である。調査区は以前田畠として利用されていた。

第III層はいわゆる床上と呼ばれるもので、田畠など耕作土下に人为的に張られる土壤である。

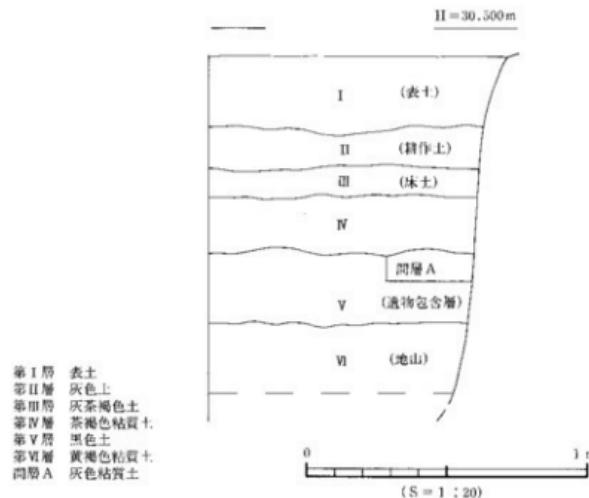
第IV層は厚さ1~62cmの堆積で、中近世以降の田畠の耕作によるものと考えたい。

第V層は厚さ2~40cmの堆積で、弥生時代~古墳時代の遺物を包含する。

最下層の第VI層は地点により様々な状況がみられる。粘質土だけが堆積している地点もあれば、砂礫が含まれる地点も存在する。いわゆる地山と呼ばれるものであり、無遺物層である。

なお、間層Aは2区西に限り検出され、第IV層下で検出された。古墳時代~中世の遺物を包含する。

遺構は、第IV層中、第V層上面、第V層中、第VI層上面で確認した。第IV層中検出の遺構は近世、第V層上面~第VI層上面検出の遺構は弥生時代~中世のものである。



第5図 基本層序

調査の概要

なお、調査区は便宜上1～5区に分け、さらに調査区全体を30mの中グリットに分け、さらに6mの小グリットで区切り調査した。以下、調査区ごとの層位関係を叙述したい。

1区 第I層は主に西端で検出されており厚さ10～28cmを測る。東側では検出されていない。第II層は厚さ15～25cmを測る。第III層は厚さ3～13cmを測る。第II層及び第III層はほぼ平坦な検出状況で、調査直前まで農耕作が行われていたことを裏付けるものである。第IV層は厚さ35～62cmを測る。第V層は西端のみで検出され、厚さ2～38cmを測る。1区中央からやや西よりから西端にかけて傾斜堆積をなす。第VI層は地山である。

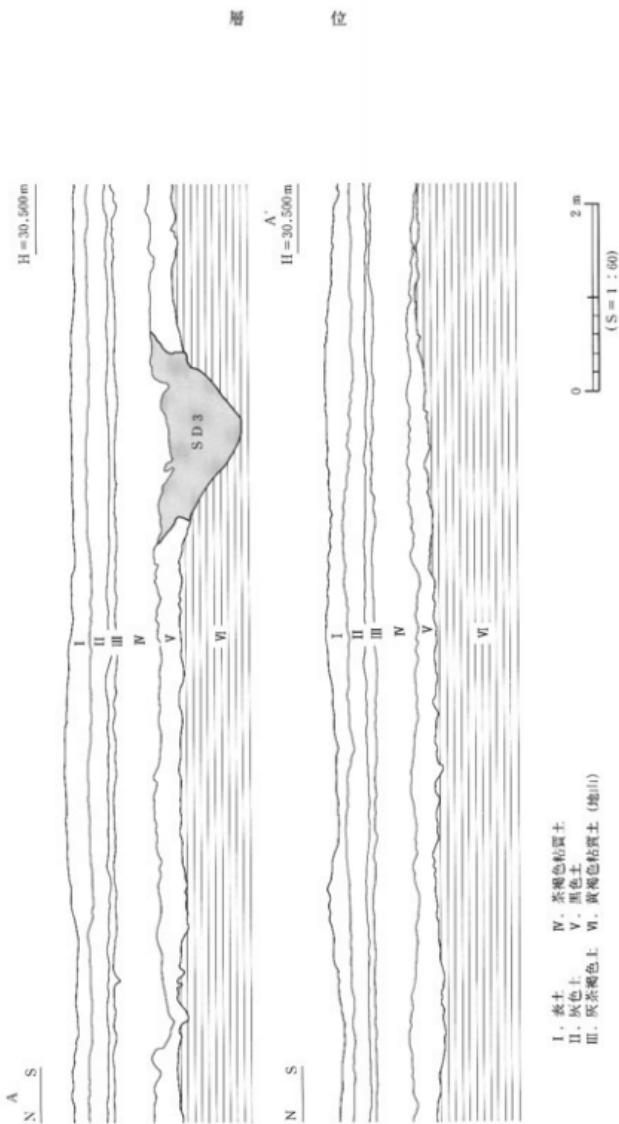
2区 第I層は1区同様主に西端で検出されている。第II層は厚さ1～41cmを測る。第III層は削平が著しく主に西側で検出された。第IV層は厚さ1～17cmを測る。第II層、第IV層は共に平坦な検出状況である。間層Aは西側で検出され、厚さ1～17cmを測る。第V層は1区同様西端のみでの検出である。第VI層は地山である。

3区 第I層・第V層は、ほとんど見られない。第II層は厚さ10～24cmを測る。第III層は厚さ1～42cmを測る。第IV層は厚さ1～16cmを測る。第VI層は地山である。

4区 第I層は南東側で一部見られる。第II層は厚さ15～38cmを測る。第III層は厚さ4～10cmを測る。第IV層は厚さ1～30cmを測る。第II層～第IV層は比較的平坦な検出状況である。第V層は厚さ10～40cmを測る。第VI層は地山である。

5区 第V層は東側で見られる。第II層～第IV層は4区、同様である。

第6図 一区西壁土層図



3. 遺構と遺物

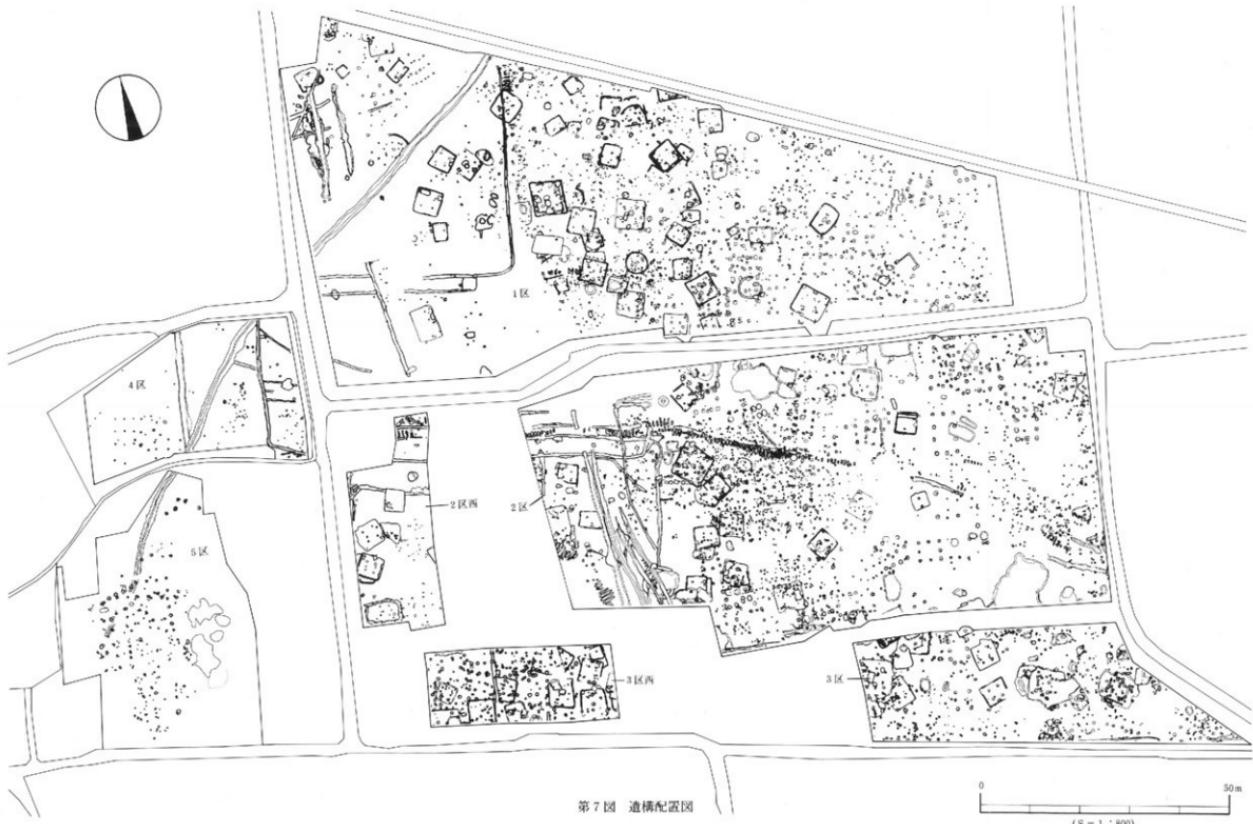
調査の結果、竪穴式住居址110棟、掘立柱建造物跡71棟、溝状遺構（溝を含む）65条、竪穴状遺構17基、棚状遺構7条、井戸3基、土坑150基、性格不明遺構32基、柱穴1,1000基、塚3基、壺棺墓5基（註1）など弥生時代から中近世にかけて多数の遺構を検出した。古墳時代の竪穴式住居址には造り付けのカマドが多く見られる。古墳時代の遺物で注目されるのは、県内でも6例目となる子持勾玉である。

以下、弥生時代の検出された遺構と遺物について記す。

- (1) 竪穴式住居址は7棟（S B15、20、31、45、58、166、167）である。いずれも第VI層上面で、調査区1区に集中して検出された。平面形は、長方形（2棟）と円形（5棟）の二種類がある。S B15からは、分銅形土製品1点が出土している。
- (2) 溝は1条（SD 3）である。
- (3) 性格不明遺構は1基である。平面形は（隅丸）長方形で、周溝状になる。
- (4) 土坑は1基である。
- (5) 壺棺がまとまって5基検出された。棺内から平根型の鉄鎌1点が出土している。
- (6) 調査区5区にて、18m×16m×厚さ約50cmの土器溜りが一箇所検出されている。弥生後期の上器が多量に出土している。その中から約100点の絵画・記号土器が検出されている。

以上、概略を記した。この他に柱穴内から分銅形土製品1点が出土していることを追記しておく。

（註1）膨大な考古学資料のため、現在も整理調査を継続している。したがって次回報告書刊行を予定している古墳時代以降の資料については、若干の数値の変更が予想される。



第7図 造構配置図

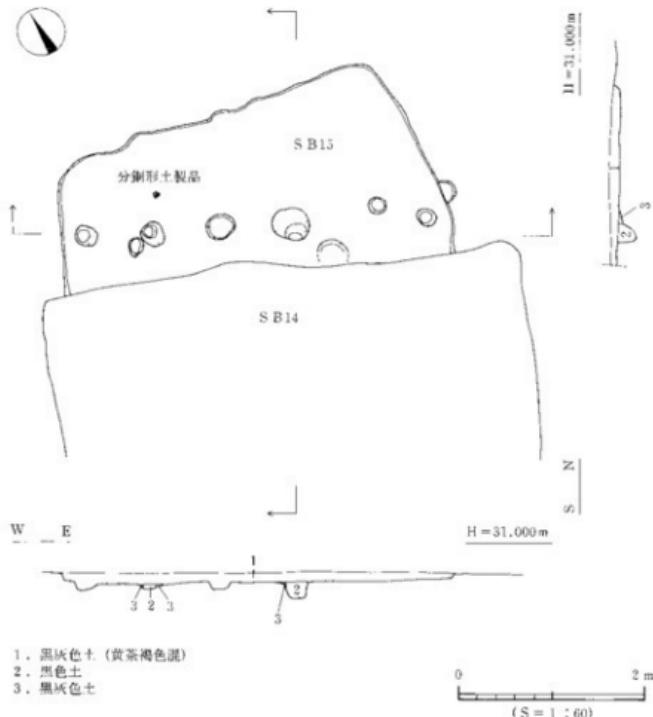


〔1〕竪穴式住居址

S B15(第9図、図版2)

調査区1区西N 4 W 7・N 4 W 6に位置する。住居址の南半分はS B14に切られている。平面形は、長方形を呈するものと考える。規模は、東西4.16m、南北1.94+α m、壁高12cmを測る。床面は比較的堅く、西壁近くが高く、東へ緩やかに傾斜しており比高差3cmを測る。床面にてピット8基を検出したが、本住居址に伴うものであるかは判断できなかった。主柱穴及び炉址は未検出である。埋土は、黒灰色土一層である。遺物は、床面直上から分銅形土製品1点が出土している。詳細はP.123に記述する。この他、壇上中に弥生時代後期土器の可能性がある細片が数点含まれていた。時期決定に有効な資料とは断言できない。

時期：出土遺物の中に分銅形土製品があることより、弥生時代中期以降と考える。



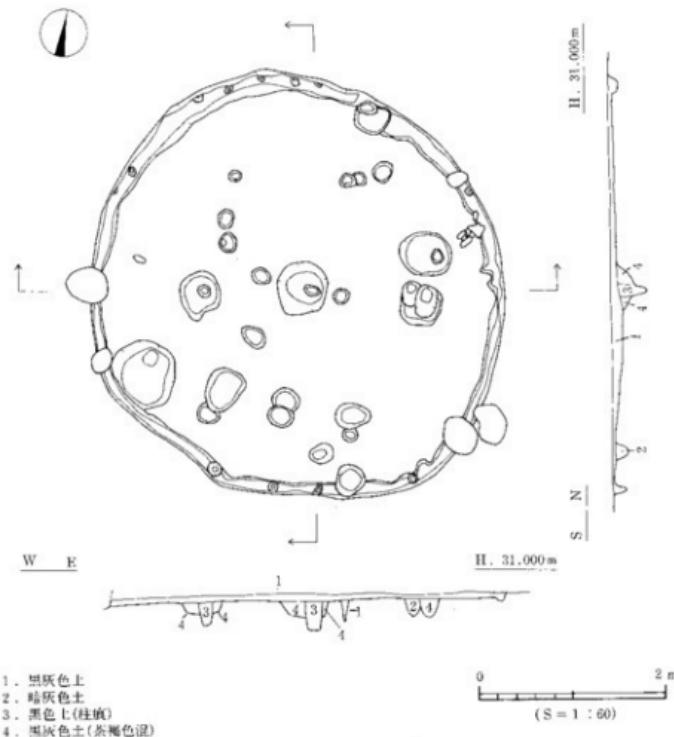
第9図 S B15測量図

調査の概要

S B 20 (第10図、図版1)

調査区1区西N 3 W 5・N 4 W 5区に位置する。平面形は円形を呈し、規模は東西4.48m、南北4.40m、壁高12cmを測る。本住居址の覆土は黒灰色土である。床面は平坦で比較的堅い。壁体溝内には径7~15cm、深さ4~8cmの小ピットが12基ある。また、溝底は平坦ではなく凹凸がみられる。住居址の床面は比較的堅い。この他床面にて数基のピットを検出したが、本住居址に作るものかは判断しかねた。

時期：遺物の出土がないため、時期の判定は難しいが、遺構の平面形から弥生時代後期以前と考える。

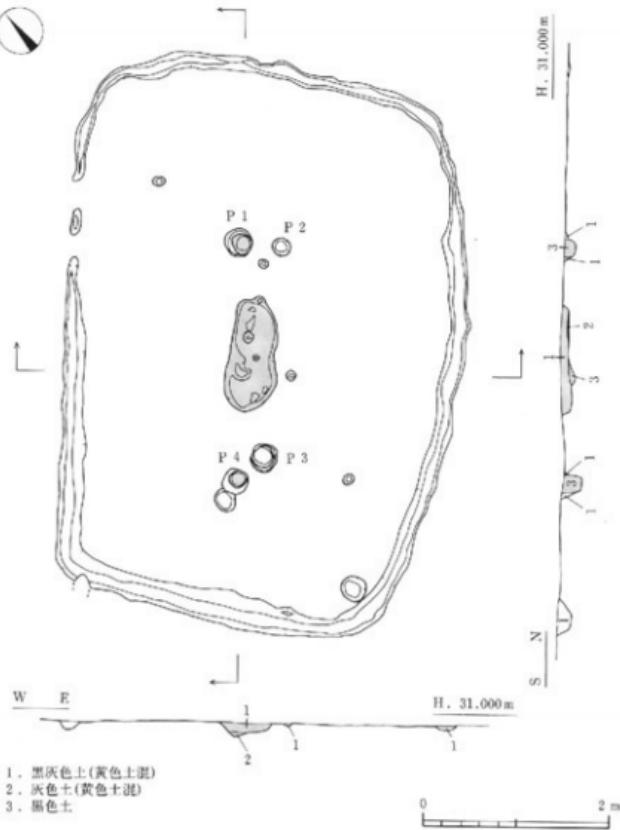


第10図 S B 20測量図

造構と遺物

S B 31 (第11図)

調査区1区西N 3 E 2・N 3 E 3・N 4 E 2・N 4 E 3に位置する。削平のため壁体はなく、床面が露出した状態の検出である。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は東西6.1m、南北4.3mを測る。壁体溝は幅7~36cm、深さ2~15cmを測る。P 1、2、3、4が主柱穴と考えられる。柱穴の規模は径25~30cm、深さ12~20cmである。主柱穴は2本組と考えられ、少なくとも1回の建て替えの可能性がある。壁体溝は北側で一部途切れる。溝底は平坦ではなく凹凸がみられる。住居址の床面は比較的堅く、平坦である。



第11図 S B 31測量図

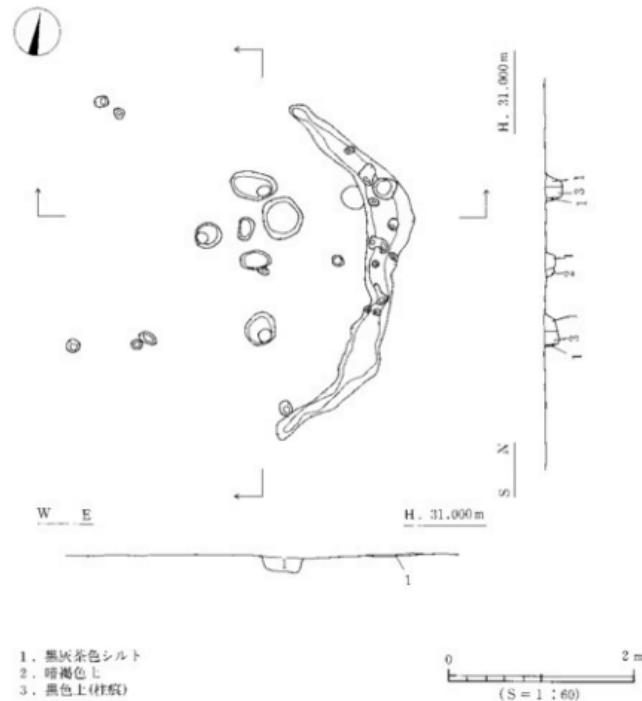
調査の概要

炉址は、住居址中央部に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.5mで、深さ14cmを測る。

時期：出土遺物がないため、時期の判定は難しいが、造構の平面形から弥生時代後期以前と考える。

S B 45 (第12図)

調査区1区西N 6 W 7・N 6 W 6に位置する。西側は後世の擾乱を受け破損しており住居址東側壁体溝3分の1のみの検出である。ほとんどの地点で床面が露出した状況であった。平面形は円形を呈するものと思われる。壁体溝の幅は15~50cm、深さ2cmを測る。溝内には径8~26cm、深さ8~14cmの小ピットが数基ある。また、溝底は平坦でなく凹凸がみられる。



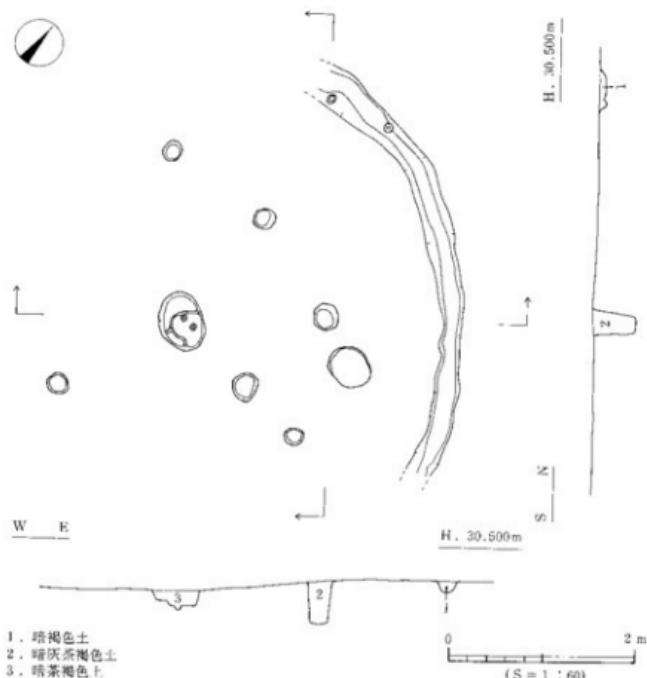
遺構と遺物

住居址の床面は比較的堅い。この他床面にて数基のビットを検出したが、本住居址に伴うものかは判断しかねた。

時期：出土遺物がないため、時期の判定は難しいが、遺構の平面形から弥生時代後期以前と考える。

S B58 (第13図、図版1)

調査区1区西N 9 W12に位置する。検出状況は、ほとんどの地点で床面が露出した状況であり、壁体ではなく北東のみ壁体溝がみられた。平面形は円形を呈するものと思われる。壁体溝の幅は20~42cm、深さ7cmを測る。溝内には径8cm、深さ3.5~11cmの小ビットが2基ある。また、溝底は平坦でなく凹凸がみられる。この他床面にて数基のビットを検出したが、本住居址に伴うものかは判断しかねた。



第13図 S B58測量図

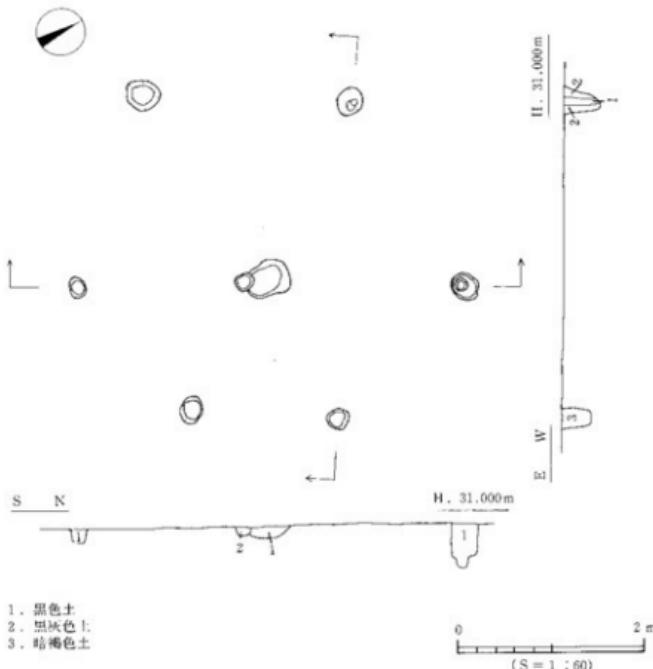
調査の概要

時期：出土遺物はないが、SD 3（SD 3からは弥生時代後期の遺物が出土している）に先行することより弥生時代後期以前である。

S B 166 (第14図)

調査区1区東N 2 E 5・N 2 E 6に位置する。この付近は全調査区の中でも後世の削平が最も著しいところである。したがって本住居址は、主柱穴6基だけという状態で検出された。平面形は円形になるものと考えられる。規模は南西-北東4.32m、南東-北西3.68mを測る。主柱穴に囲まれたほぼ中央に位置する土坑状遺構は、窪む程度の浅い検出であった。位置的なものから炉址の可能性も考えられる。

時期：出土遺物がないことから時期の判定は難しいが、遺構の平面形から弥生時代後期以前と考える。



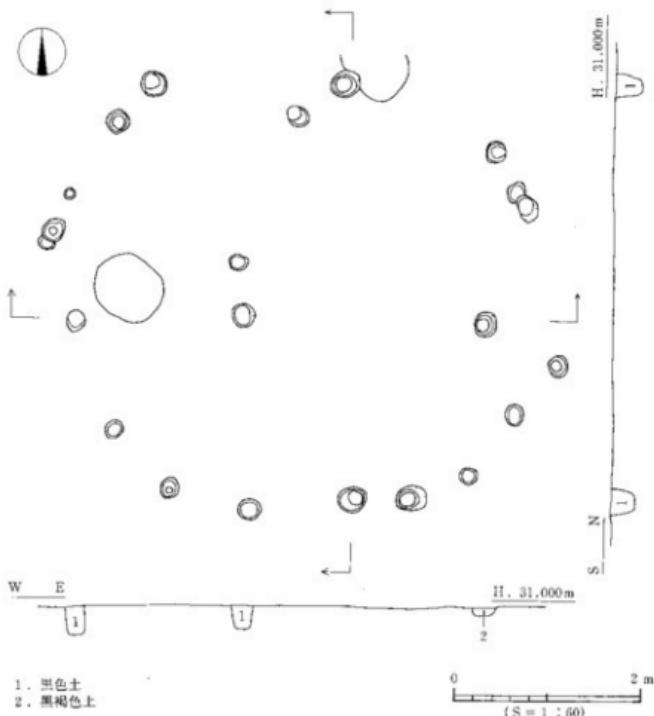
第14図 S B 166測量図

遺構と遺物

S B 167 (第15図)

調査区1区東N 3 E 6・N 3 E 7に位置する。この付近は後世の削平が著しく遺構の残存が芳しくないところである。したがって本住居址は、円形に配列するピットを検出したのみであった。平面形は円形(橢円形状)になるものと考えられる。規模は東西4.56+α m、南北4.74 mを測る。

時期：出土遺物がないことより、時期の判定は難しいが、遺構の平面形より弥生時代後期以前と考える。



第15図 S B 167測量図

〔2〕溝

SD 3 (第16~21図、図版4・8~10)

調査区1区西、4区、5区に位置する。北東から南西方向に方位をとる。検出長144m、幅80~160cm、深さ20~80cmを測る。断面は緩やかな舟底形を呈す。SD 3の埋土は1層黒褐色土、2層茶褐色土である。遺物の出土は、一層からである。

出土遺物

斐形土器(1~9) 1は「く」の字状を呈する口頭部片である。端部は断面「コ」の字状を呈する。2、3は短く外反する口頭部小片である。2は口縁部がやや肥厚する。4、5は胴部の一部を欠くものはほぼ完形品である。4は肩部の張りが弱く、底部は僅かに上げ底を呈する。5の底部は平底を呈す。6、7は緩やかに外反する口頭部小片である。7の頭部には、刻目を施す断面三角形の凸帯が貼り付けられる。8~9は底部片である。8は底部側面に指頭圧痕が看取され、僅かに上げ底を呈す。9は小さくやや丸く仕上げられる。

壺形土器 複合口縁壺、短頸壺、長頸壺などがある。

複合口縁壺(10~19) 10・11は複合口縁接合部が「コ」の字状を呈するもので、2条の沈線が施される。拡張部には、櫛描横沈線文とその上から櫛描縱沈線文、波状文が施される。口縁端部には刻目が施される。11の拡張部には、7条の沈線と鋸歯文が施される。12~19は複合口縁接合部が「く」の字状を呈するものである。12には僅かに内傾して立ち上がる拡張部に沈線が施され、端部は外側に小さく拡張される。19は5条の沈線の上に棒状の浮文が押圧されている。

中型壺(20~31) 20、21は短く内傾する頭部に外反する口縁部がつくものである。21は口縁端部は丸く仕上げられる。22、23は口縁端部が細く仕上げられるものである。25は口縁端部が僅かに肥厚され、端面は強い横ナギが施され、凹線文脈に見える。26は口縁端部に2条の沈線が施される。27は口縁端部を欠くものはほぼ完形である。28は頭部が緩やかに外反し、口縁部が内湾気味に立ち上がるものである。30は完形品である。口縁端部は「コ」の字状で、底部はやや小さい平底を呈す。29、31、32は壺形土器の体部片である。29には竹管紋が看取される。31には棒状浮文が施されている。32には粗い刻目文が看取される。外米系のものと思われる。33~37は、壺形土器の底部片である。33、34は厚みのある平底である。35、36はやや丸みを帯びる。37の外側には、ヘラミガキが看取される。

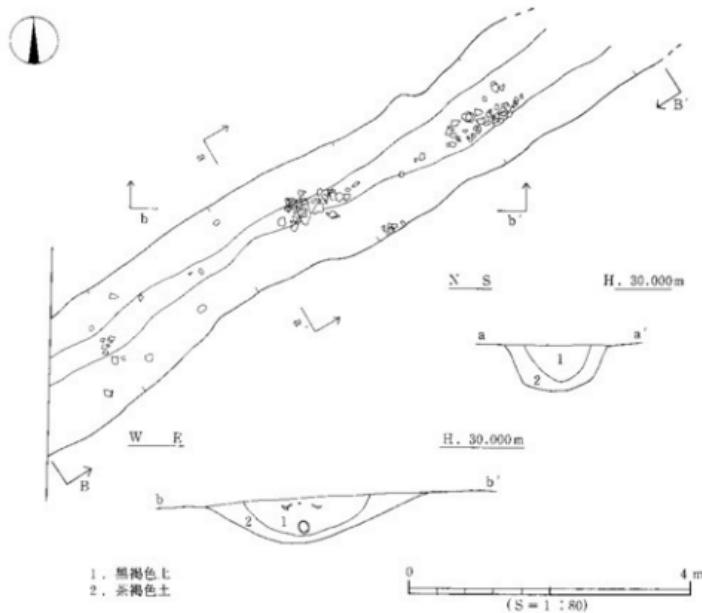
鉢形土器(38) 38は、鉢形土器の体部片である。底部内面は、絞りが看取され僅かに上げ底を呈す。

高環形土器(39~47) 完形品はなく器形がはっきりとしない。39の口縁端部は細く丸く仕上げられる。42~47は、高環形土器の脚部片で柱が傾斜するものである。施文は46、47に細いヘラ描沈線が施される。42~45には脚部には円孔が施されている。

遺構と遺物

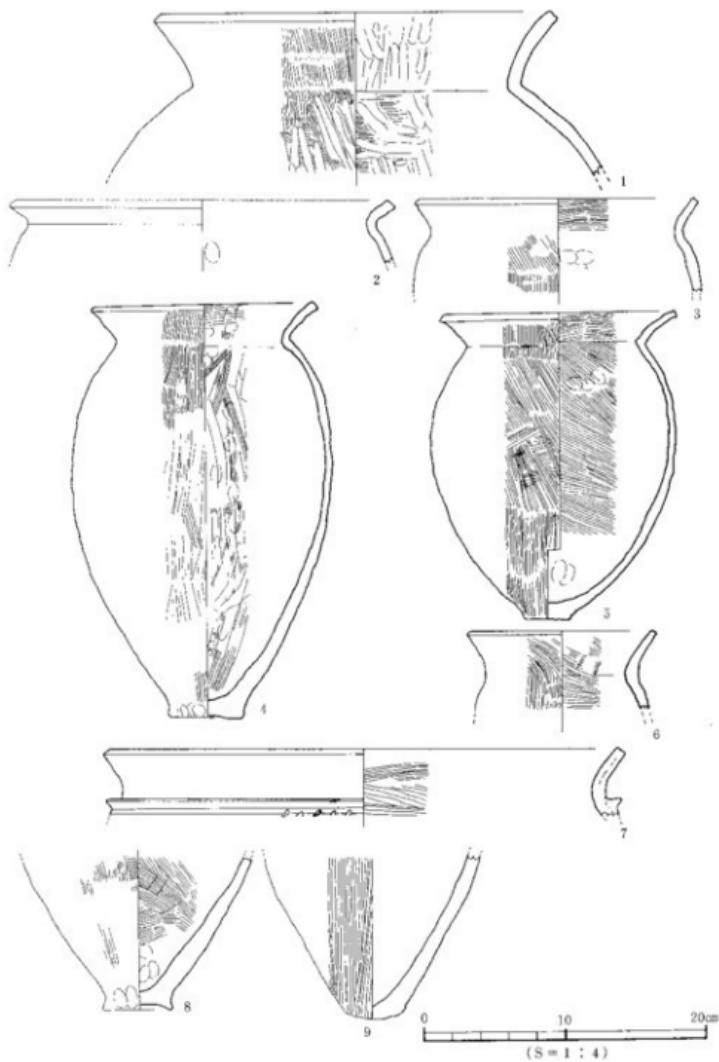
器台形土器（48～50）48は受部の一部を欠くもののほぼ完形品である。上下4個ずつ計8個の円孔が穿たれている。49は、受部の小片である。拡張端面には、櫛状工具による波状紋が施されている。50は、受部を欠く。円孔は48、50共に焼成前穿孔である。

時期：出土遺物からこのSD3は、弥生時代後期後半までには溝として使用されなくなつたと思われる。



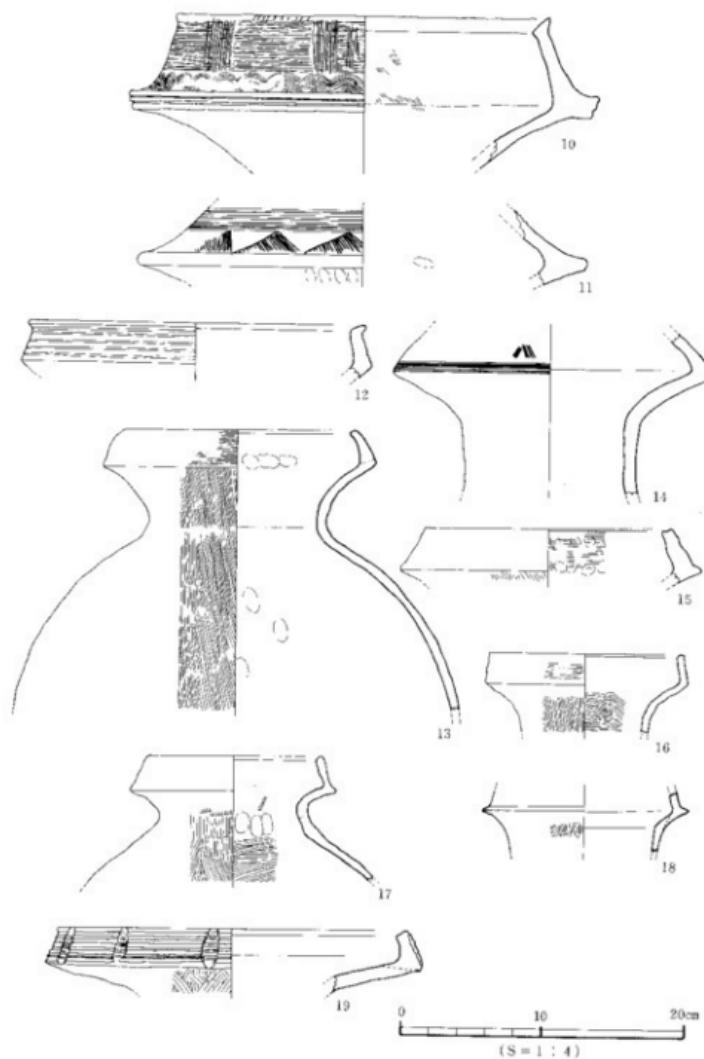
第16図 SD3測量図（1区西）

調査の概要



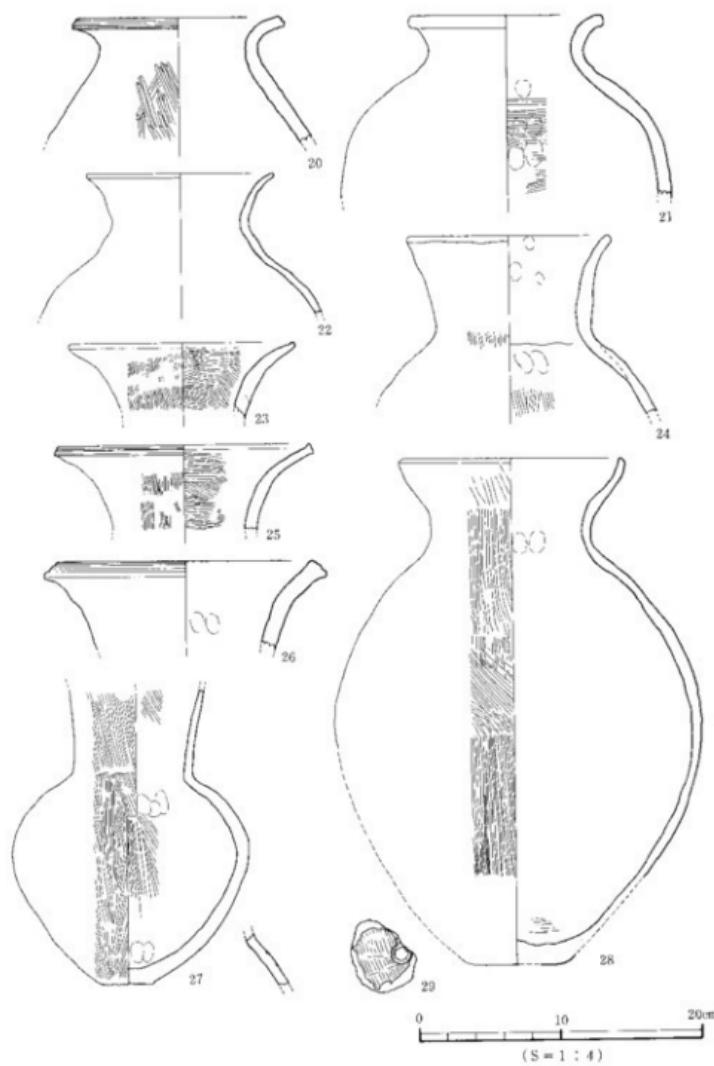
第17図 SD 3 出土遺物実測図 (1)

遺構と遺物

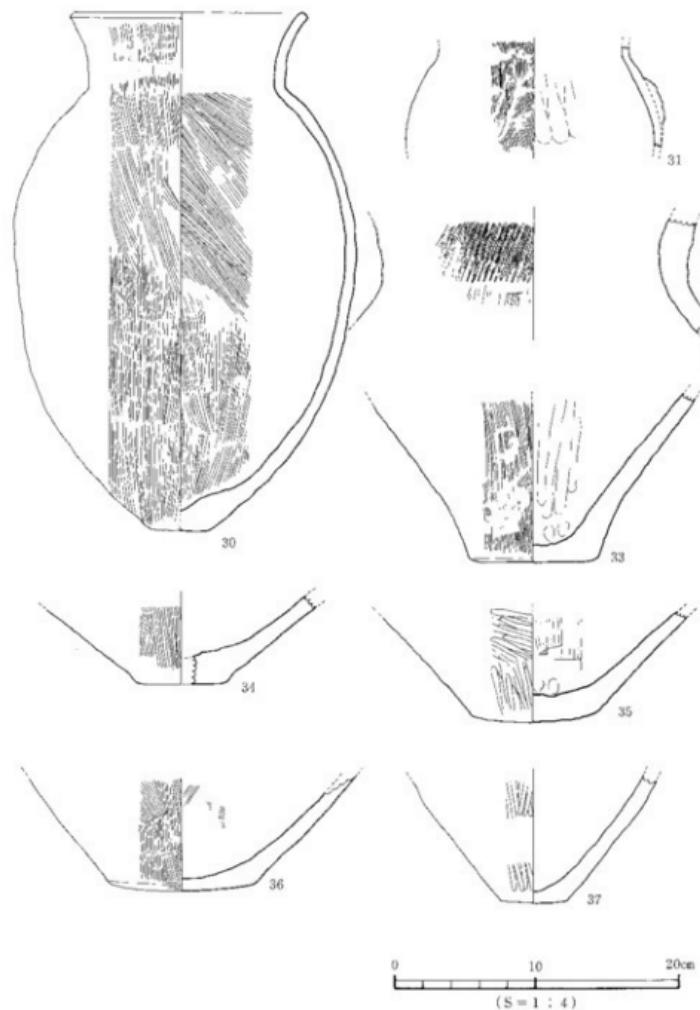


第18図 SD 3 出土遺物実測図 (2)

調査の概要

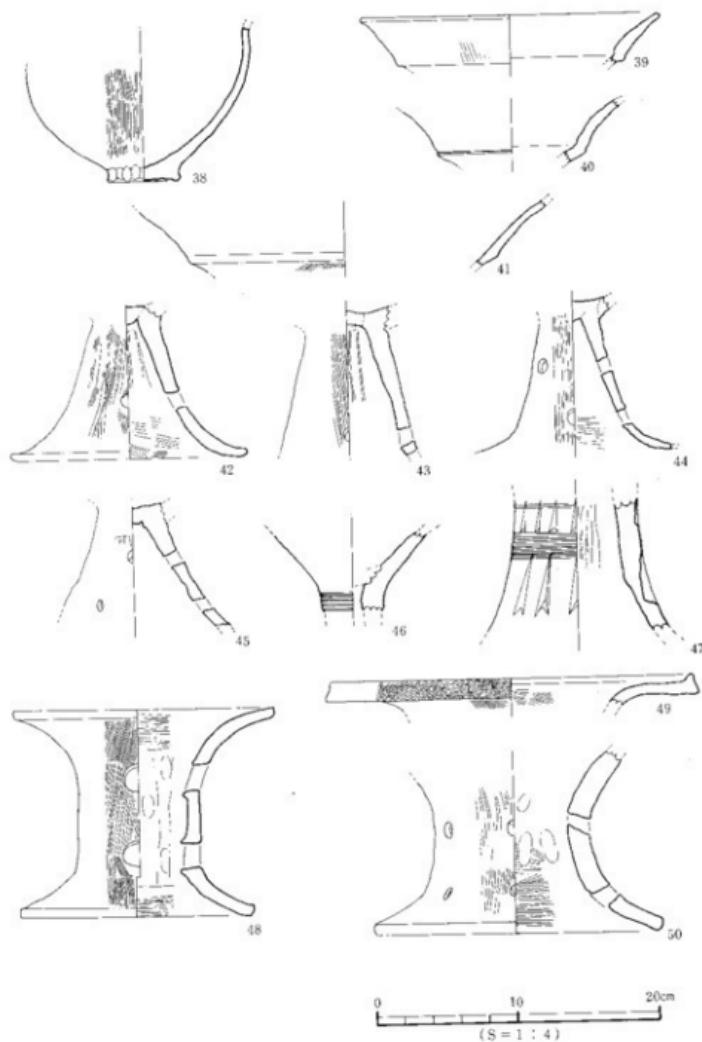


第19図 SD 3 出土遺物実測図 (3)



第20図 SD 3 出土遺物実測図 (4)

調査の概要



第21図 SD 3 出土遺物実測図 (5)

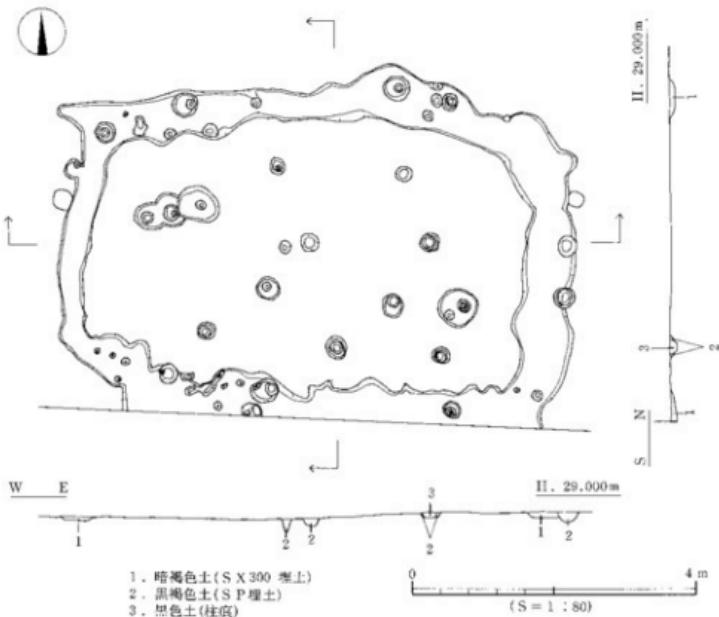
〔3〕性格不明遺構

S X 300 (第22-24図、図版11)

調査区2区西端 S 7 W16・S 7 W15・S 8 W16・S 8 W15に位置する。溝の南部は調査区外に至る。平面形は(溝丸)長方形を呈すると考える。規模は東西7.26m、深さ8cm、溝の幅34~78cmであった。断面は逆台形状を呈す。溝底は比較的平坦である。

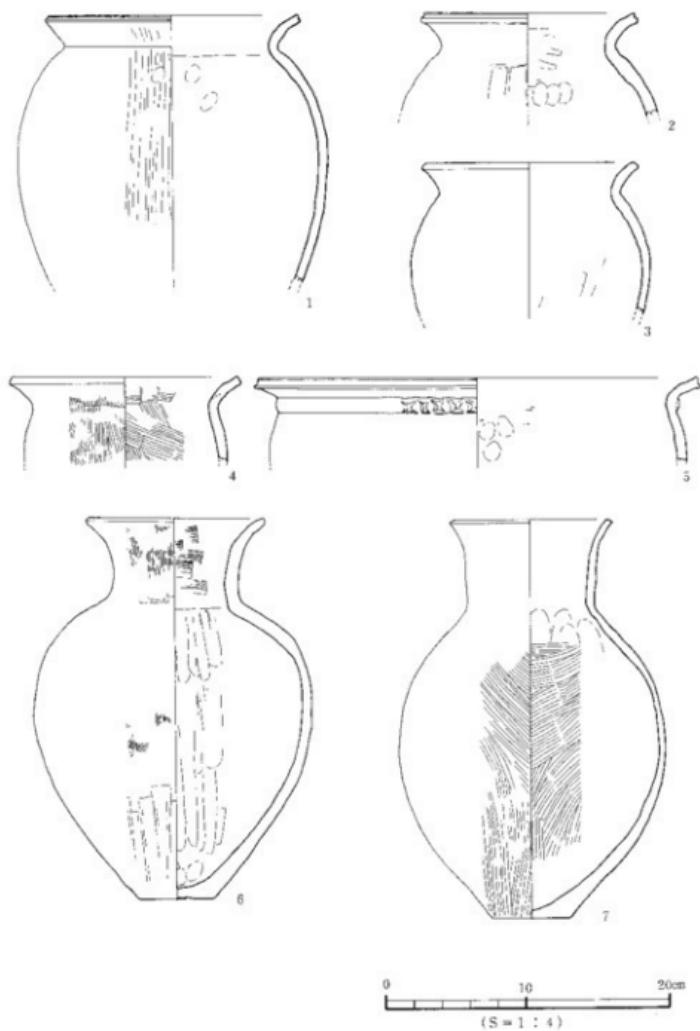
出土遺物 (第23・24図、図版11)

甕形土器(1~5) 1は口縁端部は「コ」の字状を呈す。口縁端部に1条の沈線が施されている。2は「く」の字状口縁部を有するものである。口縁端部は、強いヨコナデにより回む。3は肩部の張りが弱いものである。口縁端部は「コ」の字状を呈し、ヨコナデにより少し回む。4は内外面共に刷毛目調整が行われる。5は口縁端部がナデによりわずかに拡張され、1本の沈線をもつ。頸部には、刻目の凸帯を1条もつ。

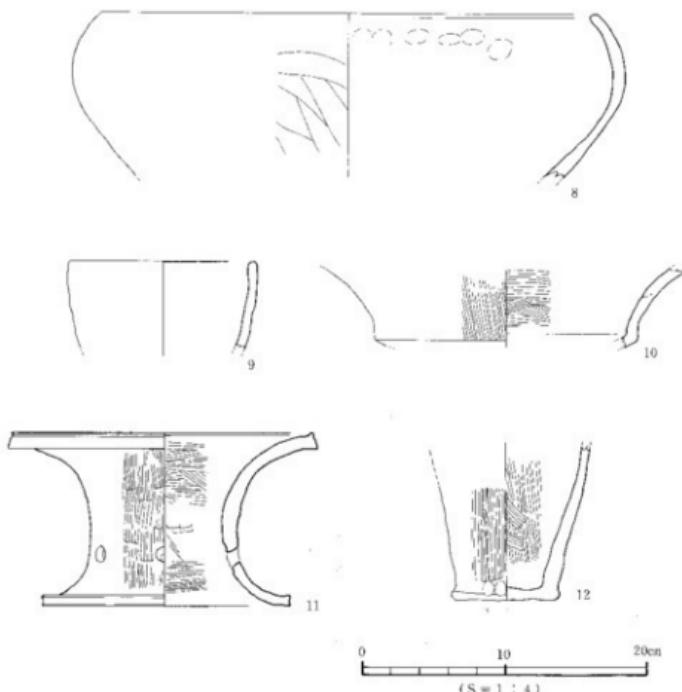


第22図 S X 300測量図

調査の概要



第23図 S X 300出土遺物実測図 (1)



第24図 SX 300出土遺物実測図（2）

壺形土器（6・7）6はほぼ完成品である。口縁端部はやや細く丸く仕上げられる。肩部の張りが強い。底部はわずかに上げ底を呈する。7は口縁部が直立気味に立ち上がり、わずかに外反する長頸壺である。底部は平底を呈す。鉢形土器（8・9）8は大型品の破片である。外反しながら立ち上がり、口縁部は緩やかに内湾する。口縁端部は丸く仕上げられる。9は小型品の破片である。やや内湾気味に立ち上がる。高環形土器（10）10は環部片である。器台形土器（11）11はほぼ完成品である。受部端部、底部端部は、ヨコナテにより拡張気味に仕上げられる。柱部下間に焼成前の円孔6個が施される。調整は内外面ともにハケ調整である。ジョッキ形土器（12）12はジョッキ形土器の底部片である。指頭圧痕による凹みが看取される。底部は平底を呈す。

時期：出土遺物より弥生時代後期に比定されよう。

調査の概要

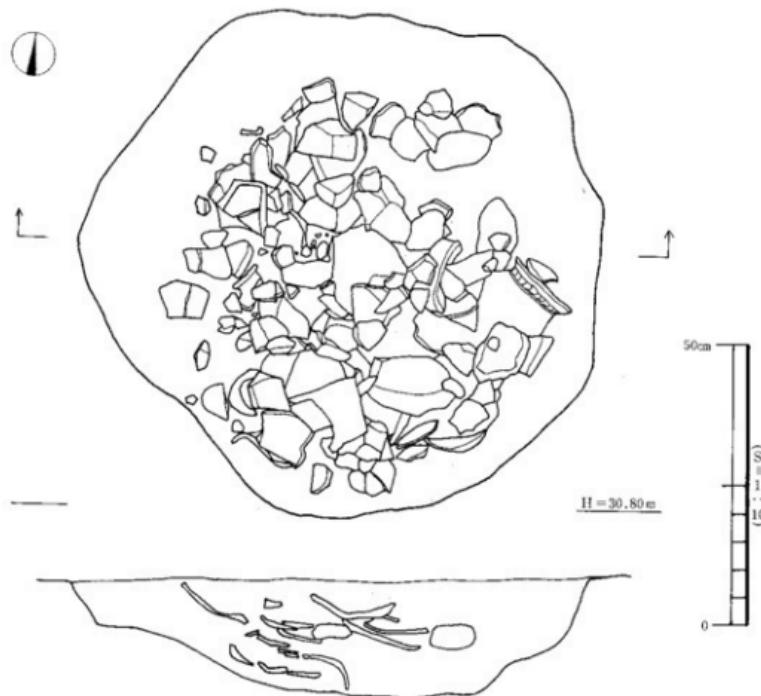
〔4〕土坑

S K29 (第25・26図、図版3)

調査区1区西N 2 W 5・N 1 W 5に位置する。東西92cm、南北89cm、深さ20cmを測る。断面は舟底形を呈す。遺物はほぼ中央に集中して見られる。土圧によるものと思われるが折り重なるように検出された。

出土遺物 (第27・28図、図版12)

變形土器 (1~12) 「く」の字状口縁部を有する變形土器群である。1は肩部の張りが弱く、胸部最大径は胸部中位やや上にあり、口径を凌ぐものである。頸部に刻目の凸帯1条を有する。2は肩部の張りが強く、胸部最大径は口径をわずかに凌ぐものである。頸部に刻目の凸

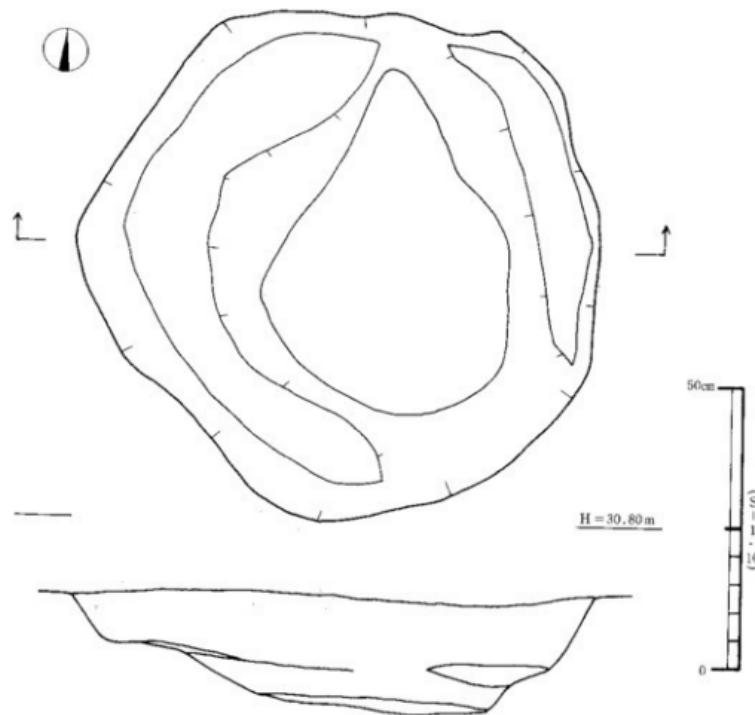


第25図 S K29遺物出土状況

造構と造物

帶1条を有する。口縁端部は、ナデによりわずかに拡張される。3は胴部最大径が口径をわずかに凌ぐものである。口縁端部は強い横ナデにより中央部が凹み、わずかに拡張される。4は頸部から胴部中位にかけて器厚が厚い。5は口径が胴部最大径をわずかに凌ぐものである。口縁端部は、ナデによりわずかに拡張される。6は口縁端部がナデによりわずかに拡張される。7は肩部の張りが弱く、口縁端部は横ナデにより中央部が凹む。8は壺形上器の底部片である。くびれ上げ底を呈し、底部端面はナデ凹む。9は僅かながらくびれ上げ底を呈するものである。10~12は、くびれ上げ底を呈する。

壺形土器(13~17) 13は口頸部片である。口縁端部は僅かに拡張され、2条の沈線を有す。頸部には刻日の貼り付け凸帯が施される。14は口頸部片である。口縁端面は拡張され、2条



第26図 SK 29完掘状況

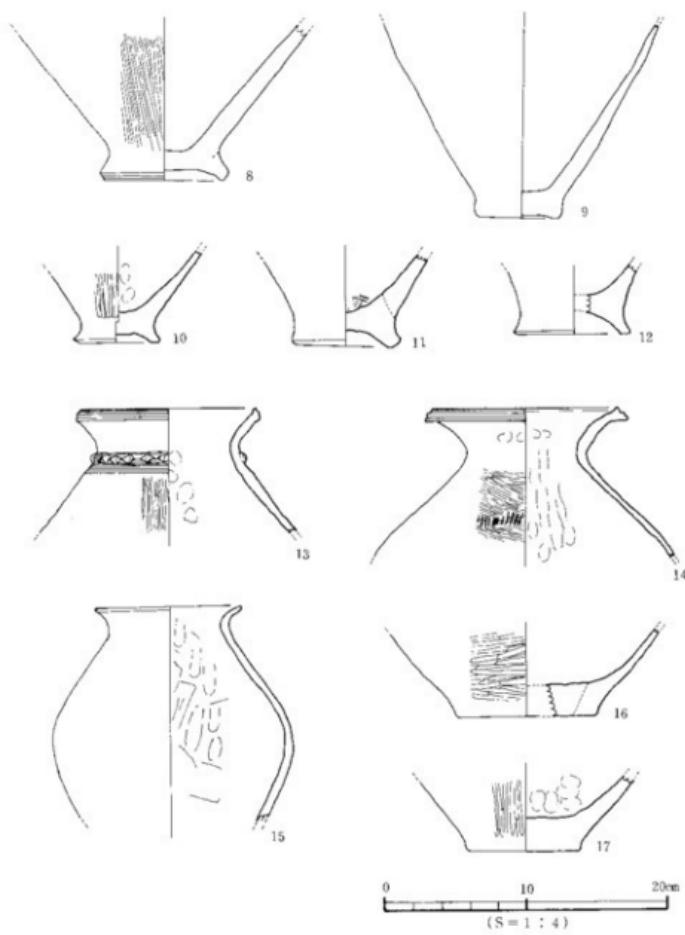


第27図 S K29出土遺物実測図 (1)

の回線が施される。15は口縁端部を丸く細く仕上げるものである。内面には指頭圧痕が看取される。16、17は底部小片である。平底を呈す。

時期：出土遺物より弥生時代中期後半に比定されよう。

遺構と遺物



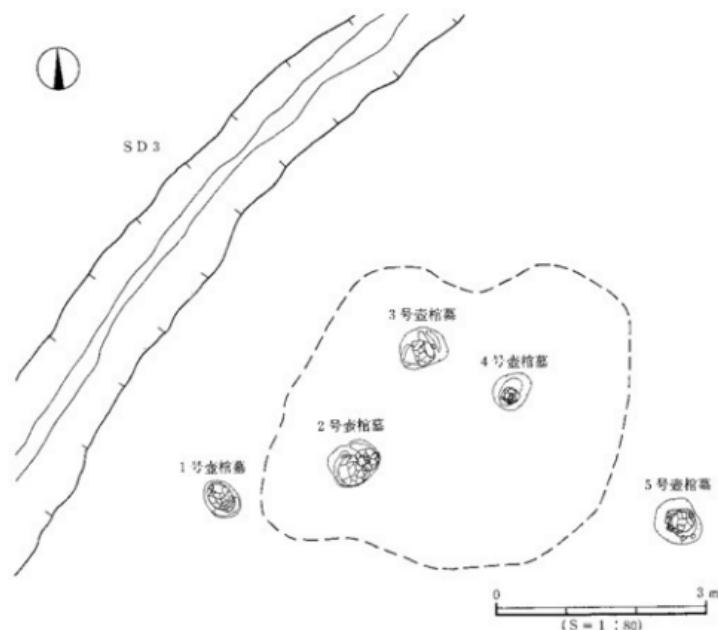
第28図 SK 29出土遺物実測図（2）

調査の概要

〔5〕 壺棺墓 (第29~38図、図版5・6)

調査地の西端5区、土器溜まりの北側において弥生時代後期の壺棺墓5基を検出した。最初に、これらの中で壺を使用しているものがあり、それらを壺棺と呼ぶのが妥当であろうが、ここでは区別せず壺棺と呼称した。

検出した壺棺墓の位置関係や埋置方法については第29図、表5に示すとおりである。第2・3・4号壺棺墓は不整方形状プランを呈する落ち込み内からの検出であり、ほぼ主軸方位を同じくして近接して埋置されている。壺棺はすべて複棺で、いずれも棺を斜め方向に墓域内に埋置している。主軸方位は東西方向をとるもの（第1号壺棺墓）、北西方方向のもの（第2・3・4号壺棺墓）、北東方向のもの（第5号壺棺墓）の3グループに分けられるがこれらの中で時期的な差は認めがたい。第1号壺棺墓からは鉄錆1点が出土し、第3号壺棺墓からは下棺内に、赤色顔料が検出された。



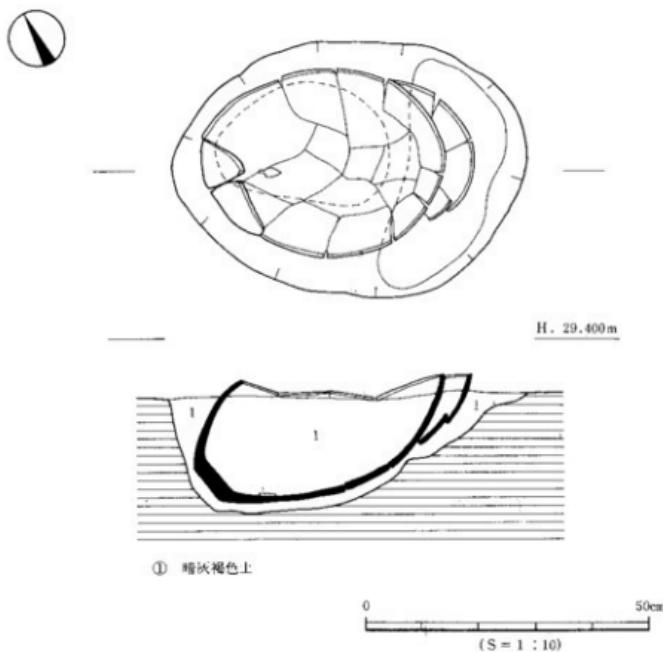
第29図 壺棺墓群配置図

1号壺棺墓（第30図）

溝SD3の東側、約1.5m離れた地点（S3W23）に位置する。墓壙掘方のみの検出である。後世の削平により下棺の口辺部は欠損し、上棺についてはほとんどが削平されている。上棺は復元できなかったため明確ではないが、口辺部を打ち欠いた覆口式合口壺棺墓と考えてよいであろう。墓壙は62×45cmの橢円形状のプランを呈し、深さ約20cmを測る。墓壙東側は柵状の段を有し、他の三方の壁の立ち上がりは急である。床面は比較的平坦で、墓壙埋土は灰褐色土の単一層である。壺棺の底部内面付近にて鉄鏃が1点出土した。壺棺の主軸方位はS-65°-E、傾斜角度は33°である。

壺棺（第31図、図版13）

下棺（1）は口辺部を消失する壺形土器で、胴部最大径37.6cm、底径6.0cm、残存器高45.2cmを測る。平底の底部で、胴部最大径口やや上部にある。色調は明褐色～淡褐色を呈し、胎土は2～3mm前後の砂粒を含む。焼成は良好である。器面調整は内外面共に刷毛目調整が施

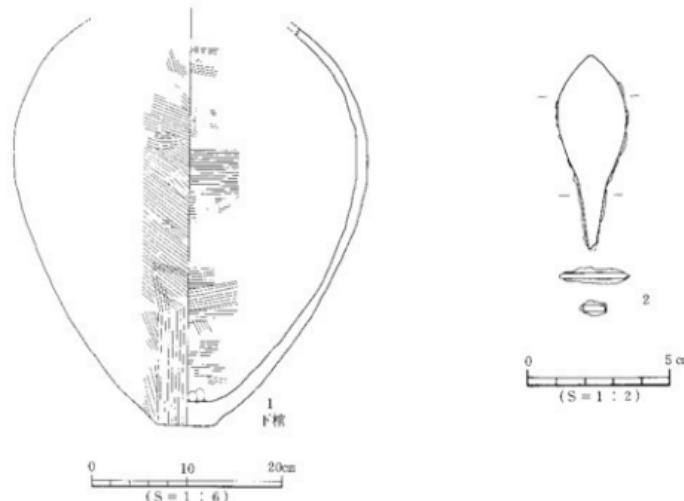


第30図 1号壺棺墓測量図

調査の概要

される。内面下半部は刷毛目調整後、ナデ調整が加えられている。底部付近に黒斑が認められる。

鉄鎌（2）は平根型の鉄鎌で僅かに茎端部を欠損しているが、遺存状況は非常に良好である。現況長6.7cm、最大幅2.5cm、重量12.8gを測る。

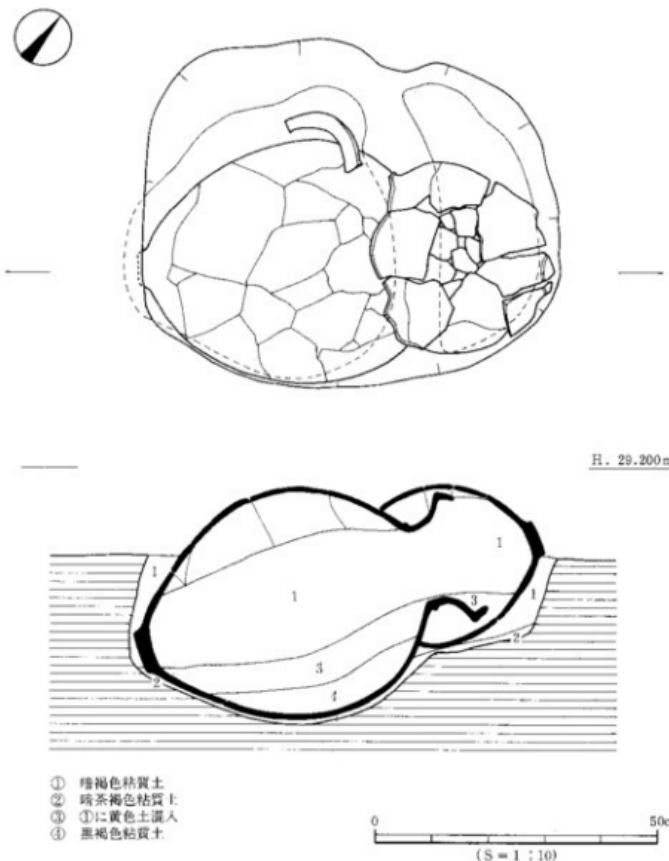


第31図 1号壺棺・棺内出土鉄鎌実測図

2号壺棺墓（第32図）

1号壺棺墓の東側、約1.4m離れた地点（S 3 W23）に位置する。不整形形状プランを呈する落ち込み内での検出である。墓壙は不整縁凹形プランを呈し、長さ74cm、幅62cm、深さ30cmを測る。墓壙東側は階段状に掘られ、壙底の西側小口には横穴を設けている。壺棺の挿入は東側からなされている。また壺棺の底部付近と接する所は上器のカーブに合わせ丸く作られている。壺棺は合口式で、上棺に甕、下棺に壺（複合口縁）を用いている。合口は上棺を下棺に被せて蓋とする覆口式であるが、上棺の口径より下棺の口径の方が大きかったらしく、上棺の口辺部を打ち欠いて使用している。また、壺棺は上面が上圧でつぶれたものと思われ、壺棺内に土砂の流入が見られた。墓壙壙土は暗褐色土で、壙底付近数cmの厚さで暗茶褐色土の堆積がみられた。壺棺の傾斜角度は17°で、主軸方位はS-53-Wである。

壺棺（第33図、図版13）

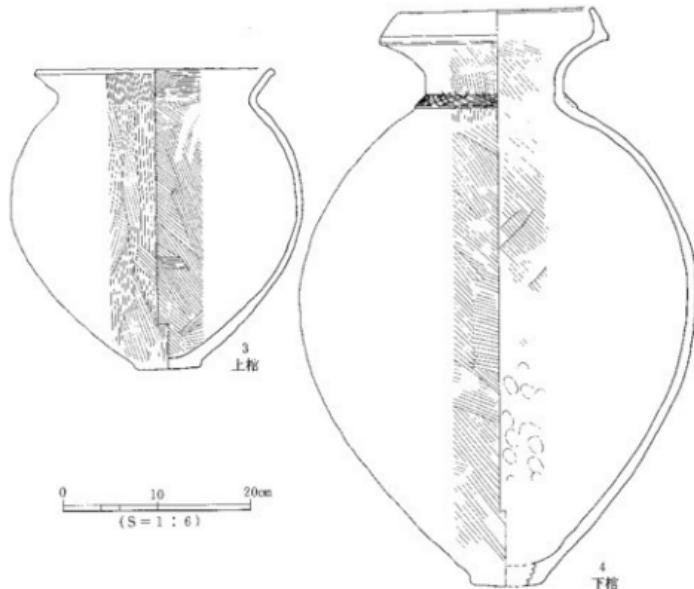


第32図 2号壺墓測量図

上棺（3）は口径24.9cm、器高32.8cm、底径7.0cmを測る變形土器で口径のわりに器高はあまり高くない。口縁部は「く」字状を呈し、口縁端部はわずかに肥厚する。肩部の張りは強く、胴部最大径は胴中位部にあり口径を凌ぐ。底部は平底である。器面調整は内外面共に刷毛目調整であるが、口縁部外面は刷毛目調整後ナデ調整を施す。色調は黄褐色を呈し、胎土は精良で焼成は良好である。口縁部内面及び胴部下半から底部にかけて2ヶ所黒斑が認められる。

調査の概要

下棺（4）は口径20.9cm、器高62.4cm、底径7.6cmを測る複合口縁壺形土器である。複合口縁接合部は「く」字状を呈し、稜は鈍く丸い。頸部と肩部の境に帯状の凸帯を1条貼り付け、凸帯上を格子状に刻む。器厚はほぼ均一で約1cmを測る。内外面共に刷毛目調整を施し口縁拡張部はヨコナデを施す。色調は淡黄褐色を呈し、胎土・焼成は良好である。なお、胴下半から底部にかけて黒斑が認められる。



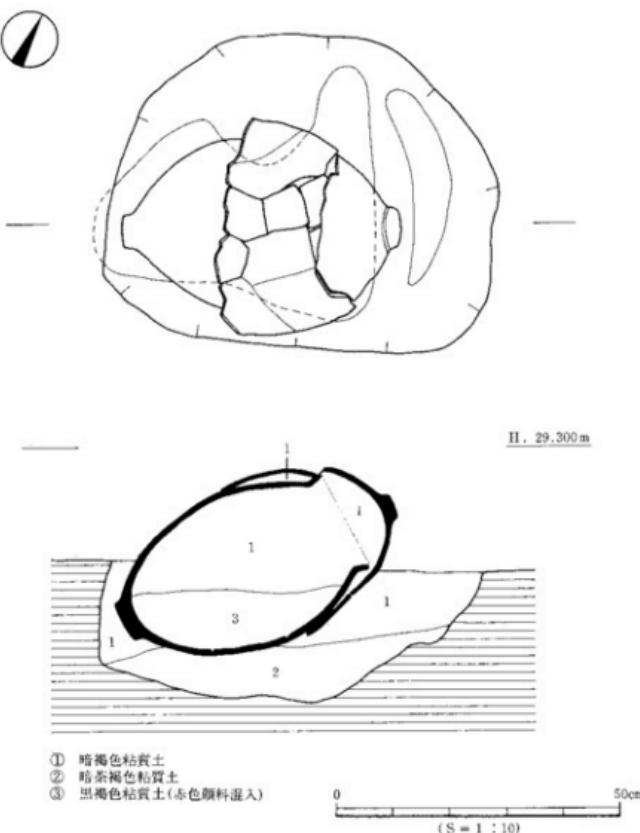
第33図 2号壺棺実測図

3号壺棺墓（第34図、図版6）

2号壺棺墓の北東約1m離れた所に位置し、主軸方位を2号壺棺墓とはほぼ等しくする。墓壙は70×57cmの楕円形状のプランを呈し、深さは約25cmを測る。墓壙の東側は階段状に掘られ、西側小口はわずかに横穴を設けている。床面は中央部がやや深くなる皿状を呈する。墓壙埋土は上層が暗褐色土、下層が暗茶褐色土である。壺棺は墓壙の西側に片寄って置かれており、下棺の底部は西側壁に殆ど接する位置にあるのに対し、上棺の底部と東側壁の間には

遺構と遺物

約20cm程度の空間が認められる。上棺に鉢、下棺に甕を用いた覆口式合口壺棺で上棺の口辺部は2号壺棺同様打ち欠いて使用している。上面は上棺が土圧でつぶれたものと思われ、下棺内部全体にまで土砂が流入し、下棺に限り凹状をとどめている。また下棺の内部に赤色顔料が検出された。壺棺の上軸はS-66°-Wにとり、13°の傾斜で埋置されている。墓壙指向方、壺棺の挿入は北東側から行われている。



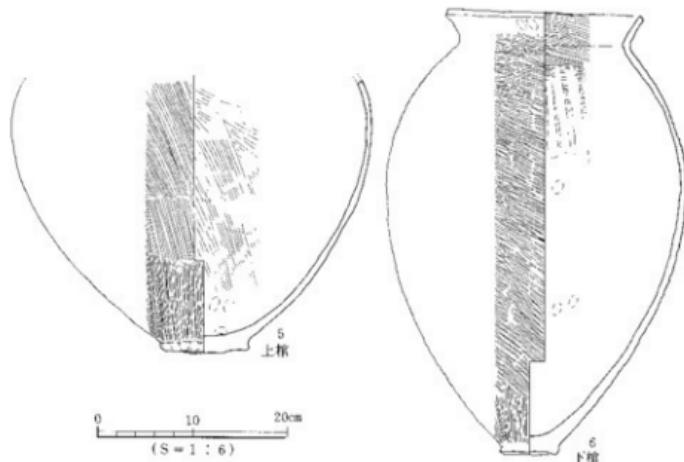
第34図 3号壺棺墓測量図

調査の概要

壺棺（第35図、図版14）

上棺（5）は口辺部を消失する鉢形土器で、胴部最大径37.9cm、底径8.4cm、残存器高29.4cmを測る。底部は平底であるが、ナテによりわずかに凹みが認められる。色調は黄褐～黄灰褐色を呈し胎土は3～4mm前後の砂粒を多く含む。焼成は良好である。器面調整は内外面共に刷毛目調整が施されているが、内面下半部はナテ調整で仕上げられている。胴部から底部にかけ広範囲にわたり黒斑が認められる。

下棺（6）は口径20.5cm、底径5.3cm、器高48.0cmを測る完形の變形土器である。「く」の字状口縁で肩部の張りは弱く、胴部最大径は胴中位よりやや上に求められる。底部はわずかに上げ底を呈する。色調は黄褐色を呈し、胎土は2～4mm前後の砂粒を多く含む。焼成は良好である。器面調整は胴部外面は叩き技法を使用し胴下半部は叩き後刷毛目調整を施す。内面は口辺部は刷毛目調整、その他はナテにより仕上げられている。胴中位から下半部にかけて黒斑が認められる。また胴中位部内面に赤色顔料が付着していた。



第35図 3号壺棺実測図

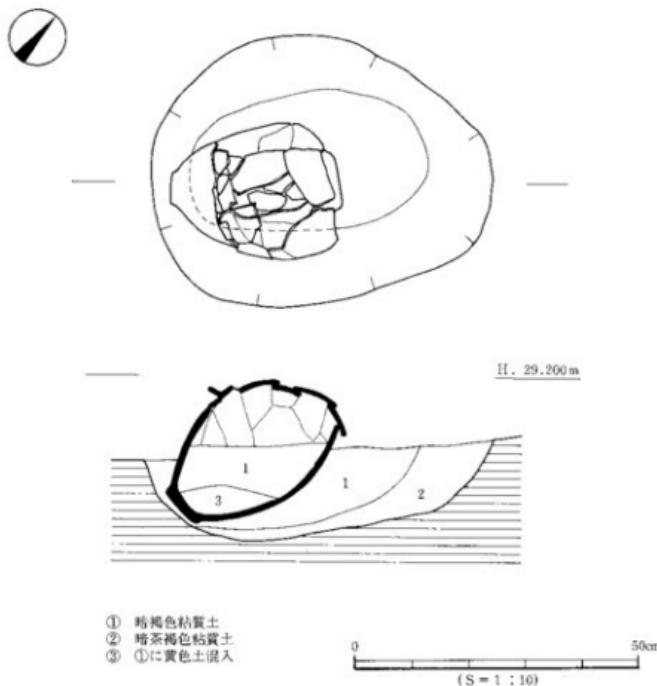
遺構と遺物

4号壺棺墓（第36図、図版6）

2号壺棺墓の北東約2m、3号壺棺墓の東約1m離れた所に位置する。上棺については後世の削平及び土圧のため口辺部、胸部の一部のみの残存であり、下棺については口辺部を欠損している。合口壺棺ではあるが、組み合わせ方は現状では判断しがたい。墓壙は61×48cmの楕円形状プランを呈し深さは14cmを測る。床面は中央部がやや深くなる擂鉢状をなし、壁は南側が急であるのに対し、他の三方は比較的緩やかに立ち上がる。墓壙埋土は上層が暗褐色土、下層は暗茶褐色土である。主軸はS-42°-Wにとり、傾斜角41°のきわめて急角度で埋置されている。墓壙掘方、壺棺の挿入は北東側からである。

壺棺（第38図、図版14）

上棺（7）は胴下半部を消失する變形上器である。口径20.0cm、残存器高26.2cmを測る。「く」字状口縁で肩部の張りは弱く、胸部はやや長胴である。内外面共に刷毛目調整である



第36図 4号壺棺墓測量図

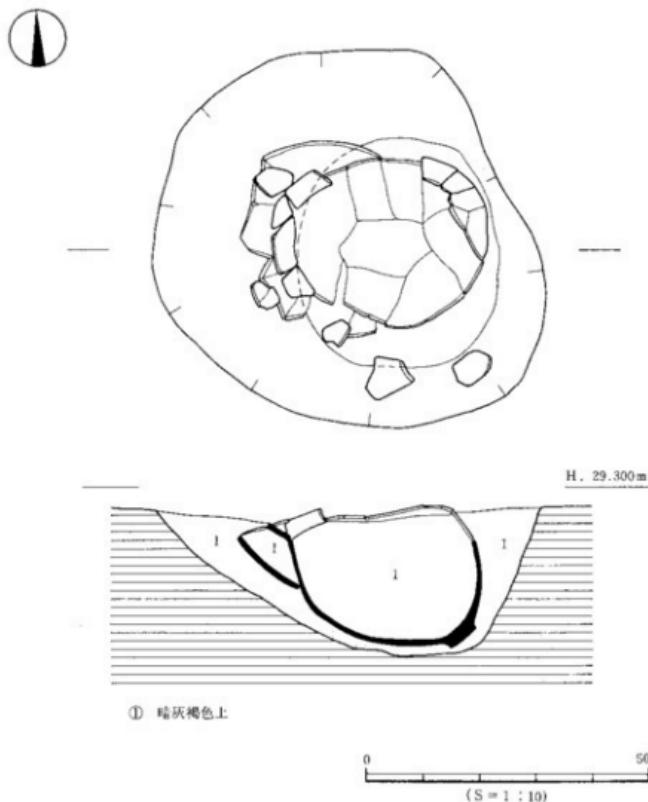
調査の概要

が、内面上位は刷毛目調整後ナデ調整が施される。色調は淡黄灰色を呈し、胎土は精良で、焼成は良好である。

下棺（8）は胴上半部を消失する壺形土器である。胴部最大径29.5cm、底径8.0cm、残存器高34.2cmを測る。胴部最大径は胴中位部にあり、器厚はほぼ均一で約1cmを測る。内外面共に刷毛目調整を施す。色調は乳褐色を呈し、胎土・焼成は良好である。胴部下半から底部にかけて黒斑が認められる。

5号壺棺墓（第37図）

5基の壺棺墓の中では最も東側（S 3 W20）に位置する。第1号壺棺墓と同様に墓壙掘方



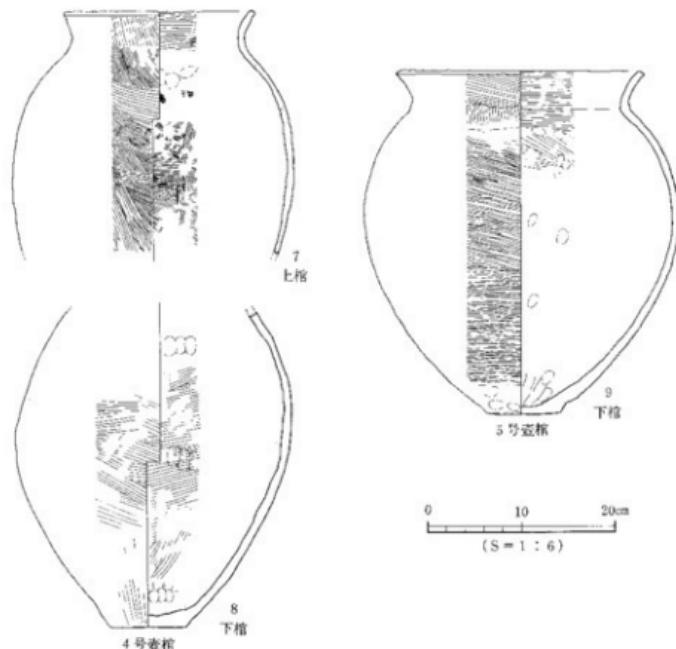
第37図 5号壺棺墓測量図

造構と造物

のみの検出である。後世の削平により上棺についてはほとんどが欠損しているが、おそらく覆口式の合口壺棺墓と考えられる。下棺は甕を使用している。墓壙は75×65cmの不整椭円形プランを呈し、深さ26cmを測る。床面は比較的平坦で、壁の立ち上がりは東側が急であるのに対し、他の三方は緩やかである。墓壙埋土は灰褐色土の單一層である。主軸をS-89-Eにとり、傾斜角度は43°と壺棺の中では最も急である。墓壙掘方、壺棺挿入は他のものと異なり、唯一西側より行われている。

壺棺（第38図、図版13）

下棺（9）は口径25.5cm、器高37.2cm、底径8.0cmを測る瓶形土器である。口縁部は「く」字状を呈し、やや球形の胴部は最大径を胴中位部よりやや上に求められる。底部は平底である。口頭部外面は刷毛目調整、その他は刷毛目調整後叩きを施している。内面は口縁部はヨコナデ、その他はナテ調整を施している。色調は乳白色を呈し、胎上は精良で焼成は良好である。胴下半部内面及び底部外面に黒斑が認められる。



第38図 4号・5号壺棺実測図

調査の概要

[6] 土器溜り (図版7)

調査区5区東に位置する。検出規模は、約10m × 8mである。遺構自体の掘り込みは検出されず、投棄された上器が蓄積した状況であった。平面形は不整形を呈する。出土遺物の層は二層ある。上層中には弥生時代後期土器、土師質土器、須恵器、鉄器（大鎌）等が混在する。下層中からは弥生時代後期土器のみが出土した。以下、図示するのは下層出土遺物である。

出土遺物 (第39~93図、図版16~42)

甕形土器 (第39~47図、図版16~18)

甕形土器には法量に大・中・小の三つのものがある。以下、法量ごとに記述する。

大型品 口径と器高により二分類される。

大型品a (1~4) 口径が30cmを越え、器高値が口径値と同じくらいの値を示すもの、鉢形土器に似た形態を呈す。ゆるやかに外反する口縁部をもち、1は口縁端部を強くナデる。2の口縁下には調整時の工具痕が看取される。1・2は器壁が厚く、3・4は器壁が薄い。

大型品b (5~9) 口径は20cm台で、著しく長い胴部をもつものである（器高は推定で40~50cmになるものと思われる）。ゆるやかに外反する口縁部に、丸く張る肩部をもつ。大型品aに比べ頸部に縮りをもつ。

中型品 脇部の張りの形態により二分類される。

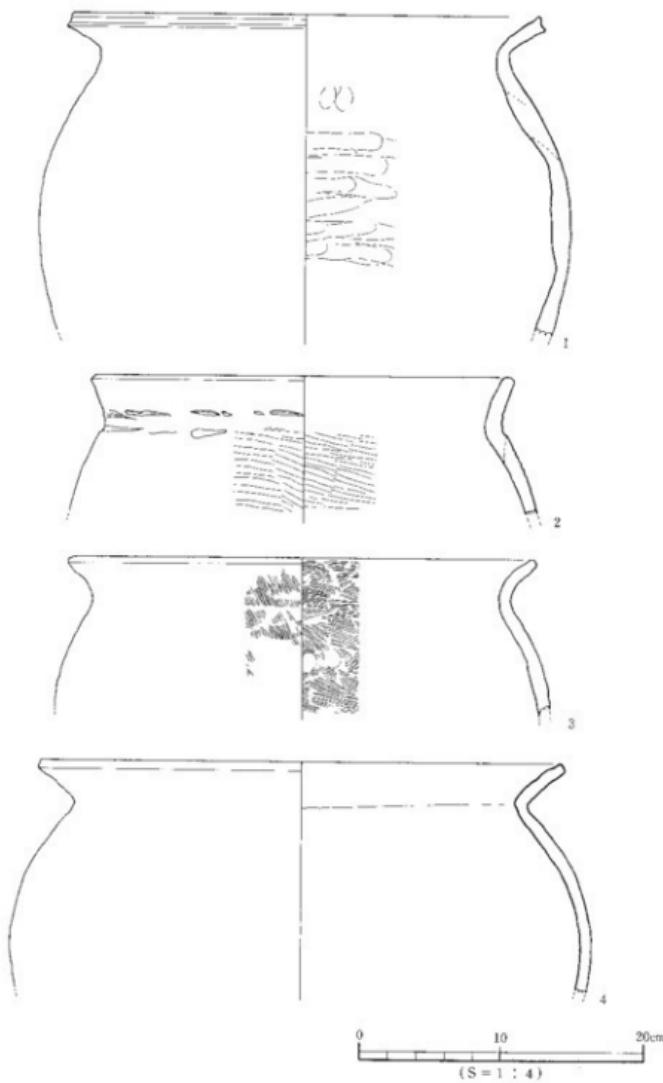
中型品a (10~26) 脇部全体に張りをもつもので、頸部の縮りが弱いものである。口縁部の長さや外反度により幾つかの形態をもつ。10~16はゆるやかに外反するやや短い口縁部をもつものである。口縁端部は、先細りするもの (11~14) と隅丸方形を呈するもの (10・15・16) がみられる。頸部内面には、著しい綾をもたない。17~24は頸部内面に稜をもって折り曲げられる口縁部をもつもので、口縁端部は面をもつ。口縁部が長いものが多い (17~19・22~24)。25・26は頸部内面がゆるやかに丸みをもつもので、長い口縁部と面とりの口縁端部をもつ。短頸壺に似た形態をもつ。中型品b (27~41) 肩部が著しく張るもので、脇中位以下の膨らみが弱いものである。口縁部の長さや肩部の張りの強さに幾つかの形態をもつ。27~33は肩部の張りが強く、胴部最大径値が口径値を凌ぐものである。口縁部はやや長く、口縁端面はヨコナデによる面をもつ。ナデが強く凹むものもある (28・29)。

34・35は胴部最大径値が口径値より小さいものである。口縁端面はナデにより面をもつ。

36~41は肩部が丸みをもって強く張るものである。口縁部はゆるやかに外反し、口縁端部はナデによる面をもつ。口縁直下に「ノ」の字状の刺突文列をもつ。

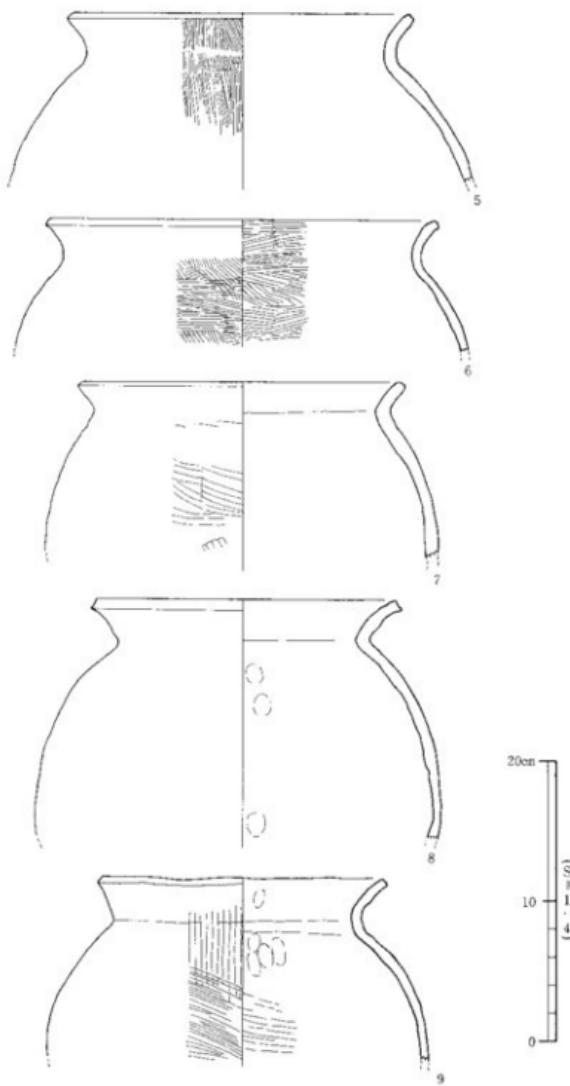
小型品 器高が20~25cm前後のものと、20cmに満たないものがあり、ここでは前者を小型品I、後者を小型品IIとして記述する。

遺構と遺物

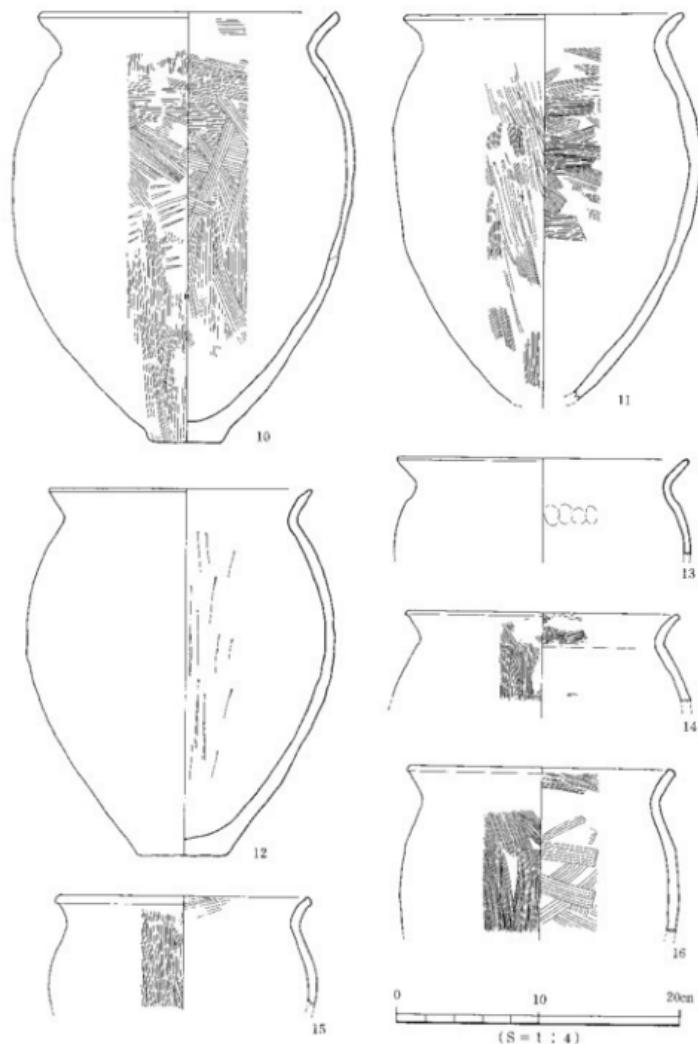


第39図 土器溜り出土遺物実測図（1）

調査の概要

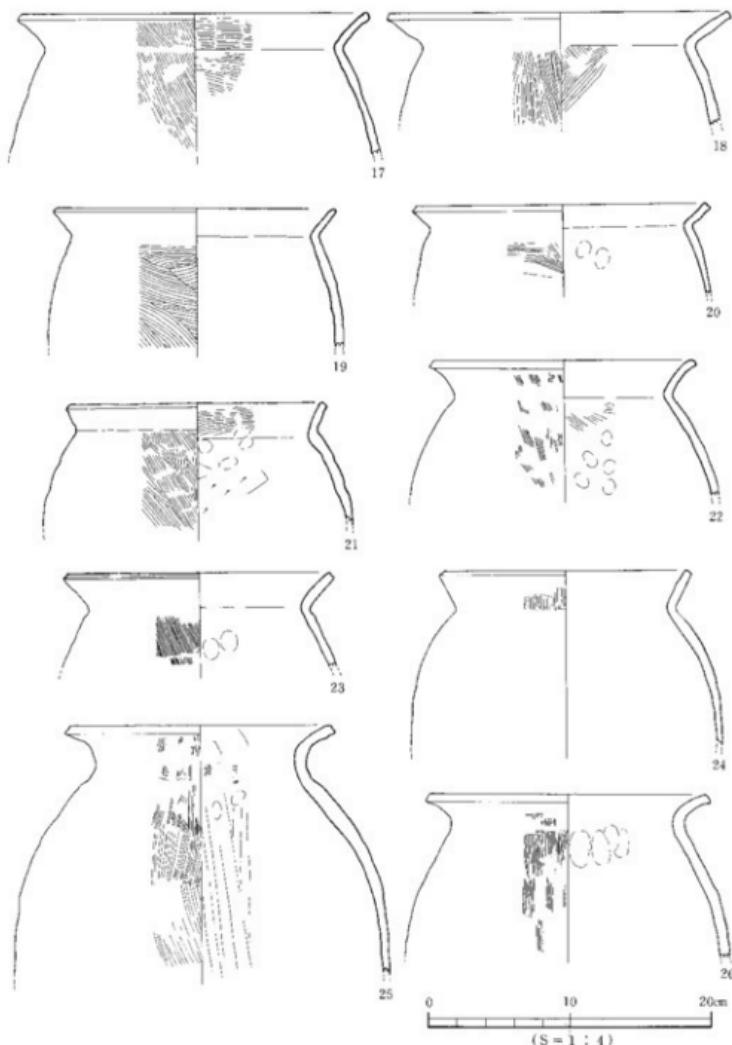


第40図 上器溜り出土遺物実測図（2）



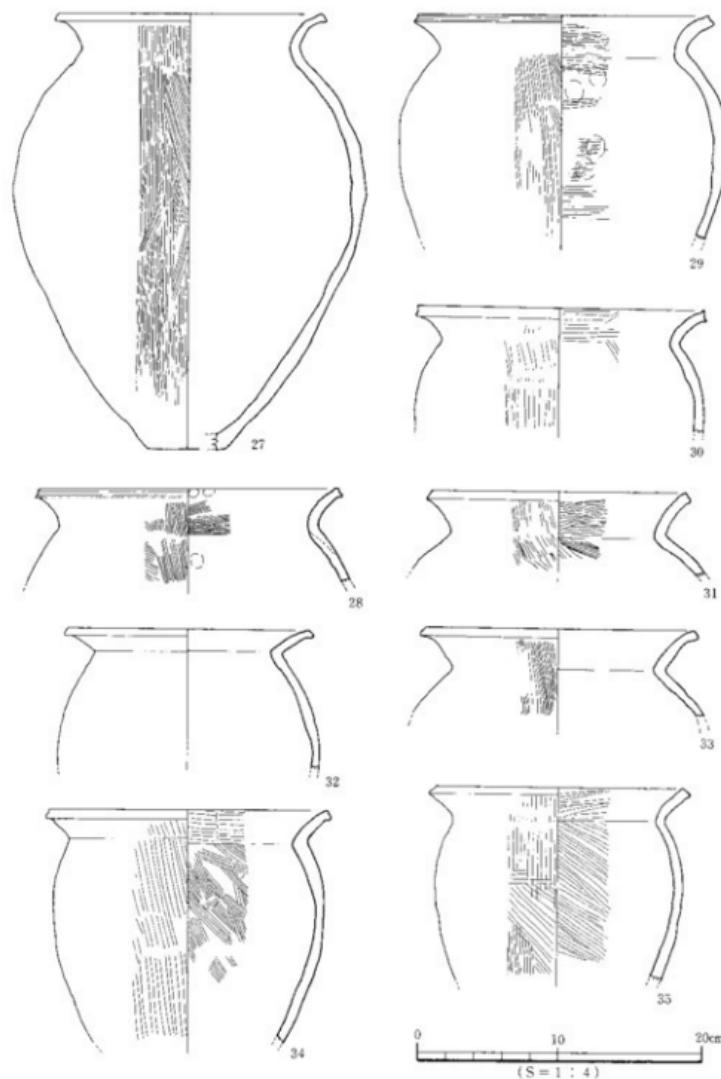
第41図 土器窯り出土造物実測図（3）

調査の概要

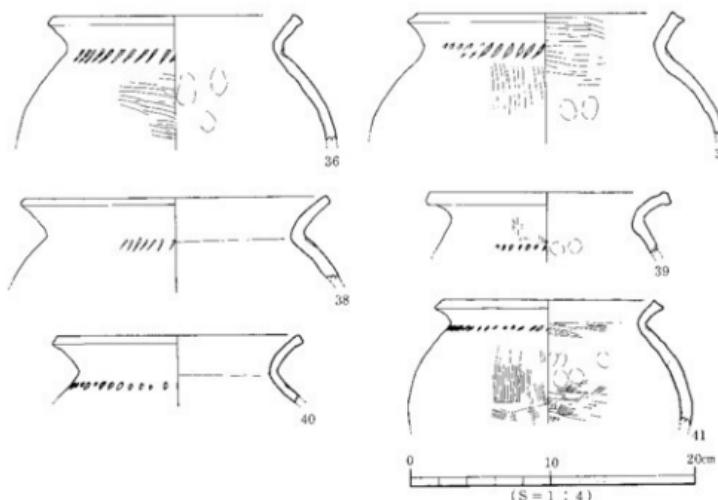


第42図 土器渝り出土遺物実測図（4）

遺構と遺物



第43図 土器溶り出土遺物実測図 (5)



第44図 土器溜り出土遺物実測図（6）

小型品I（42～51）は、胴上半部に張りをもち、胴部最大径値が口径値を凌ぐものが多い（42～45・48～51）。口縁部は長いものと短いものがあり、短いものでは内面に口縁部成形時の接合痕をもつものがみられる（44・49）。46・47は胴部の張りが弱く、口径値が胴部最大径値を凌ぐものである。51は異形であり、口縁部が直線的に直立するものである。

小型品II（52～60）は、口径が大きく鉢形土器に似たものの（52・54）と口径が小さく長胴のもの（53・55～59）がみられる。前者はくびれる上げ底をもち、後者は小さい立ち上がりをもつ弱い上げ底となる。55は胴部の張りが弱く、小型品Iの51に似た形態をもつ。60は異形で、丸みのある厚い底部をもつものである。

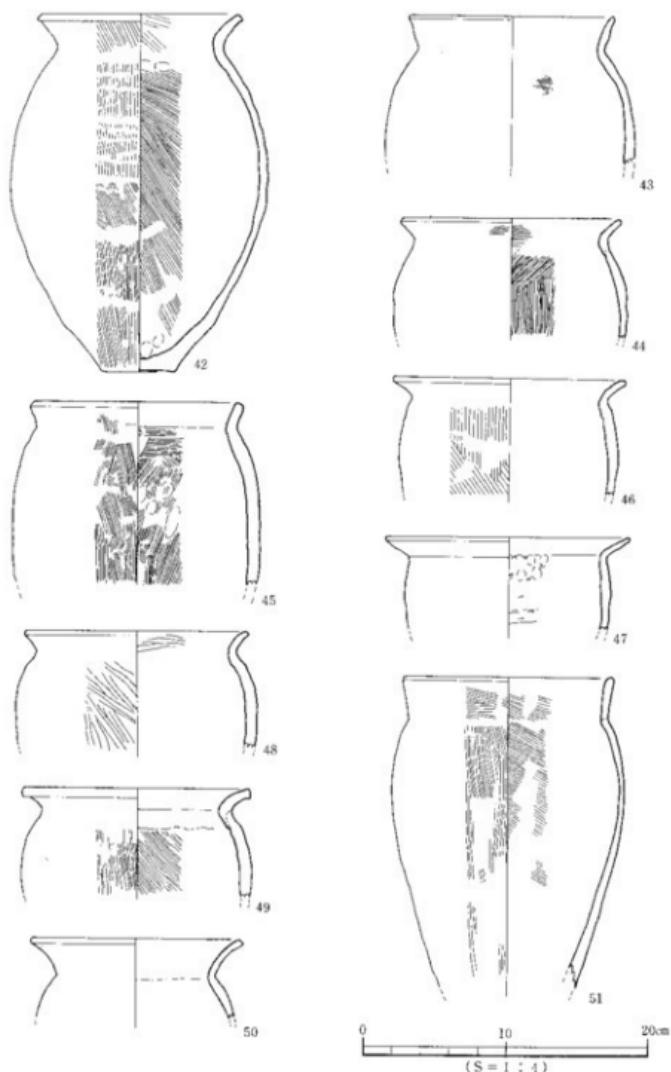
底部（61～64）中型品の底部は、立ち上がりをもって上げ底となるもの（61・62）と平底のもの（63・64）がある。

壺形土器（第48～75図、図版19～33）

複合口縁、長頸、短頸等の形態がある。

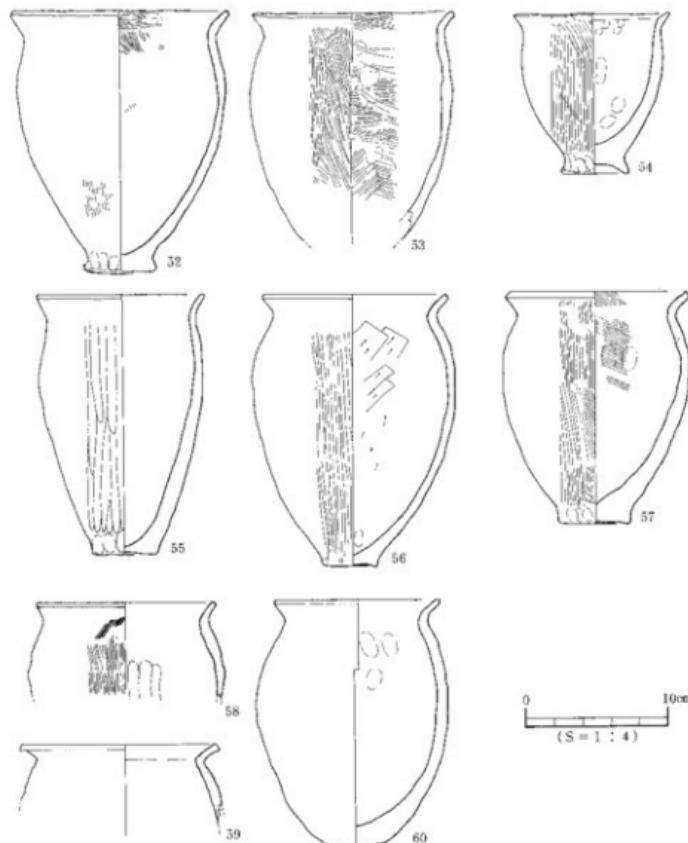
1) 複合口縁 複合口縁壺（65～147）は、複合口縁部の接合部分の形態に、「コ」の字状を呈するものと、「く」の字状を呈するものがみられる。

①複合口縁「コ」の字状接合部（65～107）口～頸部が全て残存するものは極めて少ないため形態による分類はあえて行わない。ただし、複合口縁部の形態には、複合口縁部が内傾



第45図 土器泥り出土遺物実測図(7)

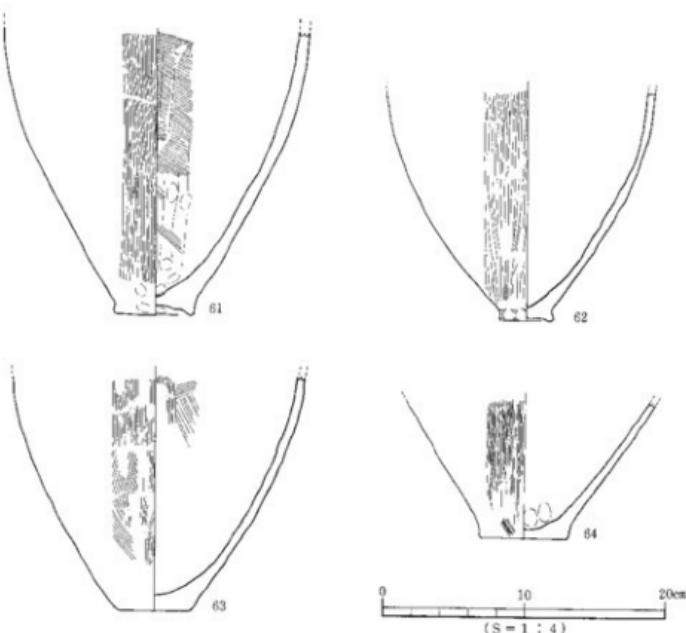
調査の概要



第46図 土器溜り出土遺物実測図（8）

するものが大多数で、外傾するものが少数存在することをあげておく。ここでは複合口縁部の施文の有無により区別し記述する。

65~87は有文で、多条のヨコ方向の（以下、「ヨコ」と記載）直線文と波状文が組み合うもの65~67・70~74・77~80・84が主体となる。波状文が施されるものとしては、上記の他にヨコ直線文1条と組み合うもの68や、斜格子目文と組み合うもの80がある。なお、69は口縁端部を欠損するが口縁部形態や波状文の形態より68と同じくヨコ直線文と波状文が組み合



第47図 上器溜り出土遺物実測図（9）

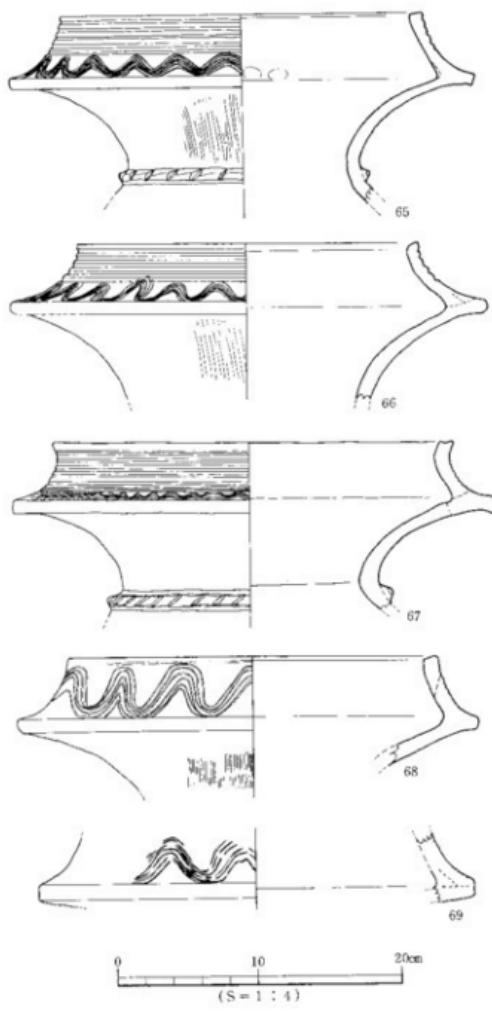
うものと思われる。ただし、80は破片にて、斜格子目文と波状文の加飾比は不明である。また、80の口縁上面にある複線は、当土器溜り出土の複合口縁壺のなかでは極少の例である。

波状文以外には、多条のヨコ直線文だけのもの75、竹管文と弧文が組み合うもの76、細沈線による斜格子目文だけのもの81~83、多条のヨコ直線文と斜線充填の三角文が組み合うもの85、複線斜格子目文だけのもの86、3条のタテ直線文をもつもの87がある。ただし、これら波状文以外の加飾をもつものは、出土量としては少数である。

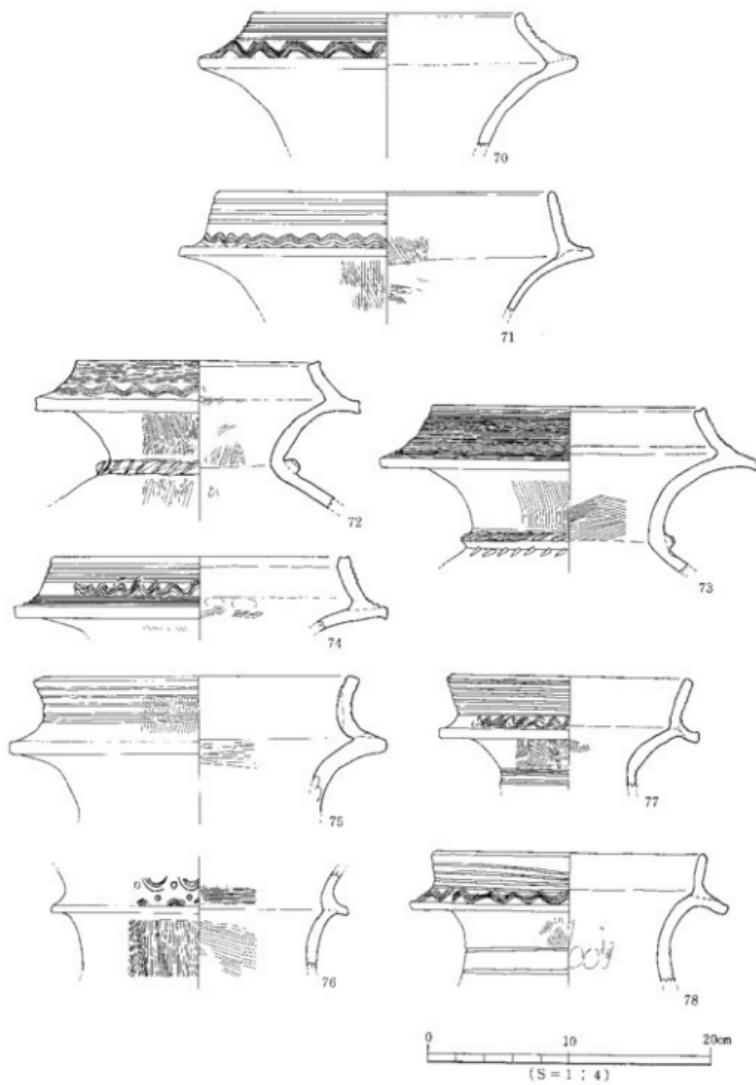
頸部への加飾は、刻目凸帯を施すものが多くみられるが^{65・67・72}、刺突文⁷³や多条のヨコ直線文を施すもの^{77・78}も少数ながらみられる。

88~107は無文のものである。88~94は口径が25~30cm未満と広いものである。94は複合口縁部が直線的で、直立ぎみに立ち上がり、接合部がやや垂下する特徴をもつ。95~99は口径が15~24cmのものである。96は複元であるが壺形の全様が分かる唯一のものである。肩部が

調査の概要

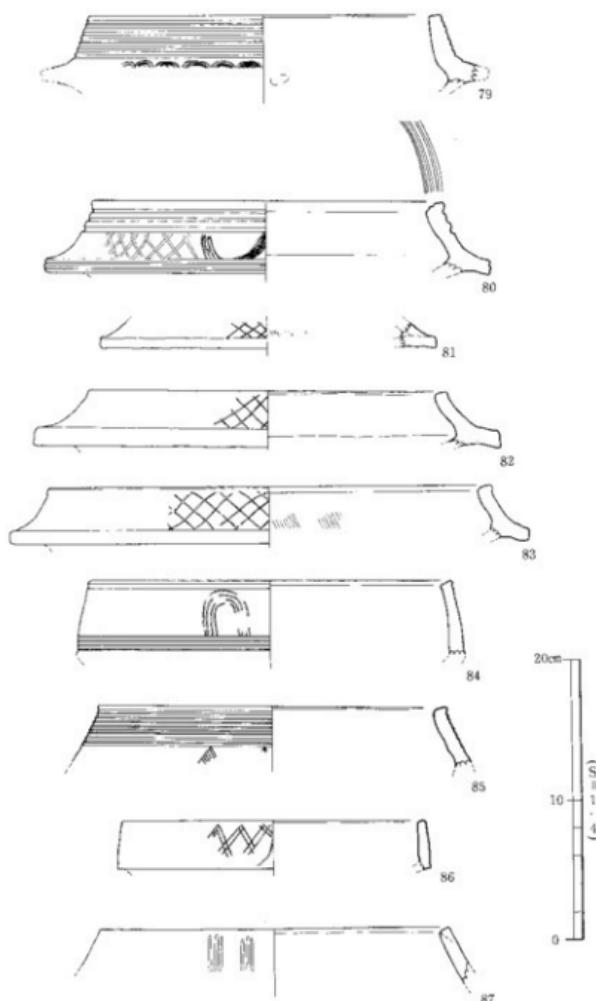


第48図 上器溜り出土遺物実測図 (10)



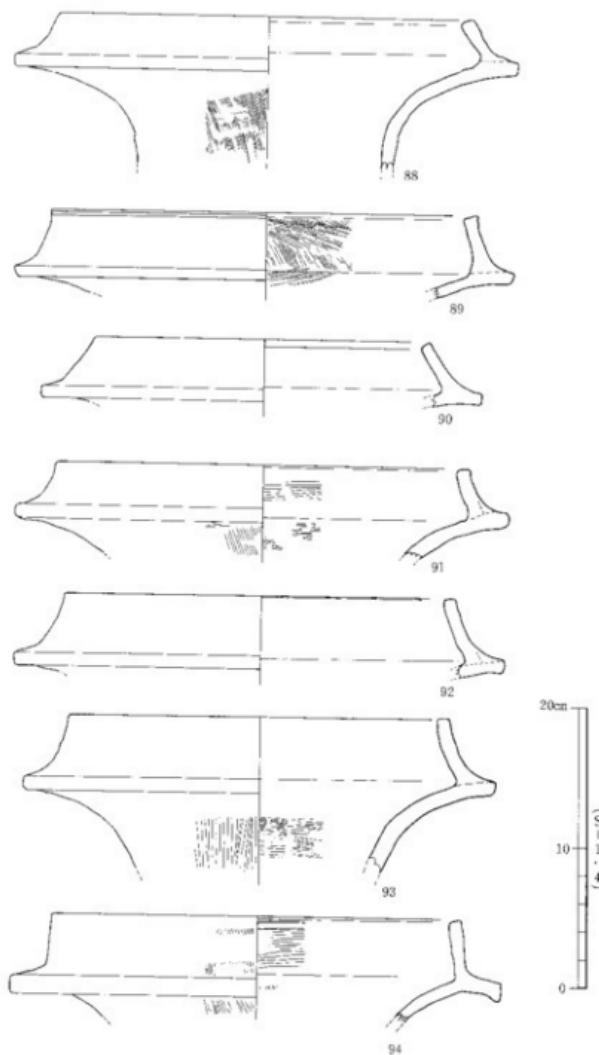
第49図 土器窑り出土遺物実測図 (11)

調査の概要



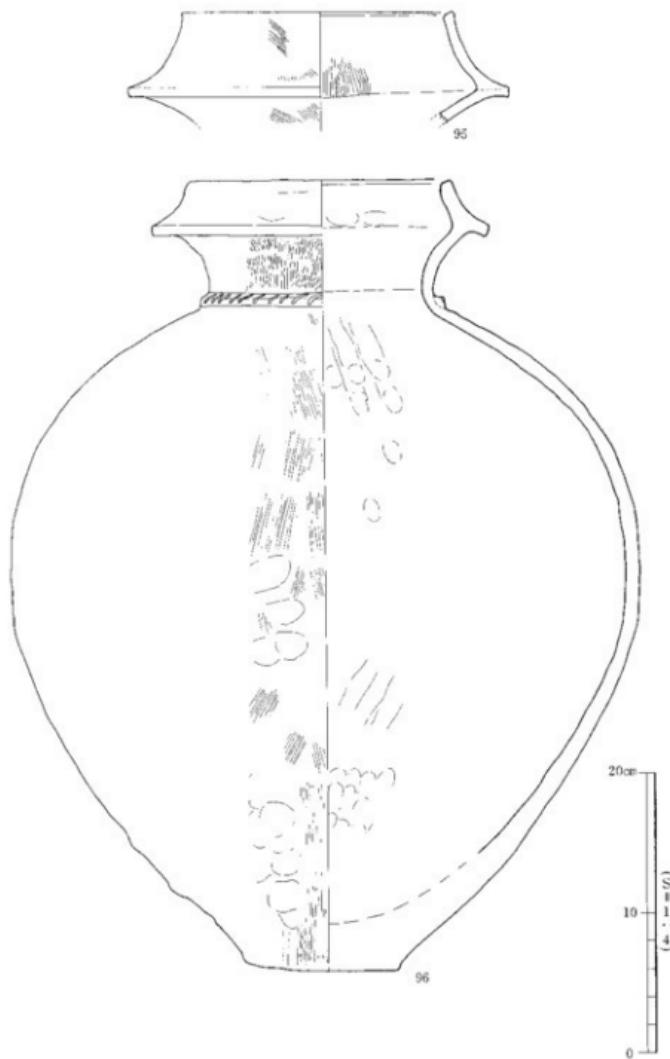
第50図 土器溜り出土遺物実測図 (12)

遺構と遺物

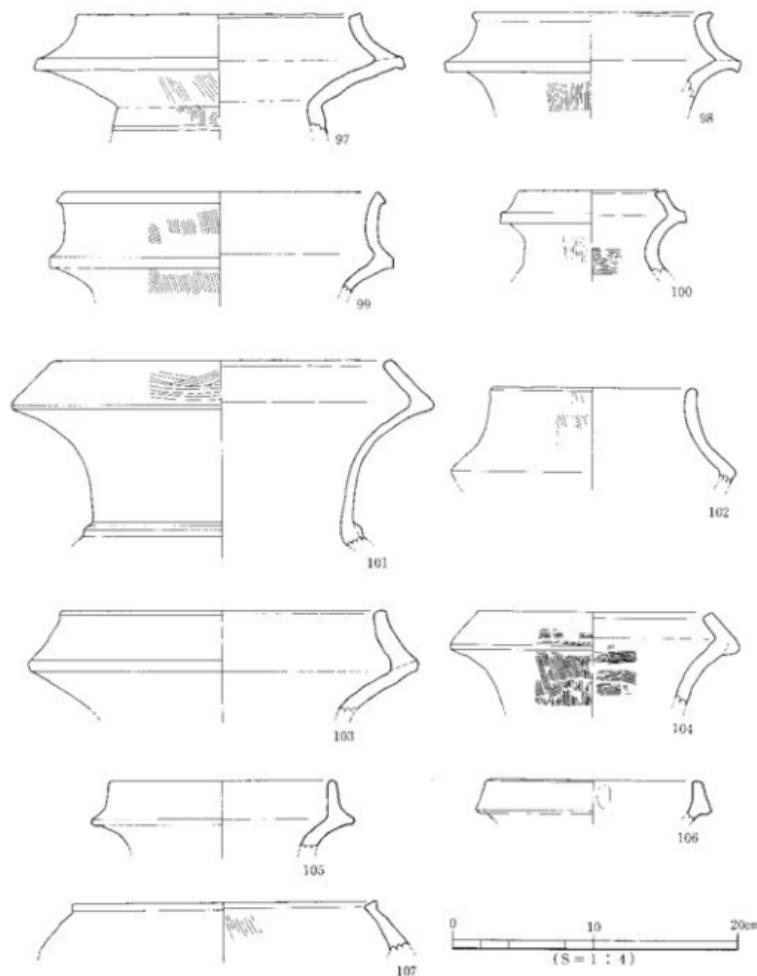


第51図 土器溜り出土遺物実測図 (13)

調査の概要

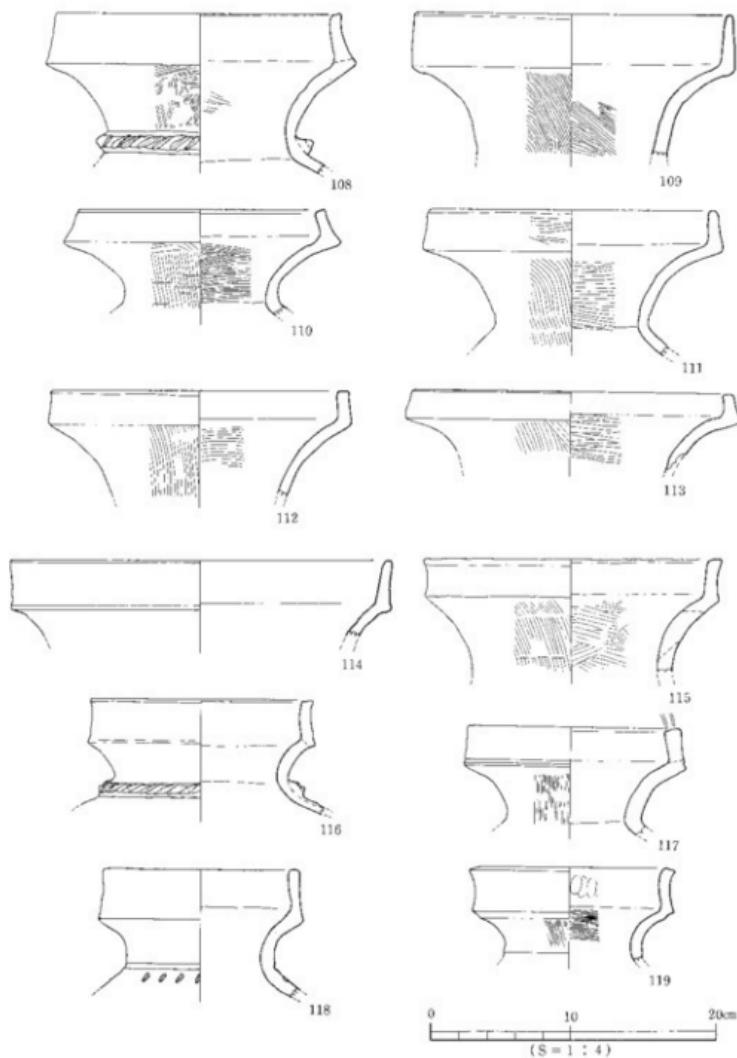


第52図 土器溜り出土遺物実測図 (14)

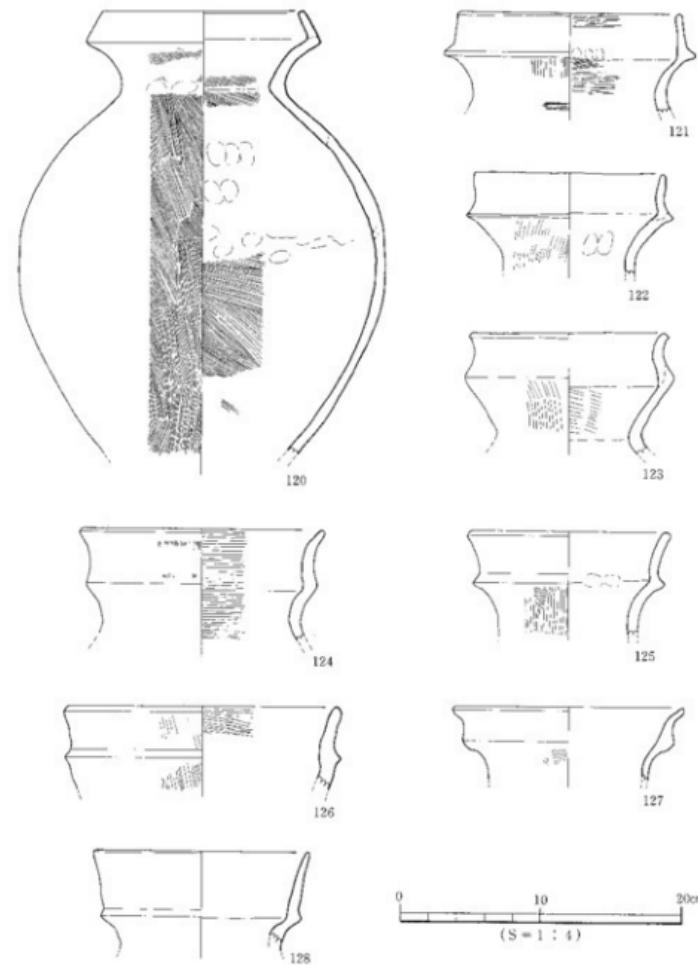


第53図 土器窯より出土遺物実測図 (15)

調査の概要

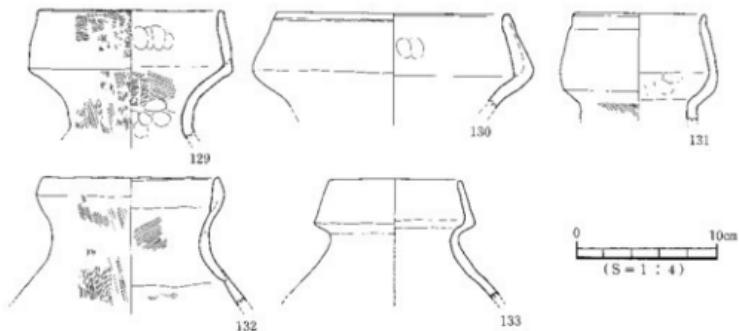


第54図 土器溜り出土遺物実測図 (16)



第55図 土器溜り出土遺物実測図 (17)

調査の概要



第56図 土器溜り出土遺物実測図 (18)

強く張る胴部と大きく厚い平底、短く外反する頸部をもつ。頸部に刻目凸帯文を施す。口縁部は接合部がやや垂下する。97は頸部と口縁部の境が明瞭で、頸部にヨコ直線文（多条か）をもつものである。98・99は口縁外端部が小さく突出するものである。100は口径が10.2cmと小さいもので、口縁部・頸部ともに短いものである。

101～107は接合部がマツツないし欠損するものであるが、「コ」字状と判断したものである。ただし、断定はできないものである。101は頸部に凸帯文をもつ。102は複合口縁部が長く、かつ湾曲が強いものである。104～106は複合口縁部が短いもので、106は接合部が垂下している。107は口縁部片で、口縁外端部が小さく突出するものである。

②複合口縁「く」の字状接合部。(108～133) この形態のものは、複合口縁部に施文を施さないことを基調とする。108～115は口径が17～20cm台のものである。108は頸部に刻目凸帯をもつものである。109～113はやや短く、直立ぎみに立ち上がる複合口縁部をもつものである。114・115は口縁部の湾曲がやや強く、外反ぎみに立ち上がる複合口縁部をもつものである。114は破片にて、口径がやや小さくなる可能性がある。

116～128は口径が10～16cmのものである。116は頸部に刻目凸帯をもつ。118・119は頸部に直線文をもつもので、118は直線文下に刺突文を施している。120は底部を欠損するが、器形の多くの部分が知れる良好な資料である。胴中位に胴部最大径をもつもので、短く外反する頸部に、短い複合口縁部がつくものである。121は複合口縁部が内湾ぎみに立ち上がり、122は複合口縁部上半が外傾するものである。123～127は複合口縁部の上半部が大きく外反するものである。126は破片にて口径がやや小さくなる可能性をもつ。128は複合口縁部が長く、直線的に外傾するものであり、異形品である。古墳時代前期の遺物かもしれない（混入品か）。

129～132は接合部に丸みをもつものである。129は長い複合口縁部をもつ。130はマツシたものであるが、外面に1条の直線文を看取する。131は複合口縁部がいわゆる袋状を呈するものである。口縁端部はナデにより小さく外反する。132は口縁部が短く内湾するものである。異形態である。

133は内傾する短い頸部に、内傾する長い口縁部をもつものである。異形態である。

③複合口縁頸部。(134～147)

大型品 134～137は大型品の頸部である。134は頸・胴部、口・頸部の各境が明瞭なものである。135～137は頸部に刻目凸帯を1条もつものである。137は凸帯下に刻目文が施されている。

中型品 138～147は中型品の頸部である。138～140は頸部が内傾～直立ぎみに立ち上がるもので、頸部に凸帯をもたないものである。142～147は直立～外反する頸部をもつものである。頸部に刻目凸帯を1条もつ。141・142は斜めの刻目文、143～146は斜格子の刻目文となる。

2) 短い口・頸部のものである。(148～162)

頸部の締りが弱く、短く外反する口縁部をもつもの148～155と、頸部がやや締り、口縁部が外反するもの156～162がある。148～151・153～155は器壁が厚く、口縁端部はナデにより面をもつものである。154は頸部下に刺突文をもつ。152は全形が分かるもので、肩部内面に150・153と同じく粘土の接合痕をもち、口縁部が短いことを特徴とする。156～162は口縁部が148～155より長いもので、160・162は頸部が筒状になっているものである。158・159・161・162はナデにより口縁端部が幅広の面をもっている。

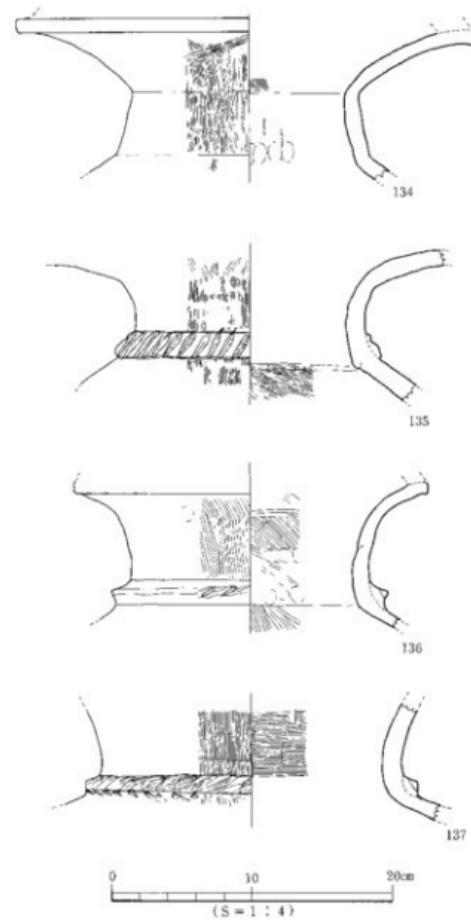
3) 内傾するやや太い筒状の頸部に、外反する口縁部をもつものである。(163～167)

163～165は中型品で、肩部が張り、やや厚い平底をもつ。器壁が厚く、肩部に部分的に刺突文(4～6ヶを1組とし、3・4組)を施すことを特徴とする。166は163～165の小型品で、胎土と色調、施文手法が163～165と酷似する。167は口縁端面に1条の沈線文をもつもので、器形は異形である。

4) 内傾する頸部に、短く外傾する口縁部(直口に近い)をもつものである。口・頸部と頸・胴部の境は不明瞭である。

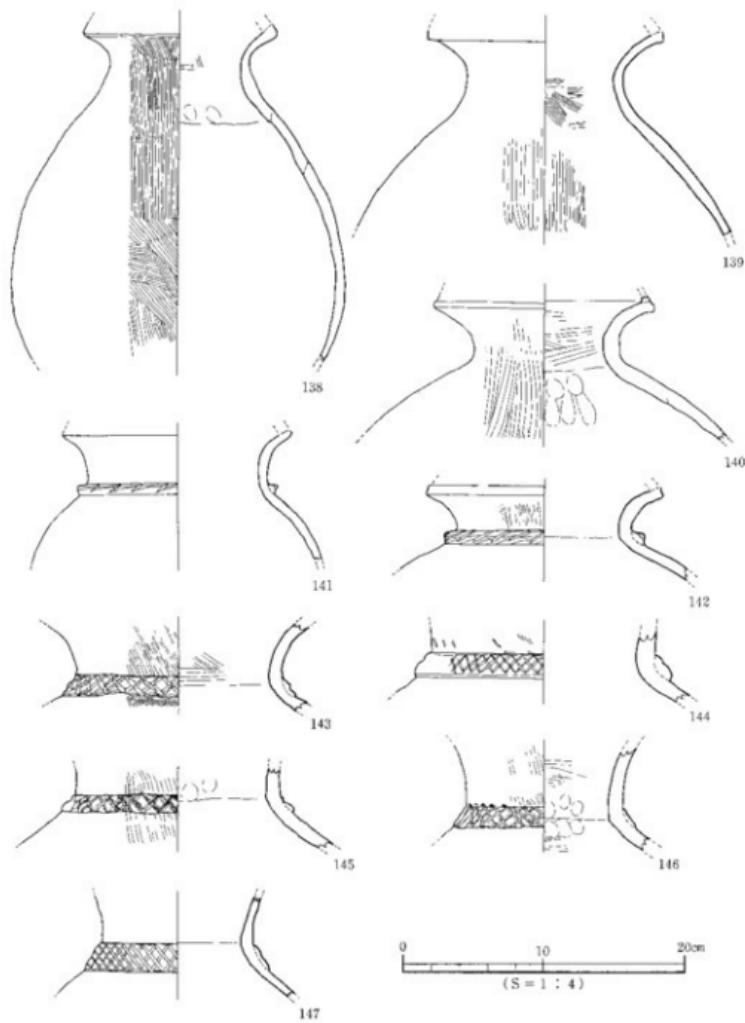
168は肩部が張り、やや厚い底部をもつ。ひずんだ土器である。169は肩部が張り、各部位境は極めて不明瞭なものである。170は完形品である。ひずんでいるが、肩部はやや張り、長胴で上げ底の底部をもつものである。短く内傾する頸部に、口縁端部が先細りする短い口縁部をもつ。171は頸部径がやや細いものである。肩部に羽状文状に充填された三角文と雑な複線文を施している。破片にて、施文が全周するかは不明である。

調査の概要



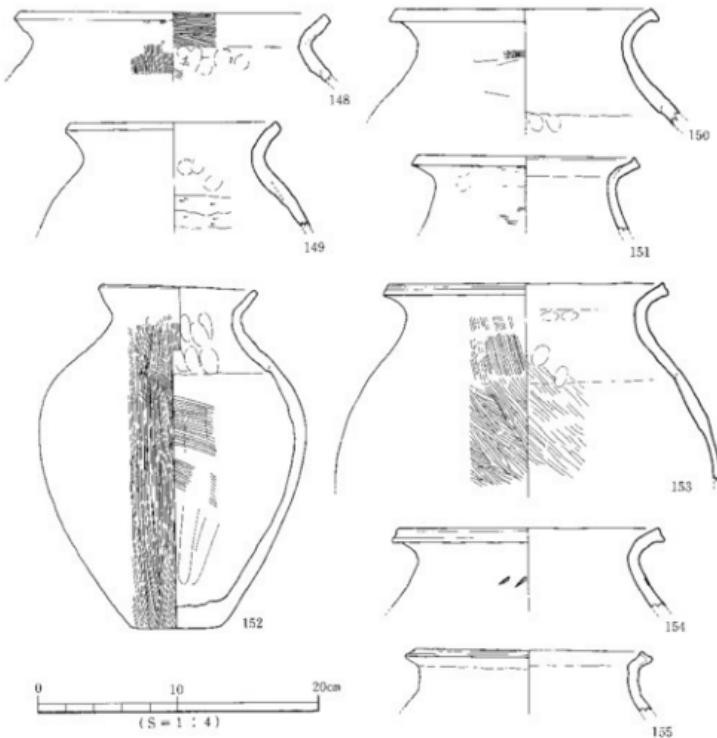
第57図 土器溜り出土遺物実測図 (19)

造 構 と 造 物

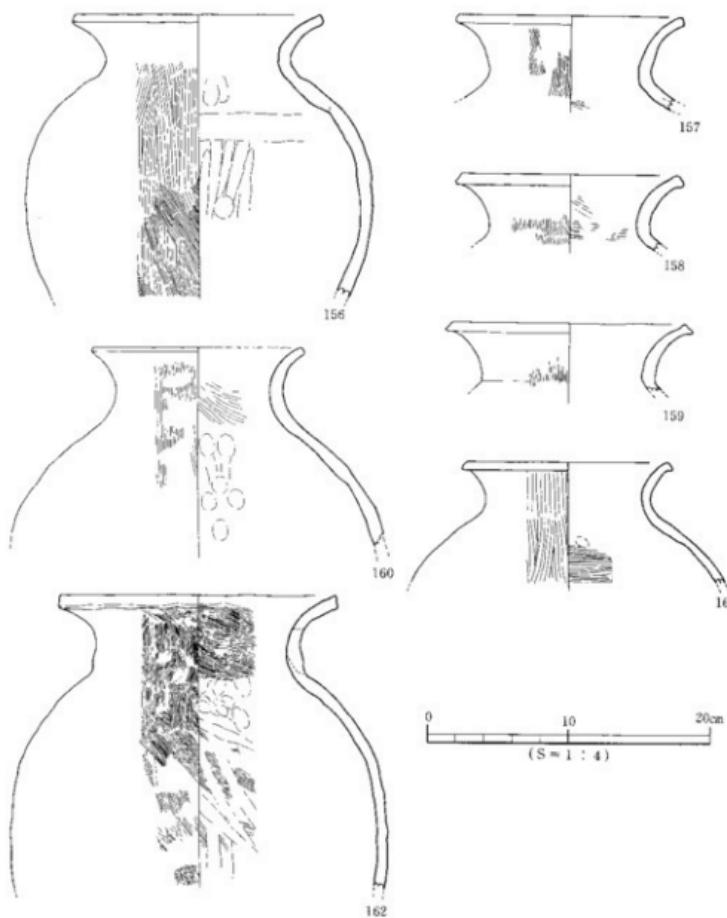


第58図 土器溜り出土遺物実測図 (20)

調査の概要

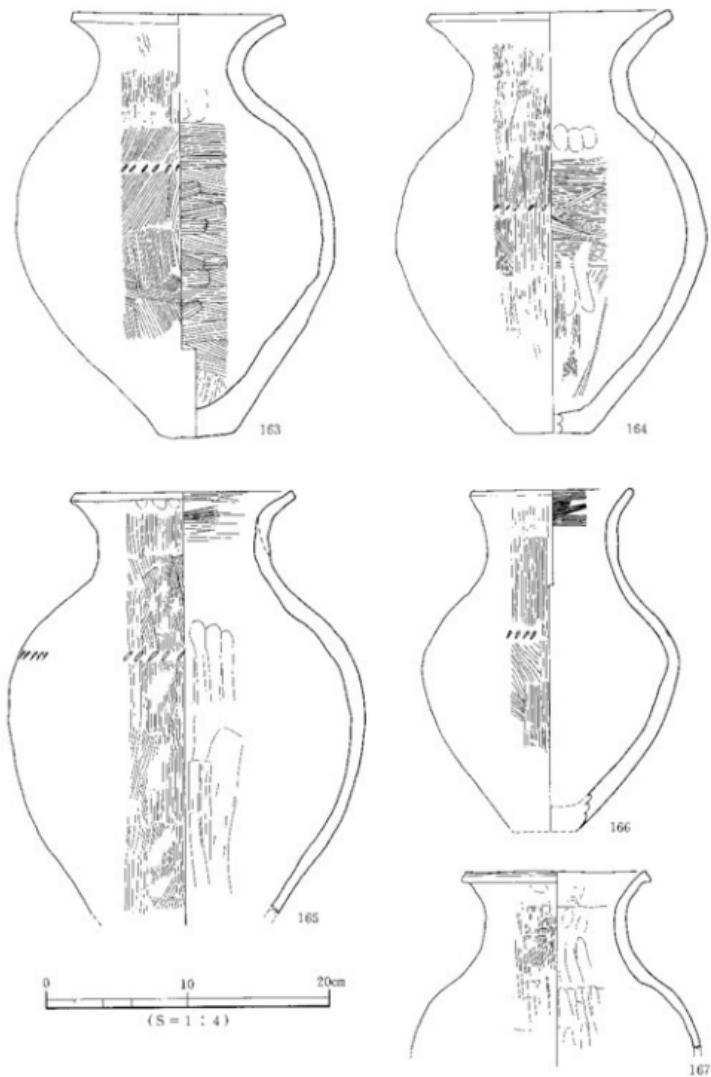


第59図 土器溜り出土遺物実測図 (2)

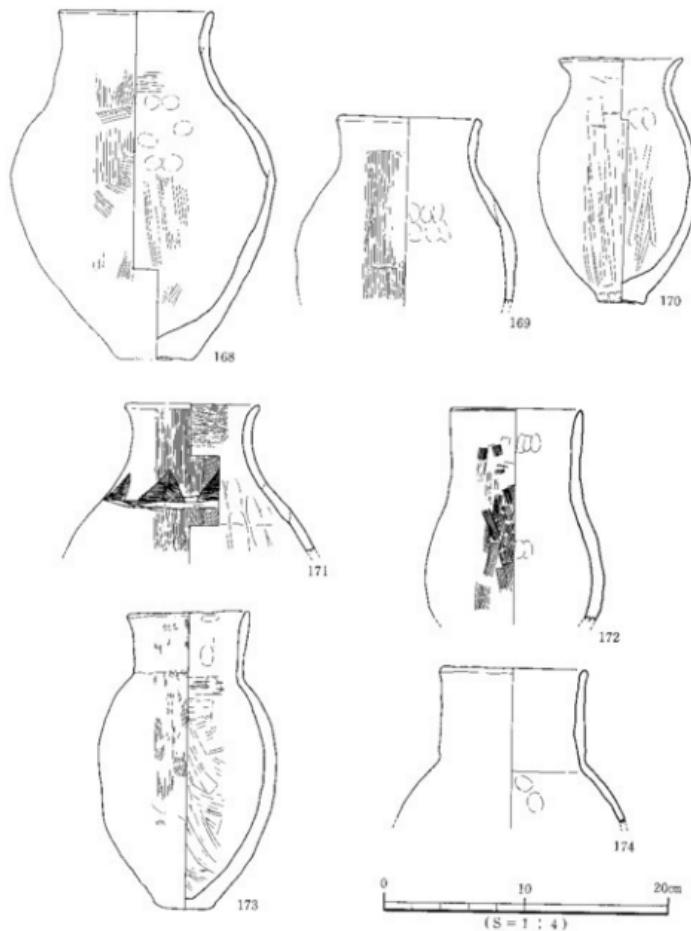


第60図 土器溜り出土遺物実測図 (22)

調査の概要



第61図 土器溜り出土遺物実測図 (23)



第62図 土器溜り出土遺物実測図 (24)

5) 長い胴部に、直立する頸部と直口の口縁部をもつものである。(172~174)

172は頸部下端の縮りが弱いものである。器壁が厚い。173は完形品で、頸・胴部境が明瞭である。174は173と同形で法量が大きいものである。内面の頸・胴部境に稜をもつ。

6) 直立ないし、外傾する筒状の頸部に、短く外反する口縁部をもつものである。頸部下端に縫りをもち、頸部はやや細いものである。(175~182)

175は形態的に2)で記述した壺形土器の形態に似るが、頸部下端の径が小さいため、このグループに入れたものである。176は頸部に刻目凸帯をもつものである。177は削平されタテに半截された状態で出土したものである。胴部は長胴で、胴部最大径は胴中位にある。各部位境が不明瞭で、全体に丸みをもつ。178は頸部に凸帯をもつのである。凸帯の頂部はやや丸みをもっている。179は口縁端面にナテによる凹みをもつ。180は口縁端部は丸みをもってやや厚くなる。頸部に直線文と木状工具の木口による幅広の押圧文をもつ。形態・施文手法とも異例なものである。181は器高が高いもので、各部位間が不明瞭なものである。肩部に上・下弧文が組みあった線(焼成前)がみられるが、記号であるか、あるいは成形時についたキズであるかは判断しがたいものである。182は完形(復元)品で、頸部に木状工具による幅広の押圧文をもつ。175~182は胴部形態が明確になれば、より良い分類が可能である。

7) 直立・外傾する細長い頸部に、わずかに外傾する口縁部をもつものである。(183~190)

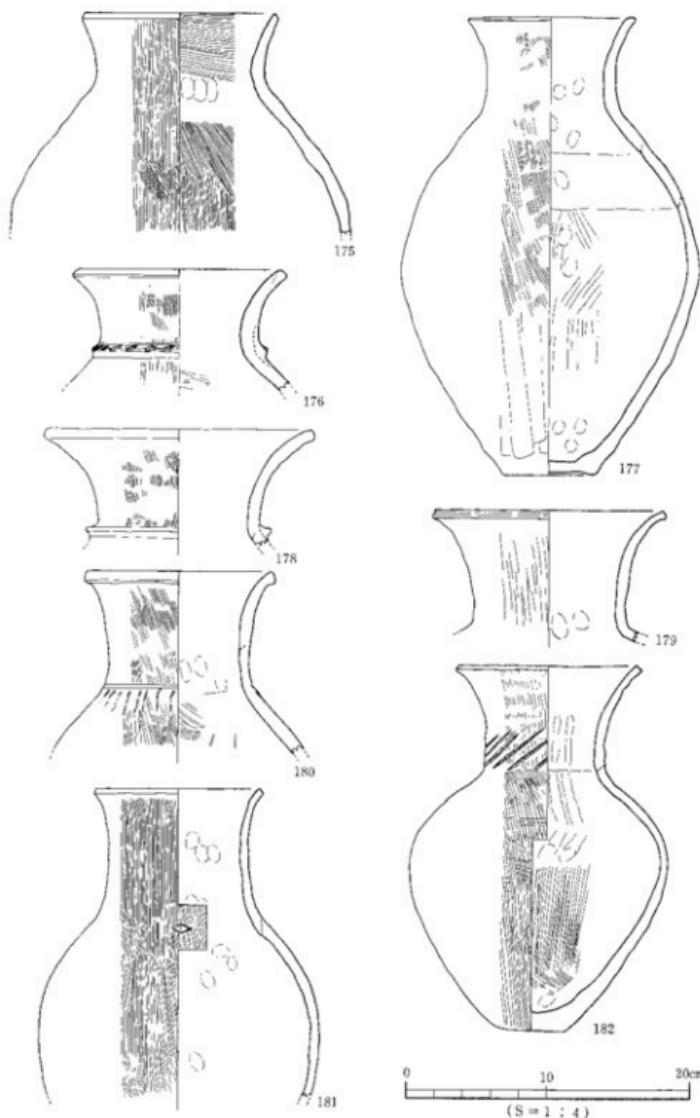
183は小型品で、頸部の伸びがさほど大きくなないので、口縁端部が折り曲げられるものである。底部はやや小さく、平底となる。184・185は法量がほぼ同じものである。185は器形全体に丸みをもち、底部はやや突出する平底となる。186は肩部の張りが強いものである。肩部の一方向に線刻がされる(焼成前)。187は186と同じく肩部の一方向に線刻がされる(焼成前)。188は肩部の張りが強く、大きめの平底をもつ。189・190は口・頸部片で、189には細い沈線が斜にタテ方向に多数施されている。

8) 扁平な胴部に、頸部下端が縫り外傾する細長い頸部と外傾する口縁部をもつものである。(191~194)

191は胴部に「M」字状の凸帯と頸・胴部境に三角形の小さい凸帯(破損して、一部だけ残存)をもつ。192・193は頸部に細く浅い多条の直線文を192は6組、193は3組(以上)もっている。194は肩部片で、胴上半部は平らで、7条の波状文と1条の直線文をもっている。

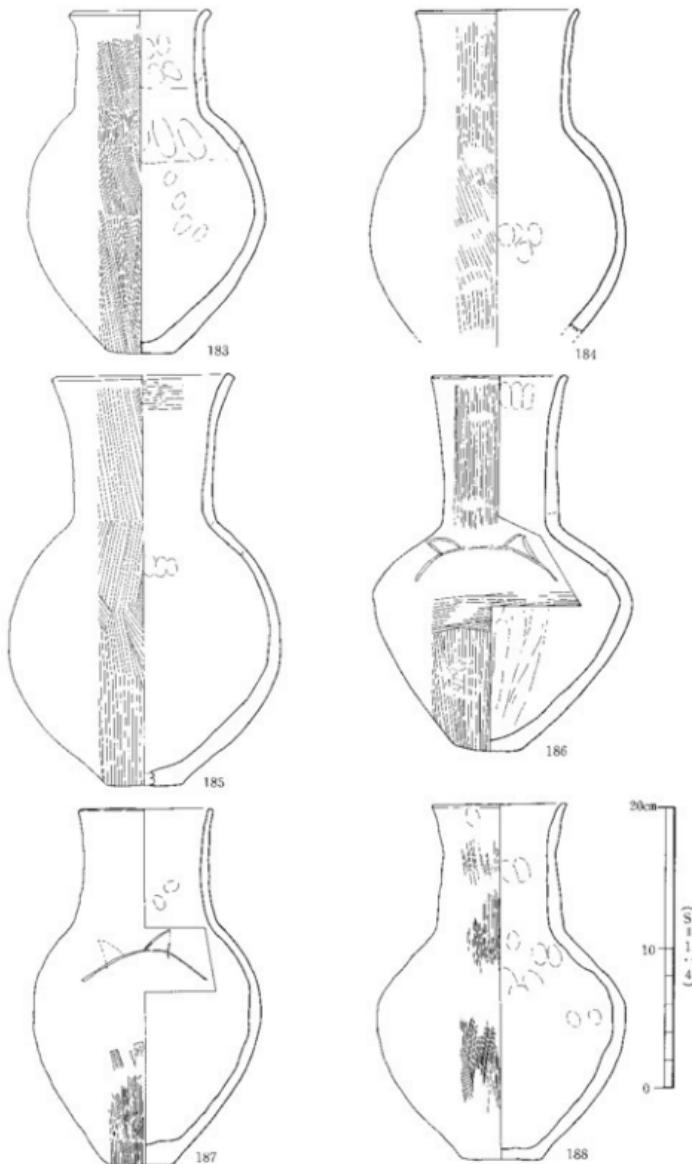
9) 扁平な胴部に、内傾する細長い頸部と直口の口縁部をもつものである。(195)

195は復元するとほぼ完形に近いものとなる。突出する底部は、わずかに上げ底となる。胴部上半から口縁部の間に、多条の直線文帶3組と波状文1組をもっている。

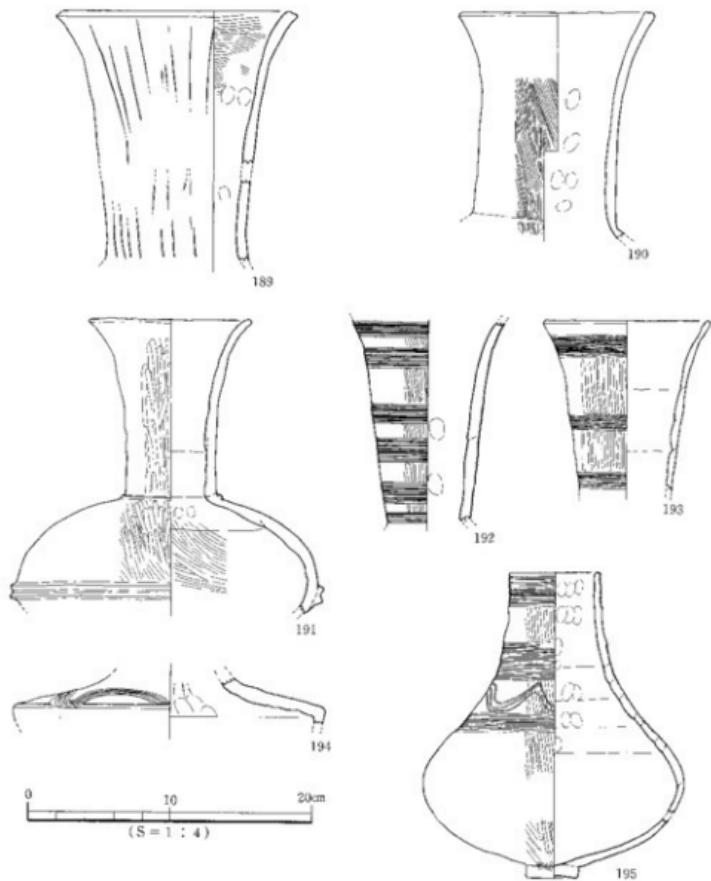


第63図 土器溜り出土遺物実測図 (25)

調査の概要



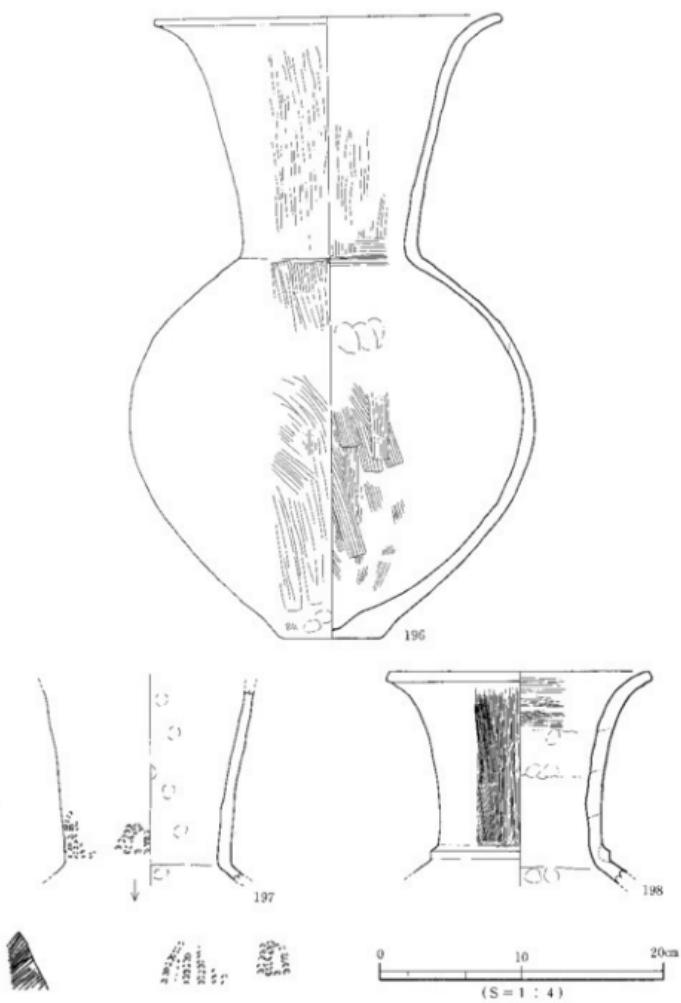
第64図 土器泥り出土遺物実測図 (26)



第65図 土器窯り出土遺物実測図 (27)

10) 外傾する長い頸部に、外反する口縁部をもつもので、器高が40cmを越えるものである。196は完形品で、胴中位に張りをもつもので、頸部下端が縮るものである。197は半截竹管による三角形状の文様とヘラによる斜線充填の三角形を施している。破片にて、全周するか不明。198は三角形の凸帯を頸部下端にもつ。

調査の概要



第66図 土器入り出土遺物実測図 (28)

11) 直立ないし外傾する長くやや細い頸部をもつ壺の頸部片である。(199~208)

ここでは、頸部下端に凸帯をもつものをあげている。なお、複合口縁部をもつかは判断しがたいものである。

199~205は凸帯の断面が三角形、206~208は凸帯断面が四角形を呈するものである。200は凸帯下半を刻む。201~204は斜め方向の刻目を凸帯上に施す。205は凸帯の上・下部に刻目、加えて凸帯直上部に多条の直線文を施す。206~208は凸帯上に斜格子目文状の刻目を施す。208は凸帯に加えて凸帯の直上部にも半截竹管文を施す。

12) 扁平な胴部に、短く外反する口・頸部をもつものである。小型品に限られる。(209~216)

209~211は脚台が付くものであり、209・210は底部の充填技法が明瞭に看取される。209は胴部最大径に接合時の稜をもつ。210は脚部に円孔を施している。211は209・210に比べ頸部の縮りが弱い。212~214は脚台が付かないものである。213・214は口縁部直下に円孔を施し、214では胴部に刺突文が施される(全周)。なお、214は底部に焼成後と思われる穿孔が看取される。215・216は胴部を欠損するものである。215は頸部直下に半截竹管による刺突文が3段施されている。

13) 異形態のものである。(217~223)

217は口縁部の屈曲が強く、短い口・頸部をもつものである。器壁が厚く、口縁端面には2条の沈線を施している。218は縮りの弱い頸部に、外反する口縁部をもつものである。口縁端面に刻目を施している。219は短く外反する口・頸部をもつものである。口縁部外面に2条の凹線文を施している。220はゆるやかに内傾する頸部に、短く外反する口縁部をもつものである。口・頸部境にナテによる著しい凹凸がある。221は肩部が張り、やや長い頸部に短く外傾する口縁部をもつものである。口縁端面と肩部に刻目を施す。口縁部直下(外面)に接合痕を残す。222は221と同形態をもつが、口縁部の外反が大きく、端部の器壁が薄くなるものである。223は外傾・外反する口・頸部をもつもので、口縁端面が拡張されるものである。器壁が厚いものである。217~223はいずれも外来的要素を強くもつものである。

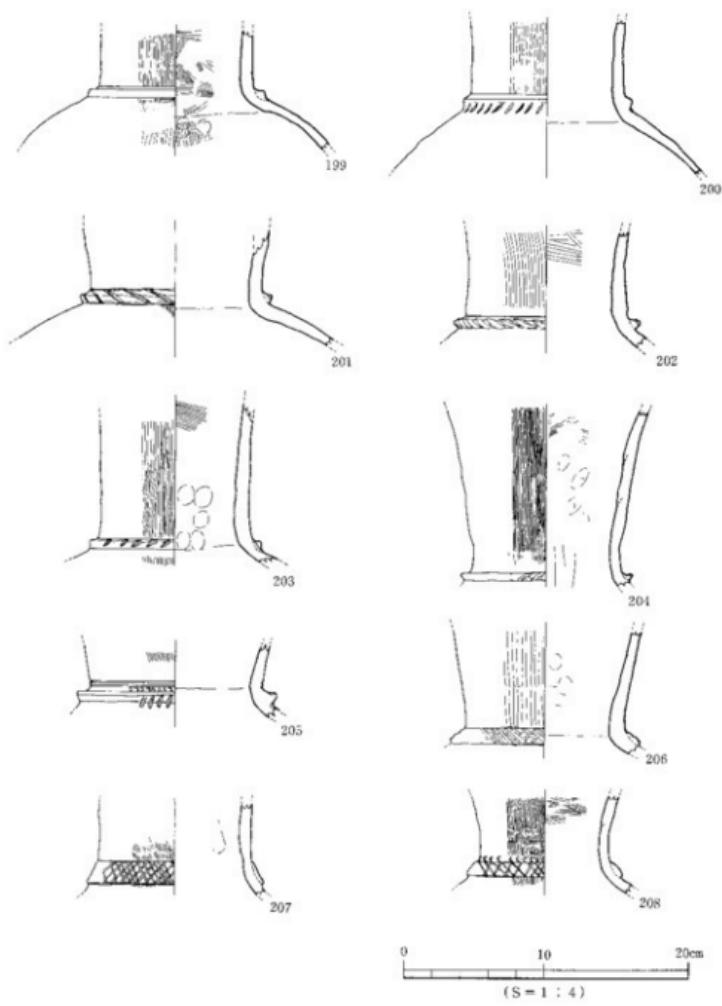
14) 大型品の底部。(224~227)

224~227は大型壺の底部で、平底を基本とする。226・227は厚みをもつ突出する底部となる。

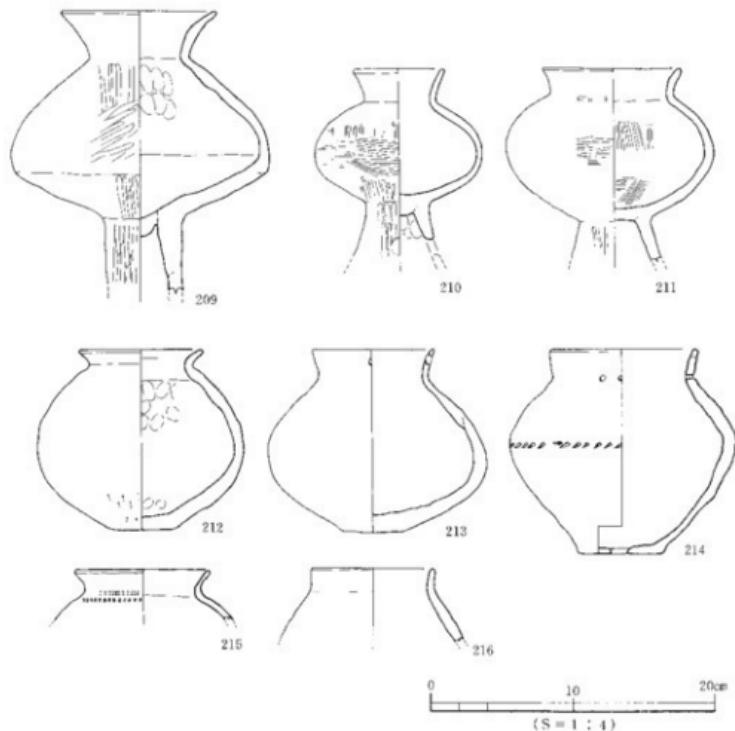
15) 小~中型品の胴~底部。(228~238)

228~230・233~236は中型品、231・232・237・238は小型品である。厚い平底で、やや突出する傾向をもつもの(228~233)とやや小さく若干の丸みをもつ平底のもの(234~238)がある。

調査の概要

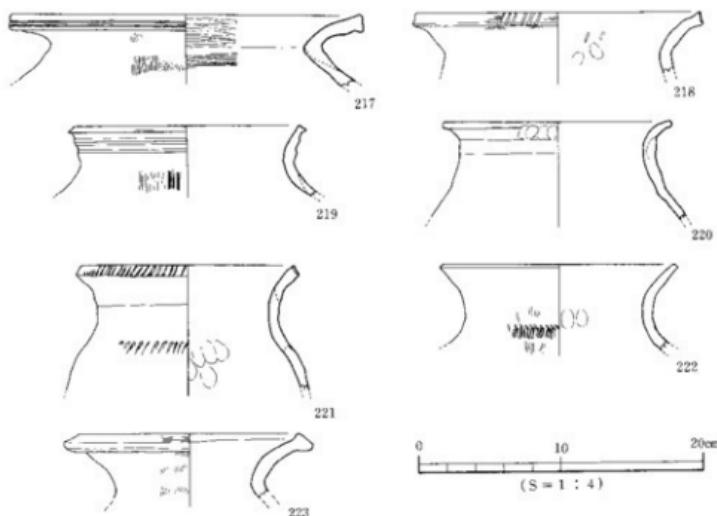


第67図 土器窯り出土遺物実測図 (29)



第68図 土器窯より出土遺物実測図 (30)

調査の概要



第69図 上器溜り出土遺物実測図 (31)

16) 焼成前の線刻をもつ胸部片。(239~267)

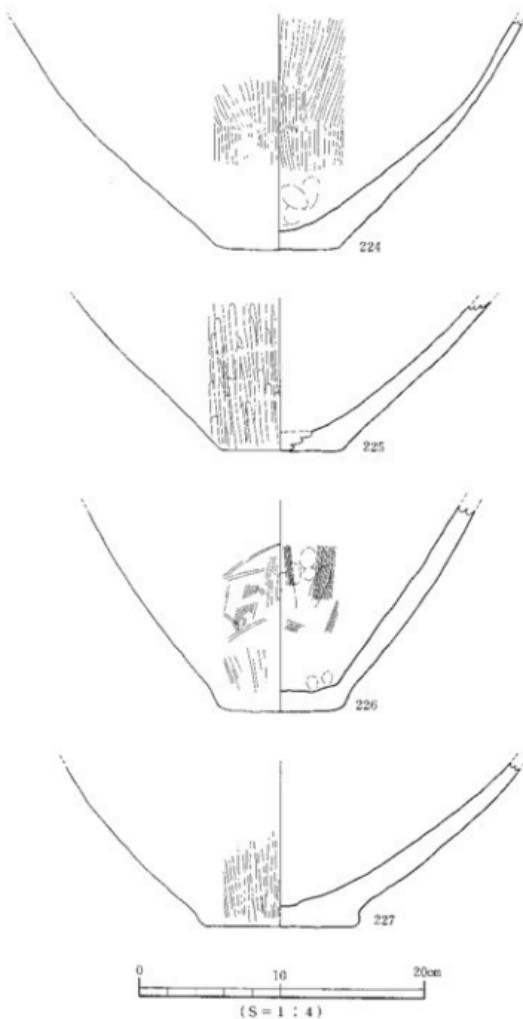
239~267は中・小型品の胸部片で、胴上半部に焼成前の線刻をもつものである。239~253は基本的に同じモチーフである。弧文と魚のヒレ状の文様2ヶ1対が組み合うものである。250・251は先のものにタテ直線文、252はヨコ直線文、253は直線文がさらに組み合うものである。

254~256は同一体と思われる。2条1対の工具により施された不定形な文様である。257は弧文状の線が3条以上施されている。258は2条が1組になるとと思われる線は弧を描く。259は単線の渦巻文が複数施されている。260は幾つかの線が組み合い、竜状の文様を描いている。

261はタテとヨコの直線文が組み合うもので、細沈線で描かれる。262・263は同じモチーフで、ヨコ直線文の上部に4条のタテ直線文が組み合うものである。264・265は同一個体と思われるもので、タテ直線文が放射状に施されている。

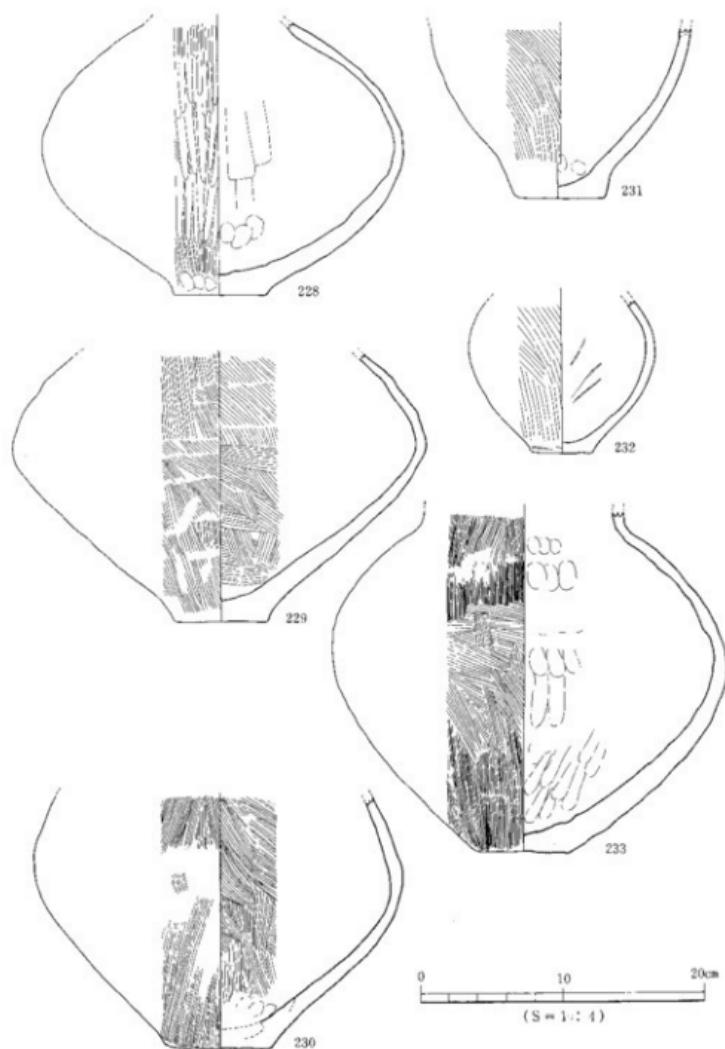
なお、線刻以外に刺突文を施したものがある。266・267は刺突文で、266は163~166と同じく部分的に施されているもので、267はヨコにやや長い刺突文で、全周する可能性をもつ胸部破片である。

遺構と遺物

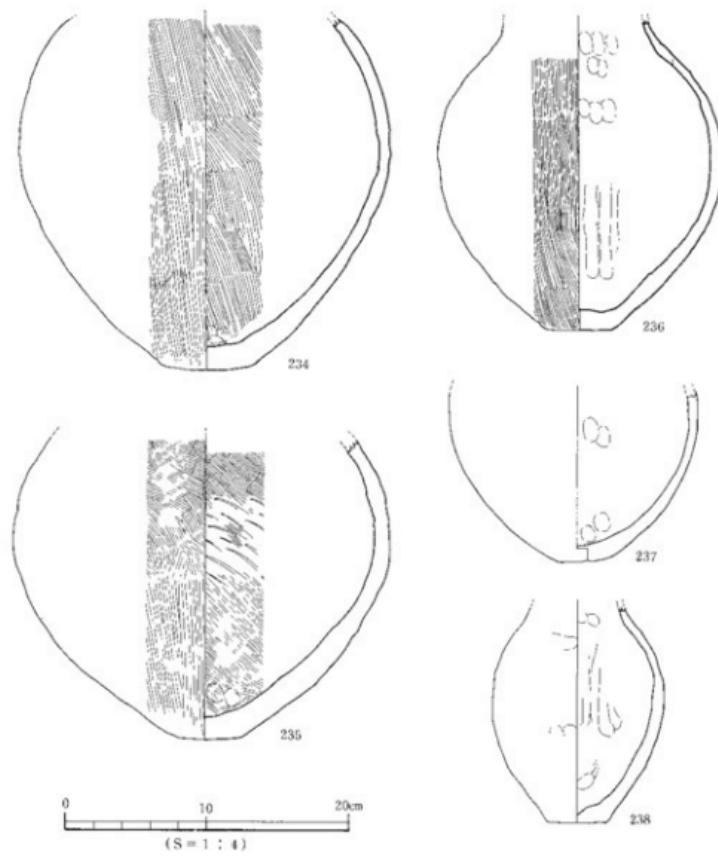


第70図 上器溜り出土遺物実測図 (32)

調査の概要

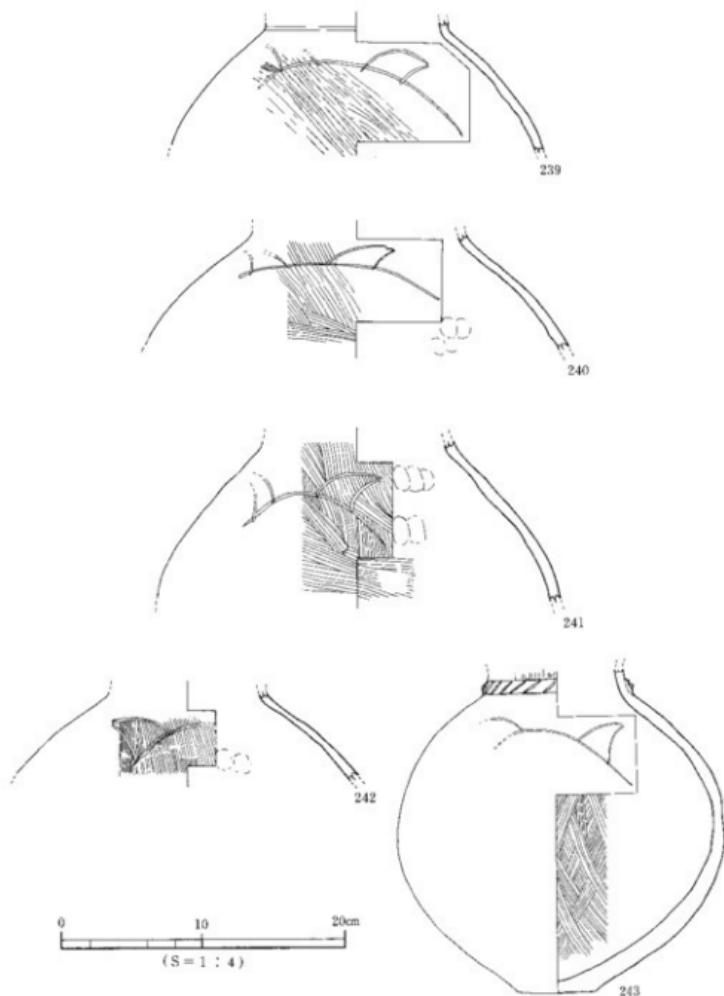


第71図 土器窯り出土遺物実測図 (33)



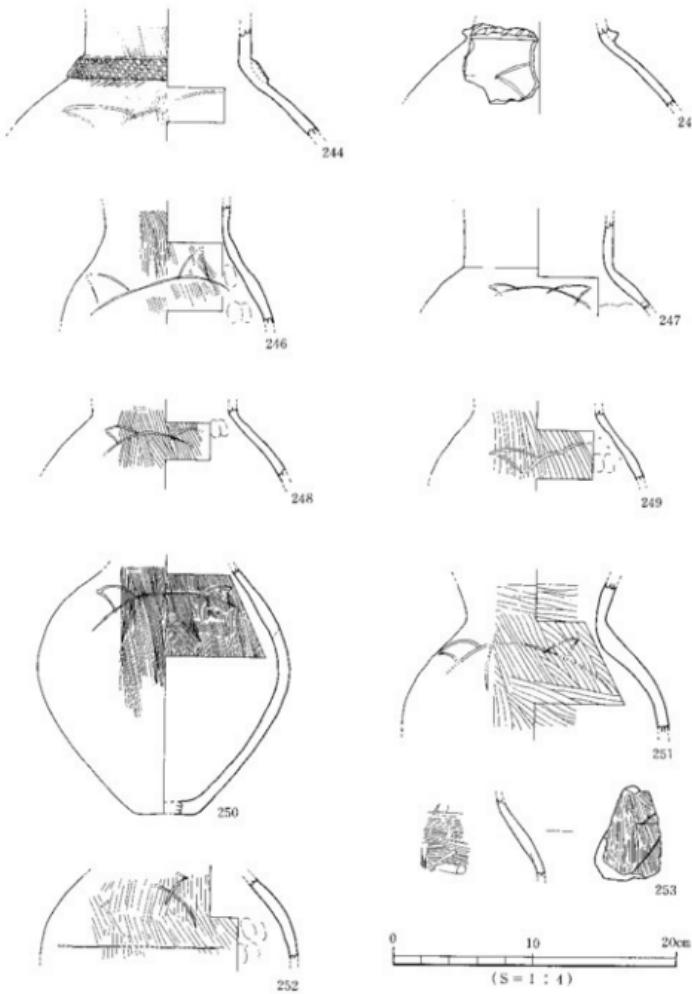
第72図 土器溝り出土遺物実測図 (34)

調査の概要



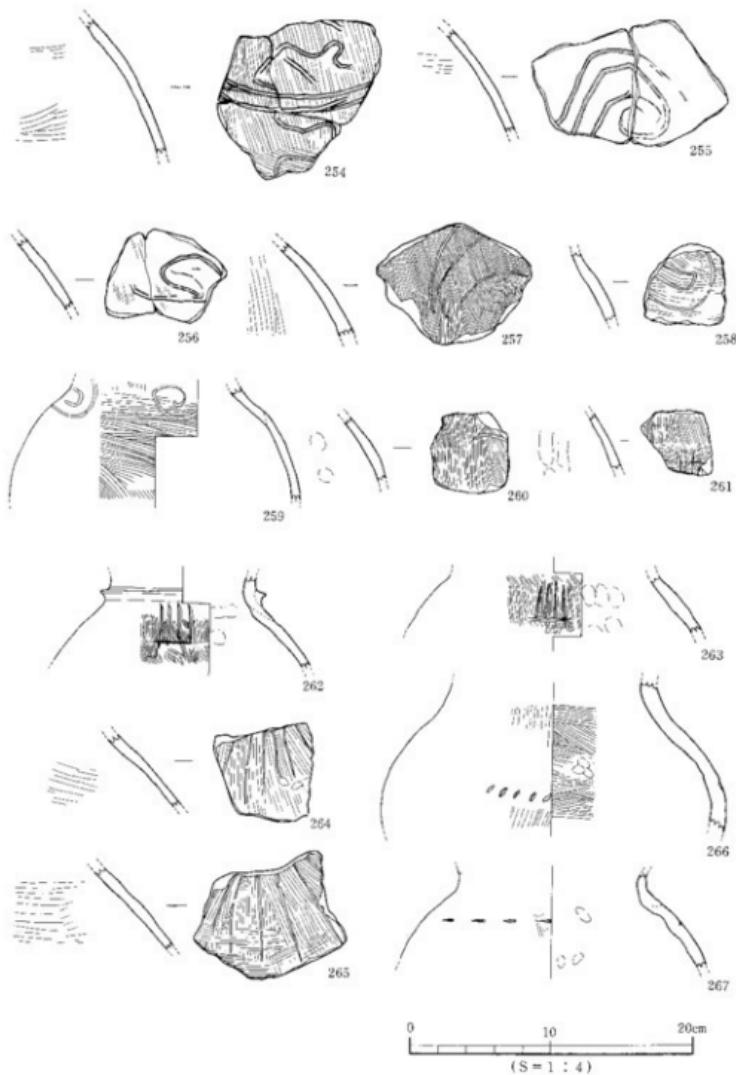
第73図 土器溜り出土遺物実測図 (35)

遺構と遺物



第74図 土器留り出土遺物実測図 (36)

調査の概要



第75図 土器溜り出土遺物実測図 (37)

鉢形土器（第76～78図、図版34・35）

大型品（268・269）口径が40cmにおよぶものである。268は口縁部は短く、内面に稜をもつ。269はゆるやかに曲がるやや長い口縁部をもつ。

中型品（270・271）口径が30cm前後のものである。270はゆるやかに外反する口縁部をもつ。口縁端部はナデにより凹む。271は外傾して、立ち上がる胴部に、ゆるやかに屈曲する口縁部をもつ。

異形品（272・273）272は口径が38cmと大きく、口縁端部が上方に拡張されるものである。口縁端面にはナデによる凹凸が看取される。内面にはケズリ痕が著しく残る。273は膨らみの弱い胴部に、内湾して立ち上がる口縁部をもつ。272は外来品、273は異時期（古墳時代中期）の可能性をもつものである。

小型品（274～301）口径・器高が20cmに満たないものである。274・275はゆるやかに外反する口縁部をもつ。274は器高が高く、甕形土器に近い形態をとる。275は上げ底で、法量がやや大きなものである。276・277は頸部内面に稜をもち、278・279はゆるやかに外反する口縁部をもつ。279の口縁部下にはナデ凹みをもつ。280は底部が厚く突出するものである。器高は高く、甕形土器に近い形態をとる。281はわずかに上がる底部は大きい。282はくびれの上げ底で、器高が高いものである。283は台付鉢である。大きくくびれる台部と、折り曲がりの弱い口縁部をもつ。284は台付鉢になるものと思われる。

285～291は直口口縁の鉢である。285～287は平底、288は厚く突出する底部、289は上げ底となる。290は大きな平底で、口縁端部が細くなるものである。291は台状の厚いくびれ部をもつ上げ底である。

292～295は台付鉢の台部である。292は大きな台部で、脚とも呼べるものである。内面にケズリ痕がある。293は平底で、厚いくびれ底である。294・295はくびれの上げ底となる。

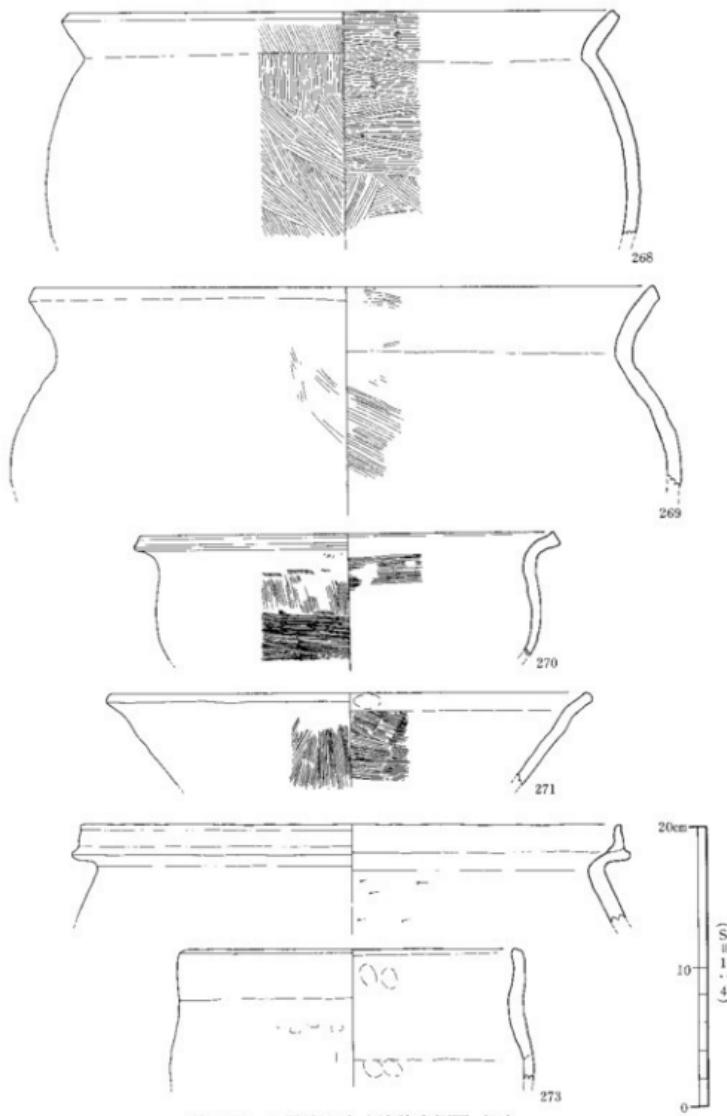
296～298は脚付き鉢である。296は直口口縁の鉢部に、円孔と細沈線文をもつ脚部とからなる。297・298は脚部片で、円孔をもつ。

299～301は突出する底部片である。299は平底、300・301は上げ底となる。

高環形土器（第79～84図・図版36・37）

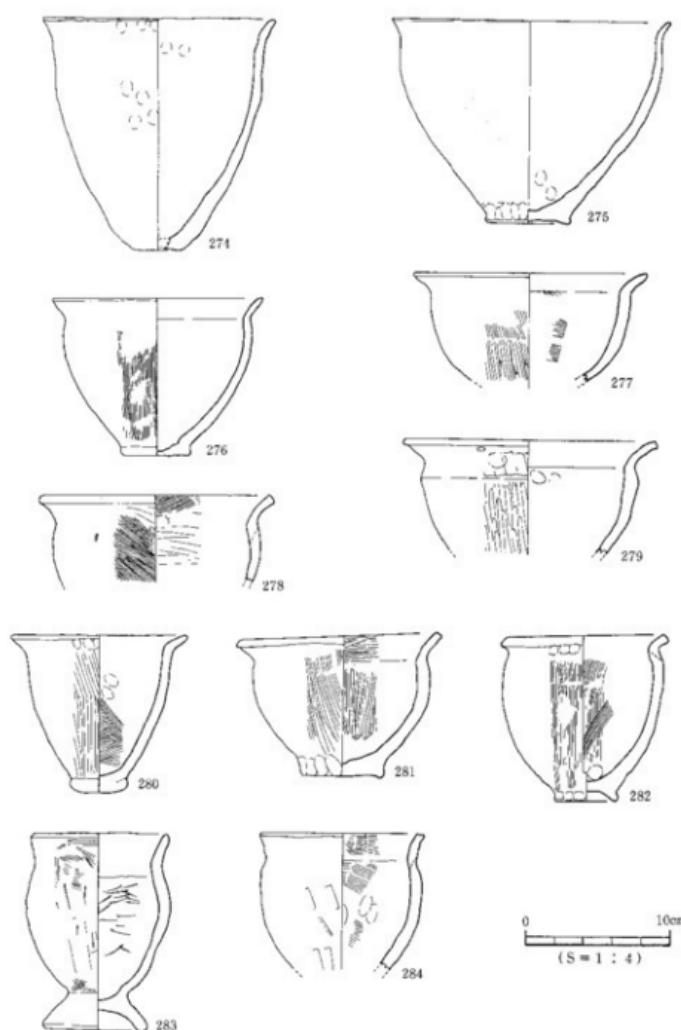
大型品（302～314・316）302は内傾して立ち上がる口縁部をもち、303～314・316は外傾ないし外反して立ち上がる口縁部をもつ环部である。303は屈曲部に2条の直線文をもつ。304～306は环底部から口縁部がゆるやかに移行するもので、全体に丸みをもつ。306は环部の接合部が段となる。307～313は环部の接合部に稜をもち、大きく外反する口縁部をもつものである。309は脚部が残り、円孔を施している。312・313は口縁端部がナデにより幅広となる。314は口縁部が直立後外反するもので、やや異形態となる。316は环部が深いものである。

調査の概要



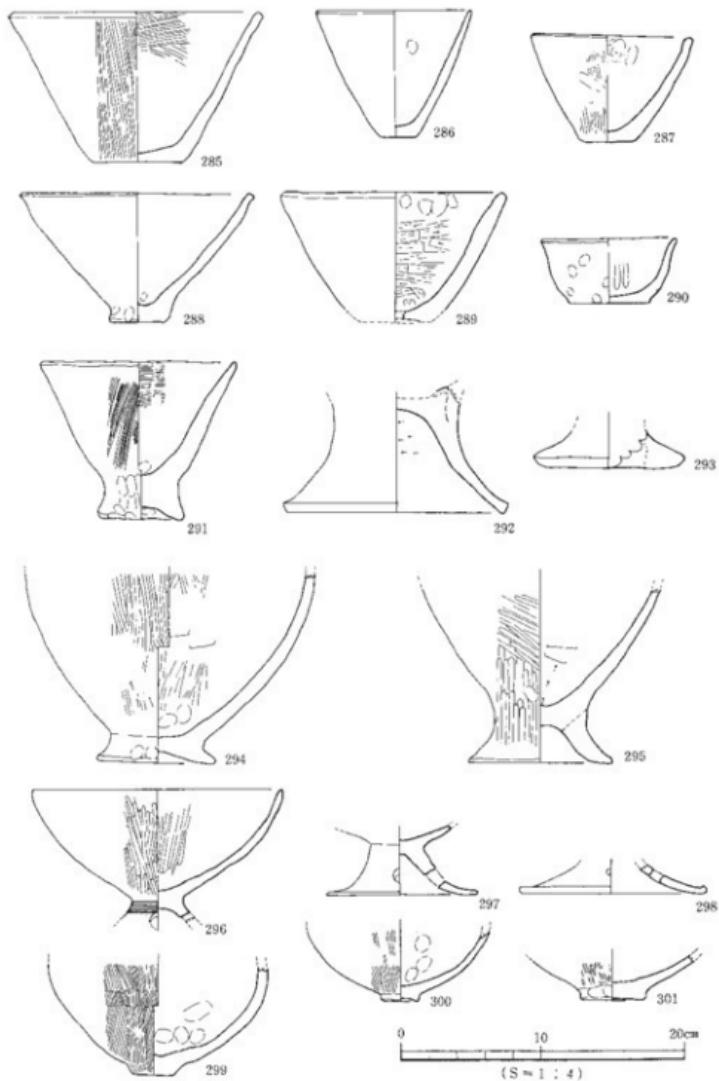
第76図 土器窯り出土遺物実測図 (38)

遺構と遺物

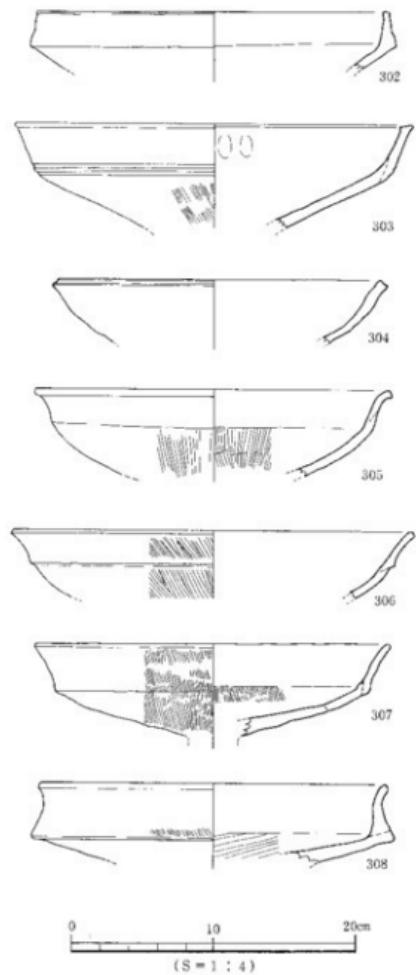


第77図 土器割り出土遺物実測図 (39)

調査の概要

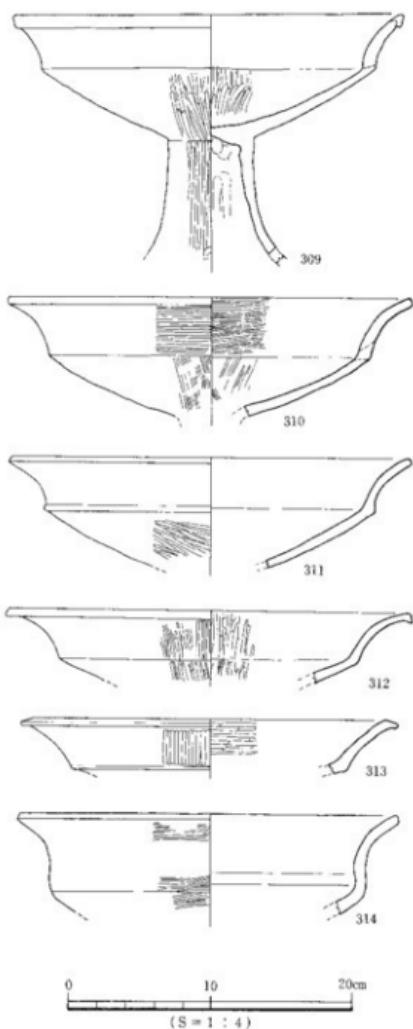


第78図 土器溜り出土遺物実測図 (40)



第79図 土器満り出土遺物実測図 (41)

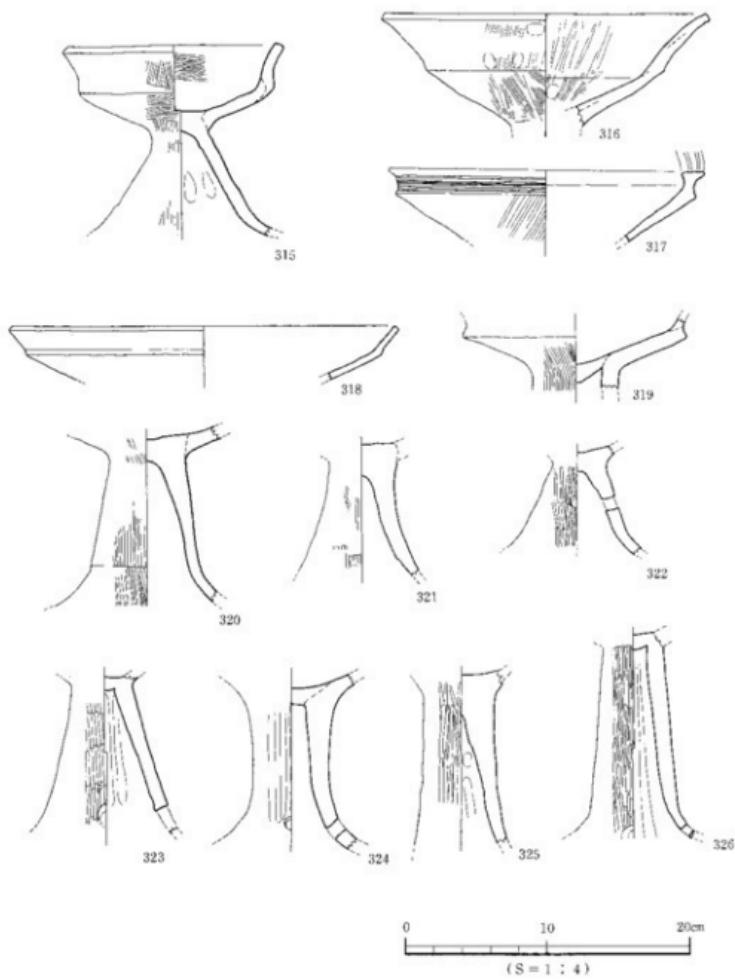
調査の概要



0 10 20cm
(S = 1 : 4)

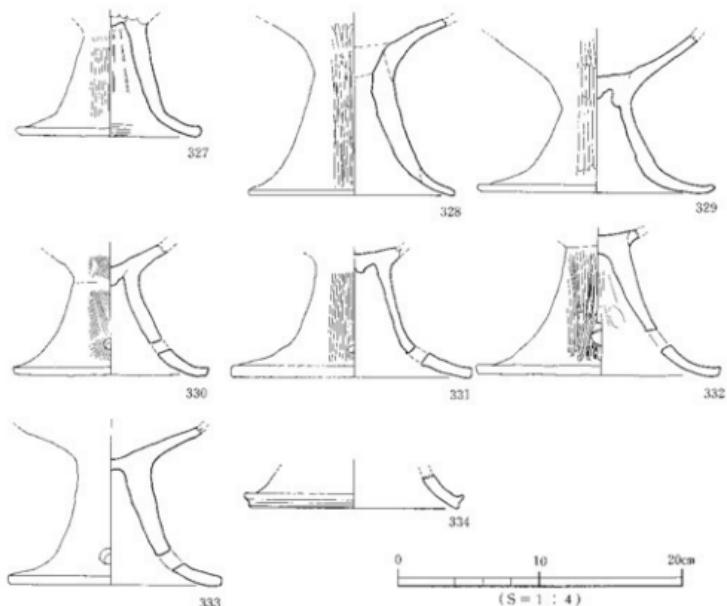
第80図 土器溜り出土遺物実測図 (42)

造構と遺物



第81図 土器窯り出土遺物実測図 (43)

調査の概要



第82図 土器添り出土遺物実測図 (44)

小型品（315）315は口径が14cmの小型品である。環部は、口縁部が直立後外反するもので、大型品314に似た形状となる。脚部は三角錐を呈し、加飾はない。

異形品（317・318）317は後期初頭の特徴をもつものである。口縁上面と外面に沈線文をもつ。318は小片にて、口径はやや小さくなる可能性がある。環部の接合部に段をもつもので、口縁部は直線的に外傾する。317・318は外来的要素を強くもつ。

脚部（320～334）まず、脚柱部以上の形態をみると（319～326）。319・323・324・326は環底部が充填技法のもので、320～322・325は充填技法でない可能性をもつものである。脚部には円孔を施すもの322～324・326と円孔をもたないものがある。大型品は柱部が短いもの320・321・323・324と長いもの325・326がある。

裾部形態をみると（327～334）、三角錐の柱部にゆるやかに外反する裾部形態をもつものが多い。円孔は柱部と裾部の境付近に施されるものが半数以上ある。334は脚端部片で、端面がナデ回むるものである。

加飾高坏（335～353）裾部が坏部と同じく有段になり、中膨らみの柱部をもつ高坏形土器で、加飾性が強いものである。

坏部（335～341）口径が大きく、坏部が深い形態をもつ坏部である。特に著しく高く、薄い口縁部をもっている。口縁端部は面をもち335～337、338～340では端部が上下に拡張される。339と340は端面に沈線文をもち、340では2ヶ1対の棒状浮文（刻目あり）をもつ。341は加飾高坏になる可能性をもつものである。

柱部（342～345）柱部の中位に膨らみをもつもので、坏底部は円板充填技法となる。342～344は器壁が厚く、345は薄い。

裾部（346～353）段をもって外反する裾部である。346～350・353は段より上部や下部に円孔を施すものである。350～353は多条の直線文を施すもので、350は多条直線文2組、351・353は半截竹管文と多条直線文、352は斜線充填による三角文が施されている。

器台形土器（第85～90図、図版38～41）

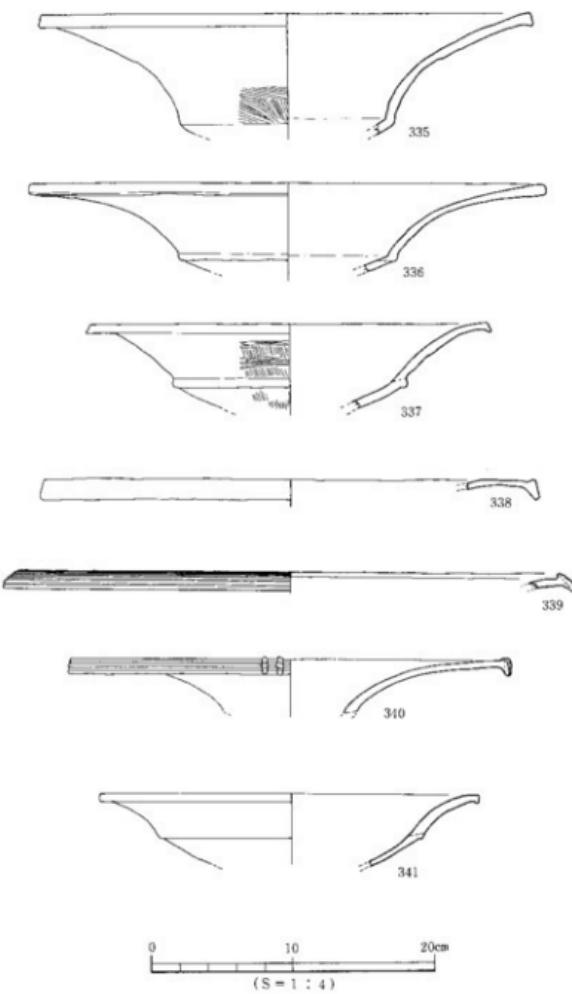
大型品（354～367）器高の高いもの354～366と柱が太く器高が低いもの367がある。前者は、受部は端部が下方に拡張される傾向が高く、端面に加飾される。一方、後者（367）は器壁が厚く、円孔以外の文様はなく加飾性に欠けるものである。354は上下の判断が難しいものであったが、図の端部上面がナデ凹まれていることで、ここでは図のごとく受部として掲載する（断定はできない）。355は裾部を欠損するものである。受部は上面と端面に半截竹管文をもつ。柱部には円孔と半截竹管、斜線充填の三角文が施される。三角文の充填は一樣でなく、中が2等分されるもの他、全てが一方向の斜線で占められるものもある。356～361は受部の端部片である。356～358は多条のヨコ直線文を主体とするもので、357では棒状浮文が2ヶ1組、358ではタテ直線文と半截竹管文が組み合せられて施されている。359は半截竹管文、360は斜線充填による三角文が施され、361は無文となる。

裾部（362）362は内面が刷毛目調整されていたため脚部の裾部片とした。端面にはヨコとタテ（6ヶ1組が、復元で12組）の直線文が施されている。

柱部（363～366）363・364・366は円孔と直線文が組み合うものである。366は多条の直線文間に綾杉文を施している。365は小片で、タテ方向の綾杉文が組み合うようである。

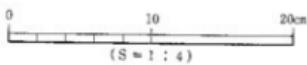
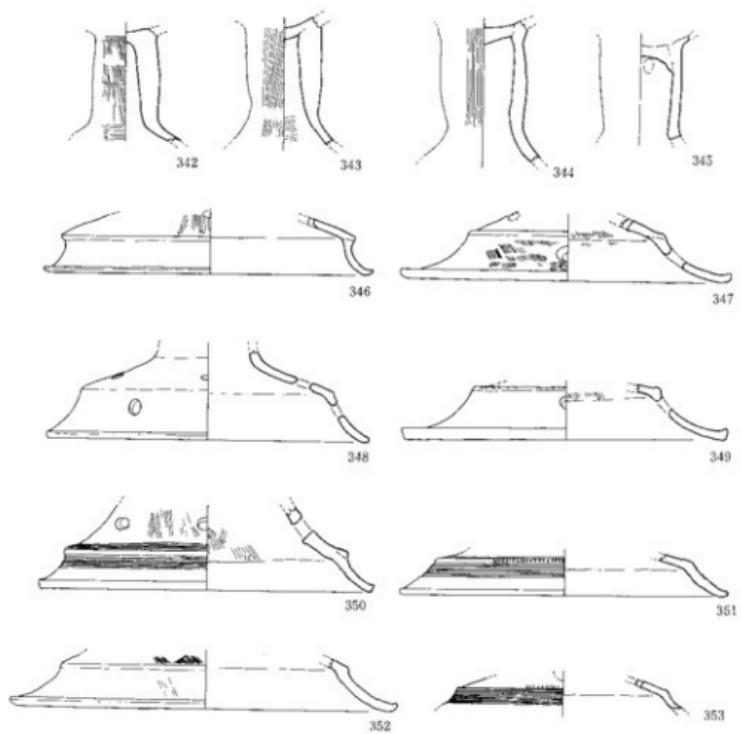
中型品（368～387）ここでは、全様が分かれるものが少ないため、器高が15～30cmのものを便宜的に中型品として記述する。まず、器高の高い368～377についてみる。368・369は復元完形品である。筒状の柱部に、ゆるやかに外反する受部と裾部をもつ。受部径が、底径を凌ぐものとなっている。加飾は、369の端面（部分的）に斜格子目文、柱部には円孔と多条の直線文をもつ。368の直線文は全周するものではない。

調査の概要



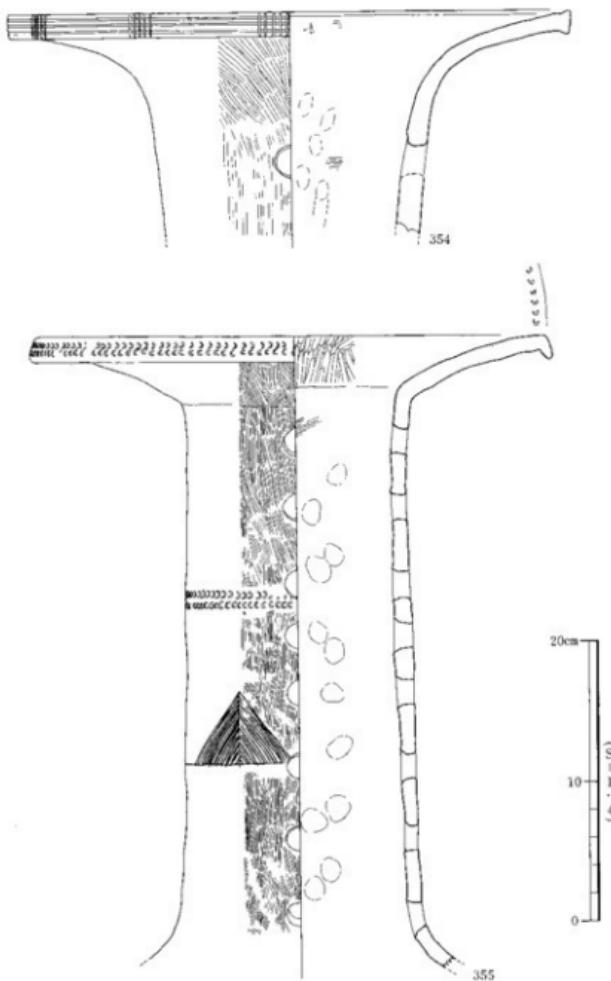
第83図 土器溜り出土遺物実測図 (45)

遺構と遺物



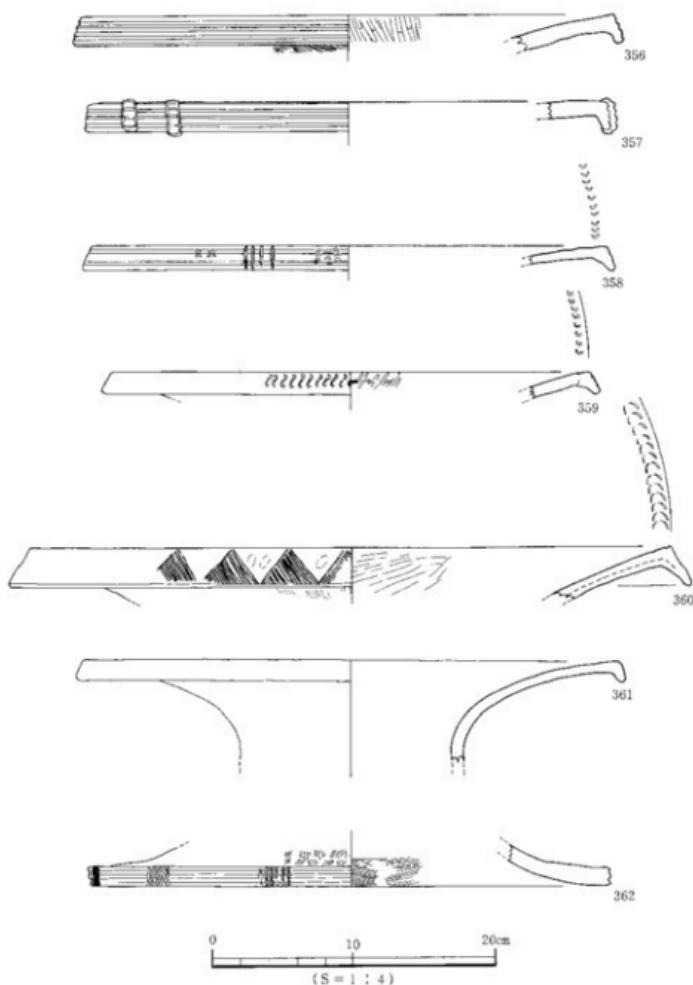
第84図 土器窯り出土遺物実測図 (46)

調査の概要



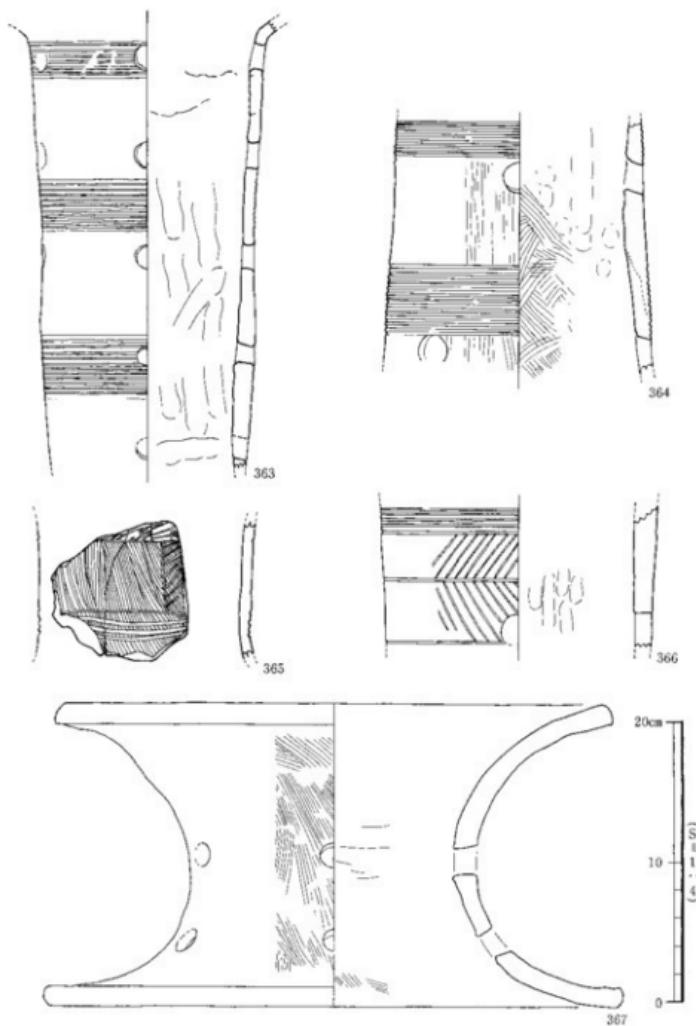
第85図 土器溝り出土遺物実測図 (47)

遺構と遺物



第86図 土器溝り出土遺物実測図 (48)

調査の概要



第87図 土器溜り出土遺物実測図 (49)

受部（370～373）受部の端部には、単に面をもつもの370・371・373と垂下するもの372がある。前者では、口縁端面に370では円形浮文、371は斜線充填の三角文、373ではヨコ直線文が施される。さらに、373では上面にも充填された三角文が施されている。372は器壁が薄いことより中型品にしたが、大型品の可能性もあるものである。端面には斜線充填による三角文、上面には波状文をもつ。

柱～裾部（374～377）柱部は円孔が主体となる加飾方法をとる374・375。裾部は無文化傾向が強い376・377。377では端面に1条の直線文を施している。

次に器高が10cm台のものについて記述する。

378・379は器壁が著しく厚いものである。378は柱部に円孔を施す。380は復元完形品である。受部径は底径より小さい。受部・裾部の各端面には直線文があり、受部上面にも多条の直線文を施している。381は受部片で、端面に波状文を施している。382は柱部片で円孔3段と多条の直線文帯を3段もつ。385・386は柱部に円孔を2段もつものである。383・384・387は柱部が無文のものである。

小型品（388・389）器高が10cm前後のものである。388は受部径が底部径を凌ぐものである。受部上面に波状文、柱部に円孔と多条の直線文帯を施す。389は器壁が薄く、仕上げが丁寧にて支脚とせずに器台としたものである。施文はない。

支脚形土器（第91・92図、図版42）

受部は「U」字状にカットされ、傾斜部分をもつもの390～394と、角状の突起をもつもの397・398とがある。前者では、指頭痕が著しく残るもの390・391・395や叩き痕を残るもの393がみられる。395は裾部径がやや大きいものである。396は受部が完存でないため、受部形態は判断できない。

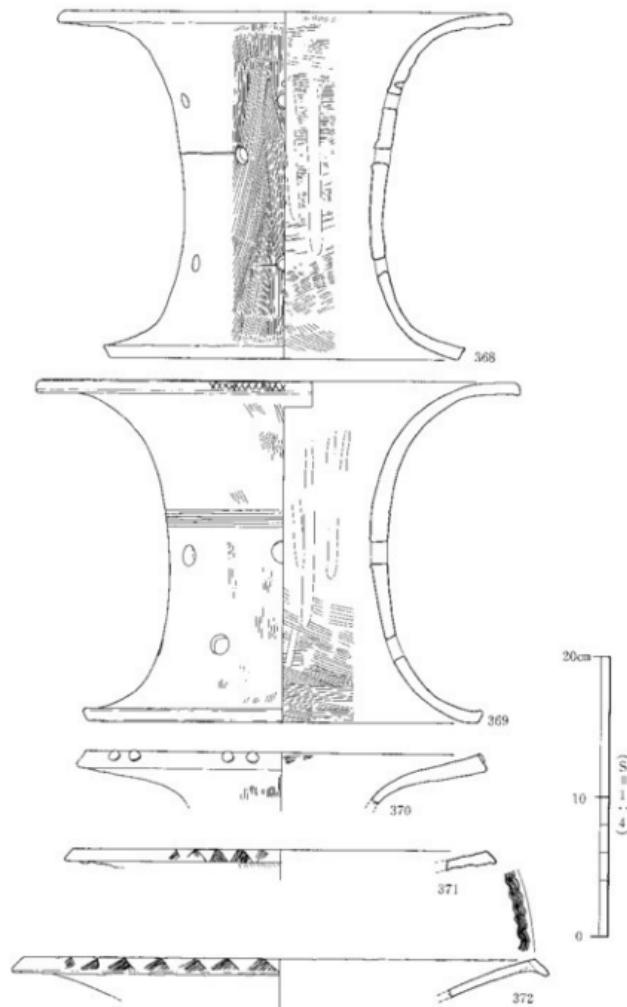
底部穿孔土器（第92図、図版42）

焼成前穿孔399・402と焼成後穿孔400・401・403がある。399は器壁が厚く、体部下半が強く縮む。400・403は壺底部、401・402は甕底部の転用である。404は壺底部を転用しようとしたもので、焼成後の穿孔は未貫通となっている。

その他の器種（第92図、図版42）

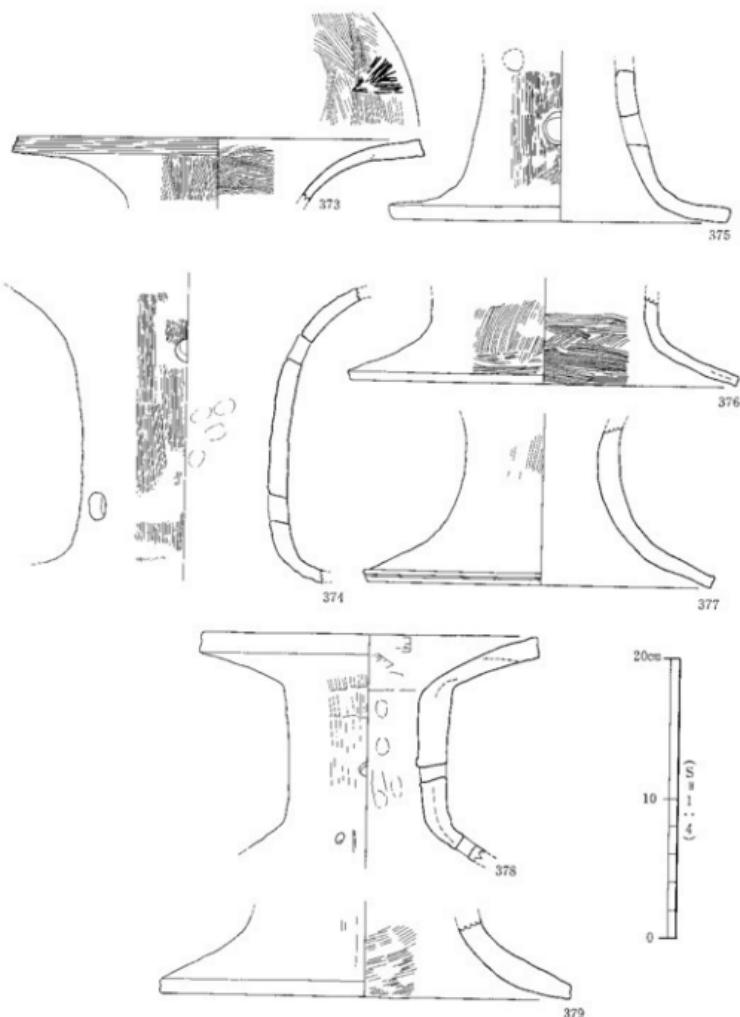
405はサジ形の土製品と思われる。指頭痕が著しい。406～408はショッキ形土器である。406は口縁外面に細い直線文を2条もつ。407は大きい平底をもつものである。408は把手部の破片である。409は指頭痕著しく、くびれの上げ底をもつ。製塙土器の可能性をもつ。410は小型品で支脚状の土製品である。

調査の概要



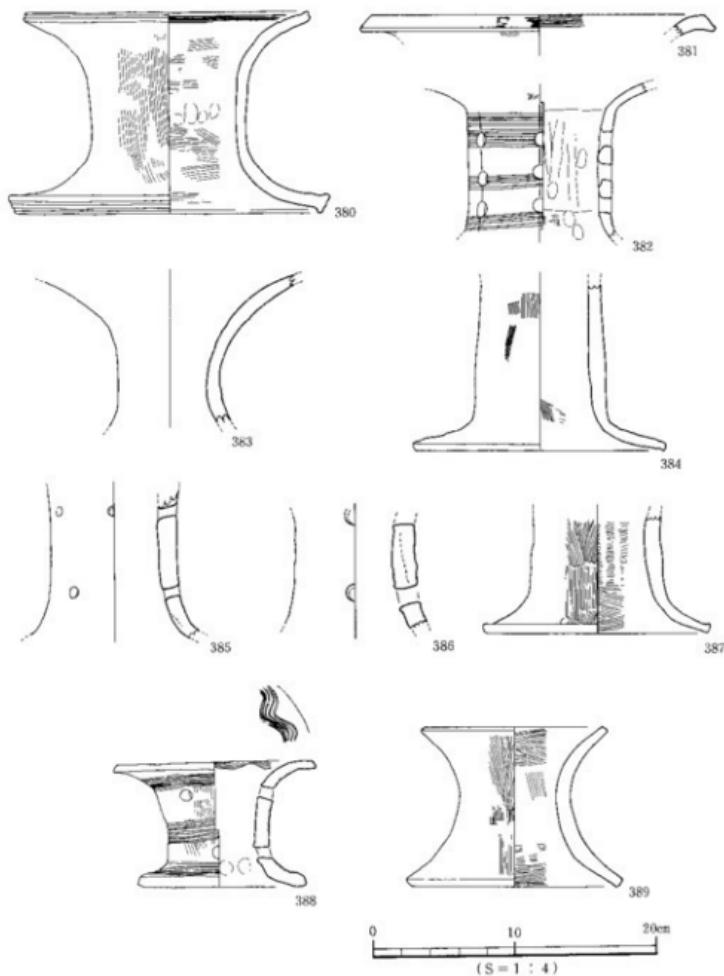
第88図 土器溜り出土遺物実測図 (50)

遺構と遺物

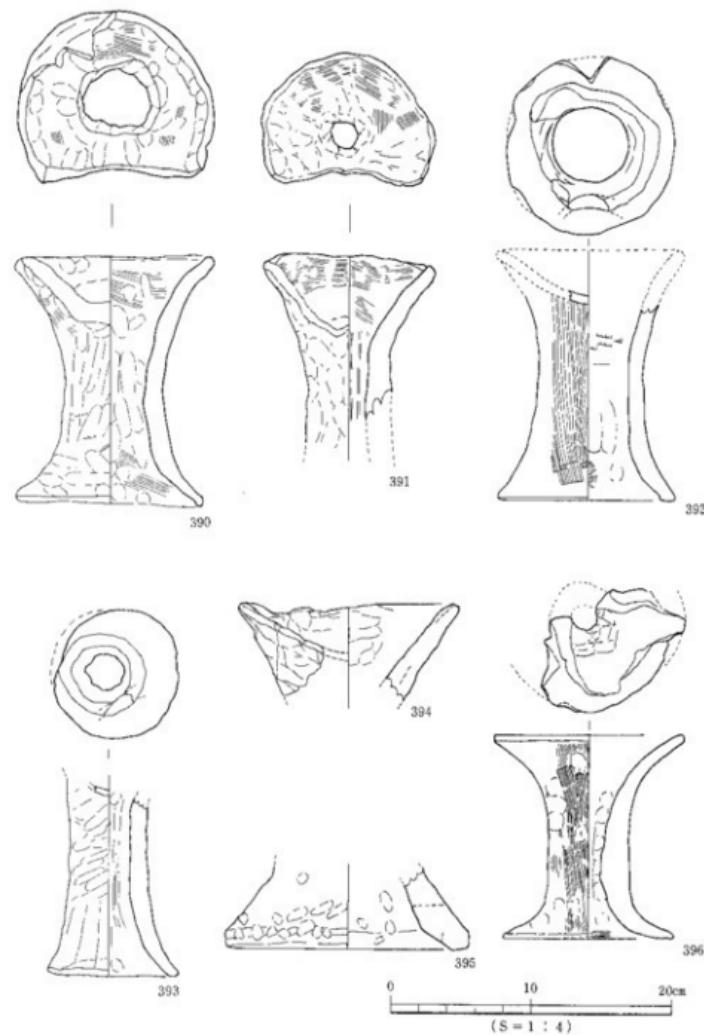


第89図 土器溜り出土遺物実測図 (51)

調査の概要

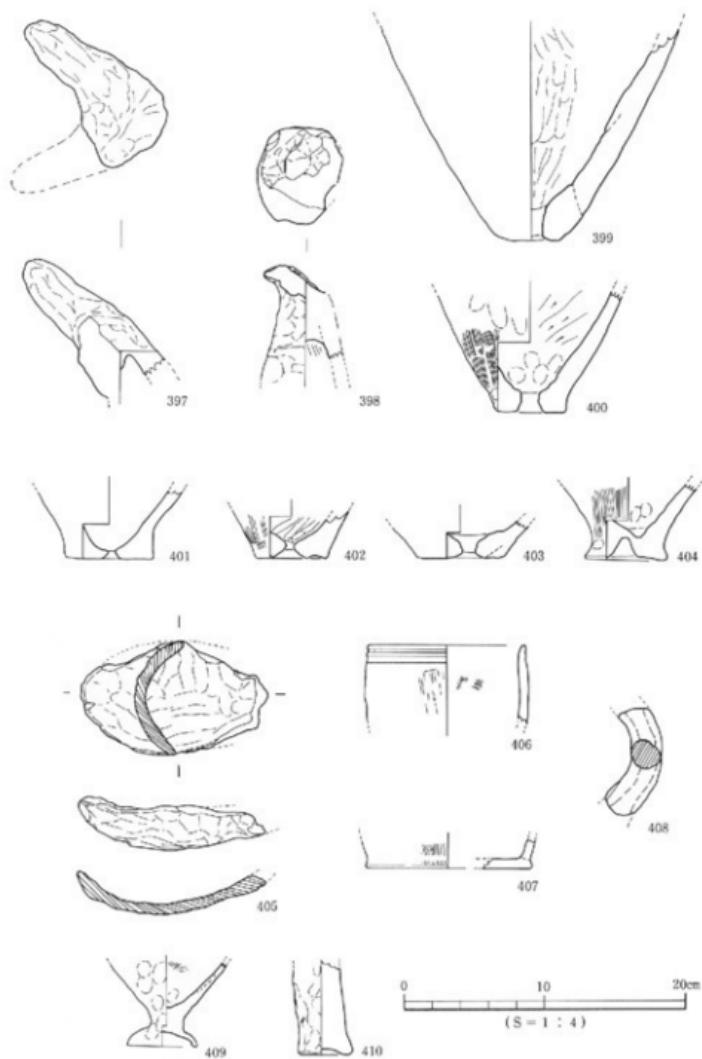


第90図 土器割り出土遺物実測図 (52)

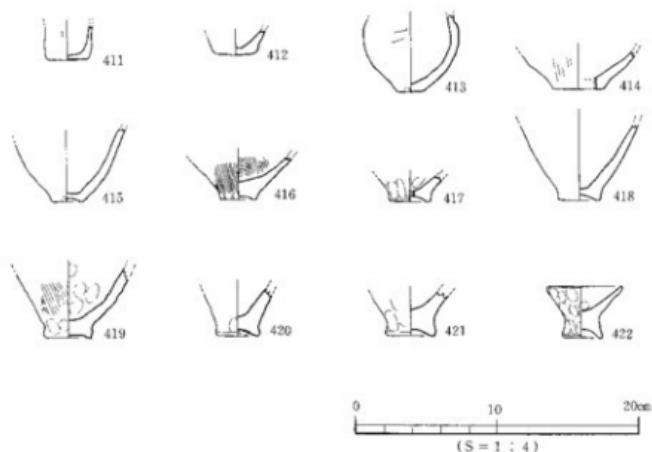


第91図 土器窯出土遺物実測図 (53)

調査の概要



第92図 上器溜り出土遺物実測図 (54)



第93図 土器渦り出土遺物実測図 (55)

ミニチュア土器（第93図、図版42）

411・412は大きな平底をもつものである。413～421は甕形土器の底部に似た形態をもつものである。422は鉢形のもので、くびれの上げ底と直口口縁をもつものである。鉢形土器第78図291に形態が同じである。

4. 小 結

(1) 層 序

本調査地は、一部を除いて近現代の開墾により包含層及び遺構が削平されていた。近現代の耕作土を除去すると即、地山面という箇所が多かつた。したがって検出時では遺構の深さは、浅いものが多く、遺構検出面は起伏の少ない土地であった。遺物包含層は、1区西、4区東、5区では古墳時代までに堆積したと思われる黒褐色シルトを検出し、出土遺物には弥生時代後期から古墳時代のものがある。また2区西、3区西においては、中近世までに堆積したと思われる灰褐色シルト(遺物包含層)を検出している。土層の検討より、本調査地には弥生中期～後期、古墳時代、中近世の集落跡が存在していたことが明らかになった。

(2) 弥生時代遺構①(出土遺物から時期特定が可能な遺構)

本調査地においては弥生時代中期後半と後期の遺構を確認した。

中期後半 土坑1基(SK29)がある。この土坑の性格は、完形品がないことや特殊な上器が検出されていないことなどから、日常品を廃棄処分した土坑であると考える。よって、近くに同時期の集落(住居域)が存在することは容易に想定できる。

後 期 溝1条、性格不明遺構1基、壺棺墓5基、土器溜り1ヶ所を検出した。

S D 3は、平地に立地し、検出長140mを超える。松山平野において、同規模の溝状遺構が一望できた例はない。溝の断面は緩やかな舟底形を呈す。遺構埋土は、第1層黒褐色土、第2層茶褐色土であり、検出域においてほぼ全面的に見られた。さらに基底部からは砂は検出されず、恒常的に流水があったとは考えにくい。よって地域区分に利用された溝と考える。

S X 300は、方形周溝墓に似た形態をなしているが、遺存状況が非常に悪いとはいえ埋葬主体の痕跡がないことから墓ではなく何らかの祭祀に使用した遺構と判断したい。類似の遺構は、文京遺跡3次調査S X 1があげられる。S X 1は、良好な遺存にもかかわらず埋葬主体部がみられないこと、遺物を溝内に配置した後、埋め戻された形跡がみられることから祭祀的遺構とされている。なお祭祀形態については、中期段階の隅丸長方形の竪穴遺構から後期段階の円形周溝状遺構、方形周溝状遺構への変遷が栗田茂敏氏によって指摘されている(栗田茂敏 1992)。

壺棺墓群では、墓壙はすべて埋葬される棺よりもやや大きめのプランで掘られていた。第2・3・4号壺棺墓は不整形形状プランを呈する落ち込み内からの検出であり、ほぼ主軸方位を同じくしている。第1・5号壺棺墓は、ともに主軸方位が異なるものの非常に近接した位置にある。また出土遺物には時期的な差は認め難く、5つの壺棺墓の距離も非常に近接していることより一連のものとして捉えたい。調査区の東側には墓域の広がりが見られないこ

とより、壺棺墓群は西側に広がる可能性が残されている。

土器溜りは、本調査地の5区にて検出された。検出規模は南北16m、東西18m（これ以外に未調査部分あり）の範囲である。後期の土器が多量に出土している。土器溜り出土遺物は一括りの非常に高い遺物である。よって同時期の器種構成を知る上で良好な資料であるといえる。器種には、甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高环形土器、器台形土器、支脚形土器があり、それぞれの構成比率は第Ⅳ章に記載されている。当資料は、当時の土器生産量や器種別の生産比率等を解明する資料として貴重なものである。このほか土器溜りからは、注目されるものとして、絵画・記号土器が約100点出土していることがあげられる（詳細はP118を参照のこと）。

（3）弥生時代遺構②（遺構の切り合い状況から時期を推定した遺構）

出土遺物が細片のため詳細な時期決定はできないが、竪穴式住居址が7棟検出されている。方形及び長方形、いわゆる四角形を呈する住居址が2棟検出された。その他は、遺構自体の残存が非常に悪く判断にやや難があるが、円形及び橢円形を呈するものと思われる。このうちS B58はS D 3に先行することより、S B58は後期後半以前に位置付けられることは事実である。したがってあくまでも推測の域を出ないが、少なくとも円形竪穴住居址は後期後半よりも遅る可能性があることをここで指摘しておく。さらに土器溜りの多量の出土遺物や遺構の遺存状況などから推察すると本調査地周辺にはまだ多くの竪穴式住居址が残っていたと思われる。

（4）弥生時代遺物

分銅形土製品は瀬戸内地方にてよく見られ、特に松山地方では検出例が非常に多い。従来、分銅形土製品については祭祀的意味合いが強いとされながらも、明確な実態が描めていない状況である。今回、福音寺地区の集落で分銅形土製品が出土したことは、平野部の主要な集落遺跡からは（8遺跡群中4つ）分銅形土製品が出土する傾向があることを推察させるものである。よって今後、松山平野においては弥生時代中期から後期の集落では分銅形土製品の検出例は増えるだろう。

【参考文献】

- 西尾 幸則 1987 「釜ノ口遺跡6次調査」『松山市埋蔵文化財調査年報』松山市教育委員会
- 谷若 倫郎 1989 「分銅形土製品にみる地域相」『花園史学第10号』
- 宮本 一夫 1991 「文京遺跡の集落立地について」『文京遺跡第10次調査－文京遺跡における弥生時代遺跡の調査』愛媛大学埋蔵文化財調査室
- 梅木 謙一 1991 「松山大学構内遺跡－第2次調査－」学校法人松山大学 松山市教育委員会
- 梅木 謙一 1992 「祝谷アイリ遺跡」（財）松山市生涯学習振興財團 埋蔵文化財センター

調査の概要

- 梅木 謙一他 1994 「桑原地区の遺跡II」(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター
- 山之内志郎 1992 「分銅形土製品」「祝谷アイリ遺跡」(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター
- 栗田 茂敏 1992 「文京遺跡－第3次調査－」愛媛大学、(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター
- 栗田 茂敏 1992 「道後城北遺跡群－文京4次－」(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター

松山平野における主要な周溝状遺構(弥生時代)一覧

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 遺構名 | 平面形 | 時期 | 備考 |
|-----|------------|-----------|--------|-----|------|----|
| 1 | 文京遺跡第3次調査 | 松山市文京町3番地 | S X1 | 方形 | 後期初頭 | 文献 |
| 2 | 福音小学校構内遺跡 | 松山市福音寺町 | S X300 | 長方形 | 後期 | 文献 |
| 3 | 文京遺跡第2次調査 | 松山市文京町3番地 | S X1 | 円形 | 後期 | 文献 |
| 4 | 文京遺跡第10次調査 | 松山市文京町3番地 | S X14 | 円形 | 後期前葉 | 文献 |
| 5 | 釜ノ口6次調査 | 松山市小坂4丁目 | | 円形 | 後期 | 文献 |

IV-1 5区土器溜り出土の弥生後期土器

5区土器溜りからは、弥生後期の上器がコンテナ約400箱（39×55×高さ14cm）出土している。出土状況は、埋土に異なる様子がみられず、短期間に土器が堆積した状況にある。よって土器相を知れる良好な資料であるため、以下、器種や器形・施文等について整理を行い、弥生後期土器の基礎資料を提示するものである。

1) 器種

出土品には、甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高环形土器、器台形土器、支脚形土器、ミニチュア土器等がある。

口縁部として認定し、小片までも含め個体数を調べると、甕形土器1,144点、壺形土器792点、鉢形土器65点、高环形土器306点、器台形土器110点、支脚形土器43点、ミニチュア土器等45点となる。そして各器種の構成比は、甕形土器45.6%、壺形土器31.6%、鉢形土器2.5%、高环形土器12.2%、器台形土器4.3%、支脚形土器1.7%、ミニチュア土器等1.7%となる。

個体数の整理より、土器溜りの出土品は甕形土器が出土量の約半数を占め、壺形土器は3割強に達し、この二種が量的に主要なものであることが分かる。ついで高环形土器が1割を占め、器台形土器がそれにつづく。ただし、器台形土器の出土量は110点におよび平野では類をみない量となっている。鉢形土器は65点で構成比が2.5%と低いが、これは甕形土器と同形態をもつ鉢形土器の口縁部片は甕形土器に含んでいるため、鉢形土器の量は多少増加するものと考えている。なお、ミニチュア土器等の45点には、ミニチュア土器12点、底部穿孔のいわゆるコシキ形土器6点、ジョッキ形土器3点、サジ形土器1点、器形態が判断できないもの23点である。

2) 器形

甕形土器 口径と器高により大型品・中型品・小型品がある。出土量は大型品108点（20.6%）、中型品321点（61.2%）、小型品95点（18.1%）で、小片として620点がある。出土品は完形品が少ないため、各法量に対し同一の基準により分類できないが、各々に幾つかの形態をもっている。

大型品は二種のものがある。a) 口径が30cmを越え、器高が30~40cmのものである。鉢形土器に似た形態を呈している。b) 口径は20cm台で、器高が40~50cmに達するもので、著しく長胴を呈するものである。aとbは器壁に違いをみせ、aは厚く、bは中型品とあまり変わりのないものとなる。出土量はa・27点、b・81点で、aはbの3分の1の量となる。

中型品は、出土量が321点で、出土土器中で最も多い器種及び法量といえる。形態には大きく二種のものがある。a) 脊部全体に弱い張りをもつもので、頭部の縮りが弱いものである。b) 肩部が著しく張るもので、胴中位以下の膨らみが弱いものである。a・bにはさらに口縁部の長さ、外反度、肩部の張りの強弱により幾つかの形態が存在している。底部は、

立ち上がりをもち、上げ底となるものと、平底のものがみられる。底部の半分以上が残る資料では、その比率はほぼ半数の値を示している。口縁部と底部形態の関係は知るにいたらず、課題となつた。なお、甕形土器は出土量に比べ、器形の全様を知れるものの出土は4点と極めて少ないため整理・分析を難しくしている。

小型品は、器高が20~25cm前後のものと、器高が20cmに満たないものとがある。ここでは、第III章に準じ前者を小型品I、後者を小型品IIとして記述する。

小型品Iは、形態は基本的に中型品と変わりはないが、全体的に口縁部が短い傾向をもつている。なかには、法量に対し器壁が厚いものがあり、中型品と変わらぬものもみられる。

小型品IIは、小型品Iと同形態を呈するものと、口径が広く、口径値が器高値と同じ値を示し、鉢形土器に似る形態を呈すものがある。後者では、底部が大きくくびれる上げ底を呈するものがあり、古い形態を残したものといえる。

壺形土器 口縁部形態においては、複合口縁であるか否かが大きな違いとしてあげられる（ここでは、後者を「單口縁」ないし「單口縁壺」として記述する）。壺形土器は792点出土しているが、複合口縁壺は376点（47.4%）、單口縁壺は416点（52.5%）であり、複合口縁壺は單口縁壺と大差なく出土していることが分かる。以下、口縁部形態に注目し記述をおこなう。

複合口縁壺 複合口縁を有する壺は、複合口縁部の接合部分の形態によりさらに二分類される。a) 接合部が「コ」の字状を呈するものであり、口径が大きいものにみられる。b) 接合部が「く」の字状を呈するもので、aに比べ口径が小さいものに多くみられる。aとbの出土量はaが174点、bが202点となり、bがaよりもやや多いが大差はない。a・bの違いは口径の大きさに加え、複合口縁部の加飾にも大きな違いがみられる。aは有文であるものが36点、無文のものが24点、bは有文が0点、無文が154点であり（註1）、aは加飾したものが半数以上を占めるのに対し、bは反対に、有文はなく無文を基調とするものとなっている。これより複合口縁壺では接合形態と加飾性が一定の関係をもつことが分かるのである。

單口縁壺 複合口縁を有さない壺は、出土量の半数（416点、52.5%）を占めるが、その形態は多様である。頭部の長さ、傾き、縮りにより分類が可能である。分類は、既に第III章で記述のごとく2)~10)、12)・13)の11に分類されるが、大別すると頭部が短いもの2)、やや長いもの3)~6)と、著しく長いもの7)~10)、著しく短い頭部のもの9)に区分できる。

單口縁壺の出土品では口縁部片が多いため確実な数値は明らかとできないが、7)~10)の直立ないし外傾して立ち上がり著しく長い口頭部をもつものが多数を占める感がある。

次に異形品について触れる。217は大型で短頭の壺である。器壁が厚く、口縁端面には沈線文があり当平野内での類例がないものである。219は短く外反する口頭部に、口縁外面に凹線文をもつことより、中~東部瀬戸内地方に出自が求められるものと思われる。218・221・222は内傾するやや長い頭部に、短く外反する口縁部をもち、口縁端面と頭部に刻目をもつ

こと、さらに221では口縁外面に接合痕が看取されることより伊予南部から高知県に分布する土器、いわゆる「土佐型」甕に類似するものかと思われる（註2）。220も肩部の張りが強いが、218・221・222に近い形態を有していることより、さきの地域との何らかの関係を示す資料となるものと思われる。223は器壁が厚く、口縁端面が拡張される特徴をもつ。第60図159に近い形態をもつが、拡張の大きさが異なるため外米系の要素が考えられるものである。

なお、壺形上器には絵画・記号を描いたものが約100点ある。これ等については、別稿にて論ずるものである。

鉢形土器 口径・器高により大・中・小型品に分類される。大型品は出土量が少なく数点にとどまる。中型品は口縁部が外反するものと稜をもって弱く屈折するものがあるが、後者の出土量は極少にとどまる。中・大型品では異形品が2点ある。第76図272は口縁端部が上方に拡張され、内面にケズリ痕がみられることより、東～中部瀬戸内地方のものかと思われる。ただし、土器溜りの出土品中には後期前葉の破片が数点含まれており、272はそれ等と同じでやや古い時期の土器と共に伴する可能性が考えられる。273は直立かつ内湾する口～頸部をもつもので、出自は全く不明である。遺跡からは5世紀代の遺物が多量に出土することより、5世紀代の遺物の可能性も考えておきたい。小型品は外反する口縁と直口口縁を有するもので構成される。この他、特徴的なものとしては脚ないし台が付く鉢形上器が数多く出土することが上げられる。法量と一定の関係をもち、特に直口口縁は小型品に限られ、中・大型品にはないといった特徴をもつ。

高環形土器 口縁部が外傾ないし外反する環部に、三角錐を呈する柱部と垂平に近く広がる裾部をもつもの（a）と、環部と裾部が同形状を呈し、柱部が膨らむもの（b）の二種がある。高環形土器は環部片で出土量をみると総数は306点で、aは254点（83.0%）、bは52点（16.9%）となる。特異的な形態であるbが1割強を占めることは注目したい。

なお、時期がやや古いと思われる遺物では第81図317・318が上げられる。317は後期前葉に比定されるもので当平野というよりも中～東部瀬戸内地方に出自が求められるものである。318は、香川県一の谷遺跡（註3）に類例が求められ、当平野には基本的でない形態である。ただし317・318は小片であり、上器溜りの土器と共に伴するものかは検討を要するものである。

器台形土器 受部径と器高により大・中・小型品に分類される。完形品が少ないため、充分な分析を行うことはできない。出土量は、受部片110点、柱部片118点、裾部片76点で、100点以上の器台形土器が出土したことは確実であり、出土量としては現在、当平野では最も多い事例となる。形態は、大別すると器高が高く加飾性の強いもの（355・369・382）と器高が低く加飾性に欠け、器壁が厚いもの（367・375・378）がある。この二種の比率は、資料が充分でないことより明示はさけるが、前者が多い感がある。

支脚形土器 出土量は43点である。破片が多く、全様を知れるものは少ない。形態では受部の一部が「U」字状に削られ、受部が傾斜するものが多数を占め、角状の突起をもつもの

が2点みられる。

その他 ミニチュア土器は底部片が多数を占めるが形態は上部底のものが多く、腹ないし鉢の形状をとるものと思われる。

底部穿孔のいわゆる「コシキ形上器」が6点出土している。焼成前のものが2点、焼成後が3点、焼成後未貫通が1点である。399は形態が壺や變形土器とは異なるもので、製作当初よりコシキ形土器として作成されたものであろう。

サジ形土製品は1点が出土しており握手部が欠損する。やや大きな法量となる。

ショッキ形土器は3点が出土している。これ等は遺跡中に中期の土器が出土しており、流入品の可能性が高いものである。

異形態として409・410の七製品がある。409は製塙土器に形態が類似する。410は支脚状のものであるが、器形・用途とも判断ができないものである。

3) 施文

全体としては無文化傾向が強い。變形土器は基本的に施文はなく、例外的に占い形態をもつものの6点に刺突文がみられるにすぎない。壺形土器は胴部への著しい加飾はない（絵面・記号土器を除く）。頭部への加飾は壺8)・9)に多条の直線文、複合口縁壺と長頸壺の頭部下端に凸帯が施されるにとどまる。複合口縁壺は先述のことく複合口縁aに対し施文が行われるがbには加飾をしないといった明確な差別が存在している。高環形土器と器台形土器は、円孔を穿つことを基本とし、加飾は高環形土器bや器高の高い器台形土器に強い装飾性が認められ、複合口縁壺と同じく装飾性と形態とが密接な関係にあるものと思われる。

なお、鉢形土器と支脚形土器は基本的に無文である。

土器溜り出土の上器では、器種や器形により装飾に違いがあることが分かる。そして、工具はクシ状工具が使用され、モチーフは多条の直線文、波状文が主体となり、特徴的なものとして半截竹管による刺突文列や、ヘラ状工具を使用した斜線充填による三角文があげられるよう。

4) 調整

各器種とも刷毛目調整が主体となり、タテヘラ磨きが複合口縁壺、器台形土器、鉢形土器のいずれも大型品に多用される。ただし、磨きは稚で、刷毛目調整後のヘラ磨きの工程が容易に観察できるものとなっている。ヘラケズリは、變形土器や鉢形土器の一部に見られるが（内面の肩部以下）多くはない。

成形技法としての叩き技法は、顕著に叩き痕を看取するものはない。ただし變形土器のなかには数例叩きか粗い刷毛目調整が判断しがたいものがある。

5)まとめ

5区土器溜り出土品は、器種構成として弥生時代後期の特徴である器台形土器と支脚形土器をそなえている。そして、複合口縁壺の多様化と多量化、大型の鉢形土器、大型の器台形

土器、傾斜する受部をもつ支脚形土器をもつことで、松山平野の弥生後期後葉の土器様相に対応するものといえる（註4）。ただし、高壇形土器脚部の円孔が二段透してないことや小型の鉢形土器や壺形土器にボタン状の突出する底部が数多くみられない点は、後期中葉の土器様相を一部にとどめているものとして理解したい。

土器溜り出土品は、器台形土器や絵画・記号土器が多くみられ、非日常的行為の所産と考えることもできるが、土器自体は胎土、焼成、調整に日常品との差がないこと、多量に上器が出土する事例は松山平野の後期集落遺跡では幾つかみられることより（註5）、その性格を特定することは難しい。

5区土器溜りは、多量の土器を出土したこと、弥生後期後葉の土器様相を明らかとする重要な資料といえる。さらに、絵画・記号土器の製作や用途、多量の土器を集中的に堆積させる社会的行為など、集落内での生活を復元する貴重な資料として評価されるものであろう。

（註）

1. 形態は認定できるが、文様の有無が認定できないものが多くあり、よって、文様の小計と形態数は異なるものである。
2. 出原恵二 1990 「『工作型』甕の提唱とその意義」『遺跡第32号』遺跡発行会
3. 西岡達哉ほか 1990 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」香川県教育委員会
4. 梅木謙一 1991 「松山平野の弥生後期土器－編年試案－」『松山大学構内遺跡』松山大学・松山市教育委員会・松山市立埋蔵文化財センター
5. 松山市中村松田遺跡、箭道F遺跡の弥生後期後半の堅穴式住居址からは多量の土器が出土している。
松山市教育委員会 1989 「松山市埋蔵文化財調査年報II」

IV-2 5区土器溜り出土の絵画・記号土器

5区土器溜りからは、約100点の絵画・記号土器が出土している。

絵画・記号土器は、全て壺形上器（註1）で、器形は大多数が長頸壺であり、複合口縁壺にも施したもののが弱半量あると思われる。その一方で、短頸壺には基本的には（例外的に第59図154に刺突文がある）施されていないと考えられる状況にあった。部位では、胴七半部を基本としており、口～頸部にあるものが1例みられた（第65図189）。以下、絵画・記号の分類と出土状況について整理し、本資料の特徴を考えていく。なお土器溜りの資料は後世の削平を強く受けているため遺物の遺存状況は良好とはいえないが、完形品、ないし一部を欠損するにとどまる土器が多数あるため、絵画・記号土器もおそらく完形品として当地に存在していたものと思われる。

1. 分類 絵画・記号のモチーフは、形状より四分類される。

I類：弧文に、魚のヒレ状の文様が2ヶ組み合うものである。

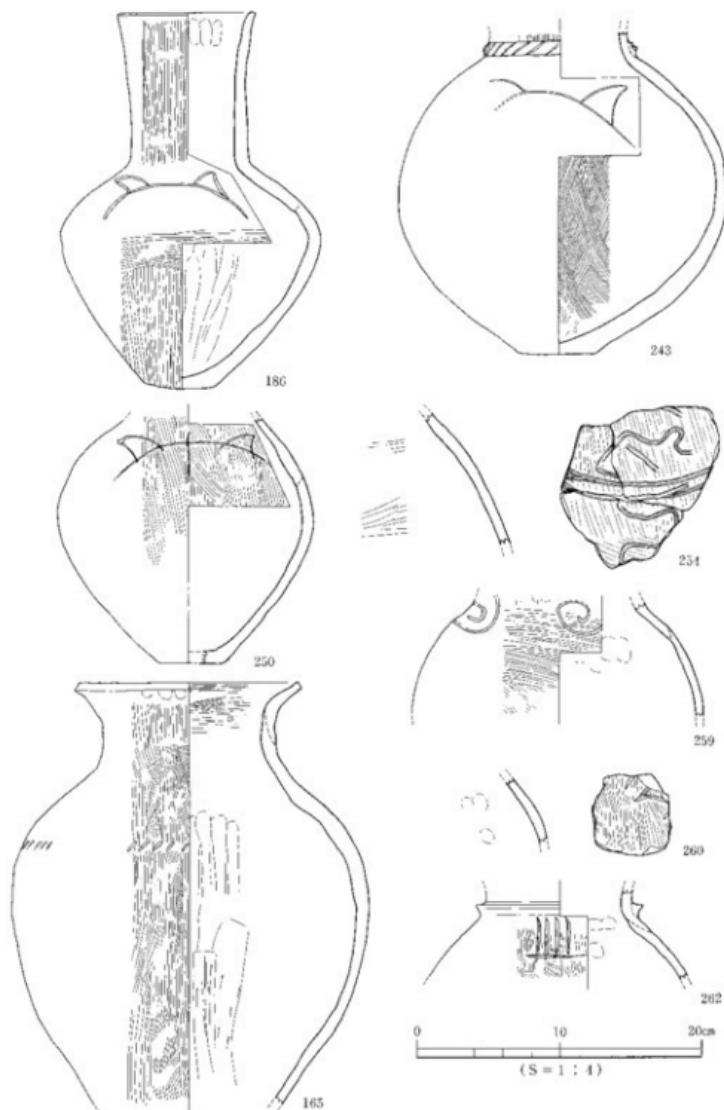
第94図186・243が典型例で、上部のヒレ状の文様は向かって左のものは2線の接点が左方向、右のものは右方向にあり、2つのヒレ状の文様は逆「ハ」の字状の形態を必ず呈す。下部の弧文は必ず弧が上を向いて描かれる。線刻の順序は、下部の後、上部を描くことを基本としている。出土量は、絵画部分が全て残るものは20点、向かって左部分が残るものは27点、向かって右部分が残るものは31点である。左と右の各部分片は、接合作業を試みたが接合されるものではなく、さらに同一体であると特定できるものもなかった。よって、この種のモチーフをもつ土器は70点余りの値を示すものと考える。なお、基本形態以外形にはタテ線1条が中央部に入るものの第74図250・251や下部の弧文下にヨコ線1条が入るもの第74図252が極少例としてある。

II類：複数の曲線により描かれているものである。（第75図254～260）。

弧状ないし渦巻状の線により描かれており、全様が分かるものはない。第75図254～256は、2条1組の工具により描かれており同一体であると思われる。第75図257は3条の弧文状の線があり、上器に幅広く描かれたもの一部と思われる。第75図258は橢円形状の文様帶が2条あり、第94図259は渦巻状の文様帶が2組以上みられる。第75図260は254～259とは違い、短い細線が複雑に組み合うものである。II類に属するものは最低でも5個体はあるものと思われる。

III類：直線文が組み合って描かれる文様帶である（第65図189、第75図261～265）。

第65図189は、絵画・記号土器の中で唯一口・頸部に施文されるもので、タテ方向の直線が多条みられるものである。第75図262・263は同一モチーフで、タテ方向の4条の直線とヨコ方向の1条の直線が組み合うもので、その手法はタテの後ヨコの直線をひく順序となっている。第75図264と265は同一体と思われるもので、タテ方向の直線が放射状にひかれる。IV



第94図 上器溝り出土の絵画・記号土器

類に属するものは、4個体を数える。

IV類：5～6ヶ1組の刺突文帯が、數組施されるものである（第59図154、第61図163～166、第75図266）。刺突文は土器の加飾としてよく用いられるものであるが、この場合刺突文は全周することを基調としている。ここで取り上げる刺突文は部分的に胴上半部に用いられるものであり、いわゆる刺突文とは意図が異なるものと思われる絵画・記号土器の一つの分類に加えた。第59図154は絵画・記号土器のうち唯一短い頸部形態のものに施されたものである。頸部片で2個の刺突文を看取するにとどまっている。第61図163～165は形態・法量・胎土・焼成とも極めて酷似したものであり、166は163～165と法量が異なるだけのものである。刺突文帯は、現状では166は1組、163は2組、164・165は3組が看取される。このうち、165は胴上半部が全て残っており、刺突文帯は当初より3組施されているものである。このことより同形態・同法量等において163・164・165は酷似する土器より、163・164・165は刺突文帯を3組、ないし最大限4組が施されていたものと考えられる。一方、小型品166は胴上半部が約2分の1残存しているところから考えると刺突文帯は1ないし2組となる。刺突文帯数の復元からは、法量差による刺突文帯の組数の違いがみられるものとなった。

その他：I～IV類として特定できなかったものや、意図して施された線として認識しがたいものが8点ある。第63図181は、2つの弧線が上下にあり、ヨコ方向の小さい楕円形形状を呈しているものである。このほか、未掲載品にはI類と思われる小片が5点、単に直線1条が看取されるものが1点、「L」字状の線と見えるものが1点ある。後者2点は、土器製作時に草木の付着などで生じたキズの可能性が高いもので、前者は判断しがたいものである。

2. 出土状況

次に、絵画・記号土器の出土状況をみてみることにする。

福音小学校構内遺跡出土の絵画・記号土器は1点を除き、全て5区土器溜り出土品である。土器溜りは、多量な土器が出土したが、その性格については充分に理解することが出来なかった。ただし、多量な絵画・記号土器の出土は、土器溜りの性格分析に何がしかの指針を与えてくれるものであると考え、その出土地点を整理するものである。

5区土器溜りの遺物は、調査地全体に設定された大グリット（1辺6m四方）で取り上げられたものと、土器溜りが認識された後に設定された小グリット（1辺1m四方）で取り上げられたものがある。土器溜りは、南北16m、東西18m（以外に未調査部分あり）の範囲であり、6m四方のグリット取り上げ資料では分析に値しないために、ここでは小グリットにて取り上げた資料について整理を行うこととする。この条件で対象資料となるものは85点があり、分類を用い出土量を整理するとI類66点、II類8点、III類5点、IV類6点が出土地点が判明するものである。

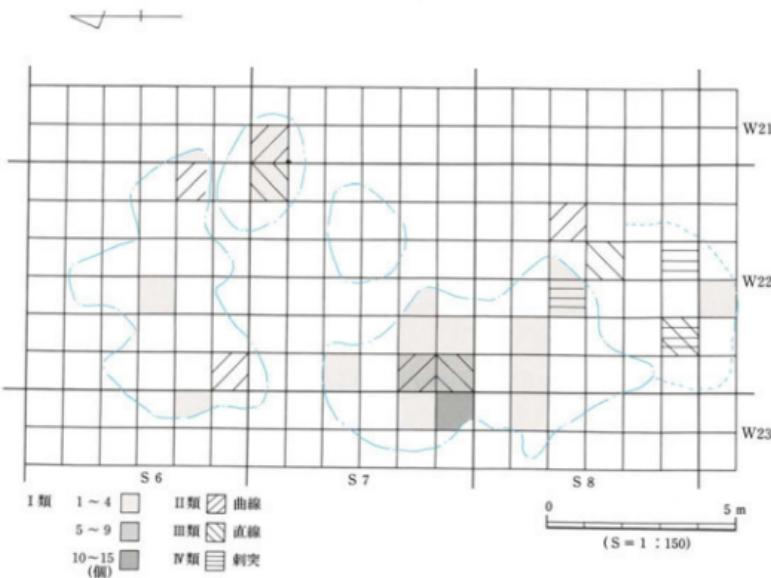
5 区土器溜り出土の絵画・記号土器

I類は土器溜り全域に出土し、特にS 7 W20（大グリット）とS 7 W23が接する南部の2×6 mの範囲に、集中出土をみる。II類・III類は小グリットで数点ずつが出土するが、II類は土器溜りの北側、III類は南側に出土が多いように見られる。IV類は土器溜りの南端にみられる。

これ等の分布状況を整理すると、2、3のことが判明する。① I～III類は全体に、IV類は南部に出土が限られている。② I～III類は全体で出土するが、幾つかの集中地点をもっている。③ 2 m四方の範囲で検討すると3種類以上のものが常に出土していることが上げられる。

3. まとめ

以上、土器溜りより出土した多大な絵画・記号土器について分類と出土状況の整理を行った。その結果、モチーフが限定され、出土状況に幾つかの傾向性をもつことが明らかとなった。



第95図 土器溜り出土の絵画・記号土器出土分布図

分類した I ~ IV 類は、一般的には I ・ II 類は絵画、 III ・ IV 類は記号として認知されているものである。I 類は、知る限り西日本地方の弥生土器のなかに全く同じ形状のものはない。ただし、弧線とヒレ状の形象をもつものは一般に「竜」とされ、大阪府池上遺跡や同船橋遺跡に出土事例がある。I 類が竜だとすると、土器溜り出土品は先の「遺跡出土事例よりは、より觀念化した図柄といえるだろう。II 類は、類似するものとして奈良県坪井遺跡の絵画土器があり、I 類と同じく一般的には竜と考えられているものになるであろう。III 類は、奈良県唐古・鍵遺跡に類例があり、記号として認知されている。IV 類は、いわゆる絵画・記号土器とはやや様相を異にするものである。土器を加飾する文様ともいえるが、部分的に刺突文が施されることより、記号土器と同じ意識での所産と考えている。この手法は大阪府龜井遺跡出土品にも類例があり、一般的にも記号として認知されている。

さて、5 区上器溜り出土の絵画土器は、一遺跡で出土した量としては奈良県唐古遺跡に並ぶものであり、一つのモチーフが 80 点余り出土した例は全国的にみても類がない。一方、I ~ IV 類は全国的に使用されたモチーフであり、弥生時代後期における絵画・記号土器の標準的資料ともいえる本資料は、土器溜りの性格や遺跡自体の性格を考える上で重要であるとともに、弥生時代絵画・記号土器の製作や性格、変遷等を分析する上で良好な資料といえ、大いに評価されうるものであろう。

なお、土器溜り出土の絵画・記号土器の整理に際しては橋本裕行氏より多くの助言と指導をいただいた。

註1、基台形土器365、366、369、373の文様は本稿では記号として認定しなかった。ただし368、369、373は一部だけに施されていたものかもしれない、課題である。

【参考文献】

勝部明生・橋本裕行 1986 「絵画と記号」奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

IV-3 分銅形土製品

当遺跡から分銅形土製品が2点出土している。資料名は整理上、それぞれ「福音小A」・「福音小B」と命名した。

(1) 福音小A : S P 4522出土品 (第96図、図版2・15)

出土状況 福音小Aは、S P 4522内の黒灰色土中からの出土である。この黒灰色土は、流れ込み土の可能性があるため、分銅形土製品埋没時期の決定は困難である。

形態 くびれ部の中途で折れ、上半部のみが残存した分銅形土製品である。下半部は、同遺跡内からは検出されなかった。器形は隅丸方形状を呈し、顔面を表現した表面が、ややふくらみ、裏面は平坦で全く文様はみられない。上端面からくびれ部にかけて、次第に肥厚する傾向がある。

顔面表現 眉は鼻と一体で半月形に突帯を貼りつけ、目はヘラ状の施文具で半月形に線刻される。口は表面が磨耗しているため、その形状は判断しがたいが、目と同様に半月形に線刻されていたものと推定される。くびれ部両端には、左右二対の穿孔が施される。その方向は左右いずれも側面-裏面、側面-くびれ部の2種である。なお、頭髪の表現はみられない。

特徴としては、くびれ部を極端に細く造り、あたかも意識的に細くした感を受ける。

色調 表裏面ともに茶褐色である。胎土は、細い砂粒を含むものの密である。焼成は良好で、朱彩の痕跡は認められない。

寸法 残存長6.0cm、上半部最大幅6.5cm、くびれ部最大幅2.0cm、上端面厚さ0.8cm、くびれ部厚さ1.4cmを計る。

(2) 福音小B : S B 15出土品 (第96図、図版2・15)

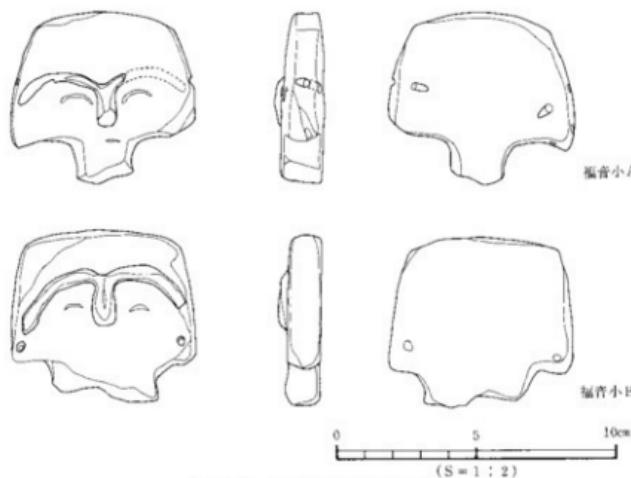
出土状況 福音小Bは、S B 15住居址内のほぼ床面直上から出土した。この住居址にともなった土器の形態などから、分銅形土製品自体の埋没時期を弥生時代後期に比定しておく。

形態 福音小Aと同様に、くびれ部をわずかに残し、上半部のみが残存した分銅形土製品である。器形は、方形に近い隅丸方形で、表裏とともに平坦をなす。表面に顔面を表現するのに対して、裏面は全く文様がみられない。くびれ部の幅は、上半部最大幅に対して比較的幅広である。

顔面表現 眉は鼻と一体で半月形に突帯を貼りつけ、目は鋭利なヘラ状の施文具で半月形に線刻される。隆起した鼻の中央部分には、中心線を線刻する。口の表現はみられず、くびれ部両端には、表面-裏面方向の左右一対の穿孔が施される。なお頭髪の表現はみられない。

色調 表面が乳白色、裏面が暗褐色である。胎土は、細かい砂粒を含むものの、密である。焼成は良好で、朱彩の痕跡は認められない。

寸法 残存長6.0cm、上半部最大幅6.5cm、くびれ部最大幅3.7cm、上端面厚さ1.1cm、くびれ部厚さ1.2cmを計る。



第96図 分銅形土製品実測図

(3) 小結

分銅形土製品「福音小A」および「福音小B」は、①くびれ部の幅②所属時期③分布域の3点で注目される。

まず、2つの資料は、いわゆる「伊予型A」の典型的なタイプであり（谷若 1989）、形態・寸法・顔面の表現方法などで類似する点が多くみられる。しかし、くびれ部の幅に相違点が認められ、福音小Aが、下端面の幅に対してくびれ部の幅が極端に細いのに対して、逆に福音小Bは比較的幅広である。こうした下端面（または上端面）対くびれ部の幅の傾向については、一定法則があるようと思われ、今後の整理によっては細分が可能であろう。

また、これまで松山平野内で出土する伊予型Aの所属時期は、弥生時代中期中葉から後葉にかけてであったが、福音小Bは、弥生時代後期の住居址内から出土していることから、確実な後期の出土例として留意すべきであろう。また県下全城の出土例をみても、後期に位置づけできるものは現在のところ皆無で、分銅形土製品の存続時期を絞り込むうえで貴重な資料として注目される。

3点目は、これまで松山平野内の分布域が、道後城北・三津・砥部地域の3地域に限られていたが、今回の出土により、久米地域まで広がる結果となった。このことは、集落の分布状況などから、ある程度予測されていたことではあるが、今後、各々の拠点集落内の出土量の多少、出土状況等を探ることが、その集落内の分銅形土製品の位置づけを明確にすることに結びつくものと期待される。

【参考文献】 谷若倫郎 1989 「分銅形土製品にみる地域相」『花岡史学第10号』

V 福音小学校構内遺跡の調査成果と課題 I

(弥生時代編)

松山平野北東部にある石手川左岸の扇状地上と平野東部にある小野川右岸に広がる来住台地上には弥生時代からの集落遺跡群がある。本調査地は、二つの遺跡群の狭間に位置し、平野北東部の弥生時代集落を解明する要地といえる。本調査（弥生時代編）は、久米遺跡群における弥生時代の集落構造解明を目的として実施した。調査・研究の結果、（1）福音小学校構内遺跡及び近隣地の弥生時代の集落様相、（2）弥生時代後期の土器様相を追究するものとなった。

（1）久米遺跡群のうち福音寺地区では、筋違A～J遺跡（平成7年5月現在）等の調査より弥生時代の造構・遺物が確認され、石手川と小野川に挟まれた地域の集落様相が徐々に明らかとなってきた。ただし、整理・報告がなされていないため、その様相はまだまだ不鮮明である。

さて、本調査における弥生時代の主たる造構は、土地を区画すると思われる大溝と堅穴式住居址、土器溜り、壺棺群である。以下、成果と課題を記する。

第一にそれぞれの造構の位置関係であるが、住居址は調査地の北側（一区）に集中している。弥生時代中期後半の土坑や遺物（分銅形土製品）が検出されていることから、この付近に居住城が存在することは確かである。久米遺跡群の中における弥生時代の居住城を概観すると、本調査地一区からいわゆる米住台地に至る地域には（南東部）、弥生集落の検出例は希薄である。しかしながら、今回の造構の検出状況から考えると、これ等の地域にも弥生集落はあったものと思われる。また、当遺跡の北西～南側には同時期の遺跡（久米高畠遺跡23次調査、来住庵寺遺跡20次調査、鑿成分遺跡、今在家遺跡、釜ノ口遺跡7次調査等）が存在することより、これ等の遺跡との関係も考える必要があろう。

第二に大溝（SD3）であるが、検出断面形状、検出幅や造構堆土から恒常に流水があったとは考えにくい。今回のデータを見る限りでは、区画溝と考えたい。なお今回の調査では、溝の両側に造構が比較的少ない状況にある。溝の性格を考える一つの資料となるものであろう。なお大溝は、本調査地外の北側に続くことが確認されており、SD3の性格については将来的に改めて検討したい。参考までに近隣地において検出されている大溝状造構には、来住庵寺20次調査SD1〔水本 1993〕、久米高畠遺跡23次調査SD-001〔橋本 1994〕等がある。来住庵寺20次調査SD1、久米高畠遺跡23次調査SD-001の造構内からは弥生時代前期末～中期初頭の土器が多量に出土している。

第三に土器溜りである。人為的な掘り込みは未確認である。比較的短時間に一括投棄され

たものと考える。多量の土器のなかには同じ模様の線刻土器が多量に含まれ、全国的にも非常に珍しい資料である。多量に土器が出土する事例は、松山平野の後期の集落遺跡では幾つかみられる。本調査地周辺では中村松山遺跡SB4、筋違F遺跡SB5から多量の後期土器が出土している。中村松山遺跡SB4、筋違F遺跡SB5では竪穴式住居址内に上器が充填されており、本調査の出土状況とは若干の違いをみせている。

第四に壺棺群（甕棺群）である。今回特筆されるのは、壺棺内より遺物が出土したことがあげられる。当平野においては壺棺中からの遺物の出土例は少なく（例美澤遺跡の壺棺中に土製勾玉が1点出土した例がある）、貴重な資料といえる。

(2) 本調査の土器溜り出土の一括遺物は、松山平野の弥生後期土器編年において標準資料となるものである。松山平野の弥生土器編年については近年、梅木謙一氏が精力的に行っている。それによると今回の出土遺物は、筋違F遺跡SB5〔池田・宮崎 1989〕、中村松山遺跡SB4〔島瀬 1989〕等と同じく弥生後期II-2式（後期後葉）に位置付けられる。本調査地に近接する筋違F遺跡SB5との差異は、高環形土器脚部における円孔透かしの段数、小型の鉢形土器や壺形土器の底部形状に違いがみられることがあるが、総体としては比較的僅かな違いであるといえる。この他、今回の土器溜り出土品には器台形土器や絵画・記号土器が多く、非日常的行為によるものと考えることもできるが、その他の土器は日常品との差がないことより、土器溜りの性格は容易に判断できない。今回の出土資料は梅木氏の編年を充実させ、また前後の土器編年や近隣地域との併行関係を明らかにしていく貴重な資料となるものである。

今後の課題は、住居城、墓域、大溝、方形周溝状遺構、そして土器溜りがどのように関わっているのかを解明することである。住居城を除けば、本調査区西側中央部において、これらの遺構は集合しているかのようにも見える。各々の時期については詳細な検討が必要であり、今回は言及しないが、少なくとも弥生時代後期後半の福音寺地区の祭祀空間（儀礼空間）あるいは非日常的空间であったことは推測できる。

以上、福音小学校構内遺跡の調査より弥生時代後期の久米遺跡群福音寺地区について考えを加えた。ただし調査成果としては充分と言えるものではなく、ひきつづき福音寺地区および近接する来往台地の集落構造をより鮮明に解明しなければならないと考えている。

最後に、本報告書作成に際し、試掘や遺構の時期把握などの、基礎的調査は充実したものでなければならないことを痛感した。石手川と小野川に挟まれた扇状地には、弥生時代～中近世にわたる遺跡が数多く分布している。近年、福音寺地区は急速な土地開発の波がますます高まっており、慎重な調査が望まれるところである。

【参考文献】

- 池田 学・宮崎泰好 1989 「筋道F遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報II』
- 鳥瀬 美穂 1989 「中村松出遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報II』
- 栗田 茂敏他 1991 「七ノ坪遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報III』松山市教育委員会
- 梅木 謙一 1991 「松山平野の弥生後期土器編年」『松山大学構内遺跡－第2次調査－』 松山大学・松山市教育委員会
- 梅木 謙一他 1994 「人峰ヶ古丘陵の遺跡」(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター
- 梅木 謙一他 1994 「来住・久米地区の遺跡II」(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター
- 水本 完児他 1994 「来住庵寺20次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報V』 松山市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター
- 山本 龍一 1995 「筋道J遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報VI』松山市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター
- 橋本 雄一 1995 「松山市埋蔵文化財調査年報VII」「久木高畠遺跡23次調査地」 松山市教育委員会、
(財)松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター

遺構・遺物一覧

— 凡例 —

(1) 以下の表は、本調査検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

遺構は武正、宮内、遺物は梅木、武正、宮内、水口、山下、平岡が作成した。

(2) 遺物観察表の各記載について。

法量欄 () : 復元推定値

形態・施文欄 土器の各部位名称を略記。

例) 口→口縁部、胴中→胴部中位、柱→柱部、胴底→胴部~底部。

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土。 () の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 砂・長 (1 ~ 4) 多→「1 ~ 4 mm大の砂粒・長石を多く含む」
である。焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表1 積穴式住居址一覧

| 積穴 (SB) | 時 期 | 平 面 形 | 規 模 長さ×幅×深さ(m) | 主柱穴 (本) | 内 部 施 設 | | | | 周壁溝 | 備 考 |
|------------|--------|----------|---------------------|------------|---------|----|---|-----|------|-----|
| | | | | | 高床 | 土坑 | 炉 | ガラフ | | |
| 15 | 弥生中期以前 | 長方形 | 4.16×1.94×0.12 | | | | | | | |
| 20 | 弥生後期以前 | 円形 | 4.48×4.40×0.12 | | | | | | 小ビット | |
| 31 | 弥生後期以前 | 隅丸長方形 | 6.10×4.30×0.15 | 4 | | | ○ | 議 | | |
| 45 | 弥生後期以前 | 円形 | ——×——×0.02 | | | | | | 小ビット | |
| 58 | 弥生後期以前 | 円形 | ——×——×0.07 | | | | | | 小ビット | |
| 168 | 弥生後期以前 | 円形 | 4.32×3.68× | 6 | | | | | | |
| 187 | 弥生後期以前 | 円形(指円形柱) | 4.74×4.36×—— | | | | | | | |

表2 溝一覧

| 溝 (SD) | 地 区 | 断面形 | 規 模 長さ×幅×深さ(m) | 埋 土 | 出土遺物 | 時 期 | 備 考 |
|-----------|------------------|-----|---------------------|------|------|-----|--------|
| | | | | 1区 | 2区 | 3区 | |
| 3 | 測量区…1区内 4区・5区 | 舟底形 | 144×1.60×0.80 | 褐褐色土 | 弥生 | | 弥生後期以降 |

造構一覧

表3 性格不明造構一覧

| (SX) | 地 区 | 断面形 | 規 模 長さ×幅×深さ(cm) | 埋 土 | 出土遺物 | 時 期 | 備 考 |
|------|--------------------------------|------|--------------------|------|------|--------|-----|
| 300 | S 7W16・S 7W15 S 8W16・S 8W15 | 複合形状 | 7.26×0.78×0.08 | 暗褐色土 | 共生 | 共生後期以降 | |

表4 土坑一覧

| 土坑 (SK) | 地 区 | 平面形 | 断面形 | 規 模 長さ×幅×深さ(cm) | 埋 土 | 出土遺物 | 時 期 | 備 考 |
|------------|----------------|------|-----|--------------------|------|------|------|-----|
| 29 | N 2W5 N 1W5 | 不規則形 | 舟底形 | 0.92×0.89×0.20 | 暗褐色土 | 共生 | 共生中期 | |

表5 壺棺墓一覧

| 番号 | 地 区 | 合口型式 | 器種 | | 墓 墓 長さ×幅×深さ(cm) | 主軸方位 | 傾斜角度 | 時 期 | 備 考 |
|----|--------|------|----|---|--------------------|---------|------|------|------|
| | | | 上 | 下 | | | | | |
| 1 | S 3W23 | 覆口式 | | 並 | 62×45×20 | S-65°-E | 33° | 共生後期 | 鉄頭出土 |
| 2 | S 3W23 | 覆口式 | 裏 | 並 | 74×62×30 | S-53°-W | 17° | 共生後期 | |
| 3 | S 2W22 | 覆口式 | 体 | 便 | 70×57×25 | S-66°-W | 13° | 共生後期 | 赤色顔料 |
| 4 | S 2W22 | 覆口式? | 裏 | 並 | 61×48×14 | S-42°-W | 41° | 共生後期 | |
| 5 | S 3W20 | 覆口式 | | 便 | 75×65×25 | S-89°-E | 43° | 共生後期 | |

表6 5区土器溜り一覧

| 地 区 | 断面形 | 規 模 長さ×幅×深さ(cm) | | 埋 土 | 出土遺物 | 備 考 | 時 期 |
|--------------------------------|-----|--------------------|---|------|------|-----|------|
| | | 上 | 下 | | | | |
| S 6W21 S 6W22 S 7W22 S 8W22 | 船状 | 18×16×0.5 | | 黒褐色土 | 共生土器 | | 共生後期 |

表7 SD 3出土遺物観察表 土製品 (1)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 土 | 燒 成 | 備 考 | 図版 |
|----|----|---------------------|-----------|-----------------------|------------------------|--------------------|---------|-----|-----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | | |
| 1 | 壺 | 口徑(27.4) 残高 11.9 | 「く」の字状口縁。 | ⑪ ハケ→ヨコナデ ⑫ ハケ→ミガキ | ⑪ ヨコナデ→ミガキ ⑫ ハケ→ミガキ | 乳質白色 乳質白色 | 水素(1-2) | ① | | 8 |
| 2 | 壺 | 口徑(25.6) 残高 4.2 | 無文。 | ⑩ ヨコナデ ⑪ ヨコナデ | ⑪ ヨコナデ ⑫ ナデ | 黄褐色 黄褐色 | 石炭(1) | ○ | | |

遺物観察表

SD 3 出土遺物観察表 土製品

(2)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外)色調(内面) | 胎 土 焼成 | 備考 | 図版 |
|----|----|------------------------------|--|------------------------|------------------------|--------------|---------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 3 | 瓶 | 口径(10.0) 残高 6.7 | 短かい口縁部。 内側に凹状の溝。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ⑪ ハケ | 淡黄褐色 淡茶褐色 | 石・長(1~2) ○ | | 8 |
| 4 | 甕 | 口径 15.5 底径 5.2 残高 31.9 | わずかに上げ底。 内側に凹状の溝。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ→板ナデ | ⑪ ハケ→ヨコナデ ⑬ ナデ→ハケ | 淡黄褐色 淡黄色 | 石・長(1~2) ○ | 黒斑 | |
| 5 | 甕 | 口径 16.2 底径 3.1 残高 22 | 「く」の字状の縁。 | ⑪ ハケ ⑫ ハケ | ⑪ ハケ ⑬ ハケ | 黄褐色 赤褐色 | 石・長(1~2) ○ | 黒斑 | 8 |
| 6 | 甕 | 口径(13.0) 残高 5.7 | 肩部の張り弱い。口縁部には、えみのある「コ」字状。 | ⑪ ハケ ⑫ ハケ | ⑪ ヨコナデ ⑬ ハケ | 暗黄褐色 墨黒褐色 | 石・長(1~2) ○ | 黒斑 | |
| 7 | 甕 | 口径(14.0) 残高 4.8 | 頂部に貼り付け凸巻文 1 本。 その下に刻み目。 | ⑪ ヨコナデ | ⑪ ヨコナデ→ハケ | 淡黄茶色 淡黃色 | 石・長(1~2) ○ | 黒斑 | 8 |
| 8 | 甕 | 底径 4.8 残高 10.9 | 上げ底。底部外側は横縞模様らしい。 | ⑪ (刷中) ハケ ⑫ (刷下) ナデ | ⑪ (刷中) ハケ ⑫ (刷下) ナデ | 黄茶色 黑色 | 石・長(1~2) ○ | 黒斑 | |
| 9 | 甕 | 直径 4.0 残高 11.6 | 器身がやや厚い。底部は、やや丸みをおびる。 | ⑫ ハケ | ⑬ マメツ | 黄褐色 青灰褐色 | 石・長(1~2) ○ | 黒斑 | |
| 10 | 甕 | 口径(20.0) 残高 10.7 | (口縁) 周5目 ⑪ 横縞文(内) 9条1縦が1縦。(ナデ) 9条1縦が1 縦、内巻文2本1縦1本。結合部周辺 に凹状溝。 | ⑪ ナデ→施文 ⑫ ハケ | ⑪ 縦巻ヨコナデ ⑫ ハケ | 黄褐色 黄褐色 | 石・長(1~2) ○ | 黒斑 | 8 |
| 11 | 甕 | 残高 5.4 | ⑪ 7条2縦 複数巻文。 | ⑫ ナデ→施文 | ⑬ ヨコナデ | 乳白色 乳茶色 | 石・長(1~2) ○ | | 8 |
| 12 | 甕 | 口径(23.3) 残高 3.8 | 口縁部に沈縫。 マメツにより本数不明。 | ⑪ ナデ→施文 | マメツ | 茶褐色 茶褐色 | 石・長(1~2) ○ | | 8 |
| 13 | 甕 | 口径 15.9 残高 19.9 | 口縁部は、つまみながら のヨコナデの為、やや内側 に突出。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ⑪ ヨコナデ ⑫ ナデ | 淡黄褐色 暗灰色 | 石・長(1~2) ○ | | 8 |
| 14 | 甕 | 口径 11.6 | 口縁部張部に 4 条の沈縫。 その上にわずかに剥離が現。 | マメツ | マメツ | 黄茶色 墨黒褐色 | 石・長(1~2) ○ | | |
| 15 | 甕 | 口径(17.2) 残高 3.8 | 口縁部強いナデのみ。 | ⑪ ヨコナデ→ハケ | ⑪ ヨコハケ→ナデ | 乳白色 乳白色 | 石・長(1~2) ○ | | |
| 16 | 甕 | 口径(12.6) 残高 5.6 | 口縫剥離部がやや内側 立ち上がる。 | ⑪ ハケ→ヨコナデ ⑫ ハケ | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | 赤褐色 黄褐色 | 石・長(1~2) ○ | | |
| 17 | 甕 | 口径 11.8 残高 8.9 | 口縫剥離部は、強く往上げら れる。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | 赤褐色 赤褐色 | 石・長(1~2) ○ | | |
| 18 | 甕 | 口径 4.4 | 口縫剥離部は、つまみながら のヨコナデ。 | ⑪ ヨコナデ | ⑪ ヨコナデ | 淡黄茶色 淡黄褐色 | 石・長(1~2) ○ | | |
| 19 | 甕 | 口径(24.0) 残高 4.6 | 松脂された口縫に沈縫 5 本。 その上に横縞浮文。 | ⑪ ヨコナデ→施文 | ⑪ ヨコナデ | 茶褐色 茶褐色 | 石・長(1~2) ○ | | 8 |

遺物観察表

SD 3 出土遺物観察表 土製品

(3)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 成 土 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|-------------------------------|--|-----------------------|----------------------------|--------------------|------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 20 | 壺 | 口径(14.2) 残高 9.2 | 口縁部に2条の沈線。 底部は、強い張り。 | ⑩ ヨコナデ ⑪ ミガキ | ⑪ ヨコナデ ⑫ ナテ | 乳白色 褐色 | 石-削(1-3) ○ | | |
| 21 | 壺 | 口径(11.0) 残高 13.1 | 口縁部、丸い「コ」字状。 底部は、強い張り。 | マメツ | ⑪ マメツ ⑫ ハケ | 淡黄褐色 淡黃褐色 | 石-削(1-7) ○ | 周底 | |
| 22 | 壺 | 口径(12.9) 残高 10.0 | 口縁部は丸く仕上げられ る。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ マメツ | マメツ | 淡黃褐色 明黄褐色 | 石-削(1-3) ○ | | |
| 23 | 壺 | 口径 15.7 残高 5.5 | 口縁部は、やや先細りで 丸い仕上げ。 | ⑪ ⑫ ヨコナデ ⑬ ハケ→ヨコナデ | ⑪ ⑫ ヨコナデ ⑭ ハケ | 淡黃褐色 淡褐色 | 石-削(1-3) ○ | | |
| 24 | 壺 | 口径(13.8) 残高 12.7 | 口縁部は、わずかに外反 側面は「コ」字状。 | マメツ | ⑪ ナテ ⑫ ハケ | 暗青茶褐色 暗青茶褐色 | 石-削(1-3) ○ | | 9 |
| 25 | 壺 | 口径(17.6) 残高 6.0 | 口縁部にハケによる沈線。 ⑩ ヨコナデ→ハケ | ⑪ ⑫ ハケ ⑬ ヨコナデ→ハケ | ⑪ ⑫ ヨコナデ ⑭ ハケ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 長(1-2) ○ | | 9 |
| 26 | 壺 | 口径(18.0) 残高 6.4 | 口縁部に浅い沈線2条。 | ⑪ ⑫ ヨコナデ→塗灰 ⑯ ナテ | ⑪ ヨコナデ ⑯ ナテ | 赤褐色 赤褐色 | 石-塗(1-1) ○ | | |
| 27 | 壺 | 底径 3.5 残高 21.0 | 口縁の欠損を除いてほぼ完 整。ほぼ垂直に立ち上がる 口縁と底部。 | ⑮ 横上 ハケ ⑯ 横下 ハケ | ⑭ ナテ ⑮ 横上 ハケ ⑯ 横下 ナテ | 淡褐色 灰褐色 | 石-削(1-2) ○ | 黒底 | 9 |
| 28 | 壺 | 口径 16.1 底径(6.2) 残高 31.8 | 口縁は、やや先細りしなが ら内凹。 | ⑪ ハケ→ナテ ⑯ ハケ | ⑪ ナテ ⑯ ハケ→ナテ | 淡青褐色 淡黃褐色 | 石-削(1-3) ○ | 黒底 | 9 |
| 29 | 壺 | 底 5.2 横 4.6 | 底部破片。質滑文あり。 | ⑭ ハケ | ⑭ ナテ | 淡白褐色 淡白褐色 | 石-削(1-2) ○ | | 9 |
| 30 | 壺 | 口径 15.7 底径 4.0 残高 36.6 | 完形。口縁部は「コ」字状 を呈す。 | ⑪ ヨコナデ ⑯ ハケ | ⑪ ハケ ⑯ ハケ | 乳白色 乳白色 | 石-削(1-3) ○ | | 9 |
| 31 | 壺 | 残高 7.2 | タテに付く斜抜浮文の上に 刻み目あり。 | ⑭ タテハケ | ⑭ 斜抜灰 | 暗灰褐色 暗青褐色 | 石-削(1-2) ○ | | 9 |
| 32 | 壺 | 残高 8.3 | 施文は、ハケ「其による2 段の刻印。」 | ⑭ ハケ→施文 | マメツ | 乳白色 暗茶褐色 | 石-削(1-3) ○ | | 9 |
| 33 | 壺 | 底径(9.3) 残高(11.95 | 平底。やや薄い底部。 | ⑭ ハケ | ⑭ ナテ | 淡青褐色 淡黃褐色 | 石-削(1-4) ○ | 黒底 | |
| 34 | 壺 | 口径(6.43) 残高 6.3 | 平底。やや厚い底部。 | ⑮ 横下 ハケ ⑯ ナテ | マメツ | 茶褐色 茶褐色 | 石-削(1-3) ○ | | |
| 35 | 壺 | 底径 9.05 残高 7.8 | 底部端がやや丸みを帯びる。 | ⑮ 横下 ハラミガキ | ⑮ 横下 板ナテ | 淡青褐色 乳黃灰色 | 石-削(1-3) ○ | 黒底 | |
| 36 | 壺 | 底径 10.6 残高 8.0 | 底部端がやや上がる。やや 薄い底部。 | ⑮ 横下 ハケ | ⑮ 横下 ハケ→ナテ | 淡青茶褐色 淡茶褐色 | 石-削(1-3) ○ | | |

遺物観察表

SD 3 出土遺物観察表 土製品

(4)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外因) 色調 (内因) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|---------------------------------|--|--|---------------------------------|--------------------|---------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 37 | 壺 | 底径 4.4 残高 9.1 | ほぼ平底。 底部はやや上げ底を呈す。 | (剥下) ミガキ | (剥下) ナテ | 暗茶色 暗茶色 | 石・長日(=) | | |
| 38 | 杯 | 底径 4.8 残高 10.6 | 底部はやや上げ底を呈す。 粗痕が顕著。 | (⑤) ハケ (⑥) ナテ | (④) ナテ | 乳白色 乳白色 | 石・長日(=) | | |
| 39 | 高杯 | 口径(20.8) 残高 3.9 | 口縁はやや外反し、先彎りする。 | (⑦) ハケ | (⑪) ヨコナデ | 黒灰色 乳白色 | 石・長日(=) | | |
| 40 | 高杯 | 残高 4.5 | 口縁はやや大きく外反する。 | マメツ | マメツ | 乳灰黄色 乳灰黄色 | 石・長日(=) | | |
| 41 | 高杯 | 残高 5.5 | 器壁はやや落い。 | (⑦) ヨコナデ→ハケ | マメツ | 乳灰色 黄土色 | 石・長(1~4) ○ | | |
| 42 | 高杯 | 底径(16.4) 残高 10.9 | 脚端はヨコナデにより丸い。 円孔(φ1 cm) 4ヶ。 | (剥下) ヨコナデ (剥下) ハケ→ミガキ | (剥下) ハケ→ナテ | 淡黄茶色 淡黄茶色 | 石・長(1~4) ● | | 10 |
| 43 | 高杯 | 残高 10.6 | 円盤充実法。 円孔(φ1 cm) 1ヶ。 | (⑦) ハケ | (④) ナテ | 淡赤褐色 暗灰色 | 石・長(1~4) ● | | 10 |
| 44 | 高杯 | 残高 11.0 | 円孔は上下2段(φ1.2 cm)各3ヶ。 | (⑦) クサハケ | (④) ナテ | 淡乳黃色 淡乳黃色 | 石・長(1~2) ● | | |
| 45 | 高杯 | 残高 8.9 | 円孔は上下2段(φ1 cm)各5ヶ。 | マメツ | マメツ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・長(1~7) ● | | |
| 46 | 高杯 | 残高 5.55 | 5条の沈像。 | マメツ | マメツ | 赤褐色 赤褐色 | 石・長(1~3) ● | | 10 |
| 47 | 高杯 | 残高 9.45 | 2条の沈像下に斜羽根溝し4ヶ、8条の沈像下に斜羽根溝し4ヶ。 | (⑦) ハケ→施文 | マメツ | 暗灰茶色 暗灰茶色 | 石・長(1~4) ● | | 10 |
| 48 | 器台 | 口径(18.1) 底径(16.5) 高さ 14.9 | 口縁部は、「コ」字状を呈す。 上下2段の円孔(φ2.2 cm)各4ヶ。 | (⑪) ヨコナデ (⑩) ハケ (⑫) ヨコナデ (⑬) ヨコナデ | (④) ナテ (⑤) ナテ (⑥) ヨコナデ→ハケ | 淡灰黃色 淡灰黃色 | 石・長(1~3) ● | | 10 |
| 49 | 器台 | 口径(20.0) 残高 1.9 | 口縁面に波状文。 | (⑪) ヨコナデ→施文 | (⑪) ヨコナデ→ハケ | 黃褐色 茶色 | 石・長(1~3) ● | | 10 |
| 50 | 器台 | 底径(19.7) 残高 12.9 | 口縁部欠損。 上下2段の円孔(φ1.2 cm)各7ヶ。 | (⑧) マメツ (⑨) ハケ | (⑩) ナテ→ハケ (⑪) ハケ | 乳黃褐色 淡赤褐色 | 石・長(1~7) ● | | |

表 8 SX 300 出土遺物観察表 土製品

(1)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外因) 色調 (内因) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|---------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|---------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 1 | 壺 | 口徑 17.1 残高 19.1 | 口縁部はつまみながらの ヨコナデ。 | (⑦) ハケ→ヨコナデ (⑧) ハケ→ナテ | (⑪) ヨコナデ (⑩) ナテ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・長(1~3) ● | 黒斑 | |
| 2 | 壺 | 口径(14.4) 残高 7.2 | 口縁部に沈線。 | (⑪) ヨコナデ (⑩) ナテ | (⑪) ヨコナデ (⑩) ナテ | 褐色 褐色 | 石・長(1~4) ● | | 11 |
| 3 | 壺 | 口徑(14.7) 残高 10.8 | 口縁部短く外反。 縁部は、「コ」字状を呈す。 | (⑦) ヨコナデ (⑧) マメツ | (⑪) マメツ (⑩) ナテ | 灰黃褐色 暗灰茶色 | 石・長(1~4) ○ | | |

遺物観察表

S X 300出土遺物観察表 土製品

(2)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外)色調 (内面) | 釉 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|-------------------------------|--|--------------------|---------------------|-------------------|---------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 4 | 甌 | 口径(15.5) 残高 5.9 | 口縁底部は「コ」字状になる。 口縁部はハケ。 | ヨコナデ ハケ | ヨコナデ ハケ | 淡茶色 淡茶色 | 石・土(1~3) ◎ | | |
| 5 | 甌 | 口径(30.3) 残高 3.9 | 口縁底部ハテ凹み。 底部に押圧の穴跡がまかれ る。 | ナデ→施文 ナデ | ヨコナデ ケズリ→ナデ | 淡茶褐色 淡黄茶色 | 石・土(1~2) ◎ | | 11 |
| 6 | 盃 | 口径 12.5 底径 3.0 残高 27.4 | ほぼ完形。 底部は丸く外反し、縁部は丸い。 縁部は立した口縁が幅広外 反、底部は「コ」字状を呈す。 | ヨコナデ タテハケ→ナデ | ハケ ナデ | 乳黄茶色 淡乳褐色 | 石・土(1~3) ◎ | 黒斑 | 11 |
| 7 | 甌 | 口径(11.4) 底径 5.4 残高 58.3 | 底部は丸く外反し、 縁部が幅広外反、底部は「コ」字状を呈す。 | マメツ ハケ | マメツ ハケ | 灰黄褐色 灰褐色 | 石・土(1~3) ◎ | 黒斑 | 11 |
| 8 | 甌 | 口径(24.4) 残高 11.6 | 口縁は、大きく内曲する。 縁部は先く仕上げられる。 | ヨコナデ ナア | ヨコナデ ナデ | 灰黄褐色 灰褐色 | 石・土(1~3) ◎ | 黒斑 | 11 |
| 9 | 甌 | 口径(13.0) 残高 3.8 | 口縁底部は「コ」字状を呈す。 | ヨコナデ ナデ | ナデ ナデ | 乳白色 淡黄褐色 | 石・土(1~3) ◎ | | |
| 10 | 高環 | 残高 5.6 | 大きく外反する口縁部。 | ハケ | ハケ | 灰黄褐色 灰褐色 | 石・土(1~3) ◎ | | |
| 11 | 器台 | 口径 21.4 底径 17.6 残高 12.4 | 下段に周孔(ø1.1cm)で 6 つ。 底部は、ヨコナデによ り凹みができる。 | ヨコナデ ハケ ヨコナデ | ヨコナデ 板ナデ ヨコナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 ◎ | 石・土(1~3) ◎ | 黒斑 | 11 |
| 12 | 漆器 | 底径 7.0 残高 10.8 | 底部に微顯痕が覗き。 | ハケ ナデ | ハケ ナデ | 乳黄褐色 褐色 | 石・土(1~3) ○ | 黒斑 | 11 |

表 9 S K 29出土遺物観察表 土製品

(1)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外)色調 (内面) | 釉 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|---------------------|------------------------------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 1 | 甌 | 口径(54.2) 残高 10.8 | 底部に貼り付け凸唇(押付) | マメツ | マメツ | 灰褐色 暗灰色 | 石・土(1~3) ◎ | 黒斑 | 12 |
| 2 | 甌 | 口径 24.5 残高 20.0 | 底部に貼り付け凸唇(押付) | ヨコナデ ヘラミカキ | ヨコナデ カキ取り→ナデ | 灰褐色 赤茶色 | 石・土(1~3) ◎ | 黒斑 | 12 |
| 3 | 甌 | 口径(20.0) 残高 12.7 | 口縁底部は、ヨコナデによ りわざかに拡大される。 | ヨコナデ マメツ | ヨコナデ 板ナデ | 灰褐色 暗灰色 | 石・土(1~3) ◎ | | 12 |
| 4 | 甌 | 口径(18.0) 残高 15.4 | 口縁底部は、「コ」字状。 底部の張りが弱い。 | ヨコナデ マメツ | ヨコナデ ハケ | 乳白色 暗褐色 | 石・土(1~3) ◎ | | |
| 5 | 甌 | 口径(18.0) 残高 12.0 | 口縁底部は「コ」字状を呈す。 | ヨコナデ ミガキ | ヨコナデ 板ナデ | 赤茶色 暗褐色 | 石・土(1~3) ○ | | |
| 6 | 甌 | 口径(23.4) 残高 6.6 | 口縁部が大きく聞く。 | ヨコナデ ミガキ | ヨコナデ ハケ | 淡灰褐色 乳白色 | 石・土(1) ◎ | | |
| 7 | 甌 | 口径(16.3) 残高 4.16 | 口縁部が聞く聞く。縁部は 強いナデによりむずかに因 る。 | ヨコナデ マメツ | ヨコナデ ケズリ | 赤褐色 暗褐色 | 石・土(1~3) ◎ | | |
| 8 | 甌 | 底径 8.1 残高 11.0 | 底唇部に沈線 1 条。 底部は上げ底を呈する。 | マメツ ヨコナデ | マメツ | 淡茶色 灰褐色 | 石・土(1~3) ◎ | | |

造物観察表

SK28出土遺物観察表 土製品

(2)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外因) 色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|--------------------|--|------------------|------------|--------------------|---------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 9 | 要 | 底径(5.5) 残高 13.7 | 底部はわずかに上げ底を呈する。 | マメツ | 網下 ナデ | 乳黃茶色 灰灰褐色 | 石・瓦(1-2) ◎ | | |
| 10 | 甕 | 口径 6.1 残高 6.5 | 底部は、上げ底を呈する。 | 網下 ヘラミガキ ヨコナデ | 網下 ナデ | 灰褐色 灰黃茶色 | 石・瓦(1-2) ◎ | 黑斑 | |
| 11 | 甕 | 底径 7.05 残高 6.6 | 底部は、上げ底を呈する。 底部端面は、ナデにより丸く仕上げられる。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 黃褐色 茶褐色 | 石・瓦(1-2) ◎ | | |
| 12 | 甕 | 底径(8.2) 残高 5.0 | 底部……上げ底を呈する。 | マメツ | マメツ | 黃茶色 黃茶色 | 石・瓦(1-2) ◎ | | |
| 13 | 甕 | 口径(2.4) 残高 8.8 | 口縁端面に2条の凹線。 底部に押付貼付凸部、 その下に4条のクシ痕。 | ヨコナデ ヘラミガキ | マメツ ナデ | 淡黃灰茶色 淡黃灰褐色 | 石 | | 12 |
| 14 | 甕 | 口径 13.0 残高 10.8 | 口縁端面に2条の凹線。 底部下に、瓦によるタテの施剥。 | ヨコナデ ヘラミガキ | ヨコナデ ナデ | 淡黃茶色 淡黃茶色 | 石・瓦(1-2) ◎ | | 12 |
| 15 | 甕 | 口径 10.5 残高 15.8 | 口縁は、無く外反。底部は 丸く仕上げられる。 | ヨコナデ マメツ | ナデ ナデ | 黒茶色 暗茶褐色 | 石・瓦(1-2) ◎ | | 12 |
| 16 | 甕 | 底径(8.1) 残高 6.2 | 底部は厚く、平底である。 | 網下 ヘラミガキ ナデ | マメツ | 灰茶褐色 灰褐色 | 石・瓦(1-2) ◎ | 黑斑 | |
| 17 | 甕 | 底径 7.7 残高 5.4 | 底部は厚く、平底である。 | 網下 ミガキ ナデ | マメツ | 暗褐色 抹茶茶色 | 石・瓦(1) ◎ | 黑斑 | |

表10 壺棺遺物観察表 土製品

(1)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外因) 色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|-------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|----------------------------|--------------------|-----------------|-------------------|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 1 | 壺 | 口径 6.0 残高 43.5 | 口縁部欠損。平底の底部側 部最大径は網中位よりやや 上。下折。 | ハケ(12本/cm) タチハ(4~9本/cm) | ハケ(12本/cm) | 淡黃色 灰色 | 石・瓦(1-2) 全 ◎ | 1号墳 出處 | |
| 3 | 甕 | 口径 24.9 残高 32.8 | 「く」字状口縁。肩部の張り はなく、平底。上折。 | ナデ タチハ(10~12本/cm) ナデ | ハケ(12本/cm) | 黃褐色 黃灰褐色 | 石・瓦(1-2) 全 ◎ | 2号墳 出處 | 13 |
| 4 | 甕 | 口径 20.0 残高 7.6 石高 62.4 | 口縁部欠損。口縁部合部は 「く」字状口縁は丸く純 い。下折。 | ヨコナデ ハサーカヨコナデ ハケ(5本/cm) | ヨコナデ ハサーカヨコナデ ナデ | 淡黃褐色 淡黃茶色 | 石・瓦(1-2) ◎ | 2号墳 黑斑 | 13 |
| 5 | 甕 | 口径 8.4 残高 29.4 | 口縁部欠損。平底の底部上 折。 | ハケ ナデ | ハケ ナデ(指脱ぬ) | 淡黃茶色 黃褐色 | 石・瓦(1-2) ◎ | 3号墳 黑斑 | 14 |
| 6 | 甕 | 口径 20.5 底径 5.3 石高 48.0 | 完形品。「く」字状口 縁。肩部の張りは弱く、や や長脚。上折。 | ヨコナデ タチハ タチハ(5~8本/cm) | ハケ(4~5本/cm) ハケ→ナデ ナデ | 黃褐色 | 石・瓦(1-2) ◎ | 3号墳 黑斑 小色顔料 | 14 |
| 7 | 要 | 口径(20.0) 残高 26.2 | 口縁部欠損。肩部最大径は 網中位強、基盤はほぼ均一。 下折。 | タテハケ ハケ(5~8本/cm) | ハケ(4~5本/cm) ハケ→ナデ | 淡黃茶色 | 石・瓦(1-2) ◎ | 4号墳 黑斑 | 14 |
| 8 | 甕 | 底径 8.0 石高 34.2 | 口縁部欠損。肩部最大径は 網中位強、基盤はほぼ均一。 下折。 | 網下 ハケ(4本/cm) | 網下 ハケ(4本/cm) ナデ | 乳褐色 乳白色 | 石・瓦(1-2) 全 ◎ | 4号墳 出處 | 14 |
| 9 | 甕 | 口径(25.5) 口径 8.0 石高 37.4 | 「く」字状口縁。やや膨形の 側面。底部は平底。下折。 タチハ | ヨコナデ ハケ→ナデ タチハ・ナデ | ヨコナデ ナデ | 乳白色 乳白色 | 石・瓦(1-2) ◎ | 5号墳 黑斑 | 13 |

遺物観察表

表11 土器窯り出土遺物観察表 土製品

(1)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外蓋) 色調 (内面) | 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|-------------------------------|---|---|---|--------------------------|--------------------|-----------|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 1 | 甕 | 口径(22.3) 残高 22.7 | ゆるやかに外反する口縁部 は、口縁部が少しひびき、器壁 が著しく厚い。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ マメツ | ⑬ ヨコナデ ⑭ ナデ | 明褐色 乳黃茶色 | 石・玉(1~3) 金 | ◎ | |
| 2 | 甕 | 口径(28.0) 残高 9.8 | 弱い縁をもって外反する口 縁部。口縁部は厚く重い。 | ⑪ ヨコナデ 木口底 ⑬ ヨコハケ(2本/cm) | ⑫ ヨコナデ ⑮ ヨコハケ | 黄褐色 白黃褐色 | 石・玉(1~2) 金 | ◎ | |
| 3 | 甕 | 口径(21.6) 残高 11.3 | ゆるやかに外反する口縁部。 | ナデ ハケ(10本/cm) | ヨコナデ(10本/cm) | 淡白黃褐色 淡白黃褐色 | 石・玉(1~4) ○ | | |
| 4 | 甕 | 口径(36.2) 残高 17.2 | 弱い縁をもって外反する口 縁部。 | マメツ | マメツ | 黄褐色 黄褐色 | 石・玉(1~3) ◎ | 黒斑 | |
| 5 | 甕 | 口径(23.3) 残高 12.5 | 弱い縁をもって外反する口 縁部。口縁部は面をもつ。 | ハケ(7本/cm) | マメツ(ヨコナデ) | 乳黃褐色 淡茶色 | 石・玉(1~3) 金 ◎ | | |
| 6 | 甕 | 口径(27.0) 残高 9.3 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑬ ハケ(5本/cm) | ヨコハケ | 乳黃茶色 乳黃茶色 | 石・玉(1~3) 金 ◎ | | |
| 7 | 甕 | 口径(21.8) 残高 12.8 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は厚い。 | ⑪ ヨコナデ ⑬ ヨコハケ(3本/cm) | マメツ | 淡茶褐色 乳黃色 | 石・玉(1~3) 金 ◎ | | |
| 8 | 甕 | 口径(20.7) 残高 17.0 | 縁をもって外反する口縁部。 口縁部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ナデ | ナデ | 黄褐色 黄褐色 | 石・玉(1~3) 金 ◎ | | |
| 9 | 甕 | 口径 19.5 残高 17.7 | 弱い縁をもって外反する口 縁部。口縁部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(5本/cm)→ナデ ⑬ ハゲ→ヨコハケ | ⑪ ヨコナデ ⑭ ヨコハケ→ナデ | 乳灰黃色 乳白褐色 | 石・玉(1~3) 金 ○ | 16 | |
| 10 | 甕 | 口径(20.7) 底径 5.3 残高 20.8 | 底底の底脚は、やや立ち上 がる。ゆるやかに外反する 口縁部。 | ⑪ ナデ ⑫ ハケ(8本/cm)→ナデ ⑬ ハゲ→ナデ ⑭ タタキ→ナデ ⑮ 脚下 | ⑪ ヨコハケ→ナデ ⑫ ハケ(10本/cm)→ナデ ⑬ ハゲ→ナデ ⑭ 脚下 | 褐色 黄褐色 褐色 | 石・玉(1~3) 金 ◎ | 黒斑 | 16 |
| 11 | 甕 | 口径 19.2 残高 27.7 | ゆるやかに外反する弱い口 縁部。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ ⑬ ハゲ ⑭ ハケ | ⑪ ナデ ⑫ ハケ ⑬ ナデ ⑭ ナデ | 乳茶色 乳茶色 乳茶色 乳茶色 | 石・玉(1~3) 金 ○ | 黒斑 爆付着 | 16 |
| 12 | 甕 | 口径(18.4) 底径 6.1 器高 20.0 | やや大きい平底。近く外反 する口縁部は、端部が大きい。 | 板ナデ(タチ) | ⑪ マメツ ⑫ ケズリ | 乳白褐色 乳白褐色 | 石・玉(1~3) ◎ | | 16 |
| 13 | 甕 | 口径(20.3) 残高 6.9 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は面をもつ。 | ナデ(マメツ) | ナデ(マメツ) | 暗灰色 褐色 | 石・玉(1~4) ◎ | | |
| 14 | 甕 | 口径(18.9) 残高 6.3 | ゆるやかに外反する口縁部。 | ① 口縁 ヨコナデ ② ハケ→ヨコナデ ③ ハケ | ⑪ ヨコハケ→ヨコナデ ⑫ ハケ→ナデ ⑬ ハケ | 黄褐色 淡黃褐色 | 石・玉(1~3) ○ | | |
| 15 | 甕 | 口径(17.0) 残高 7.9 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は面をもつ。 | ① 口縁 ナデ ② ハケ→ナデ ③ ハケ(7~8本/cm) | ⑪ ハケ(6本/cm) ⑫ マメツ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・玉(1~4) ◎ | | |
| 16 | 甕 | 口径(18.7) 残高 11.7 | ゆるやかに外反する口縁部。 | ① 口縁 ヨコナデ ② ハケ(7~8本/cm) | ⑪ ヨコハケ ⑫ ハケ(6本/cm) | 淡褐色 淡褐色 | 石・玉(1~4) ◎ | | |
| 17 | 甕 | 口径(23.7) 残高 10.1 | 長い口縁部は、縁をもって 折り曲げる。口縁部は面 をもつ。 | ハケ(7本/cm) | ヨコハケ(6本/cm) マメツ | 淡褐色 淡褐色 | 石・玉(1~3) 金 ○ | | |

遺物観察表

(2)

土器溝り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外観) 色調 (内面) | 土 焼 成 | 備 考 | 図版 |
|----|----|--------------------------------|-----------------------------------|---|---|--------------------|-----------------|--------|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 18 | 甕 | 口径(23.4) 残高 8.1 | 長い口縁部は、棱をもって折り曲げる。口縁端部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(6本/cm) | ⑪ マメツ ⑫ ハケ | 当褐色 茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 ◎ | | |
| 19 | 甕 | 口径(19.6) 残高 9.9 | 短かい口縁部は、弱い棱をもって折り曲げられる。 | ⑪ ナデ ⑫ ハケ(5~6本/cm) | ナデ(マメツ) | 褐色 褐色 | 石・灰(1~4) 金 ◎ | | |
| 20 | 甕 | 口径(20.1) 残高 6.4 | 短い口縁部は、棱をもって折り曲げられる。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | マメツ | 乳白色 乳白色 | 石・灰(1~4) 金 ○ | | |
| 21 | 甕 | 口径(16.3) 残高 8.9 | 長い口縁部は、棱をもって折り曲げられる。口縁端部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(6本/cm) | ⑪ ヨコハケ(径本/cm) ■ 棚上 ■ ナデ ■ 棚中 ■ ハケ ■ 棚中 ■ テズリ | 淡黄白色 淡黄白色 | 石・灰(1~4) 金 ◎ | | |
| 22 | 甕 | 口径(18.0) 残高 9.6 | 弱い棱をもって折り曲げられる。口縁端部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ→ナデ | ⑪ ヨコナデ ■ 棚上 ■ ハケ ■ 棚中 ■ ナデ | 乳茶色 乳茶色 | 石・灰(1~4) 金 ◎ | | |
| 23 | 甕 | 口径(18.0) 残高 6.7 | 長い口縁部は、弱い棱をもって折り曲げられる。口縁端部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(10本/cm) | ヨコナデ | 乳茶褐色 乳茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 ◎ | 黒面 | |
| 24 | 甕 | 口径(16.9) 残高 12.5 | 弱い棱をもって折り曲げられる口縁部。口縁端部は面をもつ。 | ⑪ ハケ(8本/cm) ⑫ マメツ | マメツ | 淡茶褐色 乳茶色 | 石・灰(1~4) 金 ○ | | |
| 25 | 甕 | 口径(18.2) 残高 18.4 | 長く、ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。豊壁が厚い。 | ⑪ 棚 ■ ヨコナデ ⑫ ハケ→ヨコナデ ⑬ ハケ(12本/cm) | ⑪ ヨコハケ(3本/cm)→ナデ ⑫ ハケ(2本/cm) | 淡黄茶褐色 乳茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 ○ | 黒面 | |
| 26 | 甕 | 口径(19.2) 残高 11.6 | 丸みをもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。豊壁が厚い。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ⑪ マメツ ⑫ ナデ | 乳茶色 乳茶色 | 小・灰(1~2) 金 ◎ | | |
| 27 | 甕 | 口径(18.2) 底径(5.4) 最高 30.8 | ゆるやかに外反する口縁部。底盤は平底ないし扁平の上に張る柱となる。 | ⑪ マメツ ⑫ ハケ(11~12本/cm) ⑬ マメツ | マメツ | 褐色 乳黄色 | 石・灰(1~4) 金 ○ | | 17 |
| 28 | 甕 | 口径(21.3) 残高 6.7 | ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部はナデ凹む。豊壁が厚い。 | ⑪ ハケ(3本/6cm)→マメツ ⑫ ハケ(6本/cm) | ⑪ ヨコハケ(8本/cm) ⑫ マメツ | 明茶褐色 乳茶色 | 石・灰(1~4) 金 ◎ | | |
| 29 | 甕 | 口径(20.1) 残高 16.1 | ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部はナデ凹む。豊壁が厚い。 | ⑪ ハケ→ヨコナデ ⑫ ハケ(6本/cm) | ヨコハケ(5本/cm)→ナデ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 ○ | 蝶付蓋 | |
| 30 | 甕 | 口径(19.8) 残高 8.8 | ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部はナデ凹む。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ→ナデ | ⑪ ヨコハケ ⑫ マメツ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 ○ | | |
| 31 | 甕 | 口径(17.4) 残高 6.0 | 弱い棱をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ→ナデ | ⑪ ヨコハケ ⑫ ナデ | 乳茶色 乳茶色 | 石・灰(1~4) 金 ◎ | | |
| 32 | 甕 | 口径(16.6) 残高 9.9 | 棱をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ナデ | マメツ | 灰褐色 灰褐色 | 石・灰(1~4) 金 ○ | | |
| 33 | 甕 | 口径(18.7) 残高 6.1 | 強い棱をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。 | ⑪ 棚 ■ ヨコナデ ⑫ ⑬ ハケ(5本/cm) | マメツ | 淡茶褐色 乳茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 ◎ | | |
| 34 | 甕 | 口径(19.3) 残高 16.5 | 後をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。 | ⑪ ハケ(3本/cm)→マメツ ⑫ ハケ | ⑪ ヨコハケ(3本/cm) ⑫ ハケ | 乳茶褐色 乳茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 ◎ | 黒面 | 17 |

遺物観察表

土器割り出土遺物観察表 土製品

(3)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外)色調 (内面) | 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|--------------------------------|--|--|---------------------------------------|--------------------|--------------------|-----------|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 35 | 甕 | 口径(18.0) 残高 13.8 | 弱い縁をもって外反する口 縁部。口縁部は面をもつ。 | ⑪ ハケ(3本/cm)→ヨコナデ ⑫ ハケ | ハケ(5本/cm) | 黄褐色 灰黃褐色 | 石・長(1~2) 金 ◎ | | |
| 36 | 甕 | 口径(16.7) 残高 8.9 | ゆるやかに外反する口縁部。 「ノ」の字状の刺突文をもつ。 | ⑬ ヨコナデ ⑭ ハケ(3本/cm) | ナテ | 茶褐色 灰褐色 | 石・長(1~4) ◎ | | 17 |
| 37 | 甕 | 口径(17.7) 残高 8.2 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は面をもつ。「ノ」 の字状の刺突文をもつ。 | ⑮ ヨコナデ ⑯ ハケ(3本/cm)→ナテ | ⑰ ヨコハケ(3本/cm) ⑱ ナテ | 淡褐色 淡褐色 | 石・女(1~3) ○ | | |
| 38 | 甕 | 口径(31.2) 残高 5.9 | 弱い縁をもって外反する口 縁部。「ノ」の字状の刺突文 は板状の木口による。 | マメツ | ヨコナデ | 暗茶褐色 灰黃褐色 | 石・長(1~5) ○ | | 17 |
| 39 | 甕 | 口径(10.3) 残高 4.5 | 弱い縁をもって外反する口 縁部。刺突文をもつ。 | ⑩ 口縁 ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ナテ | 青灰藍色 淡灰褐色 | 石・長(1~4) ○ | 黒斑 | 17 |
| 40 | 甕 | 口径(16.7) 残高 4.9 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は面をもつ。「ノ」 の字状の刺突文をもつ。 | ヨコナデ | マメツ | 明褐色 明褐色 | 石・長(1~4) ○ | | 17 |
| 41 | 甕 | 口径(14.7) 残高 9.0 | 縁をもって外反する口縁部。 口縁部はひらいた面をもつ。 「ノ」の字状の刺突文をもつ。 | ⑬ ヨコナデ ⑭ ハケ(7本/cm)→ナテ | ⑮ ヨコナデ ⑯ ハケ(7本/cm) ケズリ | 黄褐色 黑色 褐色 | 石・長(1~5) 金 ◎ | 黒斑 | 17 |
| 42 | 甕 | 口径(13.6) 底径(5.2) 残高 25.5 | 平底。ゆるやかに外反する 口縁部。 | ⑩ 口縁 ⑪ ハケ(3本/cm)→ヨコナデ ⑫ 底上 ⑬ ハケ(3本/cm) ⑭ 捺下 ⑮ ハケ(10本/cm) | ⑯ ハケ(5本/cm) ⑰ ヨコナデ ⑱ ハケ(10本/cm) | 茶褐色 暗茶褐色 黃色 | 石・長(1~5) 金 ◎ | 黒底 保付書 | 18 |
| 43 | 甕 | 口径 14.0 残高 10.1 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は丸みをもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ マメツ | ハケ | 乳灰褐色 乳黃褐色 褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 44 | 甕 | 口径(15.0) 残高 8.4 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は丸みをもつ。 | マメツ | ハケ(9本/cm) | 灰褐色 黃褐色 暗褐色 | 石・長(1~3) ◎ | | |
| 45 | 甕 | 口径(14.0) 残高 13.0 | ゆるやかに外反する弱い口 縁部。口縁部は軽微し あいまいな面をもつ。 | ⑬ ヨコナデ ⑭ ハケ(5本/cm) | ⑮ ヨコナデ ⑯ ハケ | 黄褐色 黄褐色 | 石・長(1~5) ○ | | |
| 46 | 甕 | 口径(16.1) 残高 8.3 | 外反する弱い口縁部。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(5本/cm) | マメツ | 淡褐色 灰褐色 | 石・長(1~3) ○ | | |
| 47 | 甕 | 口径(16.9) 残高 5.7 | 縁をもって外反する口縁部。 口縁部は丸い。 | ⑬ ヨコナデ ⑭ マメツ | ⑮ ヨコナデ ⑯ ハケ→ヨコナデ ケズリ | 黃白色 茶褐色 | 石・長(1~4) ◎ | | |
| 48 | 甕 | 口径(15.4) 残高 8.3 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は丸い。 | ⑪ ナテ ⑫ ミガキ | ⑯ ハケ→ヨコナデ ⑰ ナテ | 褐色 暗褐色 褐色 | 石・長(1~5) ◎ | 黒斑 | |
| 49 | 甕 | 口径(15.7) 残高 7.6 | 弱い縁をもって外反する口 縁部。口縁部はあいまい な面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ⑮ ナテ ⑯ ハケ(6本/cm) | 淡黃褐色 赤褐色 | 石・長(1~4) ◎ | 黒斑 | |
| 50 | 甕 | 口径(14.7) 残高 5.7 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は丸みをもつ。 | ナテ(マメツ) | ナテ(マメツ) | 黃褐色 黃褐色 | 石・長(1~4) ○ | | |
| 51 | 甕 | 口径(14.4) 残高 22.0 | 上方に立ち上る口縁部。 口縁部は丸みをもつ。 | ハケ(7~8本/cm) マメツ | ハケ(7~8本/cm) マメツ | 明茶褐色 乳黃褐色 | 石・長(1~5) ◎ | | 18 |

遺物観察表

(4)

土器割り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外側) 色調 (内面) | 胎 燒 成 | 備考 | 図版 |
|----|----|--------------------------------|--|---------------------------------------|----------------------|--------------------------|---------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 52 | 甕 | 口径(14.7) 高さ 18.7 | ゆるやかに外反する口縁部。 底部はくびれの上げ底。 | ⑪ ナデ(マメツ) ⑫ マメツ(ハケ) ⑬ 刻離 | ⑭ ハケ(マメツ) ⑮ マメツ | 暗灰褐色 黄灰褐色 | 石・灰(1~4) ◎ | 出雲 | |
| 53 | 甕 | 口径 13.8 残高 16.2 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部はあいまいな面をもつ。 | ⑪ ナデ ⑫ ハケ(6本/cm) マメツ | ハケ(6本/cm) | 灰黃褐色 灰質褐色 | 石・灰(1~3) ◎ | 黒斑 | |
| 54 | 甕 | 口径(11.0) 直径 4.8 高さ 11.4 | ゆるやかに外反する口縁部。 くびれの上げ底。 | ⑭ ハケ ⑮ ナデ | ナデ | 黄褐色 暗灰色 黄褐色 冷灰色 | 石・灰(1~4) ◎ | | |
| 55 | 甕 | 口径 11.6 底径 4.4 高さ 18.6 | 外反する口縁部。わずかに 上げ底部。 | ⑪ ナデ ⑫ ミガキ ⑬ ナデ | ナデ ナデアゲ | 青褐色 黑色 黄褐色 暗灰色 | 石・灰(1~3) ◎ | 黒斑 | 18 |
| 56 | 甕 | 口径 12.6 底径 3.9 高さ 19.4 | ゆるやかに外反する口縁部。 小さく、わずかに上がる底 部。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(7~8本/cm) | ⑪ ヨコナデ ⑯ ケズリ | 淡褐系褐色 乳灰褐色 | 石・灰(1~4) ◎ | 出雲 | 18 |
| 57 | 甕 | 口径(12.3) 底径(4.6) 高さ 16.5 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は面をもつ。わずかに 上がる底部。 | ⑪ (網上) ヤクシテ (網下) ハケ(7本/cm) ⑬ ナデ | ⑪ (網上) ハケ (網下) ナデ | 赤褐色 赤褐色 | 石・灰(1~3) ◎ | | 18 |
| 58 | 甕 | 口径(12.2) 高さ 6.8 | ゆるやかに外反する口縁部。 口縁部は丸みをもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ナデ→ハケ | ⑪ ヨコナデ ⑯ ナデ | 乳青茶色 墨茶色 | 石・灰(1~3) ◎ | | |
| 59 | 甕 | 口径 13.4 残高 1.5 | 弱い縦をもって外反する口 縁部。口縁部は面をもつ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ マメツ | マメツ | 青褐色 灰色、黄 褐色 | 石・灰(1~3) ◎ | | |
| 60 | 甕 | 口径 11.5 底径 4.0 高さ 17.6 | 異形。ゆるやかに外反する 低い口縁部。丸みのある平 底。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ マメツ | ⑪ ヨコナデ ⑯ ナデ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~4) ◎ | | 18 |
| 61 | 甕 | 直径 5.4 残高 20.5 | 小さくくびれる上げ底。 底部はやわらかい。 | ⑬ ハケ(6本/cm) ⑭ ヨコナデ | ナデ→ハケ(8本/cm) | 乳白色 淡乳白色 | 石・灰(1~4) ◎ | | |
| 62 | 甕 | 底径 3.6 残高 16.3 | 小さくくびれる上げ底。底 部はやわらかい。 | ⑭ ハケ ⑮ ナデ | ナデ | 黑褐色 灰褐色 | 石・灰(1~3) ◎ | 模倣 | |
| 63 | 甕 | 底径 5.0 残高 16.8 | 平底。 | ⑭ ハケ→ナデ ⑮ ナデ | ⑭ ハケ→ナデ ⑯ ナデ | 暗褐色 黄褐色 | 石・灰(1~3) ◎ | 模倣 | |
| 64 | 甕 | 底径 6.1 残高 8.6 | やや立ち上がる平底。 | ⑭ ハケ(11~12本/cm) ⑮ ナデ | マメツ | 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1~3) ◎ | | |
| 65 | 甕 | 口径(25.2) 残高 12.7 | 口縁部ヨコ直線 5 条+クレ ヨク状文 6 条。頂部凸部は 刻目。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ→ナデ | ⑪ ヨコナデ ⑯ ナデ | 淡茶褐色 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1~3) ◎ | | |
| 66 | 甕 | 口径(23.6) 残高 11.1 | 口縁部ヨコ直線 5 条+クレ ヨク状文 6 条。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(マメツ) | マメツ | 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1~3) ◎ | | 19 |
| 67 | 甕 | 口径 27.4 残高 12.5 | 口縁部ヨコ直線 8 条+クレ ヨク状文 3 条。強烈凸凹は 刻目。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ナデ | ⑪ ヨコナデ ⑯ ナデ | 淡茶褐色 乳白黄色 | 石・灰(1~4) ◎ | | 19 |
| 68 | 甕 | 口径 25.8 残高 9.3 | 口縁部ヨコ直線 1 条+クレ ヨク状文 6 条(1 条は2か所)。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ヨコナデ | 淡褐色 淡褐色 | 石・灰(1~4) ◎ | | |

遺物観察表

土器窯址出土遺物観察表 土製品

(5)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外観) 色調 (内面) | 胎 土 焼成 | 備考 | 因版 |
|----|----|---------------------|--|------------------------|------------------------------|--------------------|---------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 69 | 壺 | 残高 4.9 | 口縁部流状文 6 条 (1組 2 条か)。 | ヨコナデ | 網目 ヨコナデ | 淡褐色 白灰黄色 | 石・灰(1~4) 全 ○ | | |
| 70 | 壺 | 口径(18.6) 残高 9.3 | 口縁部ヨコ直線文 6 条 + クシ 流状文 6 条か。 | マメツ | ヨコナデ(マメツ) | 深褐色 黄褐色 | 石・灰(1~4) ② | | |
| 71 | 壺 | 口径(23.2) 残高 8.5 | 口縁部ヨコ直線 3 条 + クシ 波状文 4 ~ 5 条。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(5本/cm) | ハケ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1~3) 全 ○ | 黒斑 | 19 |
| 72 | 壺 | 口径 17.0 残高 10.6 | 口縁部ヨコ直線 7 条 + クシ 波状文 3 条。頭部斜凸帯に刻印。 | ハケ(11本/cm) ヨコナデ | ⑪ ナデ→ヨコナデ ⑫ ハケ(10本/cm)→ナデ | 淡赤褐色 淡赤褐色 | 石・灰(1~4) 全 ○ | 黒斑 | |
| 73 | 壺 | 口径(18.8) 残高 11.8 | ヨコ 5 条 + 波状 5 条 + ヨコ 5 条 + 波状 5 条 + ヨコ 5 条。 頭部斜凸帯 + 口唇に刻印。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(6本/cm) | ⑪ ヨコナデ ナデ ヨコハケ(5本/cm) | 淡赤褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1~4) 出現 ○ | | 19 |
| 74 | 壺 | 口径(20.9) 残高 10.3 | 口縁部ヨコ直線 4 条 + クシ 波状文 4 条 + ヨコ直線 4 条。 | ハケ→ヨコナデ | ヨコナデ ヨコハケ | 黒褐色 茶褐色 黄褐色 | 石・灰(1~3) ② | 黒斑 | |
| 75 | 壺 | 口径(21.8) 残高 7.2 | 口縁部ヨコ直線 5 条。 | ヨコナデ | ヨコナデ ヨコハケ | 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1~3) ○ | | |
| 76 | 壺 | 残高 8.2 | 口縁部流状文 3 条以上 + 竹 葉文 + 波状文 3 条。 | ヨコナデ ハケ | ヨコハケ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・灰(1~3) 全 ○ | | 19 |
| 77 | 壺 | 口径(16.5) 残高 7.8 | 口縁部ヨコ直線 6 条 + クシ 波状文 4 条。頭部ヨコ直線 4 条以上。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(10本/cm) | ⑪ ヨコナデ ハケ→ナデ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~4) 全 ○ | | 19 |
| 78 | 壺 | 口径(18.6) 残高 9.2 | 口縁部ヨコ直線文 4 条 + クシ 波状文 6 条。頭部ヨコ直 線 2 条以上。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ⑪ ヨコナデ ハケ→ナデ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~3) 全 ○ | | 19 |
| 79 | 壺 | 口径(21.4) 残高 5.1 | 口縁部ヨコ直線 7 条 + クシ 波状文 5 条。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~3) 全 ○ | 黒斑 | 20 |
| 80 | 壺 | 口径(24.3) 残高 4.9 | 口縁部ヨコ直線 3 条 + 斜指 丁口文 + クシ波状文 6 条。 後合部にヨコ直線 1 条。 | ナデ(マメツ) | マメツ | 茶褐色 黄褐色 | 石・灰(1~4) ② | | 20 |
| 81 | 壺 | 残高 2.8 | 口縁部に斜指丁口文。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~3) ○ | | |
| 82 | 壺 | 口径(24.7) 残高 4.0 | 口縁部に斜指丁口文。 | ヨコナデ | マメツ | 青緑黃褐色 明黃褐色 | 石・灰(1~3) ○ | 出現 | |
| 83 | 壺 | 口径(30.9) 残高 4.0 | 口縁部に斜指丁口文。 | ナデ(マメツ) | ヨコナデ(マメツ) ハケ(6本/cm) | 淡青褐色 淡褐色 | 石・灰(1~4) ○ | | 20 |
| 84 | 壺 | 口径(15.0) 残高 5.3 | 口縁部ヨコ直線 1 条 + クシ 4 条の弧文 + ヨコ直線 4 条。 | マメツ | ① 口壺 ヨコナデ ② ナデ(マメツ) | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~4) ② | | 20 |
| 85 | 壺 | 口径(24.2) 残高 4.3 | 口縁部ヨコ直線 9 条 + 一角 形で斜指による充填。 | ナデ | ① 口壺 ヨコナデ ② ナデ | 乳赤褐色 乳赤褐色 | 石・灰(1~3) ② | | 20 |

遺物観察表

(6)

土器割り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|-------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|--------------------|--------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 86 | 壺 | 口径(21.0) 残高 3.6 | 口縁部クレバ系の山彫文。 ヨコナテ | ヨコナテ | ヨコナテ | 淡黄褐色 淡黄褐色 | 石・灰(1~2) 土 ◎ | | 20 |
| 87 | 壺 | 口径(24.4) 残高 4.1 | 口縁部クシユ系のタテ彫文。 ヨコナテ | ナデ ヨコナテ | ナデ ヨコナテ | 暗灰茶色 茶褐色 | 石(1~4) 土 ◎ | | 20 |
| 88 | 壺 | 口径(28.6) 残高 10.6 | 複合口縁。口縁部無文。 マメツ ナデ ハケ(1本/cm) | マメツ | マメツ | 褐色 黄褐色 | 石・灰(1~2) 金 ◎ | | |
| 89 | 壺 | 口径(29.4) 残高 5.9 | 複合口縁。口縁部無文。 ヨコナテ | ハケ | ハケ | 淡褐色 黄褐色 | 石・灰(1~2) 土 ◎ | | |
| 90 | 壺 | 口径(33.0) 残高 4.6 | 複合口縁。口縁部無文。 マメツ | マメツ | マメツ | 乳赤褐色 乳黄褐色 | 石・灰(1~2) 金 ◎ | | |
| 91 | 壺 | 口径(38.5) 残高 6.5 | 複合口縁。口縁部無文。 ヨコナテ ハケ(5本/cm) | ヨコハケ(5本/cm) ヨコナテ ヨコハケ(5本/cm) | ヨコハケ(5本/cm) ヨコナテ ヨコハケ(5本/cm) | 淡灰褐色 褐色 茶褐色 | 石・灰(1~2) 金 ◎ | | |
| 92 | 壺 | 口径(27.2) 残高 5.6 | 複合口縁。口縁部無文。 マメツ | マメツ | マメツ | 乳赤褐色 乳赤褐色 | 石・灰(1~2) 金 ○ | | |
| 93 | 壺 | 口径(30.2) 残高 11.0 | 複合口縁。口縁部無文。 ヨコナテ ヨコナテ ハケ | ヨコナテ ヨコナテ ハケ | ヨコナテ ヨコハケ→ナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・灰(1~2) 金 ◎ | | |
| 94 | 壺 | 口径(38.4) 残高 5.5 | 複合口縁。口縁部無文。 複合口縁やや彫刻する。 ヨコナテ | ハケ(5本/cm) ヨコナテ | ヨコハケ(5本/cm) | 暗茶褐色 暗茶褐色 | 石・灰(1~2) 金 ◎ | | |
| 95 | 壺 | 口径(38.6) 残高 7.9 | 複合口縁。口縁部無文。 ハケ(1本/cm) ハケ(5本/cm) | ハケ(1本/cm) ハケ(5本/cm) | ハケ(1本/cm)→ヨコナテ | 乳灰褐色 乳黄褐色 | 石・灰(1~2) 金 ◎ | | |
| 96 | 壺 | 口径 16.4 残高 53.7 底径 10.6 | 口縁部無文。熱節部凸起。 大きくて厚い平底。 | ナデ ハケ ハケ(1本ナデ) | ナデ ナデ ナデ口沿ナデ上行 | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~2) 土 ◎ | | 20 |
| 97 | 壺 | 口径(39.9) 残高 8.5 | 複合口縁。口縁部無文。 腹部ヨコ直線1条以上。 | ヨコナテ ハケ | ヨコナテ ナデ | 淡茶褐色 乳白黑色 | 石・灰(1~2) 土 ◎ | | 21 |
| 98 | 壺 | 口径(39.6) 残高 6.9 | 複合口縁。口縁部彫刻小さく突起。無文。 | ヨコナテ ハケ(7本/cm) | ヨコナテ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・灰(1~2) 土 ◎ | | 21 |
| 99 | 壺 | 口径(31.7) 残高 7.2 | 複合口縁。口縁部外彫刻。無文。 | ハケ→ヨコナテ ヨコナテ ハケ(5本/cm) | ヨコナテ ヨコナテ ハケ→ヨコナテ | 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1~2) 金 ◎ | | 21 |
| 100 | 壺 | 口径 10.2 残高 5.7 | 複合口縁。細い頭部。口縁部無文。 | ヨコナテ ハケ→ヨコナテ | ヨコナテ ヨコハケ(6本/cm) | 乳赤褐色 乳赤褐色 | 石・灰(1~2) 金 ◎ | | 21 |
| 101 | 壺 | 口径(32.4) 残高 13.2 | 複合口縁。頭に凸巻をもつ。 口縁部無文。 | ヨコハケ(4本/cm) マメツ | マメツ | 棕褐色 茶褐色 | 石・灰(1~2) 土 ◎ | | 21 |
| 102 | 壺 | 口径(34.0) 残高 6.8 | 複合口縁。口縁部が著しく長い。 | マメツ(ハケ) | マメツ(ナデ) | 赤褐色 赤褐色 | 石・灰(1~2) 土 ◎ | | |

遺物観察表

(7)

土器滴り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 土 | 燒 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|---------------------|------------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|---------------------|--------------------|-----|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | | |
| 103 | 壺 | 口径(22.6) 残高 7.0 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部膨らむ。 | マメツ | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | 真褐色 真褐色 | 石・灰(1~3) ○ | | | |
| 104 | 壺 | 口径(16.3) 残高 6.7 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部膨らむ。 | ⑬ ヨコハケ→ヨコナデ ⑭ ハケ(15本/cm) | ⑮ ヨコナデ(マメツ) ⑯ ヨコハケ(12本/cm) | 乳白色 淡黃褐色 乳灰色 | 石・灰(1~3) ○ | | | |
| 105 | 壺 | 口径(15.4) 残高 4.8 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部膨らむ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | マメツ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1~3) ○ | | | |
| 106 | 甕 | 口径(15.0) 残高 2.9 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部膨らむ、複合部や火炎 部。 | ヨコナデ | ナデ | 赤茶色 赤茶色 | 石・灰(1~3) 金 ○ | | | |
| 107 | 壺 | 口径(21.1) 残高 3.5 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁外端部小きく突出する。 | マメツ | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | 灰褐色 淡黃褐色 淡灰褐色 | 石・灰(1~3) ○ | | 21 | |
| 108 | 甕 | 口径 19.6 残高 11.4 | 複合口縁。口縁部無文。 底部に削凹凸。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(8本/cm) | マメツ(一部ハケ) | 淡赤褐色 乳黃白色 | 石・灰(1~3) ○ | | | |
| 109 | 甕 | 口径(21.2) 残高 10.0 | 複合口縁。口縁部無文。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(8本/cm) | ⑬ マメツ ⑭ ハケ(8本/cm) | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~3) 金 ○ | | | |
| 110 | 壺 | 口径(17.1) 残高 7.5 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部膨らむ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(4本/cm) | ⑪ ヨコナデ ⑬ ヨコハケ | 灰褐色 灰褐色 | 石・灰(1~3) 金 ○ | | | |
| 111 | 壺 | 口径(19.5) 残高 10.3 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部膨らむ。 | ⑪ ヨコハケ→ナデ ⑫ ハケ(4本/cm) | ⑪ マメツ ⑬ ヨコハケ(マメツ) | 真褐色 真褐色 | 石・灰(1~3) 金 ○ | | 21 | |
| 112 | 甕 | 口径(20.7) 残高 7.6 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部膨らむ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(4本/cm) | ⑪ ヨコナデ ⑬ ヨコハケ(マメツ) | 真褐色 真褐色 | 石・灰(1~3) 金 ○ | | | |
| 113 | 壺 | 口径 22.2 残高 5.7 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部膨らむ。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(4本/cm) | ⑪ ヨコナデ ⑬ ハケ | 淡褐色 淡褐色 | 石・灰(1~3) ○ | | 22 | |
| 114 | 甕 | 口径(25.6) 残高 5.5 | 複合口縁。口縁部無文。 短い口縁部は外張する。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ⑪ ヨコナデ ⑬ マメツ | 真褐色 真褐色 | 石・灰(1~3) 金 ○ | | | |
| 115 | 壺 | 口径 20.6 残高 8.0 | 複合口縁。口縁部無文。 短い口縁部は外張する。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(5本/cm) | ⑪ ヨコナデ ⑬ ヨコハケ(4本/cm) | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~3) 金 ○ | | | |
| 116 | 壺 | 口径(15.4) 残高 8.1 | 複合口縁。口縁部無文。 底部に削凹凸。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 真褐色 | 石・灰(1~3) ○ | | 22 | |
| 117 | 甕 | 口径 14.8 残高 7.7 | 複合口縁。底部にヨコ直線 1条。口縁部に2条の化 粧文。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ | ⑪ ヨコナデ ⑬ ナデ | 赤褐色 赤褐色 | 石・灰(1~3) ○ | | | |
| 118 | 甕 | 口径(13.8) 残高 9.5 | 複合口縁。底部にヨコ直線 1条以上。 | マメツ | ナデ(マメツ) | 淡茶褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~3) ○ | | | |
| 119 | 壺 | 口径 14.4 残高 6.7 | 複合口縁。底部にヨコ直線 1条以上。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(12本/cm) | ⑪ ナデ ⑬ ヨコハケ | 灰褐色 灰褐色 | 石・灰(1~3) 金 ○ | | | |

遺物観察表

(8)

土器割り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調査 | | (外面 色調 (内面)) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|---------------------|---|-------------------------------------|---------------------------|--------------------|--------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 120 | 壺 | 口径(14.1) 残高 31.1 | 複合口縁。口縁部無文。 短い外反する頭部。 | ヨコナデ ハケ→ヨコナデ ハケ(8本/cm) | ヨコナデ ヨコハケ(8本/cm)→ナデ | 黄褐色 黄褐色 | 石・瓦(1~3) 全 ◎ | | 22 |
| 121 | 壺 | 口径(15.6) 残高 7.0 | 複合口縁。口縁部無文。 | ヨコナデ ハケ→ナデ ハケ(8本/cm) | ハケ→ナデ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石・瓦(1~3) ◎ | | |
| 122 | 壺 | 口径(13.4) 残高 7.1 | 複合口縁。口縁部無文。 | ヨコナデ ハケ(8本/cm)→ナデ | ヨコナデ ナデ | 淡茶色 白茶色 | 石・瓦(1~3) 全 ◎ | | 22 |
| 123 | 壺 | 口径(13.6) 残高 8.5 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部は外反する。 | ヨコナデ ハケ(8本/cm)→ヨコナデ ハケ(8本/cm) | ヨコナデ ヨコハケ(8本/cm) ナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・瓦(1~3) ◎ | | 22 |
| 124 | 壺 | 口径(16.8) 残高 7.9 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部は外反する。 | ヨコナデ ハケ(4本/cm)→マツメ ハケ(4本/cm) | ヨコハケ(4本/cm) | 茶褐色 茶褐色 | 石・瓦(1~3) ◎ | | |
| 125 | 壺 | 口径(13.6) 残高 7.3 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部は外反する。 | マメツ ハケ(8本/cm) | マメツ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・瓦(1~3) ◎ | | |
| 126 | 壺 | 口径(9.0) 残高 6.0 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部は外反する。 | ハケ→ヨコナデ ハケ(7本/cm) | ヨコハケ(6本/cm) ナデ | 灰黃褐色 黃褐色 | 石・瓦(1~3) ◎ | | 23 |
| 127 | 壺 | 口径(16.0) 残高 5.2 | 複合口縁。口縁部無文。 口縁部は外反する。 | ナデ(マメツ) ハケ(マメツ) | マメツ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・瓦(1~3) ◎ | | 23 |
| 128 | 壺 | 口径(15.2) 残高 7.0 | 複合口縁。口縁部無文。 長い口縁部は外傾する。 | マメツ | マメツ | 黃褐色 淡黃褐色 | 石・瓦(1~3) ◎ | | 23 |
| 129 | 壺 | 口径(13.1) 残高 9.2 | 複合口縁。口縁部無文。 長い口縁部。 | ヨコハケ(8本/cm)→ナデ ヨコナデ ハケ(8本/cm) | ヨコナデ ヨコハケ(8本/cm) | 淡褐色 淡褐色 | 石・瓦(1~3) ◎ | | 22 |
| 130 | 壺 | 口径(16.2) 残高 6.7 | 複合口縁。口縁部無文。 丸みをもつ口縁部。 | マメツ | ナデ ヨコナデ | 黃褐色 黃褐色 | 石・瓦(1~3) 全 ◎ | | |
| 131 | 壺 | 口径(9.0) 残高 7.6 | 複合口縁。口縁部無文。 ふくらみをもつ口縁部は、 罐底がわざかに外傾。 | ナデ ハケ(6本/cm) | ナデ | 不規則色 茶褐色 | 石・瓦(1~3) ◎ | | 23 |
| 132 | 壺 | 口径(12.5) 残高 9.1 | 複合口縁。口縁部無文。 ゆるやかに内窪する口縁部。 | ヨコナデ ハケ→ヨコナデ | ヨコナデ ハケ→ナデ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・瓦(1~3) 全 ◎ | | 23 |
| 133 | 壺 | 口径(9.4) 残高 9.3 | 複合口縁。口縁部無文。 長い内傾する口縁部。 | マメツ | マメツ(ナデ) | 茶褐色 黃褐色 | 石・瓦(1~3) 全 ◎ | | 23 |
| 134 | 壺 | 口径 10.9 | 複合口縁。内傾する頭部。 | ハケ(8本/cm) | ハケ→ナデ マメツ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・瓦(1~3) 全 ◎ | | |
| 135 | 壺 | 残高 16.2 | 複合口縁。腹部に刻目凸唇。 刻目は板状の木口。 | ハケ(8本/cm) | マメツ ハケ | 乳白色 乳黃色 | 石・瓦(1~3) 全 ◎ | | 23 |
| 136 | 壺 | 残高 10.5 | 複合口縁。頭部に刻目凸唇。 | ハケ(8本/cm)→ヨコナデ ナデ | ハケ(8本/cm)→ナデ | 黃褐色 灰黃褐色 | 石・瓦(1~3) 全 ◎ | | |

遺物観察表

土器調査表 土製品

(9)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外觀) 色調 (内面) | 胎 土 焼 | 備考 | 回版 |
|-----|----|------------------------------|---|---|--------------------------------------|--------------------|-----------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 137 | 壺 | 残高 8.3 | 複合口縫。瓶部に刻目凸唇。 凸唇に刻目。刻目は瓶状の木口。 | (口縫上) ハケ→ヨコナデ (口縫下) ヨコナデ | ヨコハケ ナデ | 淡赤褐色 黑色 | 石・黄(1~7) 金 @ | | 23 |
| 138 | 壺 | 口径(13.0) 残高 24.0 | 複合口縫。ゆるやかに内側 する瓶部。 | ハケ | ナデ | 淡赤褐色 乳白色 | 石・長(1~3) 金 @ | | |
| 139 | 壺 | 口径(16.0) 残高 14.2 | 複合口縫。ゆるやかに内側 する瓶部。 | (口縫) マメツ (口縫) ヨコハケ | マメツ ハケ | 淡黃褐色 暗褐色 | 石・黄(1~3) 金 @ | | |
| 140 | 壺 | 口径(16.0) 残高 10.3 | 複合口縫。短い瓶部。 | (口縫) ヨコナデ (口縫) ハケ→ナデ (口縫) ハケ(4本/cm) | ヨコナデ ハケ(4本/cm) ナデ | 淡白褐色 淡黃褐色 | 石・黄(1~5) 金 ○ | | |
| 141 | 壺 | 口径(16.0) 残高 9.2 | 複合口縫。瓶部に刻目凸唇。 | マメツ | マメツ | 黃褐色 黃褐色 | 石・長(1~6) 金 @ | | 23 |
| 142 | 壺 | 口径(16.0) 残高 6.7 | 複合口縫。瓶部に刻目凸唇。 | (口縫) ナデ (口縫) マメツ(手びきハケ) (口縫) ヨコハケ | ナデ マメツ ヨコハケ | 賀褐色 黃褐色 | 石・長(1~4) 金 @ | | 23 |
| 143 | 壺 | 残高 6.3 | 複合口縫。瓶部凸唇には斜 格子目文の刻目。 | ハケ | (口縫) ヨコハケ (口縫) ナデ | 淡紅茶色 淡黃褐色 | 石・長(1~3) 金 @ | | 23 |
| 144 | 壺 | 残高 5.0 | 複合口縫。瓶部凸唇には斜 格子目文の刻目。 | (口縫) マメツ(手びきハケ) (口縫) ヨコハケ | マメツ | 乳茶色 淡黃色 | 石・長(1~3) 金 @ | | 23 |
| 145 | 壺 | 残高 5.7 | 複合口縫。瓶部凸唇には斜 格子目文の刻目。 | ハケ(3本/cm) | ナデ | 淡褐色 茶褐色 | 石・長(1~4) 金 @ | | |
| 146 | 壺 | 残高 7.4 | 複合口縫。瓶部内側には斜 格子目文の刻目。 | ハケ(4本/cm) | (口縫) ハケ(3本/cm) (口縫) ナデ (口縫) ハケ | 淡灰褐色 淡灰褐色 ○ | 石・長(1~4) | | |
| 147 | 壺 | 残高 6.7 | 複合口縫。瓶部凸唇には斜 格子目文の刻目。 (瓶部にわざかにチテハケ) | マメツ | マメツ | 暗褐色 暗褐色 | 石・長(1~6) ○ | | |
| 148 | 壺 | 口径(21.0) 残高 4.9 | 細い瓶部に、短く外反する 口縫部をもつ。 | (口縫) ハケ→ヨコナデ (口縫) ハケ(8本/cm) | (口縫) ヨコナデ (口縫) ナデ (口縫) ヨコハケ | 淡褐色 淡褐色 ○ | 石・長(1~3) 金 @ | | |
| 149 | 壺 | 口径(14.0) 残高 7.4 | 短い瓶部に、短く外反する 口縫部をもつ。 | (口縫) ヨコナデ (口縫) マメツ | ヨコナデ ナデ ケズリ | 淡黃褐色 淡黃褐色 ○ | 石・長(1~4) | | |
| 150 | 壺 | 口径(17.0) 残高 8.3 | 短い瓶部に、短く外反する 口縫部をもつ。 | (口縫) ヨコナデ (口縫) ヨコハケ | ヨコナデ ナデ | 淡赤褐色 淡赤褐色 | 石・長(1~6) ○ | | |
| 151 | 壺 | 口径(15.0) 残高 5.2 | 短い瓶部に、短く外反する 口縫部をもつ。 | (口縫) ヨコナデ (口縫) ヨコハケ | ヨコナデ ナデ | 淡褐色 淡赤褐色 | 石・長(1~3) 金 @ | | |
| 152 | 壺 | 口径 10.0 器高 24.7 底径 6.4 | 短い瓶部に、短く外反する 口縫部をもつ。 | (口縫) ヨコナデ (口縫) ハケ | ヨコナデ ナデ ハケ ナデ | 乳黃茶色 乳黃茶色 | 石・長(1~3) 金 @ | 黒斑 | 24 |
| 153 | 壺 | 口径(19.0) 残高 14.3 | 短い瓶部に、短く外反する 口縫部をもつ。 | (口縫) ヨコナデ (口縫) ハケ→ヨコナデ (口縫) ハケ | ヨコナデ ナデ ヨコハケ | 淡褐色 淡褐色 | 石・長(1~4) 金 @ | | |

遺物観察表

(10)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|-------------------------------|--|---|---|--------------------|--------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 154 | 壺 | 口径(18.5) 残高 5.7 | 短い頸部に、短く外反する口 縁部をもつ。剥突文かと思われるもの2ヶあり。 | ヨコナデ ナテ→ヨコナデ | ヨコヘラ・ナテ | 淡黄茶色 淡黄茶色 | 石・灰(1~3) ② | | |
| 155 | 壺 | 口径(16.0) 残高 4.3 | 短い頸部に、短く外反する口 縁部をもつ。 | 口張 ナテ ナテ左側の工具痕あり | ナテ | 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1~4) ② | | |
| 156 | 壺 | 口径(16.8) 残高 20.1 | 短い頸部に、外反する口縁 部をもつ。 | 口張 ヨコナデ 網上 ハケ(5本/cm) 網下 ハケ(2本/cm) | 口張 ヨコナデ 網上 ナテ 網下 ナテ上げ | 赤褐色 赤褐色 | 石・灰(1~3) ② | | |
| 157 | 壺 | 口径(15.5) 残高 6.7 | 短い頸部に、外反する口縁 部をもつ。 | ヨコナデ (頭・足)ハケ | 口張 マメツ (頭)ハケ | 淡黄褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1~3) ② | | |
| 158 | 壺 | 口径(14.7) 残高 5.4 | 短い頸部に、外反する口縁 部をもつ。 | ヨコナデ ハケ(7本/cm) | ヨコナデ ハケ(8本/cm) | 湖綿點 湖綿點 | 石・灰(1~3) ② | | |
| 159 | 壺 | 口径(16.4) 残高 4.7 | 短い頸部に、外反する口縁 部をもつ。 | ヨコナデ 網 ハケナテ 網 ハケ(5本/cm) | ヨコナデ マメツ | 乳茶色 乳黃色 | 石・灰(1~3) ② | | |
| 160 | 壺 | 口径 15.0 残高 14.2 | 短い頸部に、外反する口縁 部をもつ。 | 口張 ヨコナデ 網上 ハケ(5本/cm) 網下 マメツ | 口張 ハケ→ヨコナデ (網上) ハケ(2本/cm) (網下) ナテ | 蒸褐色 茶褐色 | 石・灰(1~3) 金 ② | | |
| 161 | 壺 | 口径(14.1) 残高 8.6 | 短い頸部に、外反する口縁 部をもつ。 | 口張 ヨコナデ 網網 ハケ(5本/cm) | 口張 マメツ (頭)ハケ | 白茶褐色 黄褐色 | 石・灰(1~3) 金 ② | | |
| 162 | 壺 | 口径(19.2) 残高 23.0 | 短い頸部に、外反する口縁 部をもつ。 | 口張 ヨコナデ 網網 ハケ(5本/cm) | ヨコナデ ハケ(12本/cm) (網上) ナテ (網下) ハケ→ナテ | 淡黃色 淡黃褐色 | 石・灰(1~3) 金 ② | | |
| 163 | 壺 | 口径 15.0 器高 31.2 底径 5.3 | 内縫の後、直立して立ち上 がる頸部に、外反する口縁 部をもつ。剥突文が部分的 にある。 | 口張 ハケ→ナテ 網網 ハケ(5本/cm) 網下 ナテ | 口張 ヨコナデ ハケ(5本/cm) | 黄褐色 青灰褐色 | 石・灰(1~3) ② | | 24 |
| 164 | 壺 | 口径(17.0) 器高 29.7 底径 5.4 | 内縫の後、直立して立ち上 がる頸部に、外反する口縁 部をもつ。 | ナテ ハケ→ナテ 網網 ハケ(5本/cm) 網下 マメツ | 口張 ナテ 網上 ハケ(7本/cm) 網下 ハケ→ナテ | 淡褐色 乳褐色 | 石・灰(1~3) ② | | 24 |
| 165 | 壺 | 口径(15.2) 残高 30.0 | 内縫の後、直立して立ち上 がる頸部に、外反する口縁 部をもつ。剥突文が部分的 にある。 | ナテ ハケ 網網 ハケ(5本/cm) | ハケ ナテ (網上) ナテ↑; (網下) 板ナテ | 淡黃褐色 灰色 | 石・灰(1~3) ② | | |
| 166 | 壺 | 口径 9.7 器高 24.8 | 内縫の後、直立して立ち上 がる頸部に、外反する口縁 部をもつ。剥突文が部分的 にある。 | 口張 ハケ→ヨコナデ 網上 ハケ(5本/cm) 網下 マメツ | ハケ(12本/cm) (網上) ナテ (網下) ナテ | 淡茶褐色 淡黑褐色 | 石・灰(1~3) ② | | 24 |
| 167 | 壺 | 口径(12.8) 残高 12.6 | 内縫の後、直立して立ち上 がる頸部に、外反する口縁 部をもつ。口縫端面上に挫 擦1条。 | ヨコナデ ハケ ハケ→ナテ | ナテ→ヨコハケ ナテ上げ→ヨコナデ (網上) ナテ↑; (網下) 板ナテ | 茶褐色 青灰褐色 | 石(2~4) ② | | |
| 168 | 壺 | 口径(10.8) 器高 24.7 底径 5.6 | 内縫する太い頸部に、短く 外反する口縁部をもつ。 | 口張 ナテ ハケ(8~8.6cm) ナテ | ナテ ハケ→ナテ (網上) ナテ (網下) ハケ→ナテ | 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1~3) ② | | 25 |
| 169 | 壺 | 口径(9.0) 器高 13.0 | 内縫する太い頸部に、短く 外反する口縁部をもつ。 | ヨコナデ 網網 ハケ(5本/cm) | ナテ | 灰黃褐色 茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 ② | | |
| 170 | 壺 | 口径 8.6 器高 17.5 底径 2.2 | 内縫する太い頸部に、短く 外反する口縫部をもつ。 | 口張 工具痕 網 网 ナテ | マメツ ナテ ナテ(工具痕) | 乳黃茶色 乳黃茶色 | 石・灰(1~3) ② | | 25 |

遺物観察表

土器窯り出土遺物観察表 土製品

(1)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | 胎 土 燒 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|--------------------------------|--|---|---|--------------|---------------|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | |
| 171 | 壺 | 口径(9.3) 残高 10.5 | 内縦するやや扁い瓶形に、 外側に外れる口部。斜格子文で先端を三角文 と施す。 | ハケ(11本/cm) | ⑪ ハケ (内面) ナデ | 孔黄褐色 乳黄褐色 | 石・灰(1~3) 金 | 25 |
| 172 | 壺 | 口径(8.8) 残高 13.0 | 内縦に立てる長い口・瓶 形。底部と胴部の境は不明瞭。 | ハケ | ⑩ 口縁 ナデ ⑫ マツツ | 淡黄茶色 淡黄茶色 | 石・灰(1~3) 金 | 25 |
| 173 | 壺 | 口径 8.3 最高 19.2 底径 3.0 | 直立するやや長い口・瓶形。 反様形の胴部に、平底。 | ⑪ 口縁 ナデ ⑫ 横刷 ナリ(1本/cm) | ⑪ 口縁 ヨコナデ ⑬ ナデ上げ ⑭ ハケ | 淡黄褐色 底黄茶色 | 石・灰(1~3) 金 | 25 |
| 174 | 壺 | 口径(10.0) 残高 11.6 | 直立するやや長い口・瓶形。 瓶・胴部の内縦に縦をもつ。 | マツツ | マツツ | 褐色 褐色 | 石・灰(1~4) ○ | 黒斑 |
| 175 | 壺 | 口径(12.0) 残高 15.6 | やや長い口・瓶形をもつ。 瓶部は直立・外傾する。 | ⑪ 口縁 マツツ ⑫ 横刷 ハケ(1本/cm) | ⑪ 口縁 ハケ(3本/cm) ⑬ ナデ ⑭ ハケ(2~9本/cm) | 赤褐色 黃褐色 | 石・灰(1~4) 金 | |
| 176 | 壺 | 口径(12.8) 残高 8.6 | やや長い口・瓶形をもつ。 瓶部は直立・外傾する。 瓶部に斜目凸巻。 | ⑪ 口縁 ヨコナデ ⑫ ハケ→ナデ ⑬ ハケ | ⑪ 口縁 マツツ ⑬ マツツ(1本か2本)ハケ | 淡褐色 茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 | |
| 177 | 壺 | 口径(11.0) 最高 32.6 底径(6.2) | やや長い口・瓶形をもつ。 瓶部は直立・外傾する。 | ⑪ 口縁 ハケ(3本/cm) ⑫ 横刷 ハケナデ ⑬ 底下 ナデ | ⑪ 口縁 ナデ ⑬ ハケ(3本/cm) ⑭ ナデ | 淡黄褐色 底黄白色 | 石・灰(1~3) 金 | 26 |
| 178 | 壺 | 口径(18.2) 底径 8.3 | やや長い口・瓶形をもつ。 瓶部は直立・外傾する。 瓶部に三角内凹。 | ⑪ 口縁 ヨコナデ ⑫ 口縁 ハケ→ナデ | マツツ | 淡茶色 淡茶色 | 石・灰(1~3) ○ | |
| 179 | 壺 | 口径 15.8 残高 9.3 | やや長い口・瓶形をもつ。 瓶部は直立・外傾する。 瓶部に斜目凸巻。 | ⑪ ヨコナデ ⑫ ハケ(3本/cm) | ⑪ ヨコナデ ⑬ ナデ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 | |
| 180 | 壺 | 口径(12.8) 残高 13.0 | やや長い口・瓶形をもつ。 瓶部に施刻1条・板状の本 口による押し文。異形。 | ハケ | ⑪ 口縁 ナデ ⑬ ハケ→ナデ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~3) ○ | 26 |
| 181 | 壺 | 口径(11.4) 残高 21.6 | やや長い口・瓶形をもつ。 瓶部は直立・外傾する。 記号と思われるもの1ヶ所ある。 | ⑪ 口縁 ヨコナデ ⑫ 口縁 ハケ(1~3本/cm) | ⑪ 口縁 ヨコナデ ⑬ 口縁 ナデ | 底黄茶色 底黄茶色 | 石・灰(1~3) 金 | 備 |
| 182 | 壺 | 口径 12.0 最高 20.3 底径 5.8 | やや長い口・瓶形をもつ。 瓶部は直立・外傾する。 瓶部の本口による押し文。 | ⑪ 口縁 ハケ(2~3本/cm) ⑫ ハケ(4本/cm) ⑬ ハケ(12本/cm) | ⑪ ヨコナデ ⑬ ナデ上げ ⑭ ハケ | 淡茶色 淡茶色 | 石・灰(1~3) ○ | 黒斑 |
| 183 | 壺 | 口径 9.2 最高 24.5 底径 4.6 | 筒状で、長い口・瓶形をもつ。 反様形の胴部。平底。 完形品。 | ⑪ 口縁 ハケ→ナデ ⑫ 口縁 ハケ(1本/cm) | ナデ (接觸机・工具痕あり) | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~4) ○ | 備 |
| 184 | 壺 | 口径 11.3 残高 22.8 | 筒状で、長い口・瓶形をもつ。 長錐形の胴部。 | ハケ(5本/cm) | ⑪ 口縁 マツツ ⑬ ハケ→ナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・灰(1~4) 金 | |
| 185 | 壺 | 口径(12.0) 最高 29.1 底径 5.3 | 筒状で、長い口・瓶形をもつ。 反様形の胴部。平底。 | ハケ(9本/cm) | ⑪ ハケ ⑫ 横刷 ナデ ⑬ ナデ上げ ⑭ ナデ | 白黄褐色 白黄褐色 | 石・灰(1~3) 金 | 27 |
| 186 | 壺 | 口径 9.7 最高 27.3 底径 4.8 | 筒状で、長い口・瓶形をもつ。 瓶部が強く傾る。丸み のある平底。擦刻あり。 | ⑪ 口縁 ハケ(6本/cm) ⑫ 横刷 ナデ ⑬ フコハケ ⑭ ナデ | ⑪ 口縁 ナデ ⑬ ナデ上げ | 淡褐色 淡褐色 | 石・灰(1~3) 金 | 27 |
| 187 | 壺 | 口径 9.1 最高 25.6 底径 4.1 | 筒状で、長い口・瓶形をもつ。 瓶部下半の棘りが鋭い。 擦刻あり。 | ⑪ 口縁 マツツ ⑫ 底下 ハケ | ナデ上げ | 乳白褐色 淡黄褐色 | 石・灰(1~3) 金 | 黒斑 |

遺物観察表

土器窯より出土遺物観察表 土製品

(12)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 國版 |
|-----|----|-------------------------------|--|--|--|--------------------|-------------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 188 | 盃 | 口径(9.5) 器高 25.3 底径 5.8 | 筒状で、長い口・腹部をもつ。肩部に最大径をもつ。 | ⑥ ナテ ⑦  ハケ 5~6本/cm ⑧ ナテ | ナテ | 黄褐色 暗灰色 | 石・長(1~5) 金 ② | 美觀 | 27 |
| 189 | 盃 | 口径(17.0) | 筒状で、長い口・腹部をもつ。縁さきの跡+タテ擦り跡あり。 | ナテ | ⑨ ハケ(5~6本/cm) →ナテ ⑩ ナテ | 黄褐色 灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ② | | |
| 190 | 盃 | 口径 13.7 器高 16.3 | 筒状で、長い口・腹部をもつ。 | ⑪ ハケ +ヨコナテ ⑫ ハケ→ナテ | ナテ(マツ) | 淡黃褐色 淡黃灰色 | 石・長(1~4) 金 ② | | 28 |
| 191 | 壺 | 口径(11.2) 残高 20.8 | 筒状で、長い口・腹部をもつ。肩小位にM字状の凸等。頭・腹部に小さな凸位。 | ⑬  ヨコナテ ⑭  ヘラミガキ ⑮ ハケ | ⑯  ナテ ⑰ ハケ(5本/cm) | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・長(1~4) アンサン 金 ② | 黒斑 | 28 |
| 192 | 壺 | 残高 14.2 | 筒状で、長い口・腹部をもつ。口部にヨコの施文5条以上+6条+7条+7条+6条+3条以上。 | タテヘラミガキ | ⑪ ヨコナテ ⑫ ナテ | 茶褐色 茶褐色 | 石・長(1~3) 金 ② | | 28 |
| 193 | 壺 | 口径(11.7) 残高 12.1 | 筒状で、長い口・腹部をもつ。ヨコの施文6条+7条+7条+7条以上。 | タテヘラミガキ | ナテ | 茶褐色 茶褐色 | 石・長(1~3) 金 ② | | 28 |
| 194 | 壺 | 残高 3.3 | 異形。肩部は平らで、腰をもって腹部下半につながる。液状灰7条。 | ⑬ ミガキ ⑭ ヨコナテ | しばり痕、ナテ | 乳白色 灰色 | 石・長(1~4) 金 ② | 黒斑 | 28 |
| 195 | 盃 | 口径(6.4) 器高 31.6 底径 3.6 | 内側する長い口・腹部をもつ。ヨコの施文は6条+12条+波状3条+ヨコ7条。 | ⑮  ミガキ ⑯ ハケ+ミガキ | ⑭ ヨコナテ ⑮  ナテ | 淡茶色 暗灰色 | 石・長(1~3) 金 ② | 黒斑 | 28 |
| 196 | 壺 | 口径(24.4) 器高 44.1 底径 7.0 | 外輪する長い口・腹部、球形の崩壊。平底。無文。完形品。 | ハテ(1部マツ) | ハケ(1部ナテ) | 乳白色 乳白色 | 石・長(1~2) 金 ② | | 29 |
| 197 | 盃 | 残高 13.8 | 外輪する頸部。半数竹管による記念的な文様。封緘文の完形による二角剖文。 | マツ | ナテ | 青褐色 黄褐色 | 石・長(1~3) 金 ② | | 29 |
| 198 | 壺 | 口径(18.1) 残高 15.1 | 外輪する口・腹部。頸部に二角凸帯。 | ⑯  ヨコナテ ⑰ ハケ(5本/cm) ⑱ ヨコナテ | ナテ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・長(1~7) 金 ② | | |
| 199 | 壺 | 残高 8.3 | 頸部に二角凸帯。 | ⑲ ハケ(8本/cm) ⑳ ハケ(4本/cm) | ハケ(5~8本/cm) | 淡褐色 乳白色 | 石・長(1~3) 金 ② | | 30 |
| 200 | 壺 | 残高 10.5 | 頸部に二角凸帯。凸帯下に「ノ」の字状の刻文。 | ㉑ ハケ(マツ) ㉒ マツ | マツ | 赤褐色 赤褐色 | 石・長(1~3) ○ | | 30 |
| 201 | 壺 | 残高 8.2 | 頸部に二角凸帯。 | ㉓ ナテ ㉔ ハケ+ナテ | ナテ | 青褐色 灰褐色 | 石・長(1~4) 金 ② | | 30 |
| 202 | 壺 | 残高 8.4 | 頸部に二角凸帯。 | ㉕ ハケ(4~5本/cm) ㉖ ナテ | ハケ(4本/cm)、マツ | 淡黃褐色 淡灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ② | | 30 |
| 203 | 壺 | 残高 11.4 | 頸部に二角凸帯。 | ハケ(7本/cm) | ハケ(6~7本/cm)、ナテ | 淡褐色 黄褐色 | 石・長(1~3) 金 ② | | 30 |
| 204 | 壺 | 残高 12.4 | 頸部に二角凸帯。別口は布か掛。 | ㉗  ハケ(10本/cm) ㉘  ヨコナテ | ㉘  ハケ+ナテ ㉙  ハケ+ヨコナテ | 淡茶色 淡茶色 | 石・長(1~3) 金 ② | | 30 |

遺物観察表

土器窯り出土遺物観察表 土製品

(1)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|-------------------------------|---|---|--|--------------------|-------------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 205 | 壺 | 残高 4.6 | 腹部に二点凸帯。凸帯の上側に半截竹管の刺突文、下側に割突文。 | マメツ (一帯にハケあり) | 剥離 | 淡茶褐色 乳黃灰色 | 石・灰(1~3) ② | | 20 |
| 206 | 壺 | 残高 8.5 | 腹部に刻目凸帯。刻目は、木口の押印による彫物丁目文。 | ハケ(4本/cm) | ナテ | 淡茶褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~3) ② | | 30 |
| 207 | 壺 | 残高 6.5 | 腹部に刻目凸帯。刻目は斜格子目文。 | タテハケ | ナテ | 黃褐色 黃褐色 | 石・灰(1~3) ② | | 30 |
| 208 | 壺 | 残高 6.3 | 腹部に刻目凸帯。刻目は斜格子目文。内面に半截竹管の刺突文。 | ハケ(8~9本/cm) | 口部 (剥離) ハケ (剥離) ナテ | 乳茶褐色 乳茶褐色 | 石・灰(1~3) ② | | 30 |
| 209 | 壺 | 口径(10.6) 残高 20.0 | 脚付壺。外反する口・頭部をもつ。頭部下半に強大径をもつ。 | 口部 (剥離) マメツ (剥離) ミガキ | 口部 (剥離) マメツ (剥離) ナテ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~3) 金 ② | | 31 |
| 210 | 壺 | 口径 6.1 残高 13.6 | 脚付壺。脚部に円孔あり。頭中柱が強大径となる。 | 口部 (剥離) ヨコナデ ハケ(12~14本/cm) (剥離) ハケ×1カキ | 口部 ヨコナデ ナテ | 淡褐色 淡褐色 | 石・灰(1~3) ② 剥離 | | 31 |
| 211 | 壺 | 口径(9.4) 残高 13.6 | 脚付壺。脚部が膨大となる。 | 口部 (剥離) マメツ (剥離) ハケ(10本/cm) | 口部 (剥離) マメツ (剥離) ハケ(10本/cm) | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1~3) 金 ② | 剥離 | 31 |
| 212 | 壺 | 口径(8.5) 残高 12.8 底径 4.6 | そろばん模様の頭部に、短く外反する口・頭部をもつ。平底。口縁部に円孔。 | 口部 (剥離) ヨコナデ (剥離) ナテ (剥離) ケズリ | 口部 (剥離) ナテ (剥離) ナテ→ナテ | 黃褐色 茶褐色 | 石・灰(1~3) 金 ② | 黒斑 | 31 |
| 213 | 壺 | 口径 8.5 残高 13.0 底径 4.5 | そろばん模様の頭部に、短く外反する口・頭部をもつ。平底。口縁部に円孔。 | 口部 (剥離) マメツ | マメツ | 褐色 灰褐色 | 石・灰(1~3) ② | 剥離 | |
| 214 | 壺 | 口径 10.2 器高 14.0 底径 5.4 | そろばん模様の頭部に、短く外反する口・頭部。頭部に強大径。口縁部に小円孔。底部地盤削痕孔。 | マメツ | マメツ | 褐色 乳黃色 | 石・灰(1~3) ○ | 黒斑 | 31 |
| 215 | 壺 | 口径(10.9) 残高 3.6 | 短く外反する口・頭部。半截竹管の刺突文3段。 | (口部) (剥離) ヨコナデ (剥離) マメツ | ナテ | 乳灰褐色 淡乳褐色 | 石・灰(1~3) ② | 黒斑 | 31 |
| 216 | 壺 | 口径(8.4) 残高 4.9 | 短く外縁する口・頭部。 | マメツ | 口部 (剥離) ヨコナデ (剥離) ナテ | 淡黃褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1~3) ② | | |
| 217 | 壺 | 口径(21.4) 残高 5.1 | 異形。板をもって強く外反する口縁部。縁部に沈れ2条。 | (剥離) ハケ→ヨコナデ (剥離) ハケ(8本/cm) | (剥離) ミガキ (剥離) ハケ(8本/cm) (剥離) ナテ | 灰黃褐色 灰黃褐色 | 石(1~10) 石(金)~2) ② | | 32 |
| 218 | 壺 | 口径(20.0) 残高 4.4 | 異形。やや長い口縁部。口縁部に5~6ヶの刻目文。 | ハケ→ナテ | ナテ(工具痕) | 茶褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~3) ② | | 32 |
| 219 | 壺 | 口径(15.6) 残高 5.1 | 異形。上外方に伸びる口縁部。口縁部に2条の凹彫文。 | (剥離) ヨコナデ (剥離) ハケ | ヨコナデ | 暗褐色 黑灰色 | 石・灰(1~3) 金 ② | | 32 |
| 220 | 壺 | 口径(15.9) 残高 7.0 | 異形。内縁する頭部に、短く外反する口縁部。唇部の凹凸が苦しい。 | ナテ | ナテ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1~3) 金 ② | | 32 |
| 221 | 壺 | 口径(14.6) 残高 8.0 | 内傾し、外反する口・頭部。口縁部に刻目文。口縁下に接合部。 | ナテ | (口部) (剥離) ヨコナデ (剥離) ナテ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1~3) 金 ② | | 32 |

遺物観察表

土器泥り出土遺物観察表 土製品

14

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 燒 | 土 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|---------------------|--------------------------------------|--|---|--------------------|---------------|--------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | | |
| 222 | 壺 | 口径(15.0) 底高 6.3 | 異形。ツメによる2段の割 突文。 | ⑪ ヨコナテ ⑫ ハケ | ⑪ ヨコナテ ⑫ ナゲ | 暗赤褐色 暗黄褐色 | 赤・黄(1-6) ◎ | | | 32 |
| 223 | 壺 | 口径 14.8 底高 4.6 | 異形。強く外反する口・強 厚壁。口縁端部は内外にやや 扭屈。 | ハケ→ヨコナテ | マメツ | 茶褐色 黄褐色 | 石・灰(1-3) ◎ | 黒底 | | 32 |
| 224 | 壺 | 残高 17.2 底径 8.4 | 大型品底部。平底。 | (脚上) ハケ(4本/cm) (脚下) マメツ | ⑩ ハケ(4-5本/cm) ⑫ ナゲ | 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1-3) ◎ | 黒底 | | |
| 225 | 壺 | 残高 10.7 底径 8.4 | 大型品底部。平底。 | ⑩ 1ガキ ⑫ ナゲ | マメツ | 乳灰色 孔灰色 | 石・灰(1-4) ◎ | 黒底 | | |
| 226 | 壺 | 残高 14.8 底径(8.8) | 大型品底部。立ち上がりを もつ底。 | ⑩ ハケ→ナゲ ⑫ マメツ | ⑩ ハケ(10本/cm) ナゲ ⑫ ナゲ | 淡黄褐色 茶褐色 | 石・灰(1-6) ◎ | | | |
| 227 | 壺 | 残高 11.8 底径(10.2) | 大型品底部。立ち上がりを もつ平底。 | ⑩ マメツ ⑫ ハケ | マメツ | 明褐色 明褐色 | 石・灰(1-3) ◎ | | | |
| 228 | 壺 | 残高 19.4 底径 6.4 | 中型品。胴中位が著しく張 る。厚い平底。 | ⑩ ハケ ⑪ ハケ+ミガキ ⑫ ハケ | (脚上) 根ナゲ (脚下) マメツ | 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1-4) ◎ | | | 32 |
| 229 | 壺 | 残高 19.1 底径 6.4 | 中型品。胴中位が著しく張 る。厚い平底。 | (脚上) ハケ(6本/cm) (脚下) ハケ(1本/cm) ⑩ ナゲ | ⑩ ハケ(6本/cm) ⑪ ナゲ | 黄褐色 灰褐色 | 石・灰(1-3) ◎ | 黒底 | | 32 |
| 230 | 壺 | 残高 17.8 底径 7.5 | 中型品。胴中位が張る。 厚い平底。 | (脚上) ハケ(5本/cm) (脚下) ハケ(5本/cm) ⑩ ナゲ | ⑩ ハケ(5-7本/cm) ⑪ ナゲ | 灰褐色 灰褐色 | 石・灰(1-4) ◎ | | | |
| 231 | 壺 | 残高 12.1 底径 6.3 | 中型品。長楕円。立ち上がり のある平底。 | ⑩ ハケ(4本/cm) ⑫ ナゲ | ナゲ | 乳黃褐色 黄褐色 | 石・灰(1-6) ◎ | 黒底 | | |
| 232 | 壺 | 残高 10.8 底径 4.2 | 小型品。球形の胴部。 平底。 | ⑩ ハケ ⑫ 木質擦 | ナゲ(工具痕) | 孔褐色 灰色 | 長(1-2) ◎ | | | 32 |
| 233 | 壺 | 残高 24.2 底径 6.1 | 中型品。胴中位が著しく張 る。平底。 | (脚上) ハケ(12-13本/cm) (脚下) ハケ(5-6本/cm) (脚上) ハケ(12-13本/cm) | ナゲ | 黄褐色 赤褐色 | 石・灰(1-2) ◎ | 黒底 | | 32 |
| 234 | 壺 | 残高 25.0 底径 6.5 | 中型品。長楕円の胴部。 丸みのある平底。 | ハケ(3本/cm) | ⑩ ハケ(3本/cm) ⑫ ナゲ | 淡黄褐色 孔黃褐色 | 石・灰(1-2) ◎ | 黒底 | | |
| 235 | 壺 | 残高 11.2 底径 4.1 | 中型品。球形の胴部。 厚く、丸みのある平底。 | (脚上) ハケ(7本/cm) (脚下) ハケ+ケズリ (脚上) ハケ→ナゲ | ⑩ ハケ(11-12本/cm) ⑪ ハケ→ケズリ (脚下) ハケ(マメツ) | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1-5) ◎ | 出選 | | |
| 236 | 壺 | 残高 22.0 底径 4.6 | 中型品。長楕円の胴部。 厚く、丸みのある平底。 | ハケ(6-7本/cm) | ナゲ | 赤褐色 赤褐色 | 石・灰(1-4) ◎ | | | |
| 237 | 壺 | 残高 12.1 底径 4.0 | 中型品。球形の胴部。 丸みのある平底。 | マメツ | マメツ | 乳黃色 淡黃褐色 | 石・灰(1-3) ◎ | 出選 | | |
| 238 | 壺 | 残高 15.3 底径 4.2 | 小型品。長楕円の胴部。 平底。 | ナゲ(マメツ) | ナゲ | 褐色 褐色 | 石・灰(1-4) ◎ | | | |

遺物観察表

土器溝り出土遺物観察表 土製品

(1)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 土 焼成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|-------------------|----------------------------------|----------------------------|---------------------|--------------------|--------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 239 | 壺 | 残高 8.9 | 腹部にココ蘆縫 1条以上。肩部に縦割。 | ハケ(マメツ) | ハケ→ナデ | 黄褐色 黄褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 240 | 壺 | 残高 8.4 | 肩部に縦割。 | ハケ(マメツ) | ハケ(マメツ)→ナデ | 黄褐色 黄褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 241 | 壺 | 残高 11.7 | 肩部に縦割。 | ハケ(5本/cm) | ④ ナデ ⑤ ハケ(5本/cm) | 黄灰褐色 黄灰褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 242 | 壺 | 残高 6.4 | 肩部に縦割。 | ハケ(5本/cm) | ナデ | 褐色 褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 243 | 壺 | 残高 22.6 底径 5.5 | 頭部に刻目凸帯。肩部に縦割。 | ⑥ ハケ(8本/cm) ⑦ ナデ | ⑧ ナデ ⑨ ハケ(5本/cm) | 黄灰褐色 黄灰褐色 | 石・黄(1~4) 金 ◎ | 黒斑 | 33 |
| 244 | 壺 | 残高 7.9 | 頭部に押圧による斜削子牙 義。凸溝下に刻交叉。肩部に縦割。 | ハケ | ⑩・⑪ ナデ ⑫ ハケ→ナデ | 褐色 褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 245 | 壺 | 残高 5.5 | 頭部に刻目凸帯。肩部に縦割。 | マメツ | ナデ | 新褐色 褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 246 | 壺 | 残高 8.5 | 肩部に縦割。 | ハケ(5本/cm) | ナデ | 黄褐色 黄褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 247 | 壺 | 残高 6.3 | 肩部に縦割。 | ナデ(マメツ) | ナデ | 乳黃色 乳黃色 | 石(1~3) 金 ◎ | | |
| 248 | 壺 | 残高 5.3 | 肩部に縦割。 | ハケ(5~6本/cm) | ナデ | 褐色 褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 249 | 壺 | 残高 4.8 | 肩部に縦割。 | ハケ(4本/cm) | ナデ | 黄褐色 黄褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 250 | 壺 | 残高 18.0 底径 4.2 | 肩部に縦割。 | ⑩上 ハケ(11本/cm) ⑩下 肩部に4本付 | ナデ | 褐色 褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | 黒斑 | 33 |
| 251 | 壺 | 残高 10.5 | 肩部に縦割。 | ハケ(4本/cm) | ハケ(4本/cm) | 黄灰褐色 黄灰褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | 黒斑 | |
| 252 | 壺 | 残高 5.8 | 肩部に縦割。 | ハケ | ナデ | 黄褐色 淡黃褐色 | 石(1~2) ◎ | 黒斑 | 33 |
| 253 | 壺 | 残高 5.3 | 肩部に縦割。 | ハケ | ヨコハケ | 淡茶色 淡白黃色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | |
| 254 | 壺 | 残高 9.3 | 肩部に記号。254、256と同 体か。2条1組の線。 | ハケ | ハケ(マメツ) | 乳黃色 淡黃褐色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | 33 |
| 255 | 壺 | 残高 7.1 | 肩部に記号。254、256と同 体か。2条1組の線。 | マメツ | ハケ(マメツ) | 乳黃色 淡白黃色 | 石・黄(1~3) 金 ◎ | | 33 |

遺物観察表

土器溝り出土遺物観察表 土製品

16

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 焼 成 | 像 考 | 図版 |
|-----|----|---------------------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------------|--------------------|-----------------------|--------|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 256 | 壺 | 残高 5.0 | 肩部に記号。254, 255と同一体か。2条1組の縫。 | マメツ | マメツ(ナテ) | 乳黄褐色 淡灰黃色 | 石-良(1~3) 金 ◎ | | 33 |
| 257 | 壺 | 残高 8.5 | 肩部に施刻。弦文状の縫3条。 | 跡(かい)ハケ | ハケ | 黃褐色 淡黃褐色 | 石-良(1~3) ◎ | | 33 |
| 258 | 壺 | 残高 4.6 | 肩部に施刻。弦文状の縫2条。 | ハケ(5~6本/cm) | マメツ(一部ハケ) | 茶褐色 黃褐色 | 石-良(1~3) ◎ | | 33 |
| 259 | 壺 | 残高 8.5 | 肩部に施刻。渦巻状の縫。 | ハケ(6本/cm) | ナテ | 茶褐色 茶褐色 | 石-良(1~4) ◎ | | 33 |
| 260 | 壺 | 残高 4.6 | 肩部に施刻。 | ハケ | ナテ | 黄褐色 灰褐色 | 石-良(1~3) 金 ◎ | | 33 |
| 261 | 壺 | 残高 4.1 | 肩部に施刻。細沈縫。 | ハケ(5~6本/cm) | ナテ | 淡白黃褐色 淡白黃褐色 | 石-良(1~2) ◎ | | 33 |
| 262 | 壺 | 残高 5.3 | 腹部に三角凸唇。肩部に施刻。ナテ4条+ヨコ1条。 | ヨコナテ ハケ(11本/cm) | ナテ | 褐色 褐色 | 割石-良(1~2) ◎ | | 33 |
| 263 | 壺 | 残高 4.1 | 肩部に施刻。クタイナメ+ヨコ1条。 | ハケ | ナテ | 黑灰色 茶褐色 | 石(1~2) 雲山岩 ◎ | 圓理 | 33 |
| 264 | 壺 | 残高 5.0 | 肩部に施刻。ナテ6条以上。 | ハケ | ハケかミカキか不明 | 黄茶褐色 黄茶褐色 | 石-良(1~2) 金 ◎ | | 33 |
| 265 | 壺 | 残高 5.7 | 肩部に施刻。ナテ6条以上。 | ハケ | ハケかミカキか不明 | 黄茶褐色 黄茶褐色 | 石-良(1~2) 金 ◎ | | 33 |
| 266 | 壺 | 残高 10.1 | 肩部に刻文突。 | ハケ(一部マメツ) | ハケ(7本/cm) | 淡赤褐色 赤褐色 | 石-良(1~2) ◎ | 裏面 | |
| 267 | 壺 | 残高 7.1 | 肩部に刻文突。 | マメツ | ナテ(マメツ) | 淡茶褐色 暗茶褐色 | 石-良(1~3) ◎ | | |
| 268 | 鉢 | 口径(38.0) 残高 16.0 | 大型品。縁をもって外反する口縁部。施跡が無い。 | 口縁(38.0) ヨコナテ ハケ(6本/cm) | ハケ(6本/cm) | 淡赤褐色 乳白色 | 石-良(1~3) ◎ | | |
| 269 | 鉢 | 口径(47.4) 残高 14.6 | 大型品。長い縁をもって外反する口縁部。 | マメツ | ヨコナテ ヨコナテ ハケ→ナテ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石-良(1~3) 金 ◎ | | |
| 270 | 鉢 | 口径(38.7) 残高 8.0 | 中型品。ゆるやかに外反する口縁部。口縁端面はナテ凹む。 | 口縁(38.7) ナテ(7本/cm) 下縁(8本/cm) | ヨコナテ ハケ(10本/cm) ヨコナテ | 黄褐色 暗茶褐色 | 石-良(1~2) 暗茶褐色 ◎ | | |
| 271 | 鉢 | 口径(32.9) 残高 6.6 | 中型品。長い縁をもって、折り曲げられる口縁部。 | ヨコナテ ハケ(8本/cm) | ヨコナテ ヨコハケ(8本/cm) | 黄褐色 黃褐色 | 石-良(1~2) ◎ | | |
| 272 | 鉢 | 口径(38.1) 残高 7.1 | 異形。大型品。口縁部折張。粗底のナテ凹みをもつ。 | ヨコナテ | ヨコナテ ケズリ | 茶白色 淡茶白色 | 石-良(1~2) ◎ | | 31 |

遺物観察表

(17)

土器溝り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外観) 色模 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|--------------------------------|-------------------------------------|--|---|--------------------|--------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 273 | 鉢 | 口径(25.0) 底高 6.3 | 男群。中型品。内面して立ち上がる口縁部。 | ナテ(工具痕) | ナテ | 赤褐色 茶褐色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | | 34 |
| 274 | 鉢 | 口径(15.9) 底高 16.5 底径(3.3) | 小型品。わずかに外反する口縁部。底部は平底ないし若干の上りがり感。 | (1) ヨコナデ (2) ナテ | ナテ | 黄茶色 灰黄色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | 保 | 34 |
| 275 | 鉢 | 口径(19.2) 底高 14.5 底径 5.4 | 小型品。ゆるやかに外反する口縁部。底部は、立ち上がりをもつ平底となる。 | ナテ | ナテ | 黄褐色 暗灰色 | 石・灰(1-3) 金 ◎ | 黒斑 | 34 |
| 276 | 鉢 | 口径(15.0) 底高 12.2 底径 4.9 | 小型品。弱い縦をもって外反する口縁部。底部は、立ち上がりをもつ平底。 | (1) ヨコナデ (2) ハケ | マメツ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | 引鉢 | |
| 277 | 鉢 | 口径(16.2) 底高 7.7 | 小型品。弱い縦をもって外反する口縁部。 | (1) ヨコナデ (2) ハケ(6本/cm) | (1) ヨコナデ (2) ハケ | 黄褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | | |
| 278 | 鉢 | 口径(15.5) 底高 6.2 | 小型品。ゆるやかに外反する口縁部。 | (1) ナテ(工具痕) (2) ハケ(1本/cm) | (1) ハケ(10本/cm) (2) 粗いハケ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | | |
| 279 | 鉢 | 口径(17.3) 底高 5.1 | 小型品。ゆるやかに外反する口縁部。口縁下に凹みをもつ。 | (1) 板ナテ(0.7cm間) (2) ヨコナデ (3) ヘラミガキ | (1) ヨコナデ (2) ナテ(マメツ) | 褐色 黄褐色 | 石・灰(2-6) 全 ◎ | | |
| 280 | 鉢 | 口径(22.3) 底高 11.2 底径 4.3 | 小型品。外反する口縁部。厚く突出する平底。 | ハケ(4本/cm) | (1) ナテ <small>(網上) ハケ→ナテ (網下) ハケ</small> | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | 黒斑 | 34 |
| 281 | 鉢 | 口径 13.6 底高 10.4 底径 5.5 | 小型品。口をもって外反する口縁部。立ち上がりをもつやや大きめの底。 | (1) ヨコナデ→ハケ (2) ハケ(6-7本/cm) | (1) ハケ <small>(網上) ハケ→ナテ (網下) ハケ</small> | 黑色 赤褐色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | 黒斑 | 31 |
| 282 | 鉢 | 口径 10.9 底高 11.8 底径 4.1 | 小型品。底く外反する口縁部。小さく、くびれる上げ底。 | (1) ヨコナデ (2) ハケ(5本/cm) (3) ナテ | (1) ヨコナデ (2) ハケ (3) ナテ | 淡黃褐色 淡灰色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | 黒斑 | 34 |
| 283 | 鉢 | 口径 9.4 底高 14.1 底径(6.0) | 小型丸付鉢。外反する口縁部。くびれる大きな脚部。 | (1) ハケ (2) ケズリ (3) ヨコナデ | (1) ナテ (2) ヘラケズリ (3) ナテ | 淡灰茶褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1-6) 全 ◎ | | 34 |
| 284 | 鉢 | 口径 11.2 底高 9.7 | 小型品。台付か。外反する口縁部。 | (1) ナテ (2) 板ナテ | (1) ハケ (2) ハケ(10本/cm) | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | 黒斑 | |
| 285 | 鉢 | 口径(16.8) 底高 10.7 底径(6.0) | 小型品。直口口縁。大きい平底。 | ハケ(5-6本/cm) | (1) ハケ(5本/cm) (2) マメツ | 黄褐色 黄茶色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | | |
| 286 | 鉢 | 口径(10.6) 底高 9.1 底径 2.1 | 小型品。直口口縁。平底。板ナテ | 板ナテ | 板ナテ | 孔状褐色 淡赤棕色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | 黒斑 | |
| 287 | 鉢 | 口径 11.3 底高 7.8 底径 3.3 | 小型品。直口口縁。平底。 | ハケ | ハケ→ナテ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1-5) 全 ◎ | | 35 |
| 288 | 鉢 | 口径(16.2) 底高 9.2 底径 3.8 | 小型品。直口口縁。厚く立ち上がる平底。 | (1) 直縁 (2) マメツ (3) ナテ | (1) ヨコナデ (2) ナテ (3) ナテ | 乳白色 青褐色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | 黒斑 | 35 |
| 289 | 鉢 | 口径(16.2) 底高 8.5 | 小型品。直口口縁。上げ底。 | ナテ | (1) ナテ (2) ヘラケズリ | 茶褐色 茶褐色 | 石・灰(1-3) 全 ◎ | | |

遺物観察表

(18)

土器泥り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 種類 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 固版 |
|-----|----|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------|-------------------------|---------------------|-----------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 290 | 杯 | 口径(9.2) 高さ 4.6 底径 5.4 | 小型品。口縁部は細くなる。大きい平底。 | ヨコナデ ナデ | ヨコナデ | 茶褐色 茶褐色 | 石-灰(I-2) ◎ | 固版 | 35 |
| 291 | 鉢 | 口径(13.7) 高さ 11.3 底径 5.3 | 小型台付鉢。直口口縁。 くびれて、厚い脚台部。 | ヨコナデ タチハケ(B軸/m) ナデ | ヨコハケ(B軸/m) ナデ上げ | 黑色 黑色 | 石-灰(I-2) ◎ | 固版 | 35 |
| 292 | 鉢 | 残高 7.8 底径(15.0) | 中型脚付鉢。 | マメツ | 脚上 ケズリ 脚下 マメツ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石(I-4) 長(I-6) ◎ | 固版 | 35 |
| 293 | 鉢 | 残高 2.7 底径(10.4) | 小型台付鉢。 くびれて、大きめの平底。 | ナデ | ナデ | 暗茶褐色 暗茶褐色 | 石-灰(I-2) ◎ | 固版 | 35 |
| 294 | 鉢 | 残高 13.6 底径 8.0 | 中型台付鉢。 くびれる大きな脚台。上げ底。 | ハケ(4本/cm) ナデ | ハケ(4本/cm)→ナデ ナデ | 暗茶褐色 暗茶褐色 | 石-灰(I-2) ◎ | 固版 | 35 |
| 295 | 鉢 | 残高 12.4 底径(10.0) | 中型台付鉢。 くびれる大きな脚台。上げ底。 | ハラミガキ→ナデ ハラミガキ ヨコナデ | ナデ(工具痕) 脚下 桜ナデ ナデ | 乳白色 乳白色 | 石-灰(I-2) ◎ | 固版 | 35 |
| 296 | 鉢 | 口径 17.4 高さ 9.6 | 小型脚付鉢。肩部にヨコ底 掠4条+円孔(5ヶ)。 | ミガキ(マメツ) | ミガキ | 乳白色 乳白色 | 石-灰(I-4) ◎ | 固版 | 35 |
| 297 | 鉢 | 残高 4.9 底径 10.5 | 小型脚付鉢。円孔。 | マメツ | マメツ ナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石-灰(I-2) ◎ | | |
| 298 | 鉢 | 残高 2.1 底径 13.9 | 小型脚付鉢。円孔。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 淡乳白色 淡乳白色 | 石-灰(I-4) ◎ | 固版 | |
| 299 | 鉢 | 残高 7.9 底径 3.0 | 小型品。突出する平底。 | ハケ(7~10本/cm) | ナデ | 茶褐色 茶褐色 | 石-灰(I-2) ◎ | 固版 | |
| 300 | 鉢 | 残高 5.0 底径 2.4 | 小型品。突出する上げ底。 | ハケ | ナデ | 乳白色 乳白色 | 石-灰(I-2) ◎ | | |
| 301 | 鉢 | 残高 3.2 底径 4.2 | 小型品。突出する平底(部分的にわざかに上かる)。 | ハケ(マメツ) ヨコナデ | マメツ | 黄褐色 白茶色 | 石-灰(I-2) ◎ | | |
| 302 | 高杯 | 口径(24.6) 残高 4.1 | 内傾して立ち上がる口縁部。 口縁部は細い。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石-灰(I-4) ◎ | 固版 | |
| 303 | 高杯 | 口径(36.8) 残高 7.4 | 外傾する口縁部。 ヨコ底掠2条。 | ヨコナデ ハケ+ナデ | ヨコナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石-灰(I-4) ◎ | 固版 | 36 |
| 304 | 高杯 | 口径(22.2) 残高 4.5 | 外傾する口縁部。口縁端面 はナデ留む。 | ナデ | ナデ | 灰褐色 灰褐色 | 石-灰(I-4) ◎ | | |
| 305 | 高杯 | 口径(24.7) 残高 6.1 | 外傾する口縁部。口縁端部 は強く外反する。 | ヨコナデ ハケ(マメツ) | ヨコナデ ハケ(5本/cm) | 淡茶褐色 淡茶褐色 暗灰色 | 石-灰(I-2) ◎ | 固版 | |
| 306 | 高杯 | 口径(38.2) 残高 4.8 | 外傾する口縁部。接合部に 段をもつ。 | ハケ(10本/cm) | ナデ マメツ | 乳灰褐色 乳灰褐色 | 石-灰(I-4) ◎ | 固版 | |

遺物観察表

土器溝り出土遺物観察表 土製品

(18)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 焼 | 土 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|---------------------|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|---------------------------|------------------|--------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | | |
| 307 | 高环 | 口径(24.5) 残高 6.6 | 外側する口縁部。接合部に弱い段をもつ。 | ハケ→ナデ | ⑪ ナデ 环底 ハケ→ナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・黄(1~3) 黄(1) | ◎ | | |
| 308 | 高环 | 口径(24.4) 残高 5.6 | 内側の後、外反して立ち上がる口縁部。 | ハケ(10本/cm)→ヨコナデ | ⑫ マツ ヨコナデ 环底 ハケ(10本/cm) | 赤褐色 赤褐色 | 石・黄(1~3) 金 | ○ | | |
| 309 | 高环 | 口径(27.2) 残高 16.5 | 外反する口縁部。口縁部には、ナデによりやや広い面をもつ。脚部に円孔。 | ⑬ ヨコナデ ⑭ ミガキ ⑮ ハケ | ⑯ ヨコナデ ⑰ ミガキ→ナデ ⑱ ナデ | 赤褐色 赤褐色 | 石・黄(1~3) 金 | ◎ | | 36 |
| 310 | 高环 | 口径(28.3) 残高 8.6 | 外反する口縁部。接合部に棱をもつ。 | ⑲ 口縁 ヨコナデ ⑳ ヨコハケ マツ | ㉑ ヨコハケ(8本/cm) ㉒ ヨコハケ ハケ→ナデ | 淡黄褐色 淡黄褐色 | 石・黄(1) | ◎ | | 36 |
| 311 | 高环 | 口径(28.0) 残高 7.8 | 外反する口縁部。接合部に棱をもつ。 | ㉓ マツ ㉔ ミガキ | ㉕ マツ | 褐色・白 黄褐色 褐色・淡 黄色 | 石・黄(1~4) ◎ | | | |
| 312 | 高环 | 口径(28.1) 残高 5.1 | 外反する口縁部。口縁部には、ナデによりやや広い面をもつ。 | ㉖ 口縁 ヨコナデ ㉗ ミガキ | ㉘ ヨコナデ ㉙ ミガキ | 淡黄褐色 淡灰褐色 | 石・黄(1~4) 金 | ◎ | | |
| 313 | 高环 | 口径(24.5) 残高 3.8 | 外反する口縁部。口縁部には、ナデによりやや広い面をもつ。 | ㉚ 口縁 ヨコナデ ㉛ ミガキ ㉜ ヨコナデ | ㉖ 口縁 ヨコナデ ㉗ ミガキ ㉘ ナデ | 淡茶褐色 淡黄褐色 | 石・黄(1~3) ◎ | | | |
| 314 | 高环 | 口径(26.4) 残高 7.1 | ゆるやかに、大きく外反する口縁部。 | ハケ(7本/cm)→ナデ | ㉙ マツ ナデ | 淡茶褐色 淡赤褐色 | 石・黄(1~3) | ◎ | | |
| 315 | 高环 | 口径(14.3) 残高 13.7 | 小型品。外反する口縁部。脚部は三角脚を呈す。 | ㉚ ハケ(5本/cm) ㉛ ハケ→ナデ | ㉕ ハケ 环底 ㉖ ナデ | 淡茶褐色 淡赤褐色 | 石・黄(1~4) 金 | ◎ | | 36 |
| 316 | 高环 | 口径(23.0) 残高 7.8 | 大きく外反する口縁部。接合部に棱をもつ。 | ㉖ 口縁 ヨコナデ ㉗ ハケ→ヨコナデ ㉘ ハケ | ㉖ 口縁 ヨコナデ ㉙ ハケ→ミガキ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石・黄(1~3) 金 | ◎ | | |
| 317 | 高环 | 口径(21.8) 残高 5.1 | 直立する口縁部。口縁上面に3条の比較的、口縁外面に4条の比較的。 | ㉚ ヨコナデ ㉛ ミガキ | ㉕ ミガキ ㉖ 刻離 ㉗ ミガキ | 茶褐色 茶褐色 | 石・黄(1~4) 金 | ◎ | | |
| 318 | 高环 | 口径(27.0) 残高 3.9 | 異形。外反する短い口縁部。接合部は段となる。 | マツ | マツ | 灰黃褐色 淡茶褐色 | 石・黄(1~3) 金 | ◎ | | 36 |
| 319 | 高环 | 残高 5.2 | 接合部は段となる。円板光復技法。 | ㉚ ハケ→ヨコナデ ㉛ ハケ(10本/cm) | ㉖ ナデ ㉗ ナデ | 灰褐色 灰褐色 | 石・黄(1~4) | ◎ | | |
| 320 | 高环 | 残高 12.5 | 脚柱。無文。 | ㉖ 环底 →ヨコナデ ㉗ ハケ(8本/cm) | ナデ | 灰黃褐色 灰黃褐色 | 石・黄(1~4) | ◎ | | |
| 321 | 高环 | 残高 9.4 | 脚柱。無文。 | ハケ→ナデ | ナデ | 灰黃褐色 灰黃褐色 | 石・黄(1~4) | ◎ | | |
| 322 | 高环 | 残高 7.4 | 脚柱。円板光復技法。 円孔。 | ハケ→一部ミガキ | ナデ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石・黄(1~3) | ◎ | | |
| 323 | 高环 | 残高 11.4 | 脚柱。円板光復技法。 円孔。 | 1ガキ | ナデ | 乳黃褐色 淡茶褐色 | 石・黄(1~3) | ◎ | | |

遺物觀察表

土器泥り出土遺物觀察表 土製品

20

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外蓋) 色調 (内面) | 施燒 成 | 土 備考 | 図版 |
|-----|----|---------------------|---|--|----------------------------------|----------------------|--------------------|---------|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 324 | 高环 | 残高 12.5 | 脚部。円板充填技法。 円孔。 | マメツ ミガキ | ナテ | 黄褐色 黄褐色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | | |
| 325 | 高环 | 残高 12.4 | 脚柱。細く、長い柱部。 | ミガキ | ナテ | 乳褐色 乳褐色 | 石・灰(1~4) 全 ◎ | | |
| 326 | 高环 | 残高 14.7 | 脚柱。細く長い柱部。 円孔。 | ミガキ | ナテ レボリ痕 | 淡黃褐色 淡褐色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | | |
| 327 | 高环 | 底径 12.3 残高 8.1 | 脚部。無文。 | ⑩ ハケ(6本/cm) ハケ→ヨコナデ ⑪ ヨコナデ | ⑩ ナテ シボリ痕 ⑫ ハケ(3本/cm)→ヨコナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | | |
| 328 | 高环 | 底径 14.2 残高 12.6 | 脚部。円板充填欠損。 無文。 | ⑪ ミガキ ⑫ ハケ | マメツ ナテ | 黄褐色 赤褐色 | 石・灰(1~2) 全 ○ | | |
| 329 | 高环 | 底径 15.0 残高 11.5 | 脚部。円板充填技法。 無文。 | ⑬ ⑭ ハケ→ミガキ ⑮ ヨコナデ | ⑬ ミガキ ⑭ ナテ ⑮ ハケ→ヨコナデ | 乳黃白色 乳黃白色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | 黒斑 | |
| 330 | 高环 | 底径 13.1 残高 9.4 | 脚部。円板充填技法。 円孔。 | ⑬ ⑭ ハケ(11本/cm) ⑮ ヨコナデ | ⑬ マメツ ⑭ ナテ ⑮ ヨコナデ | 明黃色 明黃色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | | |
| 331 | 高环 | 底径 16.8 残高 9.3 | 脚部。円板充填技法。 円孔。 | ⑬ ハケ(4本/cm) ⑮ ヨコナデ | ⑬ マメツ ⑭ ナテ ⑮ ヨコナデ | 乳褐色 乳褐色 | 石・灰(1~2) 全 ○ | | 36 |
| 332 | 高环 | 底径(16.4) 残高 10.4 | 脚部。円孔。 | ⑬ ミガキ ⑭ ヨコナデ | ⑬ ナテ ⑭ ナテ ⑮ ヨコナデ | 淡褐色 淡褐色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | | |
| 333 | 高环 | 底径 14.5 残高 11.4 | 脚部。円孔。 | マメツ | マメツ | 乳黃白色 乳黃白色 | 石・灰(1~2) 全 ○ | | 36 |
| 334 | 高环 | 底径(14.8) 残高 2.5 | 脚部。脚端部ナテ向み。 ヨコナデ | ヨコナデ | ナテ ヨコナデ | 淡褐色 黄褐色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | | |
| 335 | 高环 | 口径(29.4) 残高 8.7 | 深い環部。大きく外反する 口縁部。接合部は後。 | ⑪ マメツ ⑫ ハケ マメツ | マメツ | 赤褐色 赤褐色 | 石・灰(1~2) 全 ○ | | |
| 336 | 高环 | 口径(36.0) 残高 6.3 | 大きく外反する口縁部。 接合部は弱い段。 | マメツ | マメツ | 黄茶色 灰茶色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | | 37 |
| 337 | 高环 | 口径(37.0) 残高 6.0 | 大きく外反する口縁部。 接合部は段。 | ⑪ ヨコナデ 〔口上〕 ハケ(3本/cm) 〔口底〕 ハケ→ナテ | ヨコナデ ナテ | 黄茶褐色 黄褐色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | | |
| 338 | 高环 | 口径(34.0) 残高 1.4 | 大きく外反する口縁部。縫 部は下に鉛製。 | ヨコナデ ミガキ | ヨコナデ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~2) 全 ◎ | 黒斑 | 37 |
| 339 | 高环 | 口径(37.5) 残高 1.8 | 大きく外反する口縁部。縫 部は上向下に鉛製し、ヨコ度 数2条+2ヶ1組の鉛口詳 文。 | ヨコナデ | ヨコナデ | 白黃茶色 灰黃茶色 | 石・灰(1~2) 全 ○ | 黒斑 | 37 |
| 340 | 高环 | 口径(30.3) 残高 3.8 | 大きく外反する口縁部。縫 部は下に鉛製し、ヨコ度 数2条+2ヶ1組の鉛口詳 文。 | マメツ | マメツ | 淡黃褐色 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・灰(1~2) 全 ○ | | 37 |

遺物観察表

土器刷り出土遺物観察表 土製品

20

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外側) 色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|--------------------|---|--------------------------------|-----------------------------------|--------------------|-----------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 341 | 高环 | 口径(26.0) 残高 5.1 | 外反する口縁部。複合縫は設け、口縁部には、ナテにより若干の粘張。 | ヨコナナ マメツ | マメツ | 淡黄白色 淡黄白色 | 石・長(1~2) ◎ | 黒斑 | |
| 342 | 高环 | 残高 8.0 | 脚柱。脚らみをもつ柱頭。 | ハケ(10本/cm)→ナテ | ナテ | 灰褐色 灰褐色 | 石・長(1~3) ◎ | | 37 |
| 343 | 高环 | 残高 9.2 | 脚柱。脚らみをもつ柱頭。 円板充填技法。 | ハケ(2本/cm) ナテ | ナテ ヨコハケ(5本/cm) | 淡白黄色 淡白黄色 | 石・長(1~2) 金 ◎ | | 37 |
| 344 | 高环 | 残高 9.7 | 脚柱。脚らみをもつ柱頭。 円板充填技法。 | ハケ マメツ | ナテ | 乳黄白色 乳黄白色 | 石・長(1~2) 金 ◎ | | 37 |
| 345 | 高环 | 残高 7.0 | 脚柱。脚らみをもつ柱頭。 丸壺技法。 | マメツ | ヨコナナ | 淡赤褐色 淡赤褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | 37 |
| 346 | 高环 | 底径(22.0) 残高 4.2 | 脚部。段をもって外反する 脚部。内孔1段。 | ⑩ ヘラミガキ ⑪ ナテ | ナテ | 黄茶褐色 黄茶褐色 | 石・長(1) ◎ | | 37 |
| 347 | 高环 | 底径(23.4) 残高 4.6 | 脚部。段をもって外反する 脚部。内孔2段。 | ⑩ ナテ ⑪ ハケ→ナテ | ハケ→ナテ | 乳茶色 乳茶色 | 石・長(1) ◎ | | |
| 348 | 高环 | 底径(22.2) 残高 6.4 | 脚部。段をもって外反する 脚部。内孔2段。 | マメツ | マメツ | 淡茶色 淡茶色 | 石・長(1~3) ○ | | 37 |
| 349 | 高环 | 底径(22.3) 残高 4.0 | 脚部。段をもって外反する 脚部。内孔1段。段部に削り目。 | ヘラミガキ(マメツ) ヨコナナ | ハケ(3本/cm)→ヨコナナ マメツ | 淡黄白色 淡黄白色 | 石・長(1~2) 金 ◎ | 黒斑 | 37 |
| 350 | 高环 | 底径(22.9) 残高 6.1 | 脚部。段をもって外反する 脚部。内孔1段。ヨコ直彫 4束+5条。 | ⑩ ハケ→ナテ ⑪ ヨコナナ | ⑩ ハケ(3本/cm) ⑪ ヨコナナ | 淡褐色 淡褐色 | 石・長(1~4) 金 ◎ | | 37 |
| 351 | 高环 | 底径(22.8) 残高 3.0 | 脚部。段をもって外反する 脚部。ヨコ直彫2束以上+ 半斬竹彫文+ヨコ直彫4束。 | ナテ | ナテ | 乳黄灰色 乳黄灰色 | 石・長(1~4) ◎ | | 37 |
| 352 | 高环 | 底径(26.4) 残高 3.7 | 脚部。段をもって外反する 脚部。斜彫と光彫した三角 形文。 | ハケ(マメツ) | マメツ | 黄茶褐色 黄褐色 黄褐色 | 石・長(1~4) ◎ | | 37 |
| 353 | 高环 | 残高 2.1 | 脚部。段をもって外反する 脚部。内孔+半斬竹彫文+ヨ コ直彫2束以上。 | マメツ | マメツ | 乳黄色 乳黄色 | 石(1~2) 長(1~3) ◎ | | 37 |
| 354 | 器台 | 口径 39.4 残高 16.0 | 口縁部ヨコ直彫3束+タ テ直彫5束1組。内孔。 | ハケ(5本/cm)+マメツ | ヨコハケ→ナテ | 茶褐色 茶褐色 | 石・長(1~4) 金 ◎ | | 38 |
| 355 | 器台 | 口径 35.2 残高 14.9 | 口縫上向平彫竹質文。口縫 端部に直竹管2段。脚部内 孔+半斬竹管2段1組+光 彫2束文。 | ⑩ ヨコナナ ⑪ ハケ(10本/cm) ⑫ ナテ | ⑩ ミガキ ⑪ ⑫ ナテ | 淡黄白色 淡褐色 茶褐色 | 石・長(1~3) ◎ | 黒斑 | 38 |
| 356 | 器台 | 口径(37.2) 残高 2.6 | 口縫直彫下。口縫表面にヨ コ直彫3束。 | ⑩ ナテ | ⑩ ヨコナナ ⑪ ハケ(3本/cm)→ナテ ⑫ ミガキ | 乳黄褐色 淡黄褐色 | 石・長(1~4) ◎ | | |
| 357 | 器台 | 口径(35.2) 残高 2.5 | 口縫直彫下。口縫表面にヨ コ直彫3束+エゲ1組のテ 字浮文。 | ヨコナナ | マメツ | 淡黄褐色 淡黄褐色 | 石・長(1~3) ◎ | | 38 |

遺物観察表

22

土器割り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 器種 | 法墨(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面)色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 区版 |
|-----|----|---------------------------------|---|---|--|----------------------------|---------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 358 | 器台 | 口径(36.0) 残高 1.7 | 口縁部裏下。口縁上面に半 截竹管文。口縁裏面にヨコ 直線2束+タテ直線4束+ 半竹。 | マメツ | マメツ | 乳黄色 乳白色 | 石-灰(1-3) ○ | | 39 |
| 359 | 器内 | 口径(33.4) 残高 1.9 | 口縁部裏下。口縁上面に半 截竹管文。口縁裏面に半截 竹管文2段。 | ナデ | ハケ→ミガキ | 淡黄褐色 淡黄褐色 淡褐色 | 石-灰(1-3) ○ | | |
| 360 | 器台 | 口径(50.2) 残高 3.7 | 口縁部裏下。口縁上面に半 截竹管文。斜傾充填の三角 文。 | ハケ→ヨコナデ 口縁 ヨコナデ ミガキ | | 淡灰褐色 乳茶色 淡灰褐色 乳茶色 | 石-灰(1-4) ○ | | 39 |
| 361 | 器台 | 口径(37.0) 残高 6.5 | 口縁部裏下。 | マメツ | マメツ | 淡黄褐色 淡黄茶色 | 石-灰(1-4) ○ | | |
| 362 | 器台 | 底径 36.5 残高 3.0 | 脚端面にヨコ直線2束+タ テ直線6束1組。 | ⑩ ハケ→ヨコナデ 脚端 ヨコナデ | ハケ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石-灰(1-3) ○ | 黑斑 | 39 |
| 363 | 器内 | 残高 32.1 | 柱部。ヨコ直線8束+12束。 円孔5段。 | ナデ(マメツ) | ナデ | 淡黄褐色 淡黄色 | 石(1-2) 灰(1) ○ | | |
| 364 | 器台 | 残高 18.2 | 柱部。ヨコ直線8束+12束。 円孔2段以上。 | ハケ→ナデ | ナデ ハケ(5本/cm)→ナデ | 黄褐色 黄褐色 | 石-灰(1-3) ○ | | |
| 365 | 器内 | 残高 9.6 | 柱部。ヨコ直線6束以上+ 骨軸有状文。内孔。 | ハケ | ハケ(7本/cm) | 淡褐色 淡褐色 | 石-灰(1-3) ○ | | 39 |
| 366 | 器台 | 残高 10.1 | 柱部。ヨコ直線6束以上+ 骨軸有状文。内孔。 | マメツ | ナデ | 黄褐色 黄褐色 | 石-灰(1-3) ○ | | 39 |
| 367 | 器台 | 口径(37.3) 底径(39.5) 残高 21.7 | 器壁著しく厚い。内孔2段。 ⑪ ハケ(5本/cm)→ナデ ⑫ ヨコナデ | ⑬ ヨコナデ ⑭ ハケ(5本/cm)→ナデ ⑮ ヨコナデ | マメツ ハケ→ナデ ヨコナデ | 淡黄茶色 淡黄茶色 | 石-灰(1-3) ○ | 黑斑 | 39 |
| 368 | 器台 | 口径(31.0) 底径(24.4) 残高 24.7 | 口縁3段。全開しないヨコ 直線1条。 | ⑯ ハケ→ヨコナデ(マメツ) ⑰ ハケ(6-8本/cm) ⑱ ヨコナデ | ⑲ ヨコハケ→ヨコナデ ⑳ ヨコハケ→ナデ ㉑ ハケ(5本/cm)→ナデ | 黄茶褐色 黄茶褐色 | 石-灰(1-3) 金 ○ | | 40 |
| 369 | 器台 | 口径(32.4) 底径 26.4 残高 24.3 | 口縁部裏に斜筋1段文。柱 部にヨコ直線3束+円孔 2段。 | ㉒ ハケ→ナデ ㉓ ヨコナデ | ㉔ ナデ ハケ ヨコナデ | 淡黄茶褐色 淡黄茶褐色 | 石-灰(1-3) ○ | | 40 |
| 370 | 器内 | 口径(27.8) 残高 3.7 | 口縁裏面に2ケ1組の円形 凹文。 | ㉕ 口縁 ヨコナデ ㉖ ナデ ハケ | 口縁 ヨコナデ ㉗ ナデ | 赤茶色 赤茶色 | 石-灰(1-3) 金 ○ | | 40 |
| 371 | 器台 | 口径(28.6) 残高 1.3 | 口縁裏面に斜傾充填の 三角文。 | ハケ(5本/cm) | マメツ | 乳黃褐色 乳黃褐色 | 石-灰(1-3) ○ | | 40 |
| 372 | 器内 | 口径(36.0) 残高 2.8 | 口縁上面にナシ6条の波状 文。口縁裏面に斜傾充填の 三角文。 | ㉘ 口縁 ヨコナデ ㉙ マメツ | マメツ | 黄褐色 黄褐色 | 石-灰(1-4) 金 ○ | | 40 |
| 373 | 器台 | 口径(28.2) 残高 4.5 | 口縁上面に多条の△角文。 口縁裏面にヨコ直線3束。 | ㉚ 口縁 ヨコナデ ㉛ ハケ→ナデ | ㉜ ヨコナデ ㉝ ハケ | 蒸褐色 蒸茶褐色 | 石-灰(1-3) 金 ○ | | 40 |
| 374 | 器内 | 残高 21.1 | 柱部。内孔2段。 | ハケ(5本/cm) ナデ | マメツ | 黄褐色 黄褐色 | 石-灰(1-5) ○ | | |

遺物観察表

土器掘り出土遺物観察表 土製品

(2)

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 土 焼 成 | 備考 | 図版 |
|-----|----|---------------------------------|---|---------------------------------------|--|---------------------------|-----------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 375 | 器台 | 底径(21.2) 残高 11.0 | 柱一複部。内孔2段以上。 ハケ | ⑪ ハケ ⑫ ナテ(マツツ) | ナテ(マツツ) | 茶色 茶色 | 石(1~3) 金 ◎ | | 40 |
| 376 | 器台 | 底径(27.0) 残高 6.3 | 柱一複部。 | ⑪ ハケ(5本/cm) (口端) ヨコナデ | ヨコハケ(5本/cm) | 淡黄褐色 淡黄灰色 | 石(1~3) 金(3~5) ◎ | 黒斑 | |
| 377 | 器台 | 底径(24.1) 残高 11.2 | 柱一複部。底円孔。脚端面 はナテ回み。 | ⑪ マツツ ⑫ ヨコナデ | ナテ | 淡赤褐色 淡赤褐色 | 石(1~3) 金(3~5) ◎ | | |
| 378 | 器台 | 口径(23.6) 残高 16.2 | 受一柱部。柱部に内孔2段。 基部が著しく厚い。 | ① 口端 ヨコナデ ② ナテ ③ ハケ→ナテ | ① 口端 ヨコナデ ② ハケ+ヨコナデ ③ ナテ ④ 刻文 | 淡米褐色 淡米褐色 金 淡米褐色 | 石(4~6) 金 ◎ | | 40 |
| 379 | 器台 | 底径(28.6) 残高 3.6 | 複部。器壁が著しく厚い。 | マツツ | ハケ(マツツ) | 黄褐色 黄褐色 | 石・金(1~4) ◎ | | |
| 380 | 器台 | 口径(20.2) 底径(21.4) 残高 14.4 | 口縁上面にヨコ直線4条。 口縁前面にヨコ直線1条。 脚端面に、ヨコ直線2条。 | ⑪ ナテ ⑫ ハケ→一部ナテ ⑬ ヨコナデ | ハケ→ナテ | 系褐色 灰色 系褐色 灰色 | 石(4~6) 金 ◎ | 黒斑 | 41 |
| 381 | 器台 | 口径(22.8) 残高 1.5 | 口縁部は垂直下す。口縁端 面にヨコ直線5条以上のクレシキ波 状文。 | ① 口端 ヨコナデ ② ハケ | ヨコハケ | 黄褐色 暗茶褐色 | 石(1~4) | | |
| 382 | 器台 | 底径 10.5 | 柱部。ヨコ直線文7条+3 条+3条以[...].内孔3段以上。 内孔を柱のようにナテ 直線1条あり。 | ナテ | ① (柱上) ナテ (柱下) ハケ→ナテ | 淡黄褐色 淡黄褐色 | 石(1~3) 金 ◎ | | 41 |
| 383 | 器台 | 残高 11.0 | 柱部。無文。 | マツツ | マツツ | 黄褐色 黃褐色 | 石(1~3) ◎ | | |
| 384 | 器台 | 底径(19.0) 残高 11.9 | 柱一複部。無文。 | ⑪ ハケ(マツツ) ⑫ マツツ | マツツ | 明茶褐色 明茶褐色 | 石・金(1~3) | | 41 |
| 385 | 器台 | 残高 10.3 | 柱部。内孔2段。 | マツツ | マツツ | 淡黄褐色 灰褐色 灰色 | 石(1~3) ◎ | | |
| 386 | 器台 | 残高 7.6 | 柱部。内孔2段。 | マツツ | ナテ | 暗茶褐色 淡茶褐色 | 石(1~3) 金 ◎ | | |
| 387 | 器台 | 底径(15.6) 残高 8.4 | 柱一複部。無文。 | ⑪ ハケ(5本/cm) (口端) ヨコナデ | ヨコハケ→一部ナテ | 淡黄褐色 淡黄褐色 | 石(1~3) ◎ | | |
| 388 | 器台 | 口径(13.8) 底径(11.8) 基部 8.8 | 口縁上面にクレシキ波状文。 柱部にヨコ直線文5条+5条+5条。 内孔2段。 | ① ヨコナデ ② ハケ(5本/cm)→ナテ ③ ナテ | ナテ | 系褐色 茶褐色 | 石(1~5) 金(1~3) ◎ | | 41 |
| 389 | 器台 | 口径(12.4) 基部(14.0) 基部 11.3 | 無文。器壁薄い。 | ① 口端 ヨコナデ ② ハケ(5本/cm) (口端) ヨコナデ | ① ハケ(2本/cm) ② ナテ ③ ハケ(3本/cm) | 茶褐色 茶褐色 | 石・金(1~3) ◎ | | 41 |
| 390 | 支脚 | 口径 13.4 基部 17.7 底径 12.6 | 「U」字状の脚部部分をもつ 支脚。 | ④ ヨコナデ ⑤ ハケ(3本/cm)→ナテ ⑥ ヨコナデ | ④ ハケ(3本/cm)→ナテ ⑤ ナテ上げ ⑥ ハケ→ナテ | 淡黄褐色 淡茶褐色 | 石・金(1~3) 金 ◎ | 黒斑 | 42 |
| 391 | 支脚 | 口径 12.3 基部 13.0 | 「U」字状の脚部部分をもつ 支脚。 | ナテ | ⑦ ハケ ⑧ しばり痕 | 淡黄色 淡黄色 | 石・金(1~3) ◎ | 黒斑 | |

遺物観察表

(24)

土器窯り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | 外 面 (裏) 色調 (内面) | 胎 土 燒 成 | 備考 | 回版 |
|-----|-----|---------------------------------|-----------------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------------|--------------------|---------------------|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 392 | 支脚 | 残高 14.3 底径 12.5 | 「U」字状の傾斜部分をもつ受部。 | ⑪ ハケ(7本/cm) ⑫ ナデ | 柱上 柱下 ハケ→ナデ | 灰褐色 灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 393 | 支脚 | 残高 14.0 底径 9.3 | 「U」字状の傾斜部分をもつ受部。 | ナデ | ⑪ ⑫ ⑬ | しばり痕 ナデ ハケ→ナデ | 淡灰黄色 暗灰黄色 | 石・長(1~3) 黑面 ◎ | |
| 394 | 支脚 | 口径(14.8) 残高 8.4 | 「U」字状の傾斜部分をもつ受部。 | ナデ | ナデ | 暗灰褐色 暗灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | 黒面 | 42 |
| 395 | 支脚 | 残高 5.7 底径(15.8) | 瘤部。器壁厚い。 | ナデ | ナデ | 淡灰褐色 暗灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 396 | 支脚 | 口径(13.5) 器高 14.5 底径(12.2) | 碎片のため、受部に「J」字状の傾斜部分を有するが不明。 | ハケ、ナデ | ヨコナデ ⑪ ナデ ⑫ ハケ | 暗灰褐色 暗灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 397 | 支脚 | 残高 10.0 | 2ヶの尖出部をもつ受部。 | ナデ | ナデ | 暗灰褐色 暗灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 398 | 支脚 | 残高 8.2 | 尖出部をもつ受部。 | ナデ(工具痕) | ナデ、ハケ(4本/cm) | 暗灰褐色 暗灰褐色 | 石・長(1~3) ○ | | |
| 399 | ヨシキ | 残高 15.7 底径 4.7 | 焼成剥離孔。 | ナデ(マツツ) | ナデ上げ | 黄褐色 茶褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | 黒面 | 42 |
| 400 | 転用器 | 残高 8.7 底径 4.7 | 焼成剥離孔。蓋の転用か。 | ⑪ ナデ ⑫ ハケ→ナデ ⑬ ナデ | ナデ | 淡灰褐色 淡灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 401 | 転用器 | 残高 2.6 底径 6.2 | 焼成剥離孔。蓋の転用か。 | ナデ(マツツ) | ナデ(マツツ) | 乳白色 乳黃褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 402 | 転用器 | 残高 4.8 底径 6.3 | 焼成剥離孔の可能性をもつ。蓋の転用か。 | ナデ | ナデ | 灰褐色 黄褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 403 | 転用器 | 残高 3.4 底径 4.8 | 焼成剥離孔。蓋の転用か。 | ⑪ ハケ→ナデ ⑫ ナデ | ナデ | 淡灰褐色 淡灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 404 | 転用器 | 残高 3.5 底径 5.2 | 焼成後に穿孔を行う途中。蓋の転用か。 | ⑪ ハケ(8本/cm) ⑫ ナデ | ナデ | 黄褐色 黄茶褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 405 | サジ | 幅 8.1 長さ 13.3 | 握手部分を欠く。手づくね。 | ナデ | ナデ | 淡灰褐色 淡灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | 42 |
| 406 | フタ | 口徑(11.1) 残高 5.6 | 口縁部分。口縁部に2条の口コ直施。 | ハケ→ナデ | 口縁 ヨコナデ ⑪ ハケ→ナデ | 淡茶褐色 淡茶褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 407 | ショキ | 残高 2.0 底径(11.4) | 底部と見われる。大きな平底。 | ハケ | ナデ | 暗赤褐色 暗灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |
| 408 | ショキ | 把手長7.6 | 把手部分。 | ナデ | | 灰褐色 | 石・長(1~3) 金 ◎ | | |

遺物観察表

(25)

土器溝り出土遺物観察表 土製品

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | 形態・施文 | 調 整 | | (外面) 色調 (内面) | 胎 焼 成 | 備考 | 図版 |
|-----|--------|-----------------------------|-------------------------------------|---------------------|--------------|--------------------|--------------------|----|----|
| | | | | 外 面 | 内 面 | | | | |
| 409 | 不明 | 残高 6.0 底径 4.8 | 指輪痕著しい。くびれの上 げ底。 | ナテ | ⑩ ハケ ⑪ ナテ | 黒黄褐色 褐黃褐色 | 石・長(1~4) 全 ◎ | 黒斑 | 42 |
| 410 | 不明 | 残高 6.7 底径 3.5 | 中窓で、団んだ面をもつ。 窓の上端は欠損。小型の支 脚か。 | ナテ | | 淡茶褐色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | 風面 | 42 |
| 411 | [409]7 | 残高 2.4 底径 2.8 | 大きい平底。 | マメツ | ナテ | 淡黃白色 淡黃白色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | | 42 |
| 412 | [409]7 | 残高 1.6 底径 2.2 | 大きい平底。 | マメツ | マメツ | 赤褐色 赤褐色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | 黒斑 | 42 |
| 413 | [409]7 | 残高 5.4 底径 1.5 | 小さい平底。圓形。 | 板ナテ | ナテ | 黄褐色 黄褐色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | 黒斑 | 42 |
| 414 | [409]7 | 残高 2.7 底径(3.4) | 小さい平底。變形か。 | ハケ(マメツ) | ナテ | 乳白色 乳白色 | 長(1~2) 全 ◎ | | |
| 415 | [409]7 | 残高 5.1 底径 2.0 | 上げ底。變形。 | マメツ | ナテ | 乳茶褐色 乳茶褐色 | 石・長(1~2) ○ | | 42 |
| 416 | [409]7 | 残高 3.0 底径 2.5 | 立ち上がりをもつ上げ底。 變形。 | ⑩ ハケ(5本/cm) ⑪ ナテ | ハケ(5本/cm) | 淡灰黃褐色 淡黃褐色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | | 42 |
| 417 | [409]7 | 残高 1.8 底径(2.9) | くびれの上底。變形。 | ナテ(マメツ) | マメツ | 淡赤褐色 淡黃色 | 石(1~2) 全 ◎ | | |
| 418 | [409]7 | 残高 3.4 底径(2.8) | くびれの上げ底。變形。 | マメツ | ナテ | 淡黃褐色 淡黃褐色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | | 42 |
| 419 | [409]7 | 残高 5.1 底径 3.2 | くびれの上げ底。窓の小裂 扁に含まれる可動性をもつ。 | ⑩ ハケ(5本/cm) ⑪ ナテ | ナテ(工具柄) | 黄褐色 赤褐色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | | |
| 420 | [409]7 | 残高 2.4 底径 2.7 | くびれの上げ底。變形か。 | マメツ | マメツ | 白黄色 白黄色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | | |
| 421 | [409]7 | 残高 3.1 底径 3.0 | くびれの上げ底。變形か。 | ナテ | ナテ | 乳白色 淡灰茶色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | | 42 |
| 422 | [409]7 | 口徑(5.2) 器高 3.7 底径 2.5 | くびれの上げ底。底部が大 きい。直(1)縁。變形。 | ナテ | ナテ | 乳灰色 乳灰色 | 石・長(1~2) 全 ◎ | | 42 |

写 真 図 版

写 真 図 版 例 言

1. 遺構の撮影は、各調査担当者が行った。

使用機材：

カ メ ラ ニコンニューFM2他

レ ン ズ ズームニッコール28~85mm他

フィルム ネオパンSS・カラーネガ

2. 遺物の撮影は、大西が行った。

使用機材：

カ メ ラ トヨ／ビューア45G

レ ン ズ ジンマーS240mmF5.6他

ストロボ コメット／CA-322灯・CB2400-2灯（バンク使用）

スタンド他 トヨ／無撮影台・エイトスタンド101

フィルム 白黒 プラスXパン4×5 カラー EPP4×5

一部赤外線写真（ハイスピードインフラレッドフィルム）使用

3. 遺構写真的焼き付け及び遺物写真のフィルム現象・焼き付けは、大西が行った。

（白黒に限る）

使用機材：

引伸幕 ラッキー450MD

ラッキー90MS

レ ン ズ エル・ニッコール135mmF5.6A

エル・ニッコール50mmF2.8N

印 画 紙 イルフォードマルチグレードIII RC

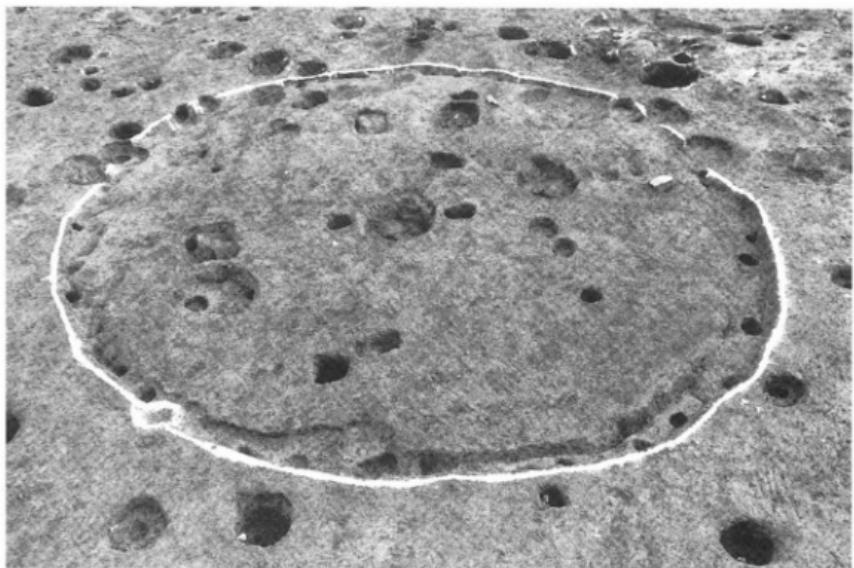
4. 製版 150線

印刷 オフセット印刷

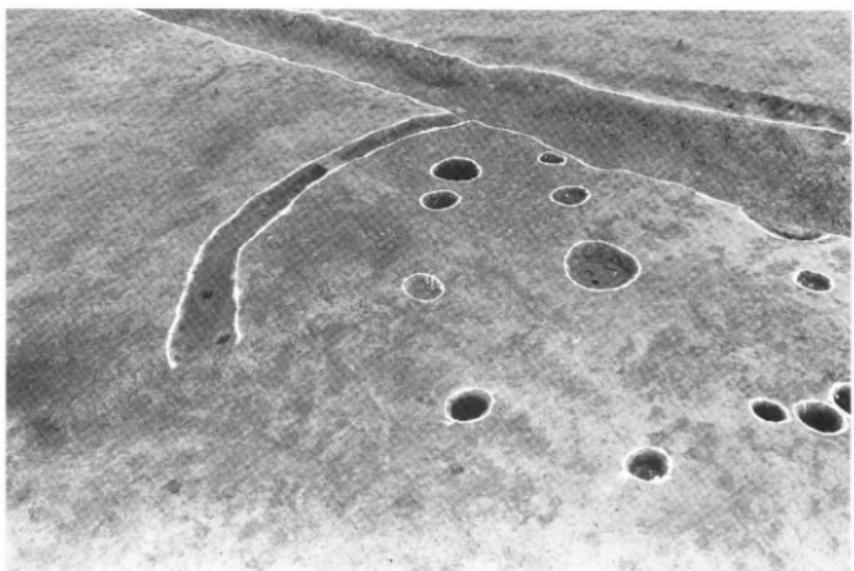
用紙 マットカラー110kg

【参考】『埋文写真研究』Vol. 1~6

(大西朋子)



1. SB20 (北より)



2. SB58 (西より)



1. SB 15内分銅形土製品出土状況（西より）



2. SP 4522内分銅形土製品出土状況（北より）



1. SK 29遺物出土状況①（北より）



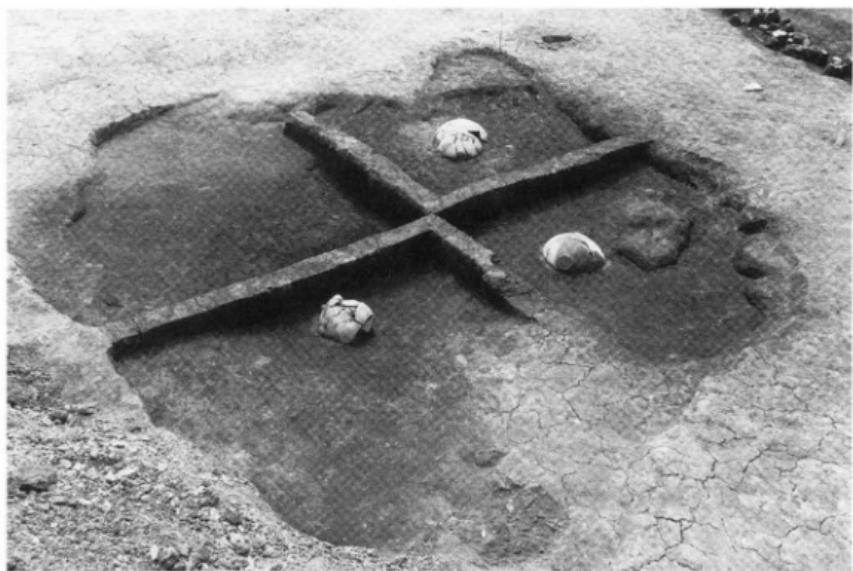
2. SK 29遺物出土状況②（西より）



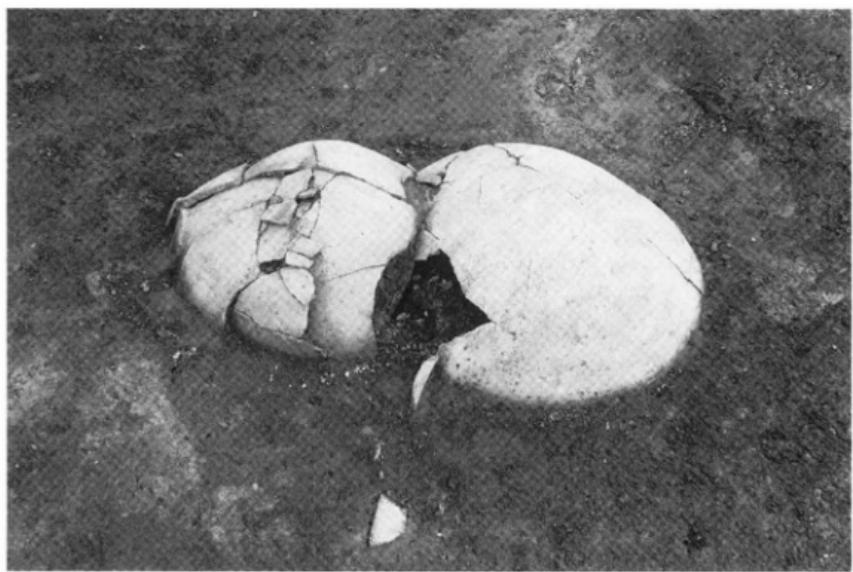
1. SD 3 (1区・南西より)



2. SD 3 (4区・南西より)



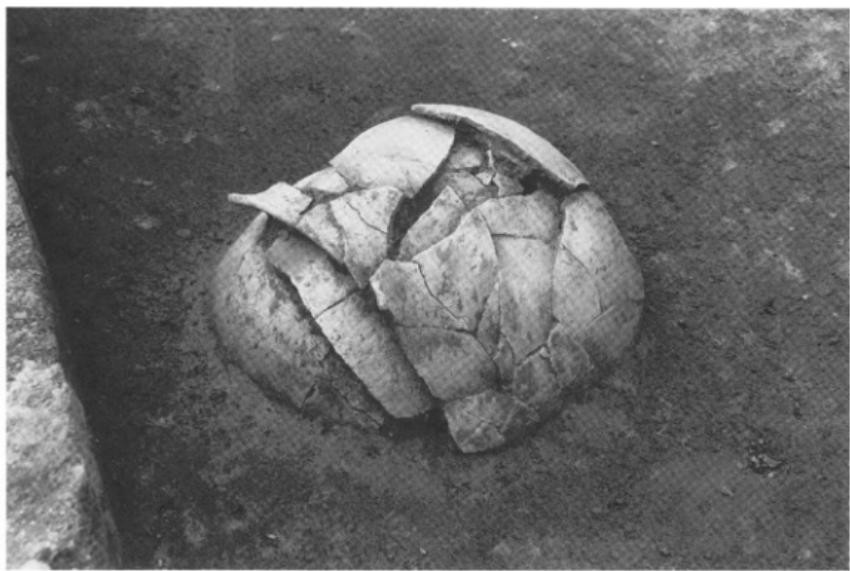
1. 壺棺墓群検出状況（東より）



2. 2号壺棺墓（北より）



1. 3号壺棺蓋（西より）



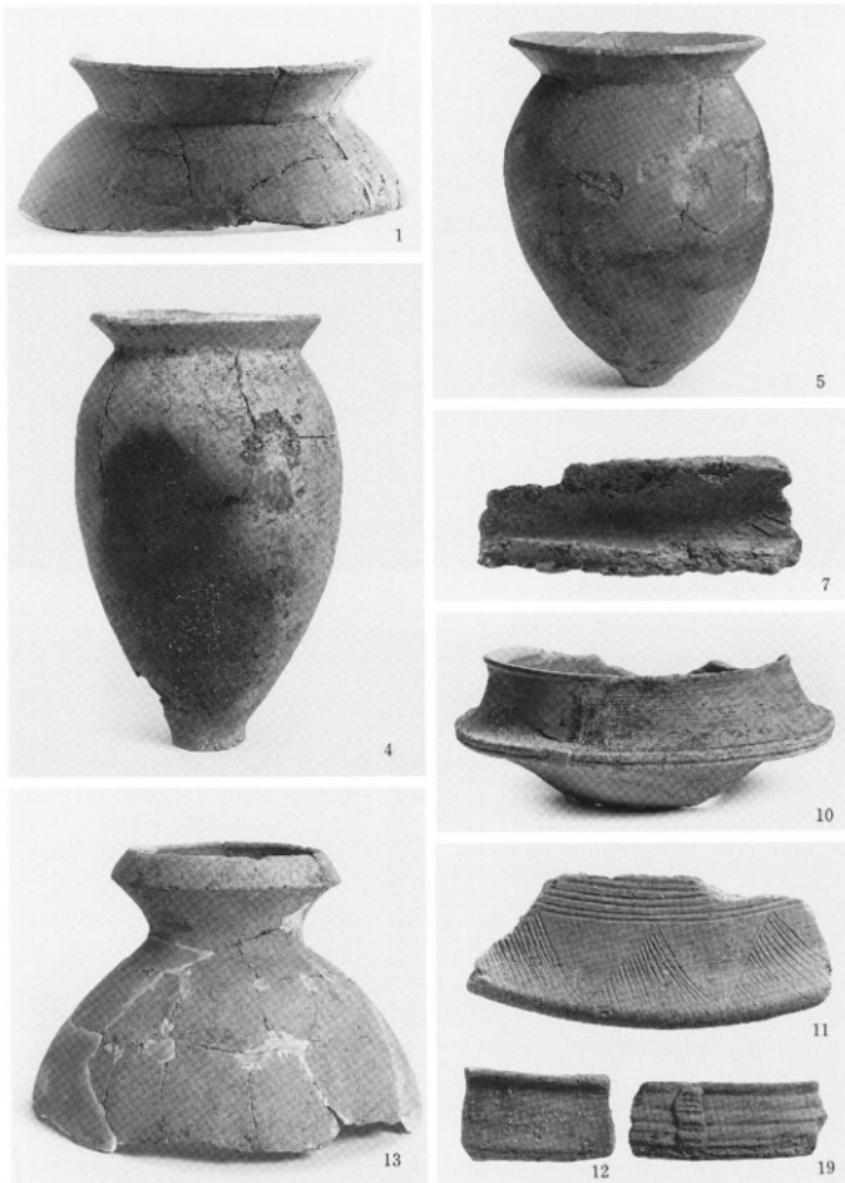
2. 4号壺棺蓋（東より）



1. 作業風景①（5区土器溜り）



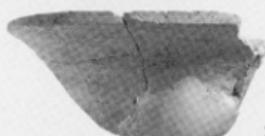
2. 作業風景②（5区土器溜り）



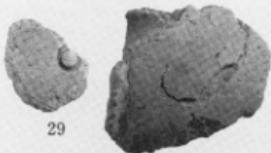
1. SD 3 出土遺物①



24



25



29



31



32



28



27



30

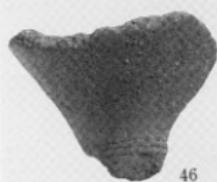
1. S D 3 出土遺物②



42



44



46



47

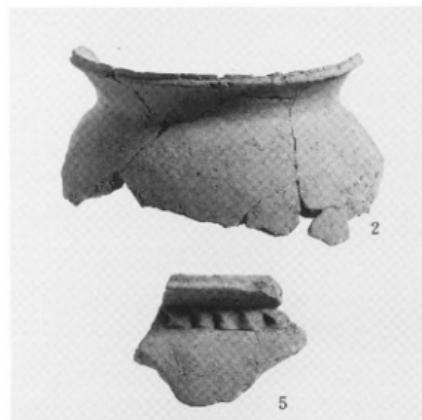


49



48

1. SD 3 出土遺物③



2



11



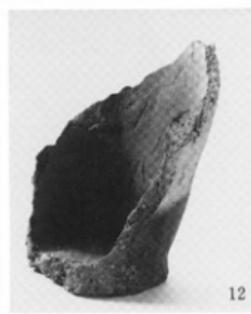
6



7



8



12

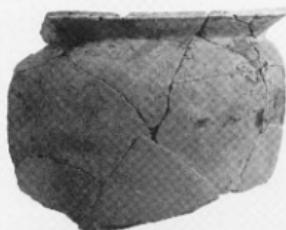
1. SX300出土遺物



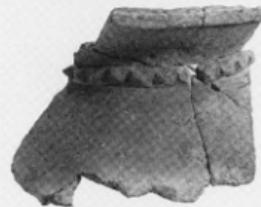
1



2



3



13



15



14

1. SK29出土遺物



3



2



4



5

1. 1号墓棺内出土物(2) 2号墓棺(上棺3·下棺4) 5号墓棺(下棺9)



5



7



6



8

1. 3号壺棺 上棺(5) 下棺(6)

2. 4号壺棺 上棺(7) 下棺(8)



福音小A



福音小B



1. 分銅形土製品 S P 4522 (福音小A) S B 15 (福音小B)



10



11

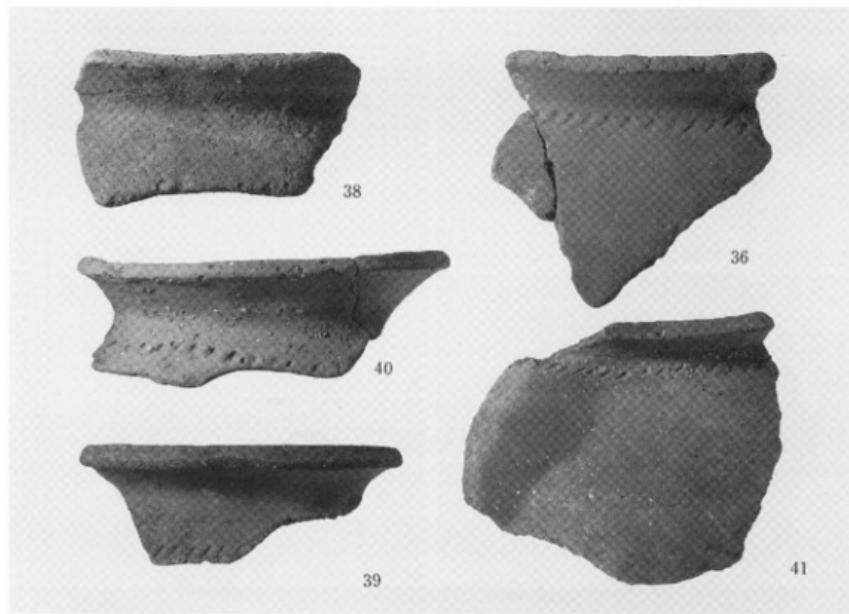


12



9

1. 土器溜り出土遺物①



1. 上器溜り出土遺物②



42



51



55



56

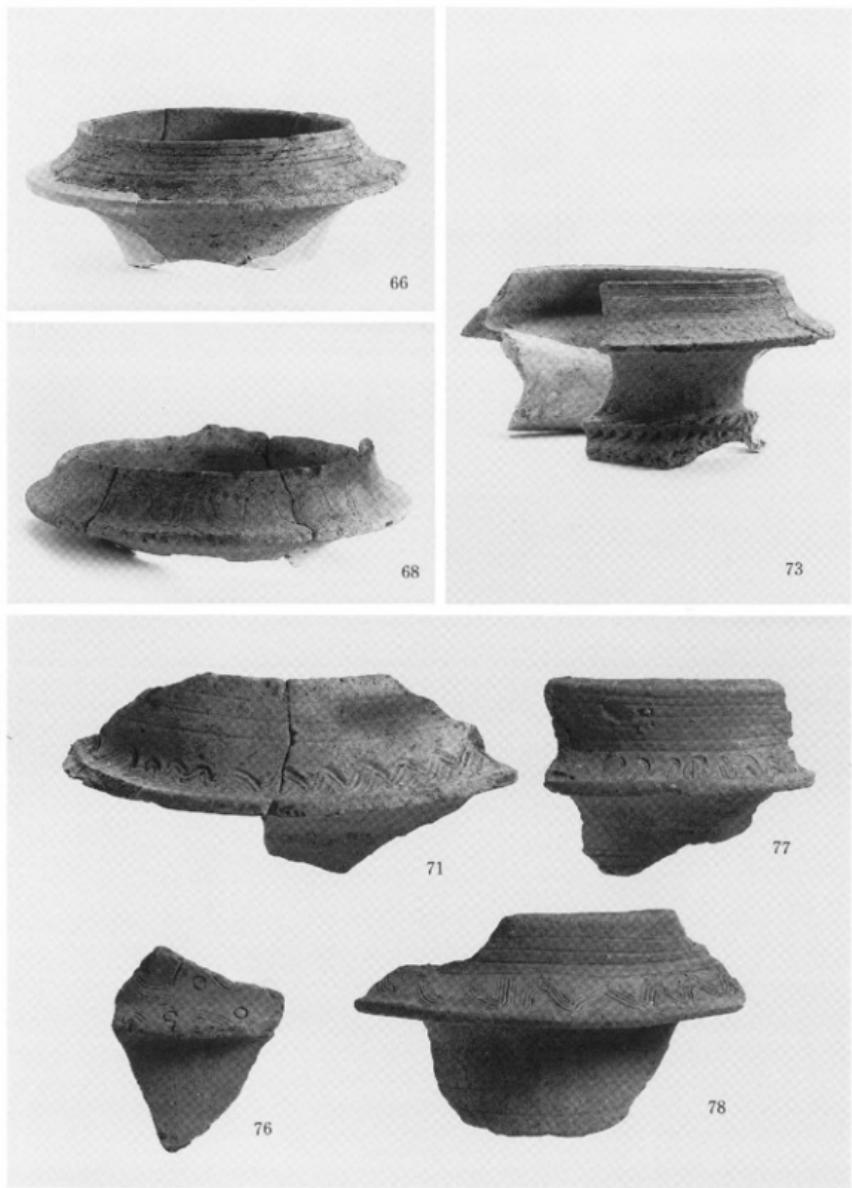


57

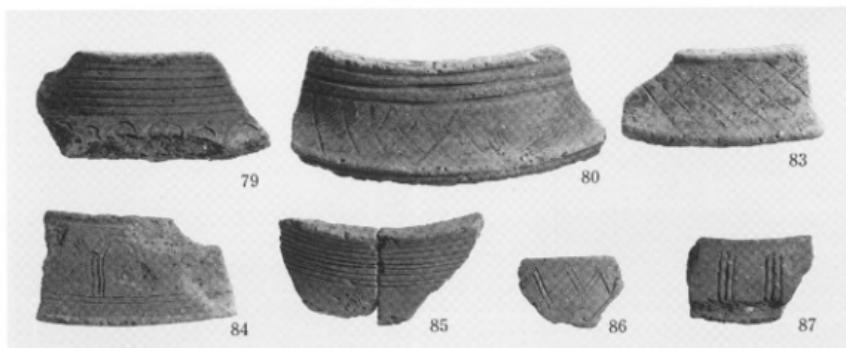


60

1. 土器滲り出土遺物③



1. 土器濯り出土遺物①



1. 土器溜り出土遺物⑤

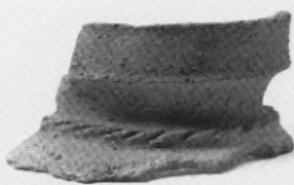
96



1. 上器溜り出土遺物⑥



113



116



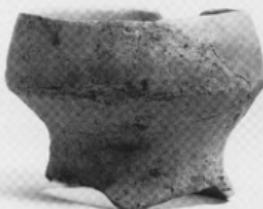
120



122

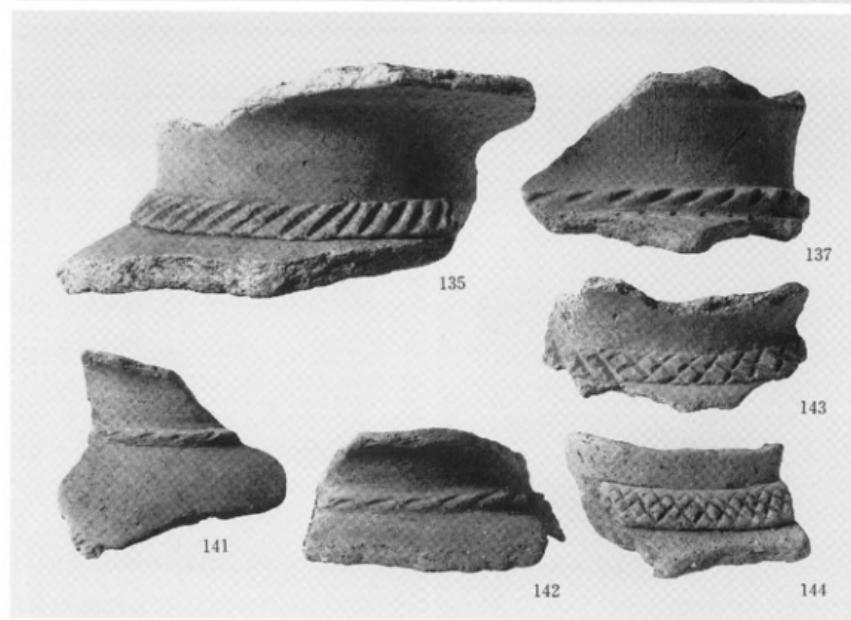


123



129

1. 土器溜り出土遺物⑦



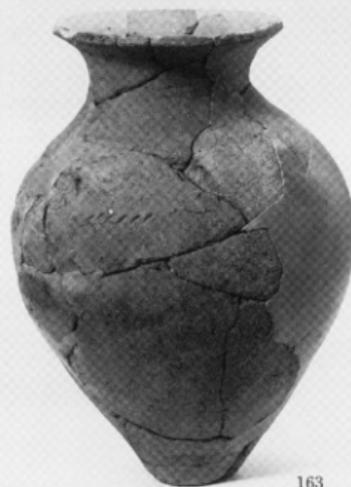
1. 土器窯り出土遺物⑧



162



166



163



164

1. 土器溜り出土遺物⑨



168



170



171



172



174



173



177



180

181

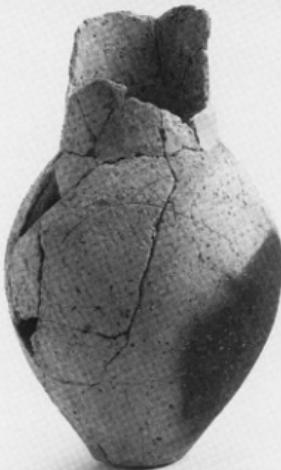


182



183

1. 土器濾り出土遺物①



1. 土器溜り出土遺物⑫



190



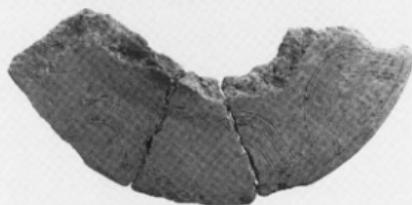
192



191



193



194



195



196



197

1. 土器溜り出土遺物③



199



200



203



202



201



204



206



205



207



208

1. 土器溝り出土遺物⑩



209



210



211



214

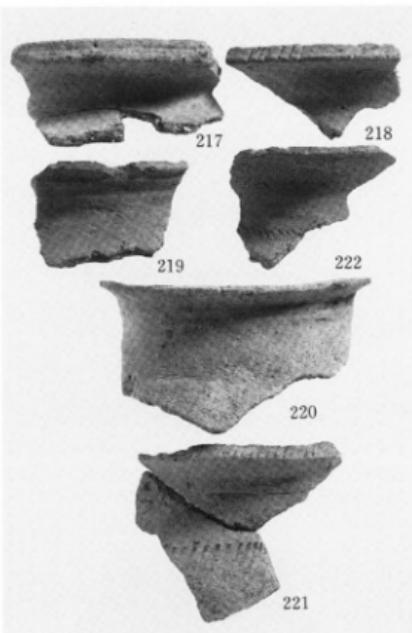


212

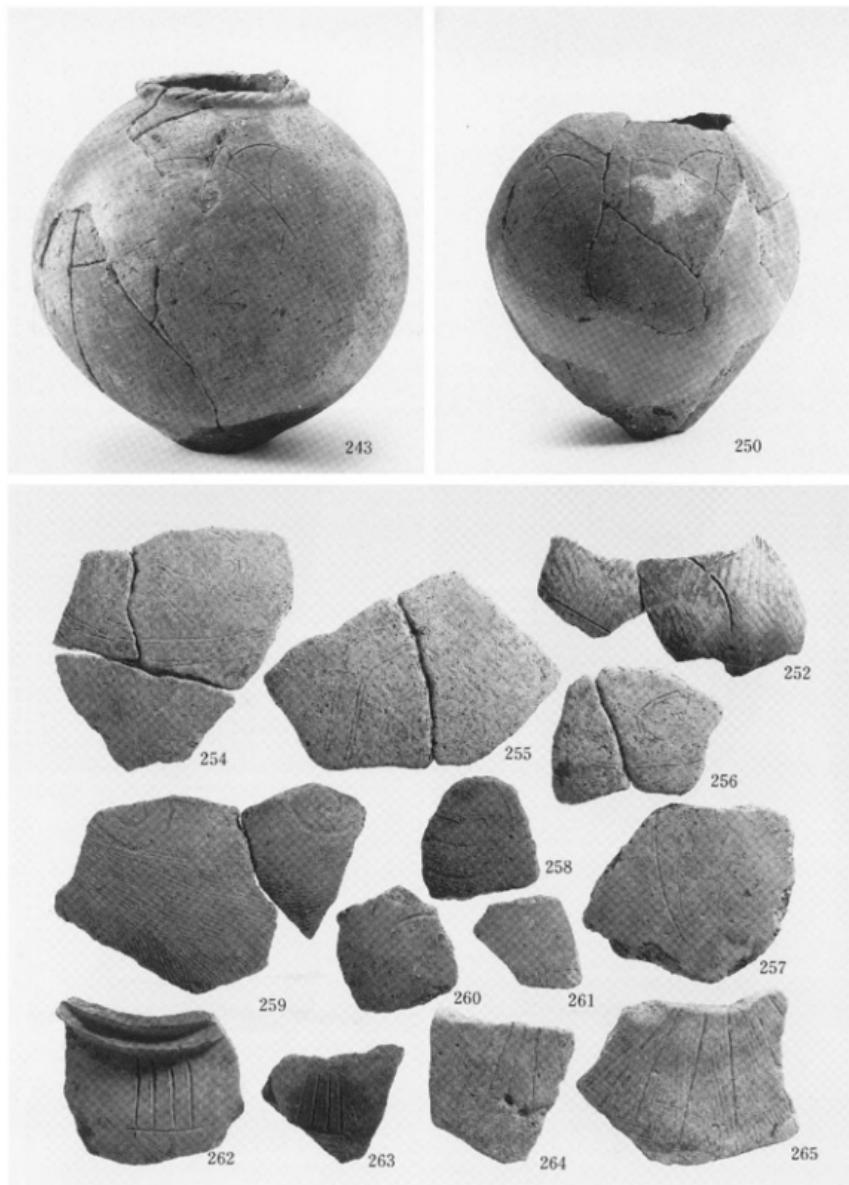


215

1. 土器溜り出土遺物⑤



1. 土器溜り出土遺物⑩



1. 土器溝り出土遺物⑧



272



274



275



280



282



283

1. 土器渝り出土遺物⑩



287



288



290



291



292



293



295

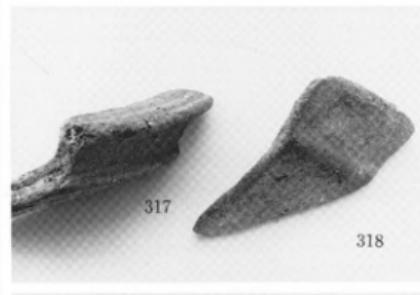


294

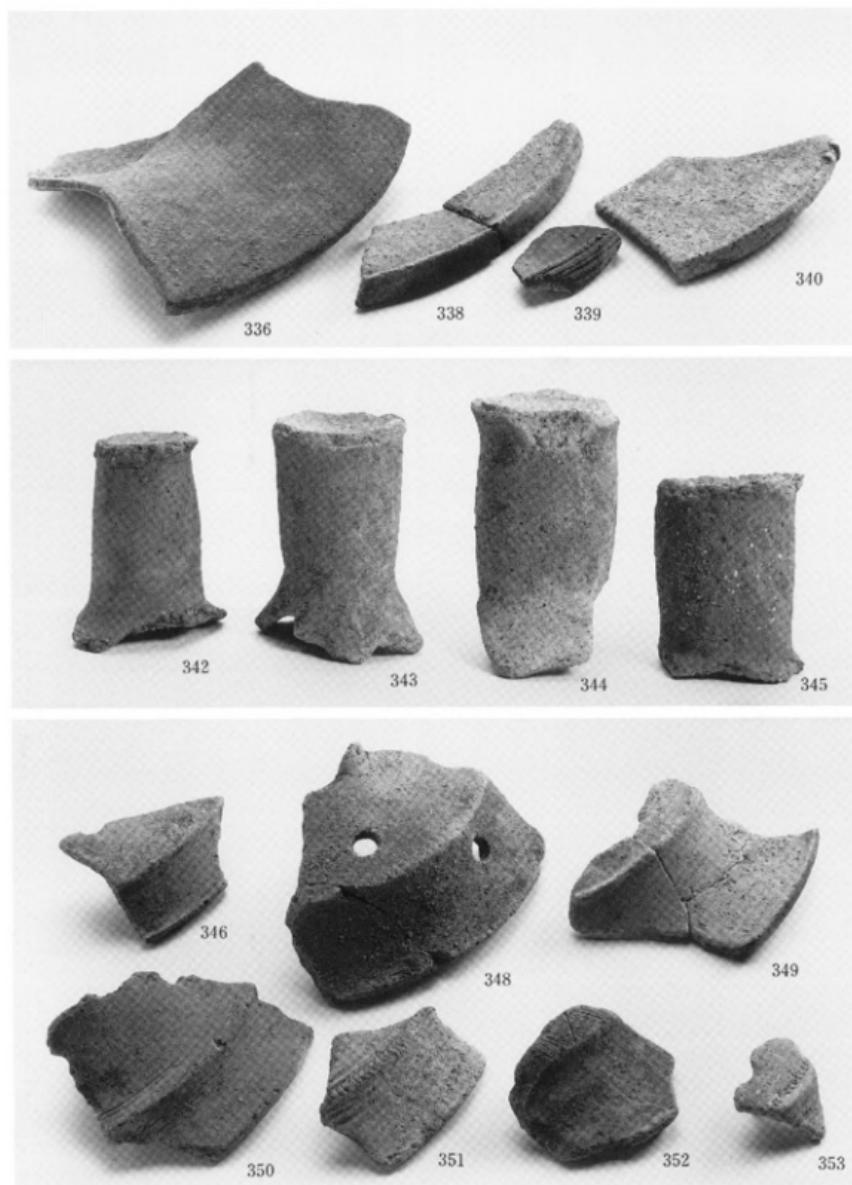


296

1. 土器漏り出土遺物②



1. 土器窯り出土遺物②



1. 土器窯り出土遺物②



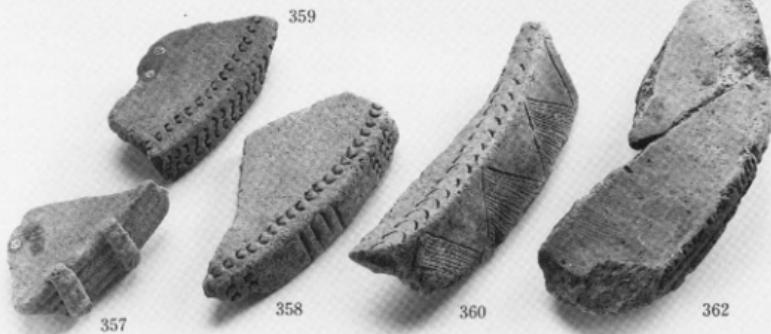
354



355



1. 土器溝り出土遺物②



357

359

358

360

362



365



366



367

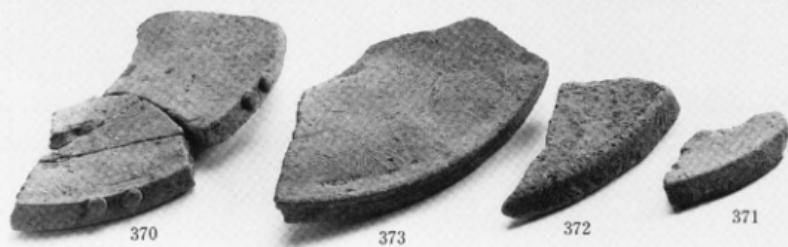
1. 土器割り出土遺物◎



368



369



370

373

372

371

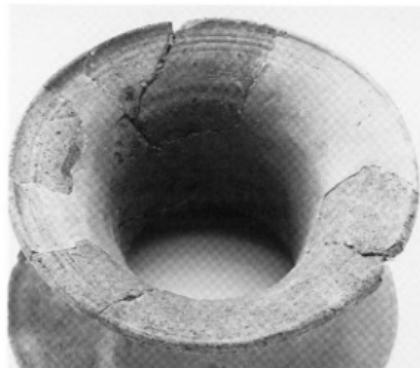


375



378

1. 土器溜り出土遺物◎



380



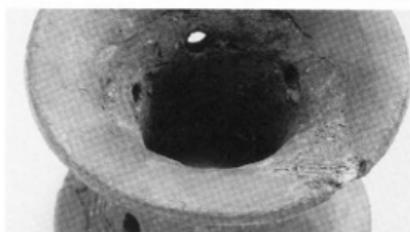
382



383



384



388



389

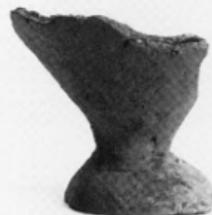
1. 土器溜り出土遺物②



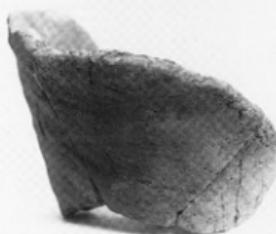
390



405



409



394



410



399



1. 土器溜り出土遺物②

抄 錄

| ふりがな | ふくおんじょうがっこうこうない | | | | | | | |
|---------------|---|-------|------|-----------|------------|-----------------------|--|-------|
| 書名 | 福音小学校構内遺跡 一弥生時代編一 | | | | | | | |
| 期書名 | | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 松山市文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 50集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 梅木謙一・武正良浩・宮内慎一・山之内志郎 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 松山市生涯学習振興財團 埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒791 愛媛県松山市南斎院町乙67-6 Tel (0899) 23-6363 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 1995年 9月 1日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東經 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | ° ° ° | ° ° ° | | | |
| 福音小学校 構内遺跡 | 愛媛県松山市 福音寺町 | 38201 | | 33°49'08" | 132°47'41" | 19890712～ 19900331 | 18,081 | 小学校建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 福音小学校 構内遺跡 | 集落跡 | 弥生 | 竪穴住居 | 7棟 | 分銅形土製品 | | 土器溜りから コンテナ400箱分の 弥生時代後期土器 が出土。 | |
| | | | 溝 | 1条 | 弥生時代後期土器 | | | |
| | | | 性格不明 | 1基 | 鉄錠 | | | |
| | | | 土坑 | 1基 | | | | |
| | | | 竪棺墓 | 5基 | | | | |
| | | | 土器溜り | 1 | | | | |

松山市文化財調査報告書 第50集

福音小学校構内遺跡 一弥生時代編一

平成7年9月1日 発行

編集 松山市教育委員会

〒790 松山市二番町4丁目7-2

TEL (0899) 48-6605

発行 財團法人 松山市生涯學習振興財團
埋蔵文化財センター

〒791 松山市南斎院町乙67番地6

TEL (0899) 23-6363

印刷 岡田印刷株式会社

〒790 松山市湊町7丁目1-8

TEL (0899) 41-9111
